

講義科目名称： 日本文化学科概説

授業コード： 131002

英文科目名称： Outline of Japanese Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
後藤正人学長 坂本教授 大山教授 内山准教授 栃木市招聘講師			
添付ファイル			

授業の概要	本講座は、國學院大學栃木短期大学 日本文化学科に入学した学生が國學院大學の建学の精神とその成り立ちを理解して、日本文化学科の学修の特色を把握することが一つの目的である。また、日本文化と日本人についてひろく学び、日本社会だけではなく、グローバルな共生と多様性の社会のなかで活躍しようとする人材の育成を目的として設けられたオムニバス形式で行われる講座でもある。 なお、学修成果の指標はA-1です。 遠隔授業を実施する場合、オンデマンド学修と課題レポートで実施する。
授業計画	1 回目 國學院大學の建学の精神（学長） 2 回目 國學院大學栃木短期大学の教育理念ー4つの約束と3つの方針ー（学長） 3 回目 國學院大學栃木学園の沿革と栃木短期大学の歴史（学長） 4 回目 日本文化学科3つのフィールドの紹介と日光親睦旅行・観劇会・栃木市関係の説明（学科長） 5 回目 栃木の歴史と伝統文化を知る（仮題 栃木市関係講師） 6 回目 多文化共生社会の実現に向けて（仮題 栃木市関係講師） 7 回目 日本文学フィールドで学ぶこと（日本文学フィールド代表） 8 回目 栃木市の教育の特色と未来像（仮題 栃木市関係講師） 9 回目 現代の政治と経済の世界システム（ビジネス・コミュニケーションフィールド代表） 10 回目 歴史の学び方、活かし方（日本史フィールド代表） 11 回目 尊王攘夷思想はなぜ生まれた？①ー日本における朱子学の受容ー 学科長） 12 回目 尊王攘夷思想はなぜ生まれた？②ー徂徠学・国学・水戸学ー（学科長） 13 回目 日光親睦旅行（4月23日）レポート 日光親睦旅行（4月23日）に参加し、旅行で体験したこと（感想も含め）をレポートでまとめて、Classroomに提出する。 14 回目 日光親睦旅行（4月23日）レポート（13回・14回分：800字程度） 日光親睦旅行（4月23日）に参加し、体験したこと（感想も含め）をレポートにまとめて、Classroomに提出する 15 回目 観劇会（6月27日）レポート（400字程度） 観劇会（6月27日）に参加し、観劇した感想をレポートにまとめて、Classroomに提出する。
到達目標	國學院大學と國學院大學栃木短期大学の建学の精神について理解し、日本文化学科で自分が何を学ぶことができるのかを考えることができる。そして、日本固有の歴史や文化を学び、日本人としての主体性や誇りをもつことができるとともに、グローバル化が進む中で、日本人として何をなすべきかを考えることができる。
授業時間外の学習	日本文化学科では何を学ぶことができるのか、また日本文化学科で何を学びたいのかを考えてほしい。関心のあるテーマが見つければ、図書館などを利用して、そのテーマに関連する本を読んでまとめてほしい。
評価方法	学長（3回）35パーセント、学科長（学科長3回・栃木市関係3回・日光親睦旅行および観劇会3回、計9回）50%、フィールド代表（3回）15パーセントで評価をつける。
テキスト	テキストは使用しない。 各回ごとに、授業担当者がパワーポイントを使用して行うか、またはレジュメを配布する。
参考書	必要に応じて、その都度紹介する。
備考	学長と栃木市関連の講義回は、日本文化学科と人間教育学科合同で行う。 観劇会と日光親睦旅行の参加およびレポート提出を「日本文化学科概説」の評価（日光親睦旅行は授業2回分、

	観劇会は授業1回分)とする。レポートの文字数は、日光親睦旅行を800字程度、観劇会を400字程度とし、「日本文化学科概説」のClassroomに提出をすること。
--	--

	栃木市文化課職員 実務教員：栃木市との連携包括協定によるオムニバス講師。
--	--------------------------------------

講義科目名称： 日本文学概説 I

授業コード： 122002

英文科目名称： Outline of Japanese Literature 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
堤 康夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	日本文学のアウトラインを理解するためには、日本の文化史の一環として文学を捉えることが有効です。主として文学というジャンルを通して現れた物語コンテンツは、文字の文学以外に、文字以外の文学（＝語り物）や演劇、絵画、音楽、造形物など、多様なかたちで表現されてきました。 文学には時代の制約を受ける側面もありますが、普遍的な側面もあります。本講義では文学普遍的な側面に注目しつつ、日本文学の枠組みを考えていきます。文字で書かれているものだけを文学といえるのでしょうか。作品を読むことだけが文学の受容することでしょうか。いろいろと身近なところから中高の国語の時間からはこぼれ落ちている文学の領域があります。一から考え直してみましよう。 なお、学習成果の指標は A-②です。 遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）と併せたハイブリッド授業を実施します。また、全体遠隔授業に移行した場合は②型とします。
授業計画	1 回目 ガイダンス ・授業の概要 2 回目 日本文学の形態的・内容的区分 3 回目 日本文学の時代区分 4 回目 日本文学研究の方法 5 回目 美意識とその変遷 6 回目 日本文学と絵画 7 回目 日本文学と演劇Ⅰー謡曲「安達原」の場合ー 8 回目 日本文学と演劇Ⅱー歌舞伎「奥州安達原」の場合ー 9 回目 日本文学と風土ー江戸・東京と上方・大阪ー 1 0 回目 風景の成立ー雲間より洩り来る月影ー 1 1 回目 外国文学の影響ーその正統的なものと異端的なものー 1 2 回目 日本文学研究の資料 1 3 回目 出版の歴史 1 4 回目 本のいろいろ 1 5 回目 まとめ
到達目標	・文化史の中の文学ということを理解する。
授業時間外の学習	事前・事後、各30分。 事前学習：基本的な術語や固有名詞について調べておく。 事後学習：配布資料を読み直す。
評価方法	平常点（50%） 課題レポート（50%）
テキスト	使用せず。随時プリント等を配布する。
参考書	
備考	

講義科目名称： 日本文学概説Ⅱ

授業コード： 253003

英文科目名称： Outline of Japanese Literature 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
堤 康夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	後期は日本文学の受容者に注目して、日本文学のアウトラインの理解を試みます。取り扱う題材は中世・近世の物語文学とその末裔が中心となります。主たる受容者の変遷が日本文学の変質・変化にどのように関わってゆくのかを検討してみましょう。 なお、学習成果の指標は A-②です。 遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修(「Google Meet」を利用)と併せたハイブリッド授業を実施します。また、全体遠隔授業に移行した場合は②型とします。
授業計画	1 回目 春セメスターの復習 2 回目 貴族の文学の流れ 3 回目 貴族の文学作品を読むー王朝文学の変質ー 4 回目 武士の文学の流れ 5 回目 武士の文学作品を読むー『平家物語』の場合ー 6 回目 庶民の文学の流れー中世におけるー 7 回目 庶民の文学作品を読むー説話集の場合ー 8 回目 女性・子供の文学の流れ 9 回目 女性・子供の文学作品を読むー御伽草子の場合ー 1 0 回目 庶民の文学の流れー近世におけるー 1 1 回目 庶民の文学作品を読むー戯作の場合ー 1 2 回目 未開の研究領域ー散逸物語を例にー 1 3 回目 先行作品の受容ー『源氏物語』の残照ー 1 4 回目 新出資料の処理方法 1 5 回目 まとめ
到達目標	日本文学の受容者の変遷と日本文学の質的な変化のあり方を理解する。
授業時間外の学習	
評価方法	平常点 (50%) 課題レポート (50%)
テキスト	使用せず。随時プリント等を配布する。
参考書	
備考	

講義科目名称： 日本文学通史

授業コード： 252002

英文科目名称： Through History of Japanese Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
堤 康夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	上代から近世までの散文の諸作品を通観し、その流れを理解すると共に、基本的な作品名・作者名を覚え、正しく表記できるようにする。ひとつの文学作品が後代の作品にどのように受け入れられ、影響を与えてきたのかということを常に考えつつ、上代から近世に至る散文の諸作品の流れを通観する。学習成果の指標はA－①である。本授業は対面授業を主とするが、遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせで行う。		
授業計画	1 回目 物語とは何か 2 回目 物語文学通史 3 回目 伝奇物語 4 回目 竹取物語と伝説 5 回目 歌物語 6 回目 伊勢物語と謡曲「井筒」 7 回目 王朝物語 8 回目 源氏物語を巡る諸問題 9 回目 散逸物語 1 0 回目 後期王朝物語 1 1 回目 歴史物語 1 2 回目 軍記物語 1 3 回目 説話集 1 4 回目 物語の行方 1 5 回目 春セメスターのまとめ		
到達目標	日本古典文学の流れを理解すると共に、各自自身のテーマを設定して、調査、考察が行える基礎知識を習得する。		
授業時間外の学習	必要に応じて前授業時に作業を指示する。		
評価方法	課題（50％）・平常点（50％）		
テキスト	使用せず。随時プリントを配布する。		
参考書	必要に応じてその都度指示する。		
備考			

講義科目名称： 漢文入門

授業コード： 113003

英文科目名称： Introduction to Classic Chinese

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
塚越義幸 教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本語の中には「矛盾」や「五十歩百歩」などの故事成語をはじめ、漢語や漢詩文にまつわる言葉が多く用いられている。漢文の訓読法を学ぶことにより、日本語力を増強できると期待したい。故事成語の故事を読み進めながら、訓読の基礎を養成する。さらに、唐詩や論語を学ぶことにより、文学の読解力や創作力も深めていく。習熟度を測るために適宜小テストを行う。また漢和辞典の引き方にも慣れてもらうため、毎回辞書を持参すること。 学習成果の指標はA-①である。 本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修（Google Meet）で実施し、時間割通りの時間で行う。		
授業計画	1 回目 ガイダンスーオンライン授業注意事項と授業の概要説明 漢文とは何かー日本語としての漢文 ＝和文との比較 2 回目 漢字の特質 3 回目 訓読の基礎 1ー漢文の構造 4 回目 訓読の基礎 2ー返読文字・再読文字 5 回目 故事成語 1 守株 6 回目 故事成語 2 朝三暮四 7 回目 思想1 『論語』 「吾十有五而志于学」 など 8 回目 思想2 『孟子』・『荀子』・『韓非子』 9 回目 思想3 『老子』・『荘子』 1 0 回目 歴史1 『史記』 1 1 回目 歴史2 『三国志』 など 1 2 回目 唐詩1 漢詩のきまり 1 3 回目 唐詩2 李白の詩 1 4 回目 唐詩3 杜甫の詩 1 5 回目 まとめ		
到達目標	日本語における漢文の位置づけを正しく認識できる。基本的な故事成語や訓読法・詩の規則などを理解できる。難しいと思いこまれている漢文を、より身近なものに感じ取れ、作詩などの興味を抱くことができる。		
授業時間外の学習	毎回授業で取り扱う漢文については、音読そして原文をノートに写し書き下し文を書いておく。不明な漢字は必ず漢和辞典などを引く。高校で使用した国語便覧などを活用し漢文の基礎事項を学んでおく。		
評価方法	定期試験（100%）、ただし遠隔授業になった場合はレポート（100%）		
テキスト	『クリアーカラー国語便覧』数研出版		
参考書	『漢詩漢文小百科』大修館書店		
備考	連絡事項はGoogle classroomから行う。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
近代文学			
添付ファイル			

授業の概要	夏目漱石『坊っちゃん』をテキストとして使用し、発表を前提とした演習形式の授業を行う。 なお、学習成果の指標はA-②である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 演習の手引き（1）発表担当を決める/文献調査方法の確認 3 回目 演習の手引き（2）引用・出典表記の確認/問題提起の考察 4 回目 発表1 第一章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：講師、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 5 回目 発表2 第二章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第十一章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 6 回目 発表3 第三章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第十章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 7 回目 発表4 第四章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第九章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 8 回目 発表5 第五章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第八章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 9 回目 発表6 第六章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第七章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 10 回目 発表7 第七章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第六章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 11 回目 発表8 第八章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第五章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 12 回目 発表9 第九章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第四章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 13 回目 発表10 第十章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第三章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分

	1 4 回目 発表 1 1 第十一章 ・発表 2 5 ～ 3 0 分 ・質疑応答 1 5 ～ 2 0 分 ・全体の振り返り 3 0 分 └─ファシリテーター：第二章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5 分 P→1 5 分 T→1 0 分 （演習IIに向けて） 1 5 回目 まとめ
到達目標	・発表対象について問題提起ができ、分析過程と結論を言語化できる。 ・夏目漱石の文学に興味を持ち、知見を深めるために質疑応答できる。
授業時間外の学習	・作品については発表担当に関わらず全て事前に読み込んでおくこと。 ・各 3 0 分以内の発表に収まるように構成を練り、口頭練習してから発表に臨むこと。
評価方法	授業への参加意欲（60%） レポート（40%） ※遠隔授業の場合も同様
テキスト	『坊っちゃん』夏目漱石 新潮文庫
参考書	
備考	

講義科目名称： 文学基礎演習

授業コード： 233001

英文科目名称： Seminar in Basic Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本文学を代表する古典である『源氏物語』を演習形式で授業を行う。『源氏物語』「常夏」巻（後半）を対象として、本文の異同確認、注釈の比較、鑑賞等を行いながら作品の本質を考えるとともに、古典文学研究の方法を学んでいく。演習発表を行うにあたり、その資料作成には十分な時間を要する。しっかりとした準備とともに相応の覚悟を求めたい。なお、学習成果の指標はA-②である。遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせを行い、事前に履修者に周知する。		
授業計画	1 回目	本授業の進め方の説明。『源氏物語』、および「常夏」巻の位置づけ等の概説。	
	2 回目	演習資料作成法	
	3 回目	古典文学研究の基礎的文献	
	4 回目	演習 1：【5】内大臣、雲居雁を訪れて、昼寝を戒める（その 1）—本文・校異—英和 ※以下、小学館新編日本古典文学全集『源氏物語』「常夏」巻に従い、その段数を記す。	
	5 回目	演習 1：【5】内大臣、雲居雁を訪れて、昼寝を戒める（その 2）—注釈—	
	6 回目	演習 1：【5】内大臣、雲居雁を訪れて、昼寝を戒める（その 3）—研究・鑑賞—	
	7 回目	演習 2：【6】内大臣、近江の君を弘徽殿女御に託す（その 1）—本文・校異—	
	8 回目	演習 2：【6】内大臣、近江の君を弘徽殿女御に託す（その 2）—注釈—	
	9 回目	演習 2：【6】内大臣、近江の君を弘徽殿女御に託す（その 3）—研究・鑑賞—	
	1 0 回目	演習 3：【7】内大臣、近江の君を訪れる	滑稽な問答（その 1）—本文・校異—
	1 1 回目	演習 3：【7】内大臣、近江の君を訪れる	滑稽な問答（その 2）—注釈—
	1 2 回目	演習 3：【7】内大臣、近江の君を訪れる	滑稽な問答（その 3）—研究・鑑賞—
	1 3 回目	演習 4：【8】近江の君と弘徽殿女御	珍妙な歌を贈答（その 1）—本文・校異—
	1 4 回目	演習 4：【8】近江の君と弘徽殿女御	珍妙な歌を贈答（その 2）—注釈—
	1 5 回目	演習 4：【8】近江の君と弘徽殿女御	珍妙な歌を贈答（その 3）—研究・鑑賞—
到達目標	・平安文学および『源氏物語』の本質を説明できる。 ・古典文学の原文を読解できる。 ・古典文学研究方法を活用できる。		
授業時間外の学習	・事前に指定された範囲の原文について、単語や文法等の確認を予習にあてる。 ・授業時に学習した範囲の原文について、その鑑賞を復習にあてる。		
評価方法	平常点（100点）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	教科書は使用せず、授業時に本文および関連資料を配付する。		
参考書	・林田孝和他編『源氏物語事典』（大和書房、2002年） ・秋山虔・小町谷照彦編『源氏物語図典』（小学館、1997年） ・秋山虔・室伏信助編『源氏物語必携事典』（角川書店、1998年）		
備考			

講義科目名称： 文学基礎演習

授業コード： 233002

英文科目名称： Seminar in Basic Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
吉永優真 講師			
添付ファイル			

授業の概要	中世を代表する軍記物語である『平家物語』について、演習形式で授業を行う。『平家物語』はとくに異本が多い作品であり、しかも異本ごとに少しずつ様相を異にする。大きくは読み本系と語り本系に分かれるが、この二系統は違いがおおきすぎて比較が容易ではない。 そこで、本演習では語り本系のうち、八坂系一類の中院本と一方系の覚一本（とくに高野本）との本文を比較する。それぞれの伝本において、どのように描かれ方が異なっているのか、伝えたいことが異なっているのかなど、「読み」によって各伝本の特徴を明らかにしたい。 各回の内容は一例である。 学習評価の指標はA－②である。		
授業計画	1 回目	ガイダンス 授業の進め方の説明・『平家物語』の概説・春セメスターの振り返り	
	2 回目	発表の手順 吉永の手本回	
	3 回目	学生発表1 プレゼンテーション 「綴引き」	
	4 回目	学生発表2 「弓流し」	
	5 回目	学生発表3 「田内左衛門の動静」	
	6 回目	学生発表4 「伊勢三郎の調略」	
	7 回目	学生発表5 「住吉の神鎗」	
	8 回目	学生発表6 「熊野別当湛増」	
	9 回目	学生発表7 「どしいくさ」	
	1 0 回目	学生発表8 「壇ノ浦開戦」	
	1 1 回目	学生発表9 「山鹿兵藤次秀遠」	
	1 2 回目	学生発表10 「遠矢」	
	1 3 回目	学生発表11 「白幡といるか」	
	1 4 回目	学生発表12 「先帝身投げ」	
	1 5 回目	まとめ	
到達目標	・『平家物語』の「読み」を深める。 ・古典を原文で読解できる。 ・古典文学の研究方法を身に着ける。		
授業時間外の学習	該当場面を読み、指定された範囲を予習する。30分 授業内容の復習をする。30分		
評価方法	平常点 100%		
テキスト	資料を配布する。		
参考書	市古貞次校注『平家物語』①・②（新編日本古典文学全集、小学館、1994年） 大津雄一 他『平家物語大事典』（東京書籍、2010年） 野中哲照『那須与一の謎を解く』（武蔵野書院、2022年） 野中哲照『平家物語解剖図鑑』（エクスナレッジ社、2024年）		
備考			

講義科目名称： 文学基礎演習

授業コード： 233004

英文科目名称： Seminar in Basic Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	宮沢賢治の生前発表作品群（散文作品）をテキストとして使用し、発表を前提とした演習形式の授業を行う。 なお、学習成果の指標はA-②である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 引用・出典表記の確認、調査・研究のための文献ガイド 3 回目 発表者の担当作品確認、調査・研究のための文献リスト作成 4 回目 プレ発表、作品分析の方法 5 回目 発表者の担当作品再確認、引用・出典表記の再確認、〈宮沢賢治〉について 6 回目 担当者発表（1）『注文の多い料理店』から（1 番目・2 番目） 7 回目 担当者発表（2）『注文の多い料理店』から（3 番目・4 番目） 8 回目 担当者発表（3）『注文の多い料理店』から（5 番目・6 番目） 9 回目 担当者発表（4）『注文の多い料理店』から（7 番目・8 番目） 1 0 回目 担当者発表（5）新聞・雑誌等発表作品から（9 番目・10 番目） 1 1 回目 担当者発表（6）新聞・雑誌等発表作品から（11 番目・12 番目） 1 2 回目 担当者発表（7）新聞・雑誌等発表作品から（13 番目・14 番目） 1 3 回目 担当者発表（8）新聞・雑誌等発表作品から（15 番目・16 番目） 1 4 回目 担当者発表（9）新聞・雑誌等発表作品から（17 番目・18 番目） 1 5 回目 まとめ
到達目標	- 卒業研究（論文）やレポート作成で必須となる引用や出典表記の仕方が習得できる。 - 作家や作品について調査・研究するための文献探索の仕方が習得できる。 - 作家や作品についての問題提起ができ、その解決の糸口を自分で模索できるようになる。
授業時間外の学習	- 自分以外の発表についても、感想や質疑などをとおして積極的に関わってもらうので、テキスト掲載作品はどれもじっくり読み込んでもらいたい。また、知らない、イメージできないといった言葉や表現については、各自調べたうえで授業に臨むこと。 - 発表の持ち時間はそれぞれ15分とする。ただし、受講者の人数によって持ち時間は前後する。時間内で必要なことが説明できるよう何度か練習して発表に臨むこと。
評価方法	授業への参加意欲（60%） レポート（40%） ※遠隔授業の場合も同様
テキスト	『宮沢賢治全集』8 （ちくま文庫）
参考書	
備考	

講義科目名称： 文学基礎演習

授業コード： 233006

英文科目名称： Seminar in Basic Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	指定された演習Ⅱを履修し、演習の基本を学びます。 ここでは中世文学作品を日本語学的方法で演習することを学びます。今期はキリシタン資料の『天草版平家物語』を輪読します。 キリシタン資料は、15～16世紀にイエズス会のポルトガル人宣教師たちによって天草学林（コレジオ）で出版された日本語教本です。音韻、語彙、文法等、室町時代当時の言葉の情報が詰まった価値の高い言語資料になります。その中でも『天草版平家物語』は、平家物語の他の諸本を参考にして作られています。従って、元とする諸本（覚一本、百二十句本等）と比較することにより、鎌倉時代から室町時代にかけての言葉の変化を浮き彫りにすることができるものです。1年生のみなさんには、まずはローマ字で書いてあるテキストを日本語に翻刻して頂きます。 学習成果の指標はA-②です 遠隔授業を実施する場合は課題型学修（Google Classroomを利用）で行います。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 資料説明 2 回目 発表方法の指導、発表者の割り当て 教員による発表の見本提示 3 回目 古辞書の解説（日葡辞書、節用集） 『日葡辞書』、『節用集』の解説をします。 4 回目 研究書の紹介 清瀬良一（1982）『天草版平家物語の基礎的研究』（溪水社）を解説します。 5 回目 担当者の発表 1 質疑応答 教員による解説 6 回目 担当者の発表 2 質疑応答 教員による解説 7 回目 担当者の発表 3 質疑応答 教員による解説 8 回目 担当者の発表 4 質疑応答 教員による解説 9 回目 担当者の発表 5 質疑応答 教員による解説 1 0 回目 担当者の発表 1（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 1 1 回目 担当者の発表 2（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 1 2 回目 担当者の発表 3（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 1 3 回目 担当者の発表 4（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 1 4 回目 担当者の発表 5（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 1 5 回目 まとめ		
到達目標	（1）発表の方法の基本、レジュメ、レポートのつくり方を学ぶ。 （2）日本語学とはどういう研究方法の分野であるのかを知る。 （3）他の人の発表について疑問を持ち、質問することができる。 （4）中世後期語（室町時代語）に触れ、自身で現代語の表記で記すことができる。		
授業時間外の学習	発表者は、発表予定の1週間前に発表資料を提出してください。事前に渡された他の人の発表資料をよく読んで、最低でも1つは質問をするようにしてください。		
評価方法	発表（50％）と授業への意欲度（50％）で評価します。 遠隔授業の場合はレポート（100％）で実施します。		

テキスト	こちらで用意します。
参考書	江口正弘（2009）『天草版平家物語全注釈』新典社 清瀬良一（1982）『天草版平家物語の基礎的研究』溪水社 全訳古語辞典（電子辞書含む） 『日本国語大辞典（第二版）』（小学館） 『時代別国語大辞典－室町時代編－』（三省堂） 国立国語研究所「日本語史研究用テキストデータ集」『天草版平家物語』（大英図書館所蔵） https://www2.ninjal.ac.jp/textdb_dataset/amhk/ その他は適宜授業内で示します。
備考	

講義科目名称： 文学基礎演習

授業コード： 233005

英文科目名称： Seminar in Basic Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
塚越義幸 教授			
添付ファイル			

授業の概要	指定された演習Ⅱを履修し、演習の基本を学ぶ。主に漢詩の創作（七言絶句）を試みる。それに際して、先輩である二年生の個人指導を受け、同年代の作詩へのアプローチの状況を把握する。また作品を吟ずるいわゆる詩吟体験も行う。 学習成果の指標はA-①・②である。 本授業は、遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用）で実施し、時間割通りの時間に行う。		
授業計画	1 回目 ガイダンスー授業の概要説明 2 回目 漢詩とは 3 回目 日本人と漢詩創作 4 回目 漢詩創作法ー七言絶句 5 回目 漢詩創作法ー五言絶句 6 回目 漢詩創作法ー柏梁体 7 回目 漢詩創作法ー漢俳 8 回目 漢詩実作ー七言絶句 9 回目 漢詩実作発表・合評会ー七言絶句 1 0 回目 漢詩実作ー五言絶句 1 1 回目 漢詩実作発表・合評会ー五言絶句 1 2 回目 漢詩実作ー漢俳 1 3 回目 漢詩実作発表・合評会ー漢俳 1 4 回目 漢詩実作ー柏梁体 1 5 回目 まとめ		
到達目標	演習の基本を習得し、漢詩の作法を学び、漢詩の創作をできるようになる。また吟じ方の基礎を修得する。		
授業時間外の学習	それぞれの演習の時間に指示する。基本的にどんな漢詩を創作するか、常に題材を探すよう心がける。また名作と呼ばれる漢詩を読み進める。		
評価方法	レポート80%、授業への意欲度20%		
テキスト	プリントを配布する。また創作に関しては『だれにもできる漢詩の作り方』を用いる。なお本書については初回の授業で解説する。		
参考書	授業時に指示する。		
備考			

講義科目名称： 文学講読（万葉集）

授業コード： 244003

英文科目名称： Literature Reading (Manyoushu)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大石泰夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	『万葉集』は、日本最古の詩歌集（アンソロジー）である。古代の祭りや儀礼に伴う呪歌をはじめ、旅のうた、恋のうた、哀悼のうたなど、万葉びとのさまざまな心が歌われている。本授業では、文学とは何かをつねに考えながら『万葉集』の世界に分け入り、そのことばに耳をかたむけ、さまざまな万葉びとのメッセージを読み取ってみたい。 なお、学習成果の指標はA-①である。 本授業は対面で行う予定だが、遠隔授業が実施される場合はオンデマンド型を利用する予定である。
授業計画	1 回目 講義ガイダンス 2 回目 『万葉集』 入門 3 回目 雄略天皇一雑歌をめぐって 4 回目 磐姫皇后一相聞をめぐって 5 回目 有間皇子一挽歌をめぐって 6 回目 額田王一近江朝廷の才媛 7 回目 柿本人麻呂一宮廷歌人の大成 8 回目 大伯皇女と大津皇子一皇位継承の悲劇 9 回目 山部赤人一叙景歌の発生 1 0 回目 大伴旅人一文人の詞藻 1 1 回目 山上憶良一東宮侍従の教育 1 2 回目 高橋虫麻呂一伝説をうたう 1 3 回目 大伴坂上郎女一族の大刀自 1 4 回目 大伴家持一廷臣の悲哀 1 5 回目 まとめーうたの伝統と継承
到達目標	『万葉集』の歌を発生的な視点から読めるようになり、その文学的内容を説明できるようになる。
授業時間外の学習	配布する文学作品を読み、その文学的な意味を考える。
評価方法	授業時に実施する机上レポート（70%）、授業への参加意欲（30%）から総合的に評価する。遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	授業中に指示する。
参考書	授業中に紹介する。
備考	万葉集を味わうためには、もちろんさまざまな知識が必要です。ただし、歌われている形式と内容は、五七調を基本とした長歌および短歌がほとんどです。それも、何故か、平安時代の和歌よりも直裁的でところに素直に迫ってくる作品が多いのです。基本は、文学を豊かに味わうことです。日本のことばがその時代時代で、どのように精一杯生き抜くために使われてきたかを考えてほしいと思います。民俗学の知見も用いながら解説しますが、皆さんも、文学するところを受け取る用意をしてください。

講義科目名称： 文学講読（源氏物語）

授業コード： 251001

英文科目名称： Literature Reading (Genji Monogatari)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本文学を代表する古典である『源氏物語』を講読形式で授業を行う。『源氏物語』『末摘花』巻を通読しながら作品の本質を考えるとともに、古典文学研究の基礎的方法を学んでいく。もちろん古典を読むにあたって、当時の歴史や習俗も解説することとなろう。なお、学習成果の指標はA-①である。遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせで行い、事前に履修者に周知する。		
授業計画	1 回目 本授業の進め方の説明。『源氏物語』、および「夕顔」巻の位置づけ等の概説。 2 回目 【1】源氏、亡き夕顔の面影を追い求める 【2】源氏、大輔命婦から末摘花の噂を聞く ※以下、小学館新編日本古典文学全集『源氏物語』①「桐壺」巻に従い、その段数を記す。 3 回目 【3】源氏、朧月夜に、末摘花の琴を聞く 4 回目 【4】頭中将、源氏の後をつけ、おどし戯れる 【5】源氏と頭中将、同車して左大臣邸へ行く（前半） 5 回目 【5】源氏と頭中将、同車して左大臣邸へ行く（後半） 【6】源氏と頭中将、末摘花を競い合う 6 回目 【7】いらだつ源氏、命婦に手引をうながす 7 回目 【8】源氏、常陸宮邸を訪れ、末摘花に逢う（前半） 8 回目 【8】源氏、常陸宮邸を訪れ、末摘花に逢う（後半） 【9】源氏、二条院に帰り、頭中将と参内する 9 回目 【10】源氏、後朝の文を夕刻に遣わす 【11】行幸の準備に紛れて、源氏訪れを怠る 10 回目 【12】雪の夜に訪れ、女房たちの貧しい姿を見る 【13】翌朝、末摘花の醜い姿を見て驚く（前半） 11 回目 【13】翌朝、末摘花の醜い姿を見て驚く（後半） 12 回目 【14】貧しい門番に同情 末摘花の鼻を連想する 【15】末摘花の生活を援助、空蟬を思い出す 13 回目 【16】歳暮、末摘花、源氏の元日の装束を贈る 14 回目 【17】正月七日の夜、源氏、末摘花を訪れる 【18】源氏、二条院で、紫の上と睦み戯れる 15 回目 まとめ		
到達目標	・平安文学および『源氏物語』の本質を説明できる。 ・基礎的な古典文学の原文を読解できる。 ・基礎的な古典文学研究方法を活用できる。		
授業時間外の学習	・事前に指定された範囲の原文について、単語や文法等の確認を予習にあてる。 ・授業時に学習した範囲の原文について、その鑑賞を復習にあてる。		
評価方法	小テスト（70%）平常点（30%）、遠隔授業に変更した場合はレポート（70%）平常点（30%）		
テキスト	教科書は使用せず、授業時に本文および関連資料を配付する。		
参考書	・林田孝和他編『源氏物語事典』（大和書房、2002年） ・秋山虔・小町谷照彦編『源氏物語図典』（小学館、1997年） ・秋山虔・室伏信助編『源氏物語必携事典』（角川書店、1998年）		
備考			

講義科目名称： 文学講読（平家物語）

授業コード： 232001

英文科目名称： Literature Reading (Heike monogatari)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
吉永優真 講師			
添付ファイル			

授業の概要	『平家物語』は、語り物としても読み物としても享受されてきた物語である。この物語を読み、理解を深めることで、その時代の思想、芸能、文化、はたまた政治状況までも見ることができるだろう。 また、この授業では『読み』を大事にしている『平家物語』を読み解いていく中で、物語を生み出す人間の認知・認識について、そして「人間とは」ということも考えていきたい。 扱う対象は〈義仲挙兵譚〉を予定している。 学習評価の指標はA－①である。 ※授業の進行状況により、内容を変更する場合がある。		
授業計画	1 回目	ガイダンス 『平家物語』概要	
	2 回目	巻六① 「横田河原合戦」	
	3 回目	巻七① 「清水冠者」 「北国下向」	
	4 回目	巻七② 「火打合戦」	
	5 回目	巻七③-1 「願書」	
	6 回目	巻七③-2 「願書」	
	7 回目	巻七④-1 「俱利伽羅落」	
	8 回目	巻七④-2 「俱利伽羅落」	
	9 回目	巻七⑤ 「篠原合戦」	
	1 0 回目	巻七⑥-1 「実盛」	
	1 1 回目	巻七⑥-2 「実盛」	
	1 2 回目	巻八① 「瀬尾最期」	
	1 3 回目	巻九①-1 「木曾最期」	
	1 4 回目	巻九①-2 「木曾最期」	
	1 5 回目	まとめ	
到達目標	・『平家物語』の基礎知識を身につけ、説明できる。 ・古典文学の読解ができる。		
授業時間外の学習	指定された範囲の事前確認。30分 授業内容の復習。30分		
評価方法	平常点50％ レポート50％		
テキスト	随時資料を配布する。		
参考書	市古貞次校注『平家物語』①・②（新編日本古典文学全集、小学館、1994年） 大津雄一 他『平家物語大事典』（東京書籍、2010年） 野中哲照『平家物語解剖図鑑』（エクスナレッジ社、2024年）		
備考			

講義科目名称： 文学講読（近世文学）

授業コード： 215002

英文科目名称： Literature Reading (Middle ages and Modern)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
塚越義幸 教授			
添付ファイル			

授業の概要	近世文学（主に江戸時代）の文学作品の講読を行う。 具体的には松尾芭蕉の代表作『おくのほそ道』（冒頭から松島あたりまで）を講読する。本書は単なる旅の紀行文でなく俳諧の文章なので、その特徴についても捉えていく。また本文の各所に漢詩文の引用がなされているのでその原典にも触れ、比較文学的なアプローチも試みたい。さらに俳諧の本質である「連句」についても触れてみる。 学習成果の指標はA-①である。 本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修（Google Meet）で実施し、時間割通りの時間で行う。		
授業計画	1 回目 ガイダンスー近世文学の概観 2 回目 芭蕉と俳諧ー連歌からの流れ 3 回目 おくのほそ道と芭蕉 4 回目 『おくのほそ道』講読① 冒頭 5 回目 『おくのほそ道』講読② 旅立ち～室の八島 6 回目 『おくのほそ道』講読③ 仏五左衛門～日光 7 回目 『おくのほそ道』講読④ 那須野～雲巖寺 8 回目 『おくのほそ道』講読⑤ 殺生石～白河の関 9 回目 『おくのほそ道』講読⑥ 須賀川～信夫の里 1 0 回目 『おくのほそ道』講読⑦ 佐藤庄司の旧跡～笠島 1 1 回目 『おくのほそ道』講読⑧ 武隈～壺の碑 1 2 回目 『おくのほそ道』講読⑨ 末の松山～塩釜 1 3 回目 『おくのほそ道』講読⑩ 松島～瑞巖寺 1 4 回目 連句概説 1 5 回目 まとめ		
到達目標	『おくのほそ道』の本文の読解とともに、俳諧の文章の特徴（背景に連句や漢詩文の影響がある）についても理解ができる。		
授業時間外の学習	『おくのほそ道』本文の音読・筆写・語句の調査を事前に行っておく。		
評価方法	レポート100%		
テキスト	『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 おくのほそ道（全）』角川書店		
参考書	『おくのほそ道評釈』尾形 侑 角川書店 『おくのほそ道大全』楠元六男ほか 笠間書院 『全文を読み切る奥の細道の豊かな世界』佐藤勝明 大垣市教育委員会		
備考			

講義科目名称： 文学講読（近代文学）

授業コード： 212002

英文科目名称： Literature Reading (Modern Literature)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
近代文学			
添付ファイル			

授業の概要	明治から昭和までの代表的な小説を講読しながら、近代文学とは何かについて考える。 まずは作品の言葉を精読し、時代背景と構成を捉えることで文学を読むことの基礎を養っていくことを目指す。 なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 樋口一葉「十三夜」① 3 回目 樋口一葉「十三夜」② 4 回目 泉鏡花「龍潭譚」① 5 回目 泉鏡花「龍潭譚」② 6 回目 田山花袋「一兵卒」 7 回目 森鷗外「蛇」① 8 回目 森鷗外「蛇」② 9 回目 谷崎潤一郎「刺青」 1 0 回目 志賀直哉「范の犯罪」 1 1 回目 川端康成「夏の靴」 1 2 回目 葉山芳樹「セメント樽の中の手紙」 1 3 回目 井伏鱒二「鯉」 1 4 回目 梶井基次郎「愛撫」 1 5 回目 安部公房「赤い繭」
到達目標	- 近代文学について自分で調べて読み込めるようになる - 近代文学を概念的にイメージできるようになる
授業時間外の学習	授業で取り扱う作品について事前に読み込みつつ、難読な漢字等の意味と読み方を調べておくこと。
評価方法	平常点（100点） ※作品ごとに400字程度の小レポートを提出 ※遠隔授業の場合も同様
テキスト	教科書は使用せず、授業時に本文および関連資料を配付する。
参考書	
備考	

講義科目名称： 文学講読（現代文学）

授業コード： 125002

英文科目名称： Literature Reading（Contemporary）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	小説「風の歌を聴け」から、村上春樹と現代文学について考える。一読しただけでは物語の全貌を把握しづらい作品だと思う。とにかく丁寧に丹念に読み説いていくことで作品の全貌を明らかにするという文学研究の基本に立ち返って読み進めていきたい。同時に、音楽、映画、国内外の小説といった文化事象や政治状況などから時代背景の把握も試みたいと思う。なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 「風の歌を聴け」と「村上春樹」について 3 回目 「風の歌を聴け」 1～5 章についての詳解 4 回目 「風の歌を聴け」 6～10 章についての詳解 5 回目 「風の歌を聴け」 11～15 章についての詳解 6 回目 「風の歌を聴け」 16～20 章についての詳解 7 回目 「風の歌を聴け」 21～25 章についての詳解 8 回目 「風の歌を聴け」 26～30 章についての詳解 9 回目 「風の歌を聴け」 31～35 章についての詳解 1 0 回目 「風の歌を聴け」 36～40 章についての詳解 1 1 回目 作品構造の可視化① （人物描写から） 1 2 回目 作品構造の可視化② （時系列の整理） 1 3 回目 「風の歌を聴け」に記載された音楽について 1 4 回目 「風の歌を聴け」に記載された映画について 1 5 回目 まとめ （「風の歌を聴け」とはなんであったのか）
到達目標	これまでしてきた（国語的な）小説の読み方を変える。小説を「読む」とはどういうことかを理解する。
授業時間外の学習	「風の歌を聴け」をとにかく何度も読むこと。ワークシートを配付するのでそれに取り組みながら、作品を何度も読み返してもらいたい。
評価方法	授業への参加意欲（60%） レポート（40%） ※遠隔授業の場合も同様
テキスト	村上春樹『風の歌を聴け』（講談社文庫）
参考書	ナシ
備考	

講義科目名称： 時代文学史（上代・中古）

授業コード： 131003

英文科目名称： Literary History (Ancient and MedievalAge)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	社会の変動とともに文学もまた展開していく。主要作品を取り上げながら人々のありようと文学の変容をさぐっていききたい。上代・中古文学を通覧できるよう、毎時間、対象とする作品を限定してその特質を講述していく。神話、詩歌、物語、随筆等、その文学ジャンルも幅広く見ていきたい。単なる知識の習得に終わらないよう、各回具体的に取り上げるテキストの「読み」にもこだわっていききたい。なお、学習成果の指標はA-①である。 ※遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせを行い、事前に履修者に周知する。		
授業計画	1 回目 上代文学・中古文学の位置 2 回目 古事記―八雲立つ― 3 回目 風土記― 褶振の峰 ― 4 回目 万葉の歌①―大津皇子・大伯皇女ほか― 5 回目 万葉の歌②―山部赤人・大伴家持ほか― 6 回目 源氏物語①―もみぢの賀― 7 回目 源氏物語②―萩のうは露― 8 回目 源氏物語③―宇治の川音― 9 回目 栄花物語―源高明の左遷― 1 0 回目 土佐日記―住吉の明神― 1 1 回目 和泉式部日記―君をおきて― 1 2 回目 枕草子―殿などのおはしまさで後― 1 3 回目 王朝の歌①―紀貫之・伊勢ほか― 1 4 回目 王朝の歌②―和泉式部・能因法師ほか― 1 5 回目 まとめ		
到達目標	・上代文学および中古文学の概略を知り、その時代的特質を理解できる。 ・基礎的な古典文学の読解法を習得できる。		
授業時間外の学習	予定された範囲の語彙等を事前に調べ、内容を把握しておく。		
評価方法	小テスト（70％）平常点（30％）、遠隔授業に変更した場合はレポート（70％）平常点（30％）		
テキスト	秋山虔他『日本古典読本』（筑摩書房、1988年）		
参考書	授業時に指示する。		
備考			

講義科目名称： 時代文学史（中世・近世）

授業コード： 131004

英文科目名称： Literary History (Medieval and Early Modern Age)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
吉永優真 講師			
『平家物語』を起点として			
添付ファイル			

授業の概要	『平家物語』を起点に、源平の争乱を題材とした作品を見ながら、中世・近世の文学を概観していく。 また、各作品の「読み」も大切である。どのように読ませたいのか、そのための工夫はどんなものか、その背景にはどんな思想・指向があるか、巨視と微視を行き来しながら物語を多角的に見ていきたい。 学習評価の指標はA-①である。 ※授業の進行状況により、内容を変更する場合がある。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 中世文学についての概要 3 回目 近世文学についての概要 4 回目 『平家物語』① 〈一の谷合戦譚〉 5 回目 『平家物語』② 〈壇ノ浦合戦譚〉 6 回目 『盛衰記』① 〈一の谷合戦譚〉 7 回目 『盛衰記』② 〈壇ノ浦合戦譚〉 8 回目 『義経記』① 巻三 9 回目 『義経記』② 巻六 1 0 回目 『橋弁慶』① 1 1 回目 『橋弁慶』② 1 2 回目 『二人静』 1 3 回目 『義経千本桜』 1 4 回目 『一の谷嫩軍記』 1 5 回目 まとめ		
到達目標	・中世・近世文学の概略を把握し、その特質を説明できる。 ・古典文学を読解する力を身につける。		
授業時間外の学習	指定された範囲の事前確認。30分 授業内容の復習。30分		
評価方法	平常点 50% レポート 50%		
テキスト	随時資料を配布する。		
参考書	授業時に指示する。		
備考			

講義科目名称： 時代文学史（近代・現代）

授業コード： 242002

英文科目名称： Literary History (Modern Contemporary)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
文学史	近現代文学		
添付ファイル			

授業の概要	日本の近代文学から現代文学の発展過程を明らかにする。 さらに本講義では、明治～平成の文学に加えてライトノベルも取り扱い、近代から現代までの文学の変遷上にライトノベルを置けるのか？を最終講義のテーマとする。 なお、学習成果の指標は A-①である。 本授業は遠隔授業になった場合は、同時・双方向型学修（Google Meet）で実施し、時間割通りの時間で行う。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 戯作・戯文～政治小説 3 回目 写実主義 4 回目 擬古典主義/ロマン主義 5 回目 自然主義 6 回目 反自然主義/大衆文学 7 回目 新感覚派/新興芸術派 8 回目 プロレタリア文学/転向文学 9 回目 戦中文学 10 回目 戦後文学/第三の新人 11 回目 内向の世代 12 回目 ポストモダン 13 回目 平成前期の文学 14 回目 平成後期の文学 15 回目 まとめ/ライトノベル		
到達目標	近代から現代の文学を体系的に説明できるようになる。		
授業時間外の学習	授業内で紹介した作品を鑑賞する。		
評価方法	学期末課題（50%） 平常点（50%） ※遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考書	・『日本の近代小説』中村光夫 岩波新書 ・『日本の現代小説』中村光夫 岩波新書 ・『日本文学史』奥野健男 中央公論新社 ・『新潮日本文学アルバム』新潮社 ・『未完の平成文学史：文芸記者が見た文壇30年』浦田 憲治 早川書房		
備考			

講義科目名称： 日本文学演習（中古文学）Ⅰ

授業コード： 133002

英文科目名称： Japanese Literature (Ancient) 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本文学を代表する古典である『源氏物語』を演習形式で授業を行う。『源氏物語』『常夏』巻（前半）を対象として、本文の異同確認、注釈の比較、鑑賞等を行いながら作品の本質を考えるとともに、古典文学研究の方法を学んでいく。演習発表を行うにあたり、その資料作成には十分な時間を要する。しっかりとした準備とともに相応の覚悟を求めたい。なお、学習成果の指標はA-②である。遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせを行い、事前に履修者に周知する。		
授業計画	1 回目 本授業の進め方の説明。『源氏物語』、および「常夏」巻の位置づけ等の概説。 2 回目 演習資料作成法 3 回目 古典文学研究の基礎的文献 4 回目 演習 1：【1】源氏、釣殿の納涼に近江の君の噂を質す（その 1）—本文・校異— ※以下、小学館新編日本古典文学全集『源氏物語』『常夏』巻に従い、その段数を記す。 5 回目 演習 1：【1】源氏、釣殿の納涼に近江の君の噂を質す（その 2）—注釈— 6 回目 演習 1：【1】源氏、釣殿の納涼に近江の君の噂を質す（その 3）—研究・鑑賞— 7 回目 演習 2：【2】源氏、西の対で和琴を弾き玉鬘と唱和（その 1）—本文・校異— 8 回目 演習 2：【2】源氏、西の対で和琴を弾き玉鬘と唱和（その 2）—注釈— 9 回目 演習 2：【2】源氏、西の対で和琴を弾き玉鬘と唱和（その 3）—研究・鑑賞— 1 0 回目 演習 3：【3】源氏、玉鬘の取扱いに思い迷う（その 1）—本文・校異— 1 1 回目 演習 3：【3】源氏、玉鬘の取扱いに思い迷う（その 2）—注釈— 1 2 回目 演習 3：【3】源氏、玉鬘の取扱いに思い迷う（その 3）—研究・鑑賞— 1 3 回目 演習 4：【4】内大臣、源氏に反発しつつ娘に苦慮（その 1）—本文・校異— 1 4 回目 演習 4：【4】内大臣、源氏に反発しつつ娘に苦慮（その 2）—注釈— 1 5 回目 演習 4：【4】内大臣、源氏に反発しつつ娘に苦慮（その 3）—研究・鑑賞—		
到達目標	・平安文学および『源氏物語』の本質を説明できる。 ・古典文学の原文を読解できる。 ・古典文学研究方法を活用できる。		
授業時間外の学習	・事前に指定された範囲の原文について、単語や文法等の確認を予習にあてる。 ・授業時に学習した範囲の原文について、その鑑賞を復習にあてる。		
評価方法	平常点（100点）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	教科書は使用せず、授業時に本文および関連資料を配付する。		
参考書	・林田孝和他編『源氏物語事典』（大和書房、2002年） ・秋山虔・小町谷照彦編『源氏物語図典』（小学館、1997年） ・秋山虔・室伏信助編『源氏物語必携事典』（角川書店、1998年）		
備考			

講義科目名称： 日本文学演習（中古文学）Ⅱ

授業コード： 233007

英文科目名称： Japanese Literature (Ancient) 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本文学を代表する古典である『源氏物語』を演習形式で授業を行う。『源氏物語』『常夏』巻（後半）を対象として、本文の異同確認、注釈の比較、鑑賞等を行いながら作品の本質を考えるとともに、古典文学研究の方法を学んでいく。演習発表を行うにあたり、その資料作成には十分な時間を要する。しっかりとした準備とともに相応の覚悟を求めたい。なお、学習成果の指標はA-②である。遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせを行い、事前に履修者に周知する。		
授業計画	1 回目	本授業の進め方の説明。『源氏物語』、および「常夏」巻の位置づけ等の概説。	
	2 回目	演習資料作成法	
	3 回目	古典文学研究の基礎的文献	
	4 回目	演習 1：【5】内大臣、雲居雁を訪れて、昼寝を戒める（その 1）—本文・校異— ※以下、小学館新編日本古典文学全集『源氏物語』『常夏』巻に従い、その段数を記す。	
	5 回目	演習 1：【5】内大臣、雲居雁を訪れて、昼寝を戒める（その 2）—注釈—	
	6 回目	演習 1：【5】内大臣、雲居雁を訪れて、昼寝を戒める（その 3）—研究・鑑賞—	
	7 回目	演習 2：【6】内大臣、近江の君を弘徽殿女御に託す（その 1）—本文・校異—	
	8 回目	演習 2：【6】内大臣、近江の君を弘徽殿女御に託す（その 2）—注釈—	
	9 回目	演習 2：【6】内大臣、近江の君を弘徽殿女御に託す（その 3）—研究・鑑賞—	
	1 0 回目	演習 3：【7】内大臣、近江の君を訪れる	滑稽な問答（その 1）—本文・校異—
	1 1 回目	演習 3：【7】内大臣、近江の君を訪れる	滑稽な問答（その 2）—注釈—
	1 2 回目	演習 3：【7】内大臣、近江の君を訪れる	滑稽な問答（その 3）—研究・鑑賞—
	1 3 回目	演習 4：【8】近江の君と弘徽殿女御	珍妙な歌を贈答（その 1）—本文・校異—
	1 4 回目	演習 4：【8】近江の君と弘徽殿女御	珍妙な歌を贈答（その 2）—注釈—
	1 5 回目	演習 4：【8】近江の君と弘徽殿女御	珍妙な歌を贈答（その 3）—研究・鑑賞—
到達目標	・平安文学および『源氏物語』の本質を説明できる。 ・古典文学の原文を読解できる。 ・古典文学研究方法を活用できる。		
授業時間外の学習	・事前に指定された範囲の原文について、単語や文法等の確認を予習にあてる。 ・授業時に学習した範囲の原文について、その鑑賞を復習にあてる。		
評価方法	平常点（100点）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	教科書は使用せず、授業時に本文および関連資料を配付する。		
参考書	・林田孝和他編『源氏物語事典』（大和書房、2002年） ・秋山虔・小町谷照彦編『源氏物語図典』（小学館、1997年） ・秋山虔・室伏信助編『源氏物語必携事典』（角川書店、1998年）		
備考			

講義科目名称： 日本文学演習（中世文学）Ⅱ

授業コード： 233008

英文科目名称： Japanese Literature (Early Modern) 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
吉永優真 講師			
添付ファイル			

授業の概要	中世を代表する軍記物語である『平家物語』について、演習形式で授業を行う。『平家物語』はとくに異本が多い作品であり、しかも異本ごとに少しずつ様相を異にする。大きくは読み本系と語り本系に分かれるが、この二系統は違いがおおきすぎて比較が容易ではない。 そこで、本演習では語り本系のうち、八坂系一類の中院本と一方系の覚一本（とくに高野本）との本文を比較する。それぞれの伝本において、どのように描かれ方が異なっているのか、伝えたいことが異なっているのかなど、「読み」によって各伝本の特徴を明らかにしたい。 各回の内容は一例であり、扱う場面は春semesterの続きとする。 学習評価の指標はA-②である。		
授業計画	1 回目	ガイダンス 授業の進め方の説明・『平家物語』の概説・春semesterの振り返り	
	2 回目	発表の手順 吉永の手本回	
	3 回目	学生発表1 プレゼンテーション 「綴引き」	
	4 回目	学生発表2 「弓流し」	
	5 回目	学生発表3 「田内左衛門の動静」	
	6 回目	学生発表4 「伊勢三郎の調略」	
	7 回目	学生発表5 「住吉の神鎗」	
	8 回目	学生発表6 「熊野別当湛増」	
	9 回目	学生発表7 「どしいくさ」	
	1 0 回目	学生発表8 「壇ノ浦開戦」	
	1 1 回目	学生発表9 「山鹿兵藤次秀遠」	
	1 2 回目	学生発表10 「遠矢」	
	1 3 回目	学生発表11 「白幡といるか」	
	1 4 回目	学生発表12 「先帝身投げ」	
	1 5 回目	まとめ	
到達目標	・『平家物語』の「読み」を深める。 ・古典を原文で読解できる。 ・古典文学の研究方法を身に着ける。		
授業時間外の学習	該当場面を読み、指定された範囲を予習する。30分 授業内容の復習をする。30分		
評価方法	平常点 100%		
テキスト	資料を配布する。		
参考書	市古貞次校注『平家物語』①・②（新編日本古典文学全集、小学館、1994年） 大津雄一 他『平家物語大事典』（東京書籍、2010年） 野中哲照『那須与一の謎を解く』（武蔵野書院、2022年） 野中哲照『平家物語解剖図鑑』（エクスナレッジ社、2024年）		
備考			

講義科目名称： 日本文学演習（近代文学）Ⅰ

授業コード： 133004

英文科目名称： Japanese Literature (Modern) 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
近代文学			
添付ファイル			

授業の概要	芥川龍之介の小説をテキストとして使用し、発表を前提とした演習形式の授業を行う。 なお、学習成果の指標はA-②である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 演習の手引き（1）発表担当を決める/文献調査方法の説明 3 回目 演習の手引き（2）引用・出典表記の説明/問題提起の考察 4 回目 発表1 「老年」/「青年と死」/「ひょっとこ」 5 回目 発表2 「仙人」/「羅生門」 6 回目 発表3 「鼻」/「孤独地獄」 7 回目 発表4 「父」/「虱」/「酒虫」 8 回目 発表5 「野呂松人形」/「芋粥」 9 回目 発表6 「猿」/「手巾」 1 0 回目 発表7 「煙草と悪魔」/「煙管」 1 1 回目 発表8 「MENSURA ZOILI」/「運」 1 2 回目 発表9 「尾形了齋覚え書」/「道祖問答」 1 3 回目 発表1 0 「忠義」/「貉」 1 4 回目 発表1 1 「世之助の話」/「偷盗」 1 5 回目 発表1 2 「さまよえる猶太人」/「二つの手紙」
到達目標	・文献調査方法や引用、出典表記の仕方が習得できる。 ・発表対象について問題提起ができ、分析過程と結論を言語化できる。 ・芥川龍之介の文学に興味を持ち、知見を深めるために質疑応答できる。
授業時間外の学習	・各作品は発表担当に関わらず全て事前に読み込んでおくこと。 ・各15分以内の発表に収まるように構成を練り、口頭練習してから発表に臨むこと。
評価方法	授業への参加意欲（60%） レポート（40%） ※遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『芥川龍之介全集』1～2 ちくま文庫
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
近代文学			
添付ファイル			

授業の概要	夏目漱石『坊っちゃん』をテキストとして使用し、発表を前提とした演習形式の授業を行う。 なお、学習成果の指標はA-②である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 演習の手引き（1）発表担当を決める/文献調査方法の確認 3 回目 演習の手引き（2）引用・出典表記の確認/問題提起の考察 4 回目 発表1 第一章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：講師、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 5 回目 発表2 第二章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第十一章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 6 回目 発表3 第三章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第十章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 7 回目 発表4 第四章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第九章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 8 回目 発表5 第五章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第八章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 9 回目 発表6 第六章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第七章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 10 回目 発表7 第七章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第六章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 11 回目 発表8 第八章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第五章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 12 回目 発表9 第九章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第四章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 13 回目 発表10 第十章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 └ファシリテーター：第三章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分

	1 4 回目 発表 1 1 第十一章 ・発表 2 5 ～ 3 0 分 ・質疑応答 1 5 ～ 2 0 分 ・全体の振り返り 3 0 分 └─ファシリテーター：第二章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5 分 P→1 5 分 T→1 0 分 （演習IIに向けて） 1 5 回目 まとめ
到達目標	・発表対象について問題提起ができ、分析過程と結論を言語化できる。 ・夏目漱石の文学に興味を持ち、知見を深めるために質疑応答できる。
授業時間外の学習	・作品については発表担当に関わらず全て事前に読み込んでおくこと。 ・各 3 0 分以内の発表に収まるように構成を練り、口頭練習してから発表に臨むこと。
評価方法	授業への参加意欲（60%） レポート（40%） ※遠隔授業の場合も同様
テキスト	『坊っちゃん』夏目漱石 新潮文庫
参考書	
備考	

講義科目名称： 日本文学演習（近・現代文学）Ⅰ

授業コード： 133005

英文科目名称： Japanese Literature (Modern Contemporary) 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	太宰治の小説をテキストとして使用し、発表を前提とした演習形式の授業を行う。 なお、学習成果の指標はA-②である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 引用・出典表記の確認、調査・研究のための文献ガイド 3 回目 発表者の担当作品確認、調査・研究のための文献リスト作成 4 回目 時代資料の鑑賞など 5 回目 発表者の担当作品再確認、引用・出典表記の再確認、〈太宰治〉について 6 回目 担当者発表 (1) 『太宰治全集』2 収録作品から (1 番目・2 番目) (1 番目「創世記」・2 番目「喝采」) 7 回目 担当者発表 (2) 『太宰治全集』2 収録作品から (3 番目・4 番目) (3 番目「二十世紀旗手」・4 番目「あさましきもの」) 8 回目 担当者発表 (3) 『太宰治全集』2 収録作品から (5 番目・6 番目) (5 番目「HUMAN LOST」・6 番目「燈籠」) 9 回目 担当者発表 (4) 『太宰治全集』2 収録作品から (7 番目・8 番目) (7 番目「満願」・8 番目「姥捨」) 1 0 回目 担当者発表 (5) 『太宰治全集』2 収録作品から (9 番目・10 番目) (9 番目「I can speak」・10 番目「富獄百景」) 1 1 回目 担当者発表 (6) 『太宰治全集』2 収録作品から (11 番目・12 番目) (11 番目「女生徒」・12 番目「懶惰の歌留多」) 1 2 回目 担当者発表 (7) 『太宰治全集』2 収録作品から (13 番目・14 番目) (13 番目「葉桜と魔笛」・14 番目「秋風記」) 1 3 回目 担当者発表 (8) 『太宰治全集』2 収録作品から (15 番目・16 番目) (15 番目「新樹の言葉」・16 番目「華燭」) 1 4 回目 担当者発表 (9) 『太宰治全集』2 収録作品から (17 番目・18 番目) (17 番目「愛と美について」・18 番目「火の鳥」) 1 5 回目 まとめ
到達目標	- 卒業研究（論文）やレポート作成で必須となる引用や出典表記の仕方が習得できる。 - 作家や作品について調査・研究するための文献探索の仕方が習得できる。 - 作家や作品についての問題提起ができ、その解決の糸口を自分で模索できるようになる。
授業時間外の学習	- 自分以外の発表についても、感想や質疑などをおとして積極的に関わってもらうので、テキスト掲載作品はどれもじっくり読み込んでもらいたい。また、知らない、イメージできないといった言葉や表現については、各自調べたうえで授業に臨むこと。 - 発表の持ち時間はそれぞれ15分とする。ただし、受講者の人数によって持ち時間は前後する。時間内で必要なことが説明できるよう何度か練習して発表に臨むこと。
評価方法	授業への参加意欲 (60%) レポート (40%) ※遠隔授業の場合も同様
テキスト	『太宰治全集』2 (ちくま文庫)
参考書	
備考	

講義科目名称： 日本文学演習（近・現代文学）Ⅱ

授業コード： 233010

英文科目名称： Japanese Literature (Modern Contemporary) 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	宮沢賢治の生前発表作品群（散文作品）をテキストとして使用し、発表を前提とした演習形式の授業を行う。 なお、学習成果の指標はA-②である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 引用・出典表記の確認、調査・研究のための文献ガイド 3 回目 発表者の担当作品確認、調査・研究のための文献リスト作成 4 回目 プレ発表、作品分析の方法 5 回目 発表者の担当作品再確認、引用・出典表記の再確認、〈宮沢賢治〉について 6 回目 担当者発表（1）『注文の多い料理店』から（1番目・2番目） 7 回目 担当者発表（2）『注文の多い料理店』から（3番目・4番目） 8 回目 担当者発表（3）『注文の多い料理店』から（5番目・6番目） 9 回目 担当者発表（4）『注文の多い料理店』から（7番目・8番目） 1 0 回目 担当者発表（5）新聞・雑誌等発表作品から（9番目・10番目） 1 1 回目 担当者発表（6）新聞・雑誌等発表作品から（11番目・12番目） 1 2 回目 担当者発表（7）新聞・雑誌等発表作品から（13番目・14番目） 1 3 回目 担当者発表（8）新聞・雑誌等発表作品から（15番目・16番目） 1 4 回目 担当者発表（9）新聞・雑誌等発表作品から（17番目・18番目） 1 5 回目 まとめ
到達目標	- 卒業研究（論文）やレポート作成で必須となる引用や出典表記の仕方が習得できる。 - 作家や作品について調査・研究するための文献探索の仕方が習得できる。 - 作家や作品についての問題提起ができ、その解決の糸口を自分で模索できるようになる。
授業時間外の学習	- 自分以外の発表についても、感想や質疑などをとおして積極的に関わってもらうので、テキスト掲載作品はどれもじっくり読み込んでもらいたい。また、知らない、イメージできないといった言葉や表現については、各自調べたうえで授業に臨むこと。 - 発表の持ち時間はそれぞれ15分とする。ただし、受講者の人数によって持ち時間は前後する。時間内で必要なことが説明できるよう何度か練習して発表に臨むこと。
評価方法	授業への参加意欲（60%） レポート（40%） ※遠隔授業の場合も同様
テキスト	『宮沢賢治全集』8 （ちくま文庫）
参考書	
備考	

講義科目名称： 唐宋詩文演習 I

授業コード： 133006

英文科目名称： Tang Song Poetic Exercises 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
塚越義幸 教授			
添付ファイル			

授業の概要	中国の唐代・宋代の代表的な詩について取り上げる。 日本文学にも多大な影響を与えた唐代・宋代の代表的な詩を、中国の注釈を踏まえながら、読解・鑑賞していく。 1 年次の文学基礎演習を踏まえ、七言絶句の創作も試みる。 学習成果の指標はA-①・②である。 本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修（Google Meet）で実施し、時間割通りの時間で実施する。		
授業計画	1 回目 ガイダンスーオンライン授業の注意事項と授業の概要説明 2 回目 中国文学史概略ー詩文を中心にー 3 回目 唐詩概説 4 回目 唐詩の読解ー「黄鶴楼」 5 回目 唐詩の読解ー「九月九日憶東山兄弟」 6 回目 唐詩の読解ー「蜀相」 7 回目 唐詩の読解ー「送友人」 8 回目 唐詩の読解ー「漁翁」 9 回目 宋詩概説 1 0 回目 宋詩の読解ー「山園小梅」 1 1 回目 宋詩の読解ー「鍾山即事」 1 2 回目 七言絶句の創作①ー季節を詠む 1 3 回目 七言絶句の創作②ー風景を詠む 1 4 回目 七言絶句の創作②ー人物を詠む 1 5 回目 まとめ		
到達目標	唐代・宋代の詩文の特徴を理解できる（特に中国の注釈を利用して解釈することができる）。また唐宋詩についての理解を深め、漢詩創作への意識を強める。		
授業時間外の学習	作品はすべて白文なので、参考書などを活用して事前に訓点をつけておく。またそれぞれの作品の概要・主題をまとめておく。		
評価方法	レポート80%、授業への意欲度20%		
テキスト	プリント配布。漢文入門で使用した国語便覧を随時活用する。創作は主に『だれにでも作れる漢詩の作り方』を使用する。		
参考書	石川忠久監修『漢詩創作のための詩語集』（大修館書店） 河井醉荻編『詩語辞典』（松雲堂書店） 川田瑞穂編『改訂新版 詩語集成』（松雲堂書店） など		
備考			

講義科目名称： 唐宋詩文演習Ⅱ

授業コード： 233011

英文科目名称： Tang Song Poetic Exercise 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
塚越義幸 教授			
添付ファイル			

授業の概要	I で読解した唐宋詩の読解をもとに、漢詩の創作に取り組む。漢詩（絶句を中心に）の創作法をまなび、実作に臨む。あわせて各自が創作した作品について、合評会を行う。成果を測るため、全員が漢詩コンクール（諸橋轍次博士漢詩大会など）に応募する。また毎回詩吟の練習に励み、自作自詠を目指す。 学習成果の指標はA-①・②である。 本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修（Google Meet）で実施し、時間割通りの時間で実施する。		
授業計画	1 回目 ガイダンスー春セメスターの復習を含めて 2 回目 漢詩とは 3 回目 日本人と漢詩創作 4 回目 漢詩創作法ー七言絶句 5 回目 漢詩創作法ー五言絶句 6 回目 漢詩創作法ー柏梁体 7 回目 漢詩創作法ー漢俳 8 回目 漢詩実作ー七言絶句 9 回目 漢詩実作発表・合評会ー七言絶句 1 0 回目 漢詩実作ー五言絶句 1 1 回目 漢詩実作発表・合評会ー五言絶句 1 2 回目 漢詩実作ー漢俳 1 3 回目 漢詩実作発表・合評会ー漢俳 1 4 回目 漢詩実作ー柏梁体 1 5 回目 まとめ		
到達目標	日本人がいかにも多くの漢詩を創作し、日本の文化の一つとして位置付けてきたかを実感できる。漢詩の決まりを理解し、詩語集を活用し七言絶句を創作できる。そしてその中の秀作を漢詩コンクールに応募する。また詩吟の習熟により、自作自詠を試みることができる。		
授業時間外の学習	中国・日本の名詩と言われる作品を鑑賞する。詩語集（だれにもできる漢詩の作り方など）を頻繁に開き、詩語をできるだけ多く覚える。日頃から物をよく見つめ、心に湧いてきたものをメモし、それを短い漢語で置き換える訓練をする。		
評価方法	レポート80%、授業への意欲度20%		
テキスト	プリントを配布する。創作に関しては、『だれにもできる漢詩の作り方』を用いる。		
参考書	授業時に指示する。		
備考			

講義科目名称： 比較文学

授業コード： 153003

英文科目名称： Comparative Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
内藤浩誉 講師			
テーマ：生活文化に表れる文学			
添付ファイル			

授業の概要	身近な生活文化を見直してみると、様々な再発見があります。生活に表れる文化の比較と文学を通じて、「当たり前」をもう一度見つめ、日本人が培ってきた考え方を捉えましょう。そして、自分自身の「未来」をどのように歩んでいくか、少なからずのヒントになるための理解を深めることを目指します。 本講義は原則対面授業とします。ただし、リモート授業を数回行う予定です。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 授業の進め方について。 2 回目 「民俗学」と「民族学」 「民俗学」とは。伝承とは。特色と意義について学ぶ 3 回目 口承文芸について 口承文芸の種類と特色 4 回目 生活文化を見つめる①食 年中行事と食。正月には何を食べる？ 5 回目 生活文化を見つめる②食 各家・各地域の雑煮について比べてみよう 6 回目 東西文化を比較する①獅子舞 東日本と西日本の文化の違いについて、芸能を事例に理解する。 7 回目 東西文化を比較する②雛人形 東日本と西日本の文化の違いを人形文化から理解する。 8 回目 全国の文化を比較する①土の郷土玩具 土人形を事例に。菅原道真伝説について理解する。 9 回目 全国の文化を比較する②木の郷土玩具 こけしを事例に。惟喬親王伝説について理解する。 1 0 回目 全国の文化を比較する③紙の郷土玩具 張子人形を事例に。達磨・神功皇后伝説について理解する。 1 1 回目 昔話を比較する 「鼠の嫁入り」を事例に 1 2 回目 伝説を比較する①静御前伝説 全国の静御前伝説の特徴と違い。文学と芸能を比較する。 1 3 回目 伝説を比較する②平家伝説 全国の平家伝説の特徴と違い。地形地理の違いによる伝説を比較する。 1 4 回目 伝説を比較する③乙和御前伝説 文芸と口承の違い、話の時代変遷について理解する。 1 5 回目 まとめ まとめ。		
到達目標	自身の生活を通して日本文化の特色を捉え、思考力を高め、他者に的確な説明ができるようにする。		
授業時間外の学習	事前に配布する資料に目を通しておく。		
評価方法	学期末レポート（50%） 平常点（授業時のコメントペーパー提出）など（50%）		
テキスト	随時資料（プリント）を配布。		
参考書	必要に応じ、授業内で説明する。		
備考			

講義科目名称： 創作文芸概説

授業コード： 144003

英文科目名称： Outline of Creative Writing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
創作文芸	小説		
添付ファイル			

授業の概要	創作の基礎を学んでいく。 自分の中にある物語を言葉で表現し、自分の外に生み出してみよう。 なお、学習成果の指標はA-①である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 創作をしてみよう 1 創作実践 （1 2 0 0 字以内） 3 回目 創作をしてみよう 2 提出作品の鑑賞 4 回目 現代短歌 1 現代短歌とは/作品紹介 5 回目 現代短歌 2 作法/創作実践 6 回目 現代短歌 3 提出作品の鑑賞/創作実践 7 回目 現代詩 1 現代詩とは/作法/作品紹介 8 回目 現代詩 2 作法/創作実践 9 回目 現代詩 3 提出作品の鑑賞/創作実践 1 0 回目 小説 1 小説とは/作法/作品紹介/小説のテーマ 1 1 回目 小説 2 舞台設定/キャラクター 1 2 回目 小説 3 小説の人称/プロット作成/創作実践（2 5 0 0 字程度） 1 3 回目 小説 4 草稿を校正する 1 4 回目 小説 5 提出作品を鑑賞する 1 5 回目 編集・出版について考えてみる		
到達目標	・言葉による表現の奥深さを考えられるようになる ・読者がいることの楽しさを知る		
授業時間外の学習	毎回ではないが創作課題あり		
評価方法	授業内の課題（50%） 作品（50%） ※遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	なし		
参考書	授業の中で紹介する。		
備考			

講義科目名称： 創作文芸入門（児童文学・絵本）

授業コード： 222001

英文科目名称： Creative Writing (Children's Books Picture Books)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	「どのように表現するか」を実践的に考える。 児童文学や絵本について、そのテクニックを実践的に考察する。なお、講義内容は「児童文学」という区分に限定することなく「散文」として幅広く進めていくつもりである。 なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。 ※遠隔授業となった場合、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で行う。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 書き手と読者の関係について（1）（「作者」とは誰か？） 3 回目 書き手と読者の関係について（2）（想定される「読者」について） 4 回目 作品制作上の配慮について（1）（プロットの書き方） 5 回目 作品制作上の配慮について（2）（場の描写について） 6 回目 作品制作上の配慮について（3）（魅力的なキャラクターとは） 7 回目 作品制作（1）（プロットをもとに） 8 回目 作品制作（2）（エピソードの調整） 9 回目 現代の小説・児童文学作品について考える（1）（「テーマ」について） 10 回目 現代の小説・児童文学作品について考える（2）（「エピソード」について） 11 回目 現代の小説・児童文学作品について考える（3）（「リアリティ」の作法について） 12 回目 校正技術（1）（いろいろな記号の再確認） 13 回目 校正技術（2）（実践練習） 14 回目 作品制作（1）（テーマを決める） 15 回目 作品制作（2）（ストーリーをまとめる）
到達目標	・「読者」を想定した作品制作が出来るようになる。 ・場の描写、キャラクターの書き分け、リアリティの出し方などの創作技法を実践的に理解する。 ・校正技術を覚える。
授業時間外の学習	創作課題をまめに出すので鋭意取り組んだもらいたい。
評価方法	授業への参加意欲（60%） 作品提出（40%） ※遠隔授業の場合も同様
テキスト	ナシ
参考書	ナシ
備考	

講義科目名称： 創作文芸入門（短歌・俳句・詩）

授業コード： 255002

英文科目名称： Creative Writing (Tanka Haiku Poems)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	秀歌の鑑賞を通してことばの表現への理解を広げながら、実作によって折々の感動を表現することのよこびを体験する。短歌表現の基礎知識を学び、秀歌の鑑賞によって歌の世界に親しむとともに、実作と合評において折々の感動を表現するための工夫を重ねていく。なお、学習成果の指標はA-①・②である。遠隔授業実施の際は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を主として行い、事前に履修者に周知する。		
授業計画	1 回目	はじめに	－「うた」について 「うた」という詩型 和歌と短歌
	2 回目	秀歌をあじわう①	3 1 音の世界（短歌とは 何をうたうか）
	3 回目	秀歌をあじわう②	3 1 音の世界（ことばをさがす 典型に学ぶ）
	4 回目	口語表現と文語表現	－実作の準備
	5 回目	口語表現と文語表現	（秀歌の例に学ぶ）
	6 回目	秀歌をあじわう③	四季の歌、恋の歌（春・夏）
	7 回目	歌を作ろう①	自由題 3 首～5 首合評
	8 回目	他大学学生作品を読む	
	9 回目	秀歌をあじわう④	四季の歌、恋の歌（秋・冬）
	1 0 回目	歌を作ろう②	課題 3 首～5 首合評
	1 1 回目	新聞歌壇を読む	
	1 2 回目	秀歌をあじわう⑤	四季の歌、恋の歌（和歌と短歌の違い）
	1 3 回目	秀歌をあじわう⑥	修辞法とその効果
	1 4 回目	歌を作ろう③	課題 3 首～5 首合評
	1 5 回目	まとめ－実作を体験して	
到達目標	感動したこと、思ったことを自分のことばで短歌の形式にまとめられること。		
授業時間外の学習	担当者の勧める歌集をくり返し読むこと。秀歌を暗誦する習慣を身につけること。		
評価方法	平常点（100%）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	永田和宏『現代秀歌』（岩波新書）		
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。		
備考			

講義科目名称： 創作文芸入門（エッセイ）

授業コード： 225002

英文科目名称： Creative Writing(Adaptation)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
吉村 風 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	本講座はエッセイ・ルポ・ドキュメントを検討し実際に文章を書くことを目標とする。エッセイは随想と訳されるが、幅広く自由な随想のためには現実世界の観察が必要である。どのように現実世界を観察・取材するかを中心にまた実際に執筆ができるよう講義を行う		
授業計画	1 回目	はじめに 随想とは何か ガイダンス	
	2 回目	観察とは何か 随筆の材料となる、ルポ・ドキュメントを読む	
	3 回目	取材とは何か 取材について検討する	
	4 回目	インタビュー調査とは何か インタビューについて学ぶ	
	5 回目	調査と取材 調査と取材について検討する	
	6 回目	調査対象を選定する 調査対象・取材対象を選定する	
	7 回目	調査と取材 調査対象・取材方法を検討する	
	8 回目	取材・調査にいく 1 実際に取材・調査を行う	
	9 回目	取材・調査にいく 2 実際に取材・調査を行う	
	1 0 回目	取材・調査にいく 3 実際に取材・調査を行う	
	1 1 回目	取材・調査結果をまとめる 取材・調査結果をまとめる	
	1 2 回目	構想を練る 取材結果をもとに随筆を書いてみる	
	1 3 回目	執筆を行う 取材結果をもとに随筆を書いてみる	
	1 4 回目	中間報告 進捗状況の確認	
	1 5 回目	完成原稿を読む 作品報告	
到達目標	観察力・取材力・表現力を高めることができる。		
授業時間外の学習	課題の準備をする。		
評価方法	授業内の課題（50%） 作品（50%）		
テキスト	使用しない。		
参考書			
備考	本授業内で進めてきた創作（5000字程度）を提出してもらう。		

講義科目名称： 創作文芸入門（小説・随筆）

授業コード： 214003

英文科目名称： Creative Writing (Novels and Essays)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
創作文芸	小説		
添付ファイル			

授業の概要	実際に随筆と小説を創作してもらう。 どのように書けば書きたいものが表現できるか考え、取り組んでほしい。 なお、学習成果の指標は A-①である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 随筆 1 作品鑑賞/随筆の構成を考える 3 回目 随筆 2 創作実践 原稿用紙 2 ～ 5 枚程度 4 回目 随筆 3 提出作品の鑑賞 5 回目 小説 1 小説のテーマと舞台設定を決める 6 回目 小説 2 キャラクターたちを設計する 7 回目 小説 3 プロットを作成する 8 回目 小説 4 プロットの添削 9 回目 小説 5 作品の提出 3 0 0 0 字程度 1 0 回目 小説 6 提出作品の鑑賞 1 1 回目 小説 7 テーマ/舞台/キャラクターを設定する 1 2 回目 小説 8 プロットを作成する 1 3 回目 小説 9 プロットを添削する 1 4 回目 小説 1 0 作品を提出する 5 0 0 0 字程度 1 5 回目 まとめ 最終提出作品の鑑賞		
到達目標	散文作品を書く技能を身につけられる。		
授業時間外の学習	課題の準備をする。		
評価方法	授業内の課題（50%） 作品（50%） ※遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	なし		
参考書	授業の中で紹介する。		
備考			

講義科目名称： 創作文芸演習（詩・短歌） I

授業コード： 152002

英文科目名称： Creative Writing (Poems and Tanka) 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	本授業では近代以降の短歌史をたどりつつ、それぞれの歌人が開拓した短歌の表現を学び、実作においてよりゆたかな表現を獲得することを目指す。明治、大正時代の短歌史の流れを把握し、歌人たちがそれぞれ切りひらいた多様な表現の世界を学ぶ。また、実作を行い、発想や内容などの表現をさまざまに試みる。なお、学習成果の指標はA-①・②である。遠隔授業実施の際は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を主として行い、事前に履修者に周知する。		
授業計画	1 回目 和歌から短歌へ 2 回目 和歌革新運動まで（旧派和歌・新体詩・開化新題和歌） 3 回目 和歌革新運動まで（落合直文とあさ香社について） 4 回目 明星派の主張と歌人たち① 与謝野鉄幹・与謝野晶子 5 回目 明星派の主張と歌人たち② 山川登美子・茅野雅子 6 回目 歌を作ろう① 自由題 3 首～5 首と合評 7 回目 アララギ派の主張と歌人たち① 正岡子規・伊藤左千夫・長塚節 8 回目 アララギ派の主張と歌人たち② 島木赤彦・斎藤茂吉 9 回目 短歌の朗読 秀歌の暗誦 （CDを聴く） 1 0 回目 歌を作ろう② 題詠 3 首～5 首と合評 1 1 回目 「こころの花」の主張と歌人たち 佐々木信綱・柳原白蓮 1 2 回目 釈迺空・石川啄木の活動と歌の表現 1 3 回目 修辞法とその効果 1 4 回目 歌を作ろう③題詠 3 首～5 首と合評 1 5 回目 まとめ 歌と私		
到達目標	感動したこと、思ったことを自分のことばで短歌の形式にまとめられること。		
授業時間外の学習	各歌人の代表作（秀歌）を暗誦できること。		
評価方法	平常点（100%）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	永田和宏『近代秀歌』（岩波新書）		
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。		
備考			

講義科目名称： 創作文芸演習（詩・短歌）Ⅱ

授業コード： 252003

英文科目名称： Creative Writing (Poems and Tanka) 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	春セメスター同講座にひきつづき、大正時代以降の短歌史をたどりつつ、それぞれの歌人が到達した短歌の表現を学び、実作においてよりゆたかな表現を獲得することを目的とする。大正・昭和時代の短歌史の流れを把握し、歌人たちがそれぞれに切り拓いた多様な表現の世界を学ぶ。また、実作を行い、発想や内容などの表現を自由に試みていく。なお、学習成果の指標はA-①・②である。遠隔授業実施の際は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を主として行い、事前に履修者に周知する。		
授業計画	1 回目	春セメスター授業の振り返り	
	2 回目	近代歌人の表現に学ぶ① 石川啄木・土岐善麿	
	3 回目	近代歌人の表現に学ぶ② 前田夕暮・北原白秋	
	4 回目	歌を作ろう① 自由題 3 首～5 首と合評	
	5 回目	近代歌人の表現に学ぶ③ 若山牧水・土屋文明	
	6 回目	現代歌人の表現に学ぶ① 宮柊二・斎藤史他 2 名	
	7 回目	短歌の朗読 秀歌の暗誦	
	8 回目	歌を作ろう② 題詠 3 首～5 首と合評	
	9 回目	短歌史における「現代」について ーその区分と概観	
	1 0 回目	現代歌人の表現に学ぶ② 岡野弘彦・馬場あき子他 3 名	
	1 1 回目	現代歌人の表現に学ぶ③ 河野裕子・俵万智他 3 名	
	1 2 回目	新人賞・歌人賞の歌人たち	
	1 3 回目	修辞法とその効果	
	1 4 回目	歌を作ろう③ 題詠 5 首と合評	
	1 5 回目	まとめ 歌と私	
到達目標	感動したこと、思ったことを自分のことばで短歌の形式にまとめられること。		
授業時間外の学習	各歌人の代表作（秀歌）を暗誦すること。		
評価方法	平常点（100%）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	永田和宏『近代秀歌』（岩波新書）		
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。		
備考			

講義科目名称： 創作文芸演習（小説・随筆）Ⅰ

授業コード： 141002

英文科目名称： Creative Writing (Novels and Essays) 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
創作文芸	小説		
添付ファイル			

授業の概要	実際に作品を書いてもらう。 構想と実際に書くもののずれを体感しつつ、一つの作品を最後まで書き上げる力をつけてほしい。 なお、学習成果の指標は A-①である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 二次創作 1 題材にする作品の決定/作品設定や読者層の調査・分析 3 回目 二次創作 2 プロットの作成/創作実践 4 回目 二次創作 3 作品提出 3 0 0 0 字以内 5 回目 二次創作 4 提出作品の鑑賞 6 回目 一次創作 1 テーマ/世界観設定/キャラクター設定 7 回目 一次創作 2 読者層の設定/プロット作成 8 回目 一次創作 3 ペアでプロットの確認と添削 9 回目 一次創作 4 第一回作品提出 1 0 回目 一次創作 5 提出作品の批評 1 1 回目 一次創作 6 グループでプロットの見直し 1 2 回目 一次創作 7 第一回提出作品の校正 1 3 回目 一次創作 8 教員と内容確認 1 4 回目 一次創作 9 最終作品提出 5 0 0 0 字以内 1 5 回目 まとめ 提出作品の鑑賞		
到達目標	自身の作品世界を、どのように構築するかを、考察できる。		
授業時間外の学習	・構想を練る ・資料収集 ・作品の創作 ・映画鑑賞や読書		
評価方法	提出作品（1 0 0 %）		
テキスト	使用しない。		
参考書	授業時に紹介する。		
備考	新作を書き上げること。 卒業創作に関連する創作物でもかまわない。		

講義科目名称： 創作文芸演習（小説・随筆）Ⅱ

授業コード： 241002

英文科目名称： Creative Writing (Novels and Essays) 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
創作文芸	小説		
添付ファイル			

授業の概要	実際に作品を書いてもらう。 繰り返し作品を書き上げることで、創作者として自信をつけてほしい。 なお、学習成果の指標は A-①である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 創作実践（お題あり、授業内提出） 3 回目 提出作品の鑑賞 4 回目 作品設定を決める/プロット作成 5 回目 ペアでプロットの見直しと添削/創作実践 6 回目 作品提出 3 0 0 0 字程度 7 回目 提出作品鑑賞 8 回目 創作実践（お題あり、授業内提出） 9 回目 提出作品の鑑賞 1 0 回目 作品の設定を決める/プロット作成 1 1 回目 グループ活動（作品設定とプロットを説明） 1 2 回目 プロットの添削/創作実践 1 3 回目 教員と草稿の確認 1 4 回目 最終作品提出 5 0 0 0 字程度 1 5 回目 まとめ 提出作品の鑑賞
到達目標	自身の作品世界を、どのように構築するかを、考察できる。
授業時間外の学習	・構想を練る ・資料収集 ・作品の創作 ・映画鑑賞や読書
評価方法	提出作品（1 0 0 %）
テキスト	使用しない。
参考書	授業時に紹介する。
備考	新作を書き上げること。 卒業創作に関連する創作物でもかまわない。

講義科目名称： 創作文芸演習（児童文学・絵本）Ⅰ

授業コード： 112003

英文科目名称： Creative Writing（Children's Books）1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	作品の完成度を上げるために必要なことを実践的に考える。 「創作文芸入門」で学んだことを基礎に、作品の質の向上のためのテクニックを実践的に考察する。なお、講義内容は「児童文学」という区分に限定することなく「散文」として幅広く進めていくつもりである。 なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。 ※遠隔授業となった場合、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で行う。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 書き手と読者の関係について 3 回目 作品制作上の配慮について 4 回目 語り手、人称、視点の実践的把握（1）（「語り」とはなにか） 5 回目 語り手、人称、視点の実践的把握（2）（「一人称」の世界） 6 回目 語り手、人称、視点の実践的把握（3）（「三人称」の世界） 7 回目 語り手、人称、視点の実践的把握（4）（「視点」とはなにか） 8 回目 語り手、人称、視点の実践的把握（5）（「視点」の移動） 9 回目 企画検討（1）（課題をもとにプロットを作成する） 10 回目 企画検討（2）（プロットの整理） 11 回目 執筆作業（1）（人称に注意しながら） 12 回目 執筆作業（2）（語りの「ブレ」に注意しながら） 13 回目 執筆作業（3）（書くべきもの、書くべきでないものに注意しながら） 14 回目 校正作業 15 回目 合評
到達目標	・書き手と読者の関係について理解できる。 ・語り手、人称、視点について把握できる。 ・校正技術が獲得できる。
授業時間外の学習	・自分が書いてみたいとおもう作品の傾向をつかんでおく。 ・書く内容について、ときどきは他の受講者と意見交換をしておいてほしい。
評価方法	授業への参加意欲（60%） 作品提出（40%） ※遠隔授業の場合も同様
テキスト	ナシ
参考書	ナシ
備考	

講義科目名称： 創作文芸演習（児童文学・絵本）Ⅱ

授業コード： 212003

英文科目名称： Creative Writing （Children's Books）2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	作品の完成度を上げるために必要なことを実践的に考える。 「創作文芸演習（児童文学・絵本）Ⅰ」で学んだことを踏まえ、作品のさらなる質の向上のためのテクニックを実践的に考察する。 なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。 ※遠隔授業となった場合、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で行う。
授業計画	1 回目 作品の諸設定について（1）（書くべきことは何か） 2 回目 作品の諸設定について（2）（キャラクターについて） 3 回目 ストーリーの展開と構成の配慮について（1）（全体の流れを捉える） 4 回目 ストーリーの展開と構成の配慮について（2）（冒頭に置くべきエピソード） 5 回目 ストーリーの展開と構成の配慮について（3）（伏線とその回収） 6 回目 ストーリーの展開と構成の配慮について（4）（エンディングのあり方） 7 回目 推敲での配慮について（1）（読者の目線とは） 8 回目 推敲での配慮について（2）（読みやすさと読みにくさ） 9 回目 企画検討（1）（プロット作成） 1 0 回目 企画検討（2）（プロットの練り上げ） 1 1 回目 執筆作業（1）（核となるストーリーの展開） 1 2 回目 執筆作業（2）（細部の調整） 1 3 回目 執筆作業（3）（構成の再構築） 1 4 回目 校正作業 1 5 回目 合評
到達目標	・構成を考えた作品作りができるようになる。 ・推敲のしかたがわかるようになる。
授業時間外の学習	ストーリーの強弱の付け方に留意しながら小説を数多く読んでみて欲しい。
評価方法	授業への参加意欲（60％） 作品提出（40％） ※遠隔授業の場合も同様
テキスト	ナシ
参考書	ナシ
備考	

講義科目名称： 日本芸能文化論

授業コード： 144004

英文科目名称： Japanese Entertainment Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大石泰夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	日本における芸能文化の世界は、日本人が教養として持つべきとされた文学芸術、歌舞音曲、遊戯など各種の才芸を根柢に、華道・茶道などの道のつく芸事、能・歌舞伎・舌耕芸などの伝統芸能や民俗芸能、さらには映画・現代演劇まで、広い裾野をもって伝わります。この授業では、特に「文学」からみた芸能という視点を大きな特色として提示しておきます。つまり、「文字以外の文学」として芸能を見るという視点です。具体的に言えば、『万葉集』などの上代文献は、文字に記された文学ではあるものの文字以前の口承としての要素や文字に記されながらも音声表現を重視していたと思われる要素を含んでいます。また、『平家物語』は、琵琶法師の伝承と深く関わります。世阿弥の謡曲は能の脚本であるし、近松門左衛門の作品は浄瑠璃や歌舞伎で演じられることを前提にして書かれたものです。そう考えれば、今日カラオケで気軽に謡われる歌も倉本聰や三谷幸喜などの脚本も、芸能であり文学であるとみなすことも可能となろう。そうした角度から芸能を考えてみたい。 授業の中では、視聴覚教材を使って芸能を実感しながら、すすめていきます。 なお、学習成果の指標はA-①です。 本授業は対面で行う予定だが、遠隔授業が実施される場合はオンデマンド型を利用する予定です。
授業計画	1 回目 講義ガイダンス 2 回目 芸能の発生 3 回目 芸能の空間 4 回目 演出の発生と展開 5 回目 舞と踊りと 6 回目 邪霊退散の呪能 7 回目 ことほぎの芸能 8 回目 伎楽と舞楽と散楽と 9 回目 田楽芸の展開 1 0 回目 幸若舞・猿楽能・歌舞伎 1 1 回目 人形の芸能 1 2 回目 舌耕芸の世界 1 3 回目 やつしの芸能 1 4 回目 悪態の芸能 1 5 回目 伝統芸能から民俗芸能へ
到達目標	日本の芸能文化のうち、民俗芸能・能・歌舞伎・人形浄瑠璃について、深く理解し、解説できる。
授業時間外の学習	テレビやYouTubeなどで、興味ある伝統芸能や民俗芸能を観るとともに、機会を作って、国立劇場や国立能楽堂、歌舞伎座などに出かけて実際の芸能を堪能する。
評価方法	授業時に実施する机上レポート（70%）、授業への参加意欲（30%）から総合的に評価する。遠隔授業に変更した場合にも評価方法に変更はない。
テキスト	レジュメを配付する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	身近なあらゆるところに芸能はあります。それを考えてみましょう。そして、周りの人と語ってみましょう。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大石泰夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	伝承文学とは、文学を伝承性の視点からとらえる場合の一つの方法である。したがって記載文芸および口承文芸にとどまらず、広範な伝承文化全体の中からとらえる必要がある。 私たちの生活文化を見直し、日本の民俗文化を理解するために、まずは記載文芸としての文学作品や口承文芸としての昔話、伝説、世間話などを対象として、その背後に存在する民俗文化を見出していく。さらには世界的に類似した口承、記載文芸との比較を通してより広い視野から理解し学んでいく。 なお、学習成果の指標は A-①（日本文化の特質を、多様な文化との比較・交流により、総合的（文学・言語・経済・歴史など）に説明できる）である。 本授業は対面で行う予定だが、遠隔授業が実施される場合はオンデマンド型を利用する予定である。
授業計画	1 回目 イン트로ダクション 伝承文学とは何か 2 回目 民間説話の三分類 3 回目 異類譚という「話型」 『古事記』『三輪山神婚説話』を読む 4 回目 異類女房譚という「話型」1 『日本霊異記』『狐女房』を読む 5 回目 異類女房譚という「話型」2 『近江国風土記逸文』『天人女房』を読む 6 回目 来訪者歓待譚 『常陸国風土記』『富士筑波』を読む 7 回目 異郷訪問譚 『日本書紀』『浦嶋子』を読む 8 回目 小さ子譚 『竹取物語』を読む 9 回目 貴種流離譚 『伊勢物語』を読む 1 0 回目 運命譚 『神道集』を読む 1 1 回目 霊験と富 『今昔物語集』『藁しべ長者』を読む 1 2 回目 隣の爺譚 『宇治拾遺物語』『瘤取り爺』を読む 1 3 回目 棄老説話・歌徳説話 『大和物語』を読む 1 4 回目 継子譚 御伽草子『鉢かづき』を読む 1 5 回目 まとめ
到達目標	・口承と書承との差異やその特質を説明でき、伝承文学に結実された民俗知や文化享受の方法を述べることができるようにする。 ・庶民文化への関心を高め、文献やフィールド調査を進めることができ、伝承文学の方法の理解を深め、研究のための技術やスキルを用い活かすことができるようにする。
授業時間外の学習	配布のプリント等を読んでおく。次回の単元についてテキストを読み、下調べしておく。
評価方法	授業時に実施する机上レポート（70%）、授業への参加意欲（30%） 遠隔授業に変更した場合にも評価方法に変更はない。
テキスト	小川直之・大石泰夫・服部比呂美・飯倉義之『伝承文学を学ぶ』清文堂出版, 2021. 12 ISBN 978-4-7924-1496-2
参考書	野村純一『昔話・伝説必携』學燈社、1991。 日本民話の会『決定版 日本の民話事典―読んで面白い ひいてわかり易い』講談社プラスアルファ文庫、2002。 日本民話の会（編集）日本口承文芸学会編『シリーズことばの世界』全4巻、三弥井書店、2009。 野村純一ほか『昔話・伝説を知る事典』アーツアンドクラフツ、2021。 日本口承文芸学会編『こえのことばの現在』三弥井書店、2017。

備考	國學院大學日本文学科の必修科目である「伝承文学概説Ⅰ」と同内容の講義を行う。
----	--

講義科目名称： 日本民俗学概説Ⅱ

授業コード： 243002

英文科目名称： Outline of Japanese Folklore 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大石泰夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	伝承文学とは、文学を伝承性の視点からとらえる場合の一つの方法である。したがって記載文芸および口承文芸にとどまらず、広範な伝承文化全体の中からとらえる必要がある。 私たちの生活文化を見直し、日本の民俗文化を理解するために、まずは記載文芸としての文学作品や口承文芸としての昔話、伝説、世間話などを対象として、その背後に存在する民俗文化を見出していく。さらには世界的に類似した口承、記載文芸との比較を通してより広い視野から理解し学んでいく。 後期では、基本的に前期の講義を下敷きとしてさらに深い理解を進めていく。 なお、学習成果の指標は A-①（日本文化の特質を、多様な文化との比較・交流により、総合的（文学・言語・経済・歴史など）に説明できる）である。 本授業は対面で行う予定だが、遠隔授業が実施される場合はオンデマンド型を利用する予定である。
授業計画	1 回目 インTRODクシヨン 伝承文学とは何か 2 回目 動物報恩譚 『日本霊異記』『蟹報恩』を読む 3 回目 動物昔話 赤本『猿蟹合戦』を読む 4 回目 小鳥前生譚 『俊頼髓脳』『時鳥』を読む 5 回目 昔話の移動と移入 『沙石集』『貧窮追出事』を読む 6 回目 和尚と小僧譚 『沙石集』『慳食者事』を読む 7 回目 おどけ者話 『古本説話集』『平中事』を読む 8 回目 愚か者話・愚か村話 狂言「岡太夫」を読む 9 回目 説話の伝播者 菅江真澄遊覧記『かすむこまがた』『琵琶に摺臼』を読む 1 0 回目 伝説の伝播 菅江真澄遊覧記『おののふるさと』を読む 1 1 回目 歌の伝承 『万葉集』『筑波嶺の歌垣』を読む 1 2 回目 絵解き・唱導文芸 『道成寺縁起』を読む 1 3 回目 説話と芸能 『鎌倉大草紙』『小栗判官』を読む 1 4 回目 説話とメディア・観光 『桃太郎乃話』を読む 1 5 回目 まとろ
到達目標	・口承と書承との差異やその特質を説明でき、伝承文学に結実された民俗知や文化享受の方法を述べることができるようにする。 ・庶民文化への関心を高め、文献やフィールド調査を進めることができ、伝承文学の方法の理解を深め、研究のための技術やスキルを用い活かすことができるようにする。
授業時間外の学習	配布のプリント等を読んでおく。次回の単元について、テキストを読み、下調べしておく。
評価方法	授業時に実施する机上レポート（70%）、授業への参加意欲（30%） 遠隔授業に変更した場合にも評価方法に変更はない。
テキスト	小川直之・大石泰夫・服部比呂美・飯倉義之『伝承文学を学ぶ』清文堂出版, 2021. 12 ISBN 978-4-7924-1496-2
参考書	野村純一『昔話・伝説必携』學燈社、1991。 日本民話の会『決定版 日本の民話事典―読んで面白い ひいてわかり易い』講談社プラスアルファ文庫、2002。 日本民話の会（編集）日本口承文芸学会編『シリーズことばの世界』全4巻、三弥井書店、2009。 野村純一ほか『昔話・伝説を知る事典』アーツアンドクラフツ、2021。

	日本口承文芸学会編『こえのことばの現在』三弥井書店、2017。
備考	國學院大學日本文学科の必修科目「伝承文学概説Ⅱ」と同様の講義を行う。

講義科目名称： 伝承文学講読 I

授業コード： 153004

英文科目名称： Traditional literature Readings 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	古典文学における伝承の問題を考えるために、平安時代の文学者である小野篁にまつわる事象を取り上げる。篁の和歌や漢詩は諸書に見られ、また彼に関わる話は『篁物語』をはじめとして『今昔物語集』等の説話にも散見される。あわせて、現代においても各地にその伝承を見出すことができる。古典文学の読解の基礎を養成しながら、日本民俗学を主たる方法として、篁伝承を追いかけたい。授業時にはレポートの発表も行ってもらう予定である。なお、学習成果の指標はA-①である。遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせを行い、事前に履修者に周知する。		
授業計画	1 回目 ガイダンスならびに小野篁概説 2 回目 漢詩一和漢朗詠集①― 3 回目 漢詩一和漢朗詠集②― 4 回目 和歌一古今和歌集①― 5 回目 和歌一古今和歌集②― 6 回目 中世説話一今昔物語集①― 7 回目 中世説話一今昔物語集②― 8 回目 篁物語① 9 回目 篁物語② 10 回目 篁物語③ 11 回目 現代に伝わる伝承一六道珍皇寺①― 12 回目 現代に伝わる伝承一六道珍皇寺②― 13 回目 レポート発表①―古典文学から― 14 回目 レポート発表②―現代に伝わる伝承から― 15 回目 まとめ		
到達目標	・民俗学の基礎を知り、伝承文学の本質を理解できる。 ・基礎的な古典文学の読解法を習得できる。		
授業時間外の学習	予定された範囲の語彙等を事前に調べ、内容を把握しておく。		
評価方法	小テスト（70％）平常点（30％）、遠隔授業に変更した場合はレポート（70％）平常点（30％）		
テキスト	教科書は使用せず、授業時に本文および関連資料を配付する。		
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。		
備考			

講義科目名称： 伝承文学講読Ⅱ

授業コード： 231003

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	古典文学における伝承の問題を考えるために、平安時代の文学者である小野篁にまつわる事象を取り上げる。篁の和歌や漢詩は諸書に見られ、また彼に関わる話は『篁物語』をはじめとして『今昔物語集』等の説話にも散見される。あわせて、現代においても各地にその伝承を見出すことができる。古典文学の読解の基礎を養成しながら、日本民俗学を主たる方法として、篁伝承を追いかけたい。授業時にはレポートの発表も行ってもらう予定である。なお、学習成果の指標はA-①である。遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせを行い、事前に履修者に周知する。		
授業計画	1 回目 ガイダンスならびに小野篁概説 2 回目 漢詩一本朝文粋ほか①― 3 回目 漢詩一本朝文粋ほか②― 4 回目 和歌一新古今和歌集ほか①― 5 回目 和歌一新古今和歌集ほか②― 6 回目 中世説話一江談抄ほか①― 7 回目 中世説話一江談抄ほか②― 8 回目 篁物語① 9 回目 篁物語② 10 回目 篁物語③ 11 回目 現代に伝わる伝承一千本ゑんま堂①― 12 回目 現代に伝わる伝承一千本ゑんま堂②― 13 回目 レポート発表①―古典文学から― 14 回目 レポート発表②―現代に伝わる伝承から― 15 回目 まとめ		
到達目標	・民俗学の基礎を知り、伝承文学の本質を理解できる。 ・基礎的な古典文学の読解法を習得できる。		
授業時間外の学習	予定された範囲の語彙等を事前に調べ、内容を把握しておく。		
評価方法	小テスト（70％）平常点（30％）、遠隔授業に変更した場合はレポート（70％）平常点（30％）		
テキスト	教科書は使用せず、授業時に本文および関連資料を配付する。		
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
内藤浩誉 講師			
テーマ：関心のある伝承事象を調べる			
添付ファイル			

授業の概要	この演習では、履修者各自が自分で関心のある「伝承」に関わりある題材を選び、それについて調べ、考えたことを報告してもらいます。授業の進め方としては、前半に講師からの解説、後半は履修者が選んだ題材（テーマ・課題）について調べ、考えたことを報告してもらいます。春セメスターでは、主に資料や事例収集の方法、レジュメ作成などについて身に着けることを目的にします。 特に次の学生には積極的な受講を期待します。 ・卒業論文で「神話・伝説・昔話などの口承文芸」「行事・祭礼」「民間信仰」etc.を取り上げる人 ・卒業後、進学・社会で究明したいことがある時に自分自身で調べる力を身に着けたい人 ※原則、対面式です。なお、非対面式での講義を数回実施する可能性があります。 ※この演習は誰でも受講可能です。関心があれば自由に参加してください。 ※通年で調査研究方法を身に着けるよう構成していますので、秋セメスターとセットで受講することが望ましいです。 ※基本的に卒業研究の補助として役立ててください。		
授業計画	01	ガイダンス（１） 授業の進め方	
	02	*課題：何を取り上げるか、次回までに考えておく ガイダンス（２） 「伝承」を核とする民俗学とは何か？	
	03	*発表順序を決める 研究方法について（１） 発表するための準備に必要な手順とは？ ・事例の探し方	
	04	研究方法について（２） 発表するための準備に必要な手順とは？ ・資料の探し方	
	05	研究方法について（３） 発表するための準備に必要な手順とは？ ・先行研究の探し方	
	06	研究方法について（４） 発表するための準備に必要な手順とは？ ・先行研究の探し方	
	07	研究方法について（５） 発表するための準備に必要な手順とは？ ・レジュメ作成について	
	08	学生発表（１） 担当者によるプレゼンテーション 質疑応答 （以下、同じ）	
	09	学生発表（２）	
	10	学生発表（３）	
	11	学生発表（４）	
	12	学生発表（５）	
	13	学生発表（６）	
	14	学生発表（７）	
	15	まとめ 総括 *課題：発表要旨（1000字程度）の提出	
到達目標	自分で調べたことや自身の考えを論理的に説明することができる。		

授業時間外の学習	取り上げる対象について調べる。 授業で配布されたプリント等の復習
評価方法	プレゼンテーション・発表報告 50% 授業参加（発言等） 35% 平常点（コメントペーパー） 15%
テキスト	なし。
参考書	『日本伝説大系』15巻・別巻2巻（みずうみ書房）
備考	第1回のガイダンスで具体的に説明します。受講生に人数によっては、計画に変更が生じることがあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
内藤浩誉 講師			
テーマ：関心のある伝承事象を調べる			
添付ファイル			

授業の概要	この演習では、履修者各自が自分で関心のある「伝承」に関わりある題材を選び、それについて調べ、考えたことを報告してもらいます。授業の進め方としては、前半に講師からの解説、後半は履修者が選んだ題材（テーマ・課題）について調べ、考えたことを報告してもらいます。秋セメスターでは、主に調査や考察の方法、論文作成などについて身に着けることを目的にします。 特に次の学生には積極的な受講を期待します。 ・卒業論文で「神話・伝説・昔話などの口承文芸」「行事・祭礼」「民間信仰」を取り上げる人 ・卒業後、進学・社会で究明したいことがある時に自分自身で調べる力を身に着けたい人 ※原則、対面式です。なお、非対面式での講義を数回実施する可能性があります。 ※この演習は誰でも受講可能です。関心があれば自由に参加してください。 ※通年で調査研究方法を身に着けるよう構成していますので、春セメスターとセットで受講することが望ましいです。 ※基本的に卒業研究の補助として役立ててください。		
授業計画	01	ガイダンス（１） 授業の進め方 ＊課題：何を取り上げるか、次回までに考えておく	
	02	ガイダンス（２） 「伝承学」の基本を理解する ＊発表の順番を決める	
	03	研究方法について（１） 発表するための準備に必要な手順とは？ ・フィールド調査について	
	04	研究方法について（２） 発表するための準備に必要な手順とは？ ・フィールド調査について	
	05	研究方法について（３） 発表するための準備に必要な手順とは？ ・考察の方法	
	06	研究方法について（４） 発表するための準備に必要な手順とは？ ・論文・レポートの書き方	
	07	研究方法について（５） 発表するための準備に必要な手順とは？ ・論文・レポートの書き方	
	08	学生発表（１） 担当者によるプレゼンテーション 質疑応答 （以下、同じ）	
	09	学生発表（２）	
	10	学生発表（３）	
	11	学生発表（４）	
	12	学生発表（５）	
	13	学生発表（６）	
	14	学生発表（７）	
	15	まとめ 総括 ＊課題：発表要旨（1000字程度）の提出	

到達目標	自分で調べたことや自身の考えをレポート（文章）にまとめることができる。
授業時間外の学習	取り上げる対象について調べる。 授業で配布されたプリント等の復習
評価方法	プレゼンテーション・発表報告 50% 授業参加（発言等） 35% 平常点（コメントペーパー） 15%
テキスト	なし。
参考書	各自の題材によって異なる。
備考	第1回のガイダンスで具体的に説明します。受講生に人数によっては、計画に変更が生じることがあります。

講義科目名称： 日本語・日本文学情報処理

授業コード： 215003

英文科目名称： Japanese Language and Information Processing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	638（パーソナルコンピュータ）を使い、調査・分類・研究・デザインなどをするにあたって、必要と思われる基礎的な知識と技術を実践的に学んでいく。 なお、PCの習熟度は個人個人でかなり差があると思うが、なにより慣れることが上達への一番の近道なので、提出課題などは積極的にこなしてもらいたい。 なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。 ※この授業はPCでの操作を前提とした内容となっている。したがってスマートフォンやタブレット端末のみでの受講は困難となる。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 Web検索の基本（Googleでの検索の仕方、Web辞書、OPACの利用方法など） 3 回目 PCの基礎知識（1）（ハードウェア、ソフトウェアについて） 4 回目 PCの基礎知識（2）（フォント、さまざまなデータ形式について） 5 回目 テキストエディタを使った正規表現のトレーニング（1）（正規表現とはなにか） 6 回目 テキストエディタを使った正規表現のトレーニング（2）（検索・置換） 7 回目 テキストエディタを使った正規表現のトレーニング（3）（便利な応用テクニック） 8 回目 データ作成の実践（1）（Wordの基本、Wordの設定変更、ショートカットキーの習得） 9 回目 データ作成の実践（2）（Wordの実践テクニック・入力など） 1 0 回目 データ作成の実践（3）（Wordの実践テクニック・検索、置換の方法など） 1 1 回目 データ作成の実践（4）（Excelの基本） 1 2 回目 データ作成の実践（5）（Excelの実践テクニック・関数を使う） 1 3 回目 印刷・レイアウトの実践（1）（DTPについて） 1 4 回目 印刷・レイアウトの実践（2）（印刷をコントロールする） 1 5 回目 印刷・レイアウトの実践（3）（誌面デザインについて）		
到達目標	・ショートカットキーの理解、基本ソフトの長所短所を理解する。 ・PCを使ったデータ作成の方法を理解する。 ・PCを使った作品の分析方法を知る。		
授業時間外の学習	PCは慣れが一番の上達方法なので、機会あるごとにPCを操作してみることを。		
評価方法	授業への参加意欲（60%） 課題の提出（40%） ※遠隔授業の場合も同様		
テキスト	ナシ		
参考書	ナシ		
備考			

講義科目名称： 漢文学概説 I

授業コード： 132001

英文科目名称： Outline of Chinese Classical Study 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
奈良場 勝 講師			
添付ファイル			

授業の概要	中国古典文学の歴史（周から漢まで）をたどりながら、特に日本文学に影響を与えた作品を取り上げ、その受容の実態を明らかにしていく。 中国の文学史（周から漢あたりまで）を捉えた上で、その時代の代表作品（『詩経』や諸子百家・『史記』など）を取り上げ、特に日本文学とのかかわりの深い作品を読み、その作品がどのように日本文学に影響を与えたかを明らかにする。作品を読むに当たり、漢和辞典・古語辞典を用意すること。 学習成果の指標はA-①である。 本授業は遠隔授業になった場合、②同時・双方向型学修（Google Meet）で実施し、時間割通りの時間で行う。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 訓読法の復習 3 回目 導入作品講読（『搜神記』など） 4 回目 中国文学史 I（先秦の文学） 5 回目 作品講読 I（『易経』）と『平家物語』巻七）作品の背景 6 回目 作品講読 I（『易経』）と『平家物語』巻七）作品の講読 7 回目 作品講読 II（『詩経』大序）と『古今集』真名序）作品の背景 8 回目 作品講読 II（『詩経』大序）と『古今集』真名序）作品の講読 9 回目 作品講読 III（『老子』と『徒然草』第 2 1 1 段）作品の背景 1 0 回目 作品講読 III（『老子』と『徒然草』第 2 1 1 段）作品の講読 1 1 回目 中国文学史 II（漢代の文学） 1 2 回目 作品講読 IV（『史記』屈原賈誼列伝と『源氏物語』須磨の巻）作品の背景 1 3 回目 作品講読 IV（『史記』屈原賈誼列伝と『源氏物語』須磨の巻）作品の講読 1 4 回目 まとめ I 中国文学史について（先秦～漢代） 1 5 回目 まとめ II 各作品について
到達目標	漢文入門で学んだ訓読の基礎を踏まえて、作品の訓読が正しくできる。また日本文学に中国文学の影響が大きかったことを作品を通して理解できる。さらに中国文学史（伝説時代から漢まで）の基本事項をまとめることができる。
授業時間外の学習	授業で扱う作品漢文作品については、事前に音読し、原文をノートに写し書き下し文を書いておく。不明な語句は漢和辞典を引いておく。
評価方法	期末レポート(100%)
テキスト	授業時に指示する。基本的にはプリントを配布する。漢文入門で使った国語便覧を随時活用する。
参考書	漢詩・漢文解釈講座 日本文学と漢詩文 昌平社
備考	連絡事項はクラスルームから発信する。

講義科目名称： 漢文学概説Ⅱ

授業コード： 232002

英文科目名称： Outline of Chinese Classical Study 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
奈良場 勝 講師			
添付ファイル			

授業の概要	中国古典文学の歴史（魏晉六朝から宋まで）をたどりながら、特に日本文学に影響を与えた作品を取り上げ、その受容の実態を明らかにする。 中国の文学史（魏晉六朝から宋あたりまで）を捉えた上で、その時代の代表作品（『文選』・陶淵明・杜甫・李白・白居易など）をとり上げ、特に日本文学とのかかわりの深い作品（『菅家文草』・『徒然草』や芭蕉・蕪村など）を読み、その作品がどのように日本文学に影響を与えたかを明らかにする。作品を読むに当たり、漢和辞典・古語辞典を用意すること。 学習成果の指標はA-①である。 本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修（Google Meet利用）で実施し、時間割の時間に行う。		
授業計画	1 回目	ガイダンス	
	2 回目	訓読の復習	
	3 回目	中国文学史Ⅰ（唐代）	
	4 回目	作品講読Ⅰ（杜甫「春望」と『おくのほそ道』平泉）作品の背景	
	5 回目	作品講読Ⅰ（杜甫「春望」と『おくのほそ道』平泉）作品の解釈	
	6 回目	作品講読Ⅱ（杜甫「石壕吏」と正岡子規）作品の背景	
	7 回目	作品講読Ⅲ（杜甫「石壕吏」と正岡子規）作品の解釈	
	8 回目	作品講読Ⅲ（李白「汪倫に贈る」と『土佐日記』）作品の背景	
	9 回目	作品講読Ⅲ（李白「汪倫に贈る」と『土佐日記』）作品の解釈	
	1 0 回目	作品講読Ⅳ（白居易「香炉峰…」と『枕草子』・『大鏡』・『菅家後集』）作品の背景	
	1 1 回目	作品講読Ⅳ（白居易「香炉峰…」と『枕草子』・『大鏡』・『菅家後集』）作品の解釈	
	1 2 回目	作品講読Ⅴ（井伏鱒二『厄除け詩集』と漢詩文）作品の背景	
	1 3 回目	作品講読Ⅴ（井伏鱒二『厄除け詩集』と漢詩文）作品の解釈	
	1 4 回目	中国文学史Ⅱ（宋代以降）	
	1 5 回目	まとめ	
到達目標	日本文学にどのように中国文学が影響を与えたか、特に『徒然草』や俳諧などの古典においてその状況を理解できる。また中国文学史（唐代から宋代まで）の基本項目を簡単にまとめることができる。		
授業時間外の学習	授業で扱う作品については、事前に音読し、原文をノートに写し、書き下し文を書いておく。不明な語句は漢和辞典などを引いておく。		
評価方法	期末レポート（100%）		
テキスト	授業時に指示する。基本的にはプリントを配布する。漢文入門で使用した国語便覧（P 2 6 8～2 6 9）を使用する。		
参考書	漢詩・漢文解釈講座 日本文学と漢詩文 昌平社		
備考			

講義科目名称： 漢文学講読

授業コード： 142002

英文科目名称： Chinese Classical Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
塚越義幸 教授			
添付ファイル			

授業の概要	1 年次で習得した漢文訓読の基礎を踏まえて、さらに本格的な漢文学作品を読み進める。本年度は、わが国でも古来よく読まれた『十八史略』の三国の部分を取り上げ、特に『三国志演義』の舞台になった後漢・三国時代を概観する。特に「赤壁の戦い」の場面は、中国ドラマを視聴する。		
	学習成果の指標はA-①・②である。		
	本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修（Google Meet）で実施し、時間割通りの時間で行う。		
授業計画	1 回目	ガイダンスーオンライン授業の注意事項と授業概要の説明	
	2 回目	『十八史略』について	
	3 回目	『三国志』について	
	4 回目	曹操の台頭ー訓読	
	5 回目	曹操の台頭ー解説と鑑賞	
	6 回目	官渡の戦いー訓読	
	7 回目	官渡の戦いー解説と鑑賞	
	8 回目	髀肉の嘆ー訓読	
	9 回目	髀肉の嘆ー解説と鑑賞	
	1 0 回目	三顧の礼ー訓読	
	1 1 回目	三顧の礼ー解説と鑑賞	
	1 2 回目	群儒舌戦ー訓読	
	1 3 回目	群儒舌戦ー解説と鑑賞	
	1 4 回目	赤壁の戦いー訓読	
	1 5 回目	赤壁の戦いー解説と鑑賞	
到達目標	漢文入門で学んだ訓読の基礎を踏まえて、作品の訓読が正しくできる。また中国の三国時代の歴史を概観できる。		
授業時間外の学習	授業で扱う箇所を、事前に音読し、原文をノートに写し、書き下し文も書いておく。不明な語句は漢和辞典を引いておく。授業を受けたあとは、扱った内容を簡潔にまとめておく。		
評価方法	期末レポート（100％）		
テキスト	十八史略で読む三国志 渡邊義浩 潮新書。漢文入門で使用した国語便覧も随時活用する。		
参考書	『新釈漢文大系十八史略上』 明治書院 『新書漢文大系④十八史略』 明治書院		
備考			

講義科目名称： 児童文学講読

授業コード： 114002

英文科目名称： Reading in Juvenile Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」を原稿から読み解き、作品の生成過程や文学における「編集」の意義などについて、実践的に考察する。 最初に、「銀河鉄道の夜」を原稿から読み解くために必要な知識を学習し、以降はその知識をもとにして、原稿を書き写しながら、複雑に入り組んだ原稿を解読し作品に内包された成立の秘密を探っていく。 なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 原稿解読のための基礎知識 2 回目 原稿第11葉についての詳解 三次稿「ケンタウル祭の夜」 (1) (ジョバンニの登場と町の描写) 3 回目 原稿第12葉についての詳解 三次稿「ケンタウル祭の夜」 (2) (らっこの上着) 4 回目 原稿第13葉・第15葉についての詳解 三次稿「ケンタウル祭の夜」 (3) (三次稿のジョバンニの家族) 5 回目 原稿第16葉・第17葉についての詳解 三次稿「ケンタウル祭の夜」 (4) (ジョバンニとカムパネルラの関係) 6 回目 原稿第18葉・第19葉についての詳解 三次稿「ケンタウル祭の夜」 (5) (ジョバンニとザネリの関係) 7 回目 原稿第20葉・第21葉・第22葉 についての詳解 三次稿「天気輪の柱」 (失われた原稿五枚に書かれていたもの) 8 回目 原稿第23葉・第24葉・第25葉についての詳解 三次稿「銀河ステーション」 (1) (銀河鉄道) 9 回目 原稿第26葉・第27葉・第28葉についての詳解 三次稿「銀河ステーション」 (2) (セロのような声) 1 0 回目 原稿第 1 葉・第 2 葉についての詳解 四次稿「午後の授業」 (1) (冒頭の推敲) 1 1 回目 原稿第 3 葉・第 4 葉についての詳解 四次稿「午後の授業」 (2) (ジョバンニとカムパネルラの関係) 1 2 回目 原稿第 8 葉・第 9 葉についての詳解 四次稿「家」 (1) (ジョバンニと母と父) 1 3 回目 原稿第10葉についての詳解 四次稿「家」 (2) (だれのことばなのか) 1 4 回目 三次稿から四次稿への推敲状態の確認 1 5 回目 まとめ		
到達目標	「銀河鉄道の夜」本文の成立過程を理解する。宮沢賢治の自筆原稿を自分で解読できるようになる。		
授業時間外の学習	原稿を解読するためには賢治の字のクセや、旧字・旧カナづかいへの慣れが必須である。そのためほぼ毎回原稿の書き写しの宿題を果たすので、それを必ず仕上げた上で授業に臨んでもらいたい。		
評価方法	授業への参加意欲 (60%) レポート (40%) ※遠隔授業の場合も同様		
テキスト	テキストとして、「銀河鉄道の夜」全原稿の写真図録である『宮沢賢治「銀河鉄道の夜」の原稿のすべて』を購入してもらう。第1回目の授業でテキスト購入の申込について説明（費用など）をおこなうので受講希望者は必ず出席すること。 ※初回から遠隔授業になった場合でもテキストは授業時に必須となるものなので、受講希望者はかならず初回ガイダンスに出席すること。		
参考書	ナシ		
備考			

講義科目名称： 書道 I

授業コード： 123002 123003 123004

英文科目名称： Syodou 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
佐伯良一講師 佐伯由江講師 坂本充正講師			
添付ファイル			

授業の概要	中学校・小学校教員及び日本人として、文字を正しく書くために必要な実技習得と基礎的な知識の学習を目的とする。文字を正しく書くために必要な実技の習得と知識の学習を達成するために、漢字における三体千字文（楷書・行書・草書）を九宮格により科学的に学習する。 なお、学習成果の指標は、A-①である。 『本授業は対面授業を中心に実施するが、遠隔となった場合は、課題型学修（Google Classroomを利用）を使用して実施する。』
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 ひらがなを学ぶ いろは 4 8 文字 3 回目 カタカナを学ぶ イロハ 4 8 文字 4 回目 天地玄黄宇宙洪荒日月盈昃辰宿列張の 4 8 文字 5 回目 寒來暑往秋収冬藏閏餘成歳律呂調陽の 4 8 文字 6 回目 雲騰致雨露結為霜金生麗水玉出崑岡の 4 8 文字 7 回目 劒號巨闕珠稱夜光菓珍李菜重芥薑の 4 8 文字 8 回目 常用漢字の筆順や部首名の学習 9 回目 海鹹河淡鱗潛羽翔龍師火帝鳥官人皇の 4 8 文字 1 0 回目 始制文字乃服衣裝推位讓國有虞陶唐の 4 8 文字 1 1 回目 弔民伐罪周發殷湯～遐邇壹體率賓歸王の 9 6 文字 1 2 回目 女慕貞潔男效才良～信使可覆器欲難量の 9 6 文字 1 3 回目 墨悲絲染詩讀羔羊～空谷傳聲虛堂習聽の 9 6 文字 1 4 回目 禍因惡積福縁善慶～孝當竭力忠則盡命の 9 6 文字 1 5 回目 臨深履薄夙興溫清～容止若思言辭安定の 9 6 文字
到達目標	テキストを通して漢字の歴史や書の学び方を知る。 墨をすり小筆を使って、半紙に手本をよく見て、正しく美しい文字を書けるようにする。 筆順や部首等の知識を高める。
授業時間外の学習	授業時にできなかった課題の作成。漢字等の基礎知識を覚える。 検定試験希望者は授業外にて実技・理論を学習する。
評価方法	毎時間の課題作品の清書（60%） 宿題・レポート（20%） 出席（授業への参加意欲 20%） 個人の努力を評価する。
テキスト	学習テキストは適宜配付する。
参考書	
備考	

講義科目名称： 書道Ⅱ

授業コード： 223002 223003 223004

英文科目名称： Syodou 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
佐伯良一講師 佐伯由江講師 坂本充正講師			
添付ファイル			

授業の概要	中学校・小学校教員及び日本人として、文字を正しく書くために必要な実技習得と基礎的な知識の学習を目的とする。文字を正しく書くために必要な、実技習得と知識の学習を達成する。そのために、歴史的な日本の文字の流れを学習し、カタカナ・ひらがな・平安古筆のかなの実習をする。併せて、色紙・短冊などを使った作品制作をし、鑑賞にまで発展させる。 なお、学習成果の指標は、A-①である。 『本授業は対面授業を中心に実施するが、遠隔となった場合は、課題型学修（Google Classroomを利用）を使用して実施する。』		
授業計画	1 回目 日本の書の流れ 2 回目 古体かなの学習 いろは 4 8 文字 3 回目 古体かなの学習 いろは～らむう 4 回目 古体かなの学習 ゐのお～もせす 5 回目 古体かなの連綿の学習 とき・たつ・そら～よせ・きす・かせの 6 回目 古体かなの連綿の学習 とし・けり・きす～くれたけ・あれに 7 回目 古筆の臨書 高野切古今倭歌集巻第一～かせやとくらむ 8 回目 古筆の臨書 たいしらす～よみひとしらす 9 回目 古筆の臨書 ころろさしふかく～ふむやのやすひて 1 0 回目 古筆の臨書 はるのひの～なかすもあるかな 1 1 回目 古筆の臨書 寛平のおほむとき～わかなつみてむ 1 2 回目 古筆の臨書 仁和のみかとの～いろまさりける 1 3 回目 年賀状の書き方 1 4 回目 色紙・短冊の使い方の学習 1 5 回目 色紙・短冊を使った作品制作		
到達目標	古筆を読み小筆を使い、平安時代のかな文字を書けるようにする。 年賀状を体裁よく宛名書きをし、通信面にはそれぞれの個性を生かした書表現ができるようにする。 授業を通して、日本の書の歴史を理解する。		
授業時間外の学習	授業時にできなかった課題の作成。 テキストの内容をよく理解し、レポートの作成をする。		
評価方法	毎時間の課題作品の清書（60%）宿題・レポート（20%）出席（授業への参加意欲 2 0 %） 個人の努力を評価する。		
テキスト	学習テキストは適宜配付する。		
参考書			
備考			

講義科目名称： コミュニケーション入門

授業コード：

英文科目名称： Introduction to Communication

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	現代社会において「コミュニケーション能力が重要!」と、様々な場所で喧伝されています。しかし、そう主張している人たちがコミュニケーションをきちんと理解しているかという、首をかしげたくなることが多くあるのではないのでしょうか。例えば、皆さんも「コミュニケーションってなに?」と小学生に問われたときに、きちんとわかりやすく答えられる自信はありますか? コミュニケーションとは何か、実はこれを考えると簡単に答えを出すことが難しいことに気づくはずです。この講義では「コミュニケーション」について、様々な角度からアプローチをして、コミュニケーションを通した社会へのまなざし、という視点を獲得することを目標とします。コミュニケーションを理解するために、座学のみならず、グループワークやプレゼンも行います。コミュニケーションが得意な人、苦手な人、どちらの人にも有利ということはありません。コミュニケーションに興味を持って参加してもらいたいと思います。積極的に参加することも「コミュニケーション」であり、重要な要素です。社会に出る前に、コミュニケーションについて一緒に学びましょう。なお、遠隔授業に切り替える場合は、ClassroomとMeetを利用した遠隔授業を予定していますが、その時の状況で変更します(授業初日にClassroomへの登録を行います)。 学習成果の指標：A-① A-③
授業計画	1回目 ガイダンス 2回目 コミュニケーションを自覚する① アイスブレイクの効用 3回目 コミュニケーションを自覚する② コミュニケーションゲームをやってみる 4回目 コミュニケーションを考える① そもそもコミュニケーションってなに? 5回目 コミュニケーションを考える② 言語によるコミュニケーション 6回目 コミュニケーションを考える③ 非言語によるコミュニケーション 7回目 コミュニケーションを考える④ ビジネスでのコミュニケーション 8回目 自分自身をプロデュースする① エントリーシート(履歴書)を作ってみよう 9回目 自分自身をプロデュースする② エントリーシート(履歴書)を批判的に見よう 10回目 自分自身をプロデュースする③ 面接をやってみよう 11回目 自分自身をプロデュースする④ 面接官になろう 12回目 他者と合意形成をする① グループディスカッション 13回目 他者と合意形成をする② ブレインストーミング 14回目 情報社会におけるコミュニケーションの課題① コミュニケーションツールの利用 15回目 情報社会におけるコミュニケーションの課題② ソーシャルメディアの利用
到達目標	コミュニケーションをあらゆる角度から理解するため「主体的なコミュニケーションへの態度の獲得」「コミュニケーションへの客観性の獲得」を目標とします。積極的にコミュニケーションを味わって、色々な視点を獲得していきましょう。
授業時間外の学習	予習は、次回の授業にまつわる内容を考えていただきます。授業内で次回までに何を考えて来て欲しいかを課題を提示しますので、それにしたがって考えてきてください。復習はノートを見返したり、授業内で出された課題などを中心に行いましょう。
評価方法	授業参加度：50% (授業内演習(グループワーク等)の態度)、授業内外の課題(レポートを含む)：50%で評価します。
テキスト	プロジェクト等による資料提示がありますので、ノートに写すなどしてください。

参考書	授業の中で適宜指示します。
備考	適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。 授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。

講義科目名称： 日本語概説 I

授業コード： 141003

英文科目名称： Outline of Japanese Study 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	この科目は、日本語研究の成果を踏まえて、国語すなわち日本語がどのような言語であるかを概説することを目的とします。 方言と共通語、発音に関する事項を中心に概説しますが、その歴史についても理解を深めていきます。日本語に関する問題に対して実証的に考察するための基本的な知識を修得することも心掛けていきます。 教科書に加えて、適宜プリントを配布します。 学習成果の指標はA-②・③です。 遠隔授業を実施する場合は、課題型学修（Google Classroomを利用）で実施します。		
授業計画	1 回目	日本語・国語 世界の言語の中の日本語の位置	
	2 回目	標準語・共通語 用語の解説と歴史的経緯	
	3 回目	方言 1 東西対立・方言区画	
	4 回目	方言 2 周囲論	
	5 回目	位相 性・社会的役割による言語	
	6 回目	音声と音韻 1 概念の解説・音声と音声器官	
	7 回目	音声と音韻 2 表記の仕方・IPA	
	8 回目	音声 1・音の分類 母音・子音・半母音	
	9 回目	音声 2・音素分析 音素と異音・ミニマルペア	
	1 0 回目	音声 3 音節・モーラ	
	1 1 回目	アクセント 1 アクセントの種類・型	
	1 2 回目	アクセント 2 日本語のアクセント体系	
	1 3 回目	音韻の歴史 1 上代語の音韻・上代特殊仮名遣い	
	1 4 回目	音韻の歴史 2 母音の変遷	
	1 5 回目	まとめ 全体の振り返り	
到達目標	(1) 日本語の方言・標準語という概念、音声に関することについて基礎的な事項を説明できる。 (2) 日本語の音声に関する歴史などについて基礎的な事項を説明できる。 (3) TV・新聞などのメディアにおける言語表現に関心を持ちつつ、自己の言語を内省することにより、言語表現を向上させることができる。		
授業時間外の学習	各回の授業前に教科書をあらかじめ読んでおくように努めてください。難しい用語などの意味が、授業での解説で理解しやすくなります。また授業計画に示したキーワードをインターネットなどで調べておくと日本語への関心が深まります。		
評価方法	筆記試験（60%）、コメントペーパー（30%）、平常点（10%）で評価します。遠隔授業の場合はレポート（100%）で評価します。		
テキスト	和田利政、金田弘著『国語要説（五訂版）』（大日本図書）		
参考書	近藤泰弘・月本雅幸・杉浦克己（2005）『日本語の歴史』放送大学教育振興会		

備考	「Google Classroom」のストリーム（お知らせ）で連絡することもあるので注意してください。
----	---

講義科目名称： 社会経済学Ⅰ

授業コード： 114003

英文科目名称： The Theory of Social Economy Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	商品、貨幣、価格、賃金、利潤、利子など毎日接しているながら実はブラックボックスのようにになっているものに疑問を持つことから始めたいと思います。講義の性格上、どうしても抽象性が高くはなりますが、なるべく主として日本経済に関わる実例を引きながらイメージしやすいものにしたい。学習成果の指標はA-①です。尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。		
授業計画	1 回目 経済学を学ぶ意味 2 回目 経済学の対象と方法 3 回目 経済学の効用 4 回目 市場メカニズム 1 商品生産と売買。社会的分業と商品交換 5 回目 市場メカニズム 2 需要供給と価格 6 回目 市場メカニズム 3 外部経済と外部不経済 7 回目 貨幣の機能 1 価値尺度機能と流通手段機能 8 回目 貨幣の機能 2 築造貨幣機能と支払い手段機能、国際通貨について 9 回目 インフレーションと物価上昇 1 0 回目 貿易収支、経常収支と外国為替 1 1 回目 企業と利潤 1 企業形態と株式会社 1 2 回目 企業と利潤 2 資本とは何か。利潤極大化の仕組み 1 3 回目 企業と利潤 3 賃金の本質と形態 1 4 回目 企業組織と活動 所有と経営の分離。銀行と企業 1 5 回目 要点の確認		
到達目標	この講座は、我々が生活する資本主義社会の経済法則を明らかにし、それに基づくこの社会の経済構造と現象を理解することを目的としています。		
授業時間外の学習	授業前週時にその都度、指示します。テキストに予め目を通してくること。疑問点、不明点を明らかにして授業に臨んでほしい。日常においても生活者の視点で、日々の情報に接しておくこと。		
評価方法	平常点60%、授業への意欲40%。オンライン移行時には、授業態度40%、授業時小テスト60%で評価します。		
テキスト	その都度プリントを配布する。		
参考書	その都度、指示する。		
備考			

講義科目名称： 日本語表現法

授業コード： 144006

英文科目名称： Method of Expression in Japanese language

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	現代日本語の敬語は、場面や聞き手の違いによって尊敬語を使用したり、反対に謙譲語を使用したりしなければなりません。 こうした敬語のシステムは、敬語にかなり自信のある人でもその運用はむずかしいものです。 この科目では、現代敬語の分類と運用上の問題点を取り上げ、種々の場面における敬語運用のしかたをマスターすることによって、 社会人として避けて通れない日本語表現力のひとつとしての敬語表現を身につけるようにします。 学習成果の指標はA-②・③です。 遠隔授業で実施する場合は課題型学修（Google Classroomを使用）で行います。		
授業計画	1 回目	ガイダンス 日本語検定試験の過去問1、2、3級にチャレンジ	
	2 回目	待遇表現について 待遇表現とは何か	
	3 回目	日本語の敬語の性格 相対敬語と絶対敬語	
	4 回目	世界の敬語 敬語のある言語とない言語	
	5 回目	有敬語方言と無敬語方言 敬語のない方言と敬意表現・（小テスト）尊敬語	
	6 回目	敬語の働き 1 尊敬語と敬意の有無 文化庁「敬語の指針」	
	7 回目	敬語の働き 2 敬語とポライトネス	
	8 回目	敬語の分類 1 3 分類と 5 分類	
	9 回目	敬語の分類 2 謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱ（丁寧語）・（小テスト）謙譲語	
	10 回目	敬語の分類 3 丁寧語と美化語	
	11 回目	敬語の形式 付加形式・添加形式	
	12 回目	誤りやすい敬語 1 二重敬語・謙譲語と尊敬語の混同	
	13 回目	誤りやすい敬語 2 過剰な謙譲表現	
	14 回目	誤りやすい敬語 3 問題とされる敬語	
	15 回目	理解度の確認 確認テスト（授業の内容・敬語の運用）	
到達目標	（１）現代敬語の誤用の種類と原因を理解し、正しい敬語の使い方ができる。 （２）敬語の理論的な分類を理解し、説明できる。		
授業時間外の学習	雑誌やインターネット、また駅の掲示板等にみられる敬語表現をよく観察する習慣を身につけてください。尊敬語、謙譲語、丁寧語を実際に使うことができるように、自学してください。		
評価方法	筆記試験（60％）と授業途中で行う小テスト（30％）、学習の意欲度（10％）で評価します。学期末に運用面と授業内容の理解度を計る筆記試験を行います。遠隔授業の場合はレポート（100％）で評価します。		
テキスト	使用しません。		
参考書	菊池康人『敬語再入門』（丸善ライブラリー） 半谷進彦『デキる人の敬語の正しい使い方』（明日香出版） 文化庁文化審議会『敬語の指針』（文化庁） 文化庁『国語に関する世論調査』（平成7年～・文化庁）		
備考			

講義科目名称： 専門ゼミⅠ

授業コード： 133007

英文科目名称： Basic Seminar of Economy 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド必修
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	私たちが暮らす社会では実に様々な問題が起きている。労働、貧困と格差、虐待やいじめ、原子力とエネルギー、福祉や医療、食糧など、現代社会を知るには、たくさんの事を学ぶ必要がある。その中で普通の人々が働き、生活していくことに関わる諸問題をそのおおもとの基礎を確認しながら見ていく。今の日本社会で暮らすことに関わる諸問題を、毎回データを確認しながら理解していく手法をとる。毎回、テーマに関連した記事、データなどを収集して、各自、報告する。学習成果の指標はA-①です。尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。	
授業計画	1 回目	1990年代以降の雇用状況の変化
	2 回目	若者の雇用問題の発生
	3 回目	生活を支える諸条件
	4 回目	女性の労働 男女平等
	5 回目	多様化する家族のかたち
	6 回目	女性と男性のライフコース
	7 回目	市民社会と資本主義
	8 回目	新自由主義と競争原理
	9 回目	社会福祉国家を作った力
	1 0 回目	経済のグローバリゼーション
	1 1 回目	グローバル化の国内経済への影響
	1 2 回目	ネーションとナショナリズムの近代性
	1 3 回目	ナショナリズムとどう付き合うか
	1 4 回目	メディアの読み方・付き合い方
	1 5 回目	テーマ別の発表 まとめ
到達目標	幅広くアンテナを張り、ゼミ論文として取り組むべきテーマを見つけ、資料収集に取り掛かれるようにする。	
授業時間外の学習	授業時の前の週に参考資料を配布するので、必ず読み、関連資料等をリサーチしていなければならない。	
評価方法	平常点60％ 授業への意欲40％ オンライン移行の場合は、試験は実施せず、授業態度 3 0％、課題提出 4 0％、授業時小テスト 3 0％で評価する。	
テキスト	プリントを配布する。	
参考書	その都度、指示する。	
備考		

講義科目名称： 専門ゼミ I

授業コード： 131005

英文科目名称： Basic Seminar 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	卒業論文を作成することを目標に、テーマの探し方、先行研究の探し方、先行研究の要約の仕方、論文の書き方を学びます。春セメスターでは、自分がテーマにしたいものに近い先行研究を持参し、参加者と共に読み、担当者には要約をしてもらいます。春学期中に卒論のテーマを決め、夏休みには調査に入ることを目標にします。テーマを見つけ、調べる力を養います。 演習スケジュールは状況により変更される場合があります。その際は演習内でアナウンスします。学習成果の指標はA-②です。 遠隔授業を実施する場合は課題型学修（Google Classroomを利用）で実施します。
授業計画	1 回目 ガイダンス 授業の説明とテキストの説明。教員が持参した論文の輪読。 2 回目 ①担当者の文献輪読 教員が持参した論文の要約発表/①担当者の持ってきた論文の輪読 3 回目 前週の担当者の文献要約発表/②担当者の文献輪読 4 回目 前週の担当者の文献要約発表/③担当者の文献輪読 5 回目 前週の担当者の文献要約発表/④担当者の文献輪読 6 回目 前週の担当者の文献要約発表/⑤担当者の文献輪読 7 回目 前週の担当者の文献要約発表/⑥担当者の文献輪読 8 回目 前週の担当者の文献要約発表/⑦担当者の文献輪読 9 回目 前週の担当者の文献要約発表/⑧担当者の文献輪読 10回目 前週の担当者の文献要約発表/⑨担当者の文献輪読 11回目 前週の担当者の文献要約発表/⑩担当者の文献輪読 12回目 学術論文の書き方①：学術論文とは何か 13回目 学術論文の書き方②：他者の考えや言葉を盗まないために 14回目 学術論文の書き方③：学術論文の構成（章・節・項） 15回目 まとめ（予備日）
到達目標	（1）卒論のテーマを探すことができる。 （2）先行研究論文を正確に読むことができる。 （3）先行研究論文を適切に要約することができる。
授業時間外の学習	卒論制作を行いますので、逐一報告し、自身の進度に従って作業を進めてください。
評価方法	発表内容（50%）と授業への意欲（50%）で評価します。遠隔授業の場合はレポート（100%）で評価します。
テキスト	こちらで用意します。
参考書	佐渡島紗織・吉野亜矢子（2008）『これから研究を書くひとのためのガイドブックーライティングの挑戦15週間』ひつじ書房 その他は適宜授業内で示します。
備考	

講義科目名称： 専門ゼミⅠ

授業コード： 133009

英文科目名称： Basic Seminar 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド必修
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	私たちは経済生活を送る上で、年金、保険、金融、税金、不動産、相続など、身近な経済的な問題に遭遇する。顧客の人生設計を踏まえ、これらの問題に専門的知識を使ってアドバイスするのが、ファイナンシャルプランナー（F P）の業務である。F Pの専門的知識というのは、何も専門家だけに必要とされるものではなく、家計をやり繰りする一般の社会人でも必要とされるものである。そこで、ここではF Pとしての基礎知識を学ぶ。また、F Pの基礎知識を深掘りして、自分でテーマを絞り、情報を収集し、自分で検討・分析し、論文の作成や発表する能力を養う。 学習成果の指標は、A―②である。 遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせて実施する。
授業計画	1 回目 F P と倫理～ライフプラン策定上の資金計画（オリエンテーション） 2 回目 社会保険～公的年金の給付 3 回目 企業年金等～カード 4 回目 保険の基本～生命保険 5 回目 損害保険～第三分野の保険 6 回目 金融・経済の基本～セーフティーネットと関連法規 7 回目 貯蓄型金融商品～債権 8 回目 株式～投資信託 9 回目 外貨建て金融商品～ポートフォリオとデリバティブ取引 1 0 回目 所得税の基本～課税標準の計算 1 1 回目 所得控除～個人住民税、個人事業税 1 2 回目 不動産の基本～不動産に関する法令 1 3 回目 不動産の税金～不動産の有効活用 1 4 回目 相続の基本～相続税 1 5 回目 贈与税～財産の評価（まとめ）
到達目標	まず、F P 3 級程度の専門的知識を身に付ける。次に、F Pの基礎知識を深掘りして、自分でテーマを設定し、情報を収集分析し、課題の解決に向けて学習を進める能力を養う。さらにそれらを論文にまとめ、プレゼンする能力を身に付ける。
授業時間外の学習	9 月実施のF P 試験 3 級合格を努力目標とする。
評価方法	平常点（小テスト）5 0 %、論文（発表を含む）5 0 % 遠隔授業になった場合、レポート1 0 0 %
テキスト	滝澤ななみ『F P の教科書 3 級』T A C 出版、2025年、1500円 滝澤ななみ『F P の問題集 3 級』T A C 出版、2025年、1500円
参考書	随時、指示する。
備考	このゼミは、進路を就職希望とする学生を主な対象としており、「専門ゼミⅠ」「専門ゼミⅡ」を継続で履修することを推奨する。学習分野を役割分担し学習会形式で、学生自身が中心となってゼミを進め、教員はできる限り助言するにとどめる。 9 月実施のF P 試験 3 級合格を努力目標としているため、受験料8000円(学科4000円・4000円)が発生する。

講義科目名称： 専門ゼミ I

授業コード： 142003

英文科目名称： Basic Seminar 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド必修
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	テーマ「情報とコミュニケーション」 コンピュータやインターネットが世界的に普及して、世の中は情報社会になりました。情報社会の中で生きていくためには、情報と向き合って、多角的な観点から科学的に批判する能力を持たなくてはなりません。難しく聞こえるかもしれませんが、普段の生活の中の情報に対して、色々考えてみて欲しいのです。例えば、最近様々なコミュニケーションツールが登場していますが、それらが我々の生活にどのような変化をもたらしているのでしょうか。現状をありのまま受け入れるということは、何かを見過ごすことにもつながります。趣味のような身近なことから世界情勢にいたることまで、もはや情報に無頓着ではられません。ゼミは学生の皆さんが自身の関心にもとづいて主体的に学ぶところです。皆さんが中心となって問題や関心と向き合ってみてください。 対面授業から遠隔授業に切り替える状況になった場合は、ClassroomとMeetを利用した遠隔授業を予定していますが、その時の状況で変更します（授業初日にClassroomへの登録を行います）。 学習成果の指標：A-②
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 主体的に学ぶための準備 3 回目 情報社会で躍進をした企業（GAFA）の現状と将来性 4 回目 インターネットサービスにおけるダークパターンの現状と問題点 5 回目 ソーシャルメディアの変遷と現状 6 回目 コミュニケーションツールにおけるコミュニケーションのあり方ー文字、画像、動画における相違ー 7 回目 インターネットにおける炎上の変遷と現状 8 回目 情報社会における著作権のあり方ー音楽、映像、マンガー 9 回目 情報社会における個人情報の取り扱いーGDPRを中心にー 1 0 回目 ARとVRおよびMRの相違点と将来性 1 1 回目 DX（デジタル・トランスフォーメーション）の現状と将来性 1 2 回目 ディープラーニングの概要と現状 1 3 回目 A. I. の現状と将来性 1 4 回目 研究のためのテーマ設定 1 5 回目 設定したテーマの発表（プレゼンテーション）
到達目標	学生として卒業までに養ってほしい部分を中心に「情報やコミュニケーションに関する問題や関心に自覚的になる」「主体性を持って行動し、仲間と協力しながらテーマを選択する」「情報やコミュニケーションに関するテーマについて議論をし、批判的な視点を養う」ことを到達目標とします。仲間と一緒に一歩ずつ成長していきましょう。
授業時間外の学習	テーマが「情報とコミュニケーション」なので、コンピュータに強く関心を持ってください。今まで「パソコンは授業で使うだけ」「スマホのコミュニケーションはLINEとInstagramだけ」という人も、これをきっかけにして、さまざまな情報のツールを使うことを日々の生活でチャレンジしてください。コンピュータが得意かどうかは特に問いません。
評価方法	ゼミ内における課題や発表で70%、ゼミ内の活動を活発に行ったかで30%の評価をします。

	遠隔授業においても、Meet等による発表を行う予定ですので、評価方法は変わりません。
テキスト	資料をプロジェクタで提示したり、場合によってプリントの配布を行います。
参考書	授業の中で適宜指示します。
備考	「専門ゼミⅠ」は「専門ゼミⅡ」に続くことを前提に計画を立てています。 また、コンピュータを使うことを前提としますので、コンピュータが苦手でもいいですが、嫌いな人は大変かもしれません。みんなで協力し合いながら、ゼミを進めていく予定ですので、積極的にゼミに関わりを持って貰えればと思います。 本授業は、遠隔授業時において、ClassroomやSlackなど情報系のツールも積極的に使っていきます。

講義科目名称： 専門ゼミ I

授業コード： 133008

英文科目名称： Basic Seminar 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド必修
担当教員			
田村浩一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	アメリカやイギリス等の英語圏の文化や歴史や社会について、できる限り多方面の英文を読み、理解を深める。同時に、特に探求したいと思える分野・領域を見つけて、秋セメスターでの論文作成に繋げる。合わせて、英語力、特に英文読解力を身につけることを目指す。 なお、学習成果の指標はA-①である。 遠隔授業が必要な場合には、同時双方型学修（Google Meetを利用）で実施する。		
授業計画	1 回目	イントロダクション 個々の学生がどのような興味や関心を持っているかに応じて、これ以降の学習内容を考えたい。 学生に強い意向があれば、それに即した教材を使う場合もある。	
	2 回目	英語の歴史についての読解 1	
	3 回目	英語の歴史についての読解 2	
	4 回目	イギリスの歴史・社会についての読解 1	
	5 回目	イギリスの歴史・社会についての読解 2	
	6 回目	アメリカの歴史・社会についての読解 1	
	7 回目	アメリカの歴史・社会についての読解 2	
	8 回目	その他英語圏の事情についての読解	
	9 回目	イギリスの文化についての読解 1	
	1 0 回目	イギリスの文化についての読解 2	
	1 1 回目	アメリカの文化についての読解 1	
	1 2 回目	アメリカの文化についての読解 2	
	1 3 回目	英米のスポーツについての読解	
	1 4 回目	英米の芸術についての読解	
	1 5 回目	論文のテーマの探求と方向性の決定	
到達目標	様々な内容の英文の読解を通して、自分の研究テーマを見つける。また、研究に必要な、英語で書かれた資料・文献の読解力を向上させる。		
授業時間外の学習	授業前に英文をしっかりと読み込むことが大切である。また、論文のテーマを見つけるために、様々な領域の問題に関心を広げて、読書をしたり、新聞や雑誌等に目を向けることが大事である。		
評価方法	授業への参加度：50パーセント 課題：50パーセント 遠隔授業に移行した場合にも、評価方法に変更はない。		
テキスト	授業時に指示する。		
参考書	辞書をいつでも使えるように携帯する。英和辞典だけでなく、時には英英辞典を併用するとよい。		
備考	個々の授業内容や進度は、学生の関心の方向や、英語読解力のレベルに応じて変更する場合もある。		

講義科目名称： 専門ゼミⅡ

授業コード： 233012

英文科目名称： Basic Seminar of Economy 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド必修
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本社会は、かつてないスピードで変わりつつあります。社会システムや企業の在り方も変化し、私たちの生活もその渦に巻き込まれていかざるを得ません。本ゼミナールでは、日本経済の変動が社会の構造的な転換と重なっていることを意識しながら、この変化を象徴するトピカルなテーマを掘り下げていくという方法をとっていきます。本年はAIやIoTの進展を踏まえたシェアリング経済にスポットを当ててみたいと思います。最終的にゼミ論文の執筆をもって各自、テーマを深めていくことを目標とします。 日本経済の転機を示す、幾つかのテーマを検討していきますが、統計など資料をできるだけ活用していきます。資料や統計、参考文献など提示しますが、各自で独自に問題を掘り下げていく努力が必要です。それぞれの興味のあるテーマを調べ、分析し、説得力あるプレゼンテーションが出来るように指導します。学習成果の指標はA-②です。 尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。
授業計画	1 回目 デジタル経済の進展と社会生活の変化 2 回目 AI、ロボット化の進展と雇用の未来 3 回目 企業の雇用制度の変化と失業の恐れ 4 回目 デジタル経済の進展とシェアリング 5 回目 シェアリング経済のメカニズム 6 回目 シェアリング経済のビジネスモデル 海外の場合 7 回目 日本におけるシェアリング経済のビジネスモデル 8 回目 シェアリング経済の規模と効果 9 回目 シェアリングの問題点 1 0 回目 シェアリングと消費者意識の変化 1 1 回目 テクノロジーの進展と資本主義の成熟化 1 2 回目 格差社会とワーキングプア 1 3 回目 諸外国の社会制度改革、ベーシック・インカム 1 4 回目 プレゼンテーション ゼミ論発表 1 5 回目 ゼミ論発表、討論
到達目標	ゼミ論文を作成し、発表をすることを目標とする。
授業時間外の学習	授業時以前に資料を配布（直接配布またはオンライン配布）するので、必ず目を通して頂くこと。ゼミ論作成に向けて、多くの資料収集と読み込みが必要になる。
評価方法	平常点60%、ゼミ論文40%。オンライン移行の場合は、授業態度30%、提出論文評価70%で評価します。
テキスト	プリント配布、その他、その都度、指示する。
参考書	
備考	

講義科目名称： 専門ゼミⅡ

授業コード： 231004

英文科目名称： Basic Seminar 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	卒業論文を作成することを目標に、テーマの探し方、先行研究の探し方、先行研究の要約の仕方、論文の書き方を学びます。秋セメスターでは、論文を作成していきます。夏休みに行った調査をもとに考察、立論をしていきます。秋学期の初期に論文の書き方をレクチャーします。その後に調査に基づき、作成をしていきます。スモールステップでその時点の経過を発表して頂きます。調査に基づき考察し、立論する力を養います。 演習スケジュールは状況により変更される場合があります。その際は演習内でアナウンスします。学習成果の指標はA-②です。 遠隔授業を実施する場合は課題型学修（Google Classroomを利用）で実施します。
授業計画	1 回目 ガイダンス・卒論進捗の報告 2 回目 学術論文の書き方④：立論の仕方/学生発表 1：進捗報告 3 回目 学術論文の書き方⑤：構成の仕方/学生発表 2：進捗報告 4 回目 学術論文の書き方⑥：引用の仕方/学生発表 3：進捗報告 5 回目 学術論文の書き方⑦：参考文献の示し方/学生発表 4：進捗報告 6 回目 学生発表 5：進捗報告 7 回目 学生発表 6：進捗報告 8 回目 学生発表 7：進捗報告 9 回目 学生発表 8：進捗報告 1 0 回目 学生発表 9：進捗報告 1 1 回目 卒業論文提出 1 2 回目 完成論文発表と教員によるフィードバックⅠ 1 3 回目 完成論文発表と教員によるフィードバックⅡ 1 4 回目 完成論文発表と教員によるフィードバックⅢ 1 5 回目 まとめ・予備日
到達目標	(1) 調査に基づいた考察ができる。 (2) 立論できる。 (3) 学術的文章として通用する卒業論文を仕上げるができる。
授業時間外の学習	卒論制作を行いますので、逐一報告し、自身の進度に従って作業を進めてください。
評価方法	発表内容（50%）と授業への意欲度（50%）で評価します。遠隔授業の場合はレポート100%で評価します。
テキスト	
参考書	佐渡島紗織・吉野亜矢子（2008）『これから研究を書くひとのためのガイドブッケーライティングの挑戦15週間』ひつじ書房

	その他は授業中に適宜指示します。
備考	

講義科目名称： 専門ゼミⅡ

授業コード： 233014

英文科目名称： Basic Seminar 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド必修
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	私たちは経済生活を送るうえで、年金、保険、金融、税金、不動産、相続など、身近な経済的な問題に遭遇する。顧客の人生設計を踏まえ、これらの問題に専門的知識を使ってアドバイスするのが、ファイナンシャルプランナー（F P）の業務である。F Pの専門的知識というのは、何も専門家だけに必要とされるものではなく、家計をやり繰りする一般の社会人でも必要とされるものである。そこで、ここではF Pとしての基礎知識を学ぶ。また、F Pの基礎知識を深掘りして、自分でテーマを絞り、情報を収集し、自分で検討・分析し、論文の作成や発表する能力を養う。 学習成果の指標は、A―②である。 遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせ実施する。
授業計画	1 回目 F P と倫理～ライフプラン策定上の資金計画（オリエンテーション） 2 回目 社会保険～公的年金の給付 3 回目 企業年金等～カード 4 回目 保険の基本～生命保険 5 回目 損害保険～第三分野の保険 6 回目 金融・経済の基本～セーフティーネットと関連法規 7 回目 貯蓄型金融商品～債権 8 回目 株式～投資信託 9 回目 外貨建て金融商品～ポートフォリオとデリバティブ取引 1 0 回目 所得税の基本～課税標準の計算 1 1 回目 所得控除～個人住民税、個人事業税 1 2 回目 不動産の基本～不動産に関する法令 1 3 回目 不動産の税金～不動産の有効活用 1 4 回目 相続の基本～相続税 1 5 回目 贈与税～財産の評価（まとめ）
到達目標	まず、F P 3 級程度の専門的知識を身に付ける。次に、F P の基礎知識を深掘りして、自分でテーマを決めて、情報を収集し、自分で調べ、論文の作成や発表する能力を身に付ける。
授業時間外の学習	9 月実施のF P 試験 3 級合格を努力目標とする。
評価方法	平常点 5 0 %、論文（発表を含む） 5 0 % 遠隔授業になった場合、レポート 1 0 0 %
テキスト	滝澤ななみ『F P の教科書 3 級』T A C 出版、2025年、1500円 滝澤ななみ『F P の問題集 3 級』T A C 出版、2025年、1500円
参考書	別途、指示する。
備考	このゼミは、進路を就職希望とする学生を主な対象としており、「専門ゼミⅠ」「専門ゼミⅡ」を継続で履修することを推奨する。 学習分野を役割分担し学習会形式で、学生自身が中心となってゼミを進め、教員はできる限り助言するにとどめる。 9 月実施のF P 試験 3 級合格を努力目標とするため、受験料8000円(学科4000円・実技4000円)が発生する。

講義科目名称： 専門ゼミⅡ

授業コード： 242003

英文科目名称： Basic Seminar 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド必修
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	テーマ「情報とコミュニケーション」 前期ではそれぞれが扱うテーマを決めましたので、後期ではそのテーマを元に研究をして、論文を書きます。レポートとは違い、自分で問題点を探し、自分で分析を行い、自分で結論を導きます。もちろん、ひとりで出来ることには限界があるので、教員はその手伝いをしますし、同じゼミ生で協力をし合いながら、みんなで完成を目指しましょう。前期と後期で行うテーマ設定から結論に至る一連の流れは、これからを生きる皆さんの大きな糧になるものですので、ぜひ意欲的に取り組んでください。 なお、対面授業から遠隔授業に切り替える状況になった場合は、ClassroomとMeetを利用した遠隔授業を予定していますが、その時の状況で変更します（授業初日にClassroomへの登録を行います）。 学習成果の指標：A-②		
授業計画	1 回目 計画発表 2 回目 計画に対する検討、資料収集の開始 3 回目 論文作成上の諸注意 4 回目 序論の構成を考える 5 回目 序論の作成 6 回目 収集した資料の検討 7 回目 本論の構成を考える 8 回目 本論の作成：仮説の作成 9 回目 中間発表 1 0 回目 本論（仮説）の再検討 1 1 回目 本論の作成：分析 1 2 回目 結論の作成 1 3 回目 校正作業 1 4 回目 論文完成 1 5 回目 完成発表		
到達目標	論文を書くことに必要な「情報の視点にたって科学的な思考を身に付ける」「様々な視点を整理し、論理的に結論まで導くことが出来る」を目標にし、論文を完成させましょう。		
授業時間外の学習	レポートも論文も授業時間中ではなく、授業時間外に資料収集し、作成を行うことが非常に多いです。授業はその作成したものや、行き詰まったところを教員や他の仲間と一緒にどう解決するかを考える場所になります。		
評価方法	ゼミ内における発表や完成論文で80%、ゼミ内の活動を活発に行ったかで20%の評価をします。遠隔授業においても、発表はMeetを使いますし、論文提出は変わりませんので、評価方法は変わりません。		
テキスト	資料をプロジェクトで提示や、場合によってプリントの配布をおこないます。		
参考書	授業の中で適宜指示します。		
備考	必ず「専門ゼミⅠ」を履修してください（他教員のではなく、私のです）。 引き続き、ClassroomやSlackなどの情報系ツールを使っていきます。		

講義科目名称： 専門ゼミⅡ

授業コード： 233013

英文科目名称： Basic Seminar 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド必修
担当教員			
田村浩一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	特に探求したいと思う分野・領域を見つけて、論文のテーマを決め、作成する。並行して、種々の英文の読解を行い、それを論文のテーマを探すための一助とする。 なお、学習成果の指標はA-①である。 遠隔授業が必要な場合には、同時双方型学修（Google Meetを利用）で実施する。
授業計画	1 回目 論文テーマの吟味 1 各授業では、論文についての指導のほかに、種々の英文を読むことを継続する。その際、学生自身の論文のテーマに関する論文なども、可能ならば読んでみたい。 2 回目 論文テーマの吟味 2・発表と討論 3 回目 論文テーマの決定 4 回目 文献探索のしかた・図書館の利用 5 回目 論文の構想作りの方法 6 回目 執筆上の注意事項 7 回目 進行状況の確認 8 回目 中間発表 9 回目 執筆状況のチェック 1 10 回目 執筆状況のチェック 2 11 回目 執筆指導 1 12 回目 執筆指導 2 13 回目 論文提出の準備 14 回目 論文提出と内容チェック 15 回目 論文提出と最終チェック
到達目標	論文のテーマを見つけて、そのテーマについて文献や資料を集め、それらを読んで分析し、問題点を整理し、実際に論文を作成する。
授業時間外の学習	論文のテーマを見つけ、それについて調べ、書くためには、多くの時間が必要だが、そのほとんどは授業時間外に行うことになるので、自主的な努力が求められる。
評価方法	授業への参加度：50パーセント 論文の内容：50パーセント 遠隔授業に移行した場合にも、評価方法に変更はない。
テキスト	後で指示する。
参考書	辞書をいつでも使えるように携帯する。英和辞典だけでなく、英英辞典を併用するとよい。
備考	個々の授業内容や進度については、学生の関心の方向や、英語読解力のレベルに応じて変更する場合もある。

講義科目名称： 日本語の歴史 I

授業コード： 153005

英文科目名称： Japanese Language History 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	日本語の古代から現代までを学びます。日本語の歴史とはどのような言語の歴史を指すのか、という疑問から始めます。 言葉の歴史を構築するには、現代に残された資料を用いて行います。 日本語は古代どのようなものであったか、現代に近づくにつれどのように変わっていくのか、その概要を学んでほしいと考えています。 この科目は、文学作品に限らず、古辞書やさまざまな文献をも用いて、音韻と文法の歴史を古代語から近代語への観点から概説します。 日本語の近代化を知ることは、日本の社会と文化の近代化の過程を知ることであります。 春セメ（日本語の歴史 I）は、はじめに日本語史の時代別の概要を現代まで説明したのち、各論（音韻・主に母音の変遷）を講義します。 授業のスケジュールは状況により変更される場合がありますが、その際は授業内でアナウンスします。 学習成果の指標はA-②・③です。 遠隔授業を実施する場合は、課題型学修（Google Classroomを利用）で行います。
授業計画	1 回目 ガイダンス ガイダンスと現代日本語の諸相 2 回目 日本語史の時代区分 各時代の社会背景 中央語と地方語：日本語の歴史とはどういう言語の歴史のことか 3 回目 日本語史の資料 I 上代（奈良時代）・中古（平安時代） 4 回目 日本語史の資料 II 中世（鎌倉時代・室町時代）・近世（江戸時代）・近代（明治時代） 5 回目 文字史 I 漢字の輸入 6 回目 文字史 II 万葉仮名/借音と借訓・戯訓 7 回目 文字史 III 平仮名の成立/万葉仮名から草仮名へ 8 回目 文字史 IV 片仮名の成立/使用層と生成原理 9 回目 文字史 V 日本におけるローマ字の歴史/補助記号の成り立ち 10 回目 母音の変遷 I 音配列の制限・音便・上代特殊仮名遣いと崩壊 11 回目 母音の変遷 II ア行とヤ行の「え」の合一 12 回目 母音の変遷 III ア行の「お」とワ行の「を」の合一 13 回目 母音の変遷 IV ア行の「え」とワ行の「ゑ」の合一、ア行の「い」とワ行の「ゐ」の合一/ハ行転呼 14 回目 予備日 振り返りなど 15 回目 理解度の確認
到達目標	(1) 日本語の歴史の時代区分と時代背景を理解する。 (2) 各時代の中央語を理解する。 (3) 奈良時代から現代までの日本語の歴史の概要と母音の変遷を知る。
授業時間外の学習	日本語概説の内容を各論に分け、微視的に行うものになります。日本語概説の内容を復習しておいてください。特に「いろは歌」についておさらいしておいてください。「いろは歌」の文字の数だけ発音の違いがあったはず。
評価方法	筆記試験（60%）、コメントペーパー（30%）、平常点（10%）で評価します。遠隔授業の場合はレポート（100%）で評価します。

テキスト	使用しません。オリジナルのプリントを配布します。
参考書	山口仲美（2006）『日本語の歴史』岩波新書 小林賢次・梅林博人（2006）『日本語史探求法』朝倉書店 金田弘・宮腰賢（2007）『新訂国語史要説』大日本図書 近藤康弘・月本雅幸・杉浦克己（2008）『新訂 日本語の歴史』放送大学教育振興会 沖森卓也編（2010）『日本語史概説』朝倉書店
備考	

講義科目名称： 日本語の歴史Ⅱ

授業コード： 255003

英文科目名称： Japanese Language History 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	日本語の古代から現代までを学びます。日本語の歴史とはどのような言語の歴史を指すのか、という疑問から始めます。 言葉の歴史を構築するには、現代に残された資料を用いて行います。 日本語は古代どのようなようであったか、現代に近づくにつれどのように変わっていくのか、その概要を学んでほしいと考えています。 この科目は、文学作品に限らず、古辞書やさまざまな文献をも用いて、主に音韻・仮名遣い・文法の歴史を古代語から近代語への観点から概説します。 日本語の近代化を知ることは、日本の社会と文化の近代化の過程を知ることであります。 秋セメ（日本語の歴史Ⅱ）は、各論（子音の変遷、仮名遣い、活用の変遷）を中心に講義します。 授業のスケジュールは状況により変更される場合がありますが、その際は授業内でアナウンスします。 学習成果の指標はA-②・③です。 遠隔授業を実施する場合は、課題型学修（Google Classroomを利用）で行います。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 子音の変遷Ⅰ サ行音の変遷 3 回目 子音の変遷Ⅱ タ（ダ）行音の変遷 4 回目 子音の変遷Ⅲ ハ行音の変遷 5 回目 子音の変遷Ⅳ 四つ仮名の消滅・合拗音 6 回目 連濁・連声・入声音 7 回目 江戸語・東京語の発音 江戸なまり・連母音の融合・破擦音／外来語の音節 8 回目 仮名遣いの発生と変遷Ⅰ 仮名遣いの発生・定家仮名遣い 9 回目 仮名遣いの発生と変遷Ⅱ 仮名遣いとは何か・契沖仮名遣い・歴史的仮名遣い 1 0 回目 仮名遣いの発生と変遷Ⅲ 現代仮名遣いへの歴史的経緯 1 1 回目 古代日本語から近代日本語へ 室町時代（中世後期）の位置づけ 1 2 回目 活用の変遷Ⅰ 係り結びとその崩壊・二段活用の一段化 1 3 回目 活用の変遷Ⅱ 中古から中世後期（室町時代）の動詞・形容詞 1 4 回目 活用の変遷Ⅲ 中世後期（室町時代）～近世の動詞・形容詞 1 5 回目 理解度の確認 振り返り、理解度の確認
到達目標	（1）古代語から現代語への音韻（子音）・仮名遣いの変化を把握する。 （2）動詞の活用の変化を理解し、説明ができる。
授業時間外の学習	現代語辞典や古語辞典などで、口語文法と文語文法を復習しておいてください。。
評価方法	筆記試験（60%）、コメントペーパー（30%）、平常点（10%）によって評価します。遠隔授業の場合はレポート（100%）で評価します。
テキスト	オリジナルのプリントを配布します。

参考書	山口仲美（2006）『日本語の歴史』岩波新書 小林賢次・梅林博人（2006）『日本語史探求法』朝倉書店 金田弘・宮腰賢（2007）『新訂国語史要説』大日本図書 近藤康弘・月本雅幸・杉浦克己（2008）『新訂 日本語の歴史』放送大学教育振興会 沖森卓也編（2010）『日本語史概説』朝倉書店
備考	

講義科目名称： 論理的文章の論理と読解

授業コード： 123007

英文科目名称： Critical Essays ; Logics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
堤 康夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	評論・論説など論理的文章の論理を把握し、分析する。主題を把握し、文章の構成と展開を検討しながら、できるだけ多くの論理的文章を読み進める。文章を論理的に読むことができれば、次の段階では論理的な文章を書き、物事を論理的に考えることができるようになるはずである。そのためにも論旨の展開をとらえるトレーニングを行いたい。なお学習成果の指標はA－③である。本授業は対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「G o o g l e C l a s s r o o m」を利用）と②同時・双方向型学修（「G o o g l e M e e t」を利用）とを組み合わせる実施する。
授業計画	1 回目 ガイダンス（授業の進め方など） 2 回目 加藤周一「日本文学史序説」を読む①一語彙の確認ー 3 回目 加藤周一「日本文学史序説」を読む②一段落構成の検討などー 4 回目 加藤周一「日本文学史序説」を読む③一主題の要約ー 5 回目 吉田健一「文明と文化」を読む①一語彙の確認ー 6 回目 吉田健一「文明と文化」を読む②一段落構成の検討などー 7 回目 吉田健一「文明と文化」を読む③一主題の要約ー 8 回目 寺田寅彦「科学者と芸術家」を読む①一語彙の確認ー 9 回目 寺田寅彦「科学者と芸術家」を読む②一段落構成の検討などー 1 0 回目 寺田寅彦「科学者と芸術家」を読む③一主題の要約ー 1 1 回目 吉田精一「随筆とは何か」を読む①一語彙の確認ー 1 2 回目 吉田精一「随筆とは何か」を読む②一段落構成の検討などー 1 3 回目 吉田精一「随筆とは何か」を読む③一主題の要約ー 1 4 回目 国語辞典のいろいろ 1 5 回目 まとめ・評価
到達目標	受講生全員が現代日本における標準的な論理的文章ともいえる新聞各紙の社説レベルの文章の主題を的確に、スピーディに把握できるようになる。
授業時間外の学習	数回にわたり著名な論理的文章の主題を要約する。
評価方法	取り組み度評価（1 5 %）・理解度評価（1 5 %）・到達度評価（2 0 %）・授業時試験またはレポート（5 0 %）を実施して、総合的に評価する。遠隔授業になった場合は授業時試験は実施せず、レポートを実施する。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	『ベネッセ表現・読解国語辞典』（中村幸弘他編・ベネッセコーポレーション）『現代の重要語』（中村幸弘他編・ライオン社）
備考	

講義科目名称： 日本語学演習(古代語) I

授業コード： 133010

英文科目名称： Japanese Exercise (Ancient Japanese) 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	ここでは古典文学作品を日本語学的方法で演習します。テキストは源氏物語の紅葉賀の巻を使用します。平安時代に確立した平かなによって綴られた和文・和歌は、後世にまでその規範として大きな影響を及ぼしました。 私たちがいわゆる文語文法と呼んでいるものは、大体平安時代中期の仮名文学作品に用いられた言語体系のことです。 演習Ⅰでは、下記の目標を達成するために平安時代の語彙・音韻・表記・文法・敬語法等に特に留意し、頭注に気を付け、逐語訳をしていきます。 次に担当箇所からテーマを見つけ、調べる力を養います。 演習スケジュールは状況により変更される場合があります。その際は演習内でアナウンスします。 学習成果の指標はA-②です。 遠隔授業を実施する場合は課題型学修（Google Classroomを利用）で実施します。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 和文語と漢文訓読語の相違 源氏物語のテキスト 日常会話語と学問の世界の言葉 3 回目 源氏物語の諸本の解説 河内本と青表紙本の二系統について 4 回目 演習の発表箇所と担当者の決定 「御」の読み方についての解説 レジュメの作成方法 5 回目 演習方法の指導と古辞書の解説 新撰字鏡 和名類聚抄 類聚名義抄 6 回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 6 頁～7 頁 7 回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 8 頁～9 頁 8 回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 10 頁～11 頁 9 回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 12 頁～13 頁 1 0 回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 14 頁～15 頁 1 1 回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 16 頁～17 頁 1 2 回目 教員による古典敬語の解説 18 頁～19 頁 1 3 回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 尊敬語 謙譲語Ⅰ 謙譲語Ⅱ 丁寧語 1 4 回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 20 頁～21 頁 1 5 回目 理解度の確認
到達目標	(1) 古典文の読解力を高める。 (2) 現代語との比較から、言語の変化に関心を持ち、卒業研究につなげることができる。 (3) 助詞・助動詞に留意し、適切な逐語訳・現代語訳ができる。
授業時間外の学習	第2回目の授業までに紅葉賀の巻までの概要を把握しておいてください。 参考文献に記した『新編古典文学全集』の源氏物語1巻の現代語訳を読んでおくことを基本としますが、漫画を読んで把握することもお勧めします。
評価方法	発表内容（50%）と授業への意欲度（50%）で評価します。遠隔授業の場合はレポート（100%）で評価します。
テキスト	松尾聰『校注源氏物語 紅葉賀』（武蔵野書院）
参考書	全訳古語辞典（電子辞書含む） 新編日本古典文学全集20『源氏物語①』（小学館）

	『日本国語大辞典（第二版）』（小学館） 『時代別国語大辞典－上代編一』（三省堂） 此島正年（1994）『国語助詞の研究』おうふう 此島正年（1973）『国語助動詞の研究』桜風社 小田勝（2018）『読解のための古典文法教室』和泉書院 小田勝（2020）『古代日本語文法』ちくま学芸文庫 その他は適宜授業内で示します。
備考	【参考文献・おすすめの漫画】 小泉吉宏『大搦源氏物語まる、ん？』幻冬舎

講義科目名称： 日本語学演習(古代語)Ⅱ

授業コード： 233015

英文科目名称： Japanese Exercise (Ancient Japanese) 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	中世文学作品を日本語学的方法で演習します。今期はキリシタン資料の『天草版平家物語』とその原拠本（『覚一本平家物語』、『百二十句本平家物語』等）とを比較します。キリシタン資料は、15～16世紀にイエズス会のポルトガル人宣教師たちによって天草学林（コレジオ）で出版された日本語教本です。音韻、語彙、文法等、室町時代当時の言葉の情報が詰まった価値の高い言語資料になります。その中でも『天草版平家物語』は、平家物語の他の諸本を参考にして作られています。従って、元とする諸本（覚一本、百二十句本）と比較することにより、鎌倉時代から室町時代にかけての言葉の変化を浮き彫りにすることができるものです。まずは比較の仕方をレクチャーします。その後、みなさんにやって頂きます。 演習スケジュールは状況により変更される場合があります。その際は演習内でアナウンスします。学習成果の指標はA-②です。 遠隔授業を実施する場合は課題型学修（Google classroomを利用）で実施します。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 教員による資料解説。 2 回目 発表方法の指導、発表者の割り当て 教員による発表見本の提示。発表の順番決め。 3 回目 古辞書の解説（日葡辞書、節用集） 日葡辞書等の解説。 4 回目 研究書の紹介 清瀬良一（1982）『天草版平家物語の基礎的研究』（溪水社）を解説します。 5 回目 担当者の発表 1 質疑応答 教員による解説 6 回目 担当者の発表 2 質疑応答 教員による解説 7 回目 担当者の発表 3 質疑応答 教員による解説 8 回目 担当者の発表 4 質疑応答 教員による解説 9 回目 担当者の発表 5 質疑応答 教員による解説 1 0 回目 担当者の発表 1（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 1 1 回目 担当者の発表 2（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 1 2 回目 担当者の発表 3（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 1 3 回目 担当者の発表 4（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 1 4 回目 担当者の発表 5（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 1 5 回目 まとめ・予備日		
到達目標	（1）日本語学とはどういう研究方法の分野であるのかを知る。 （2）中世後期語（室町時代語）に触れ、自身で現代語の表記で記すことができる。 （3）古辞書を使用して言葉を調べることができる。 （4）鎌倉時代から室町時代にかけての言葉の変化に気づくことができる。		
授業時間外の学習	学生の発表開始以降、事前に渡された他の人の発表資料をよく読んで、最低でも1つは質問をするようにしてください。発表者は発表資料を、1週間前に提出してください。発表者以外の人は、事前に渡された他の人の発表資料をよく読んで、最低でも1つは質問をするようにしてください。		
評価方法	発表内容（50%）と授業への意欲度（50%）で評価します。遠隔授業の場合はレポート（100%）で評価します。		

テキスト	こちらで用意したものを配布します。
参考書	江口正弘（2009）『天草版平家物語全注釈』新典社 清瀬良一（1982）『天草版平家物語の基礎的研究』溪水社 全訳古語辞典（電子辞書含む） 『日本国語大辞典（第二版）』（小学館） 『時代別国語大辞典－室町時代編－』（三省堂） 国立国語研究所「日本語史研究用テキストデータ集」『天草版平家物語』（大英図書館所蔵） https://www2.ninjal.ac.jp/textdb_dataset/amhk/ その他は適宜授業内で示します。
備考	

講義科目名称： 口承文芸 I

授業コード： 124002

英文科目名称： Oral Literature 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
市東真一 講師			
添付ファイル			

授業の概要	民俗学と文化人類学の知見をもとに神話、伝説、昔話、世間話など現代社会に伝承される口承文芸の基礎知識を学ぶ。 なお学習成果の指標はA―①である。 遠隔授業を実施する場合にはクラスルームを利用して対応する。
授業計画	1 回目 ガイダンスー講義の進行についてー 2 回目 口承文芸とは何かーグリム童話と民俗学ー 3 回目 日本の口承文芸ー『遠野物語』以前のことー 4 回目 日本の口承文芸ー『遠野物語』以後のことー 5 回目 口承文芸と神話について 6 回目 口承文芸と伝説について 7 回目 口承文芸と昔話について 8 回目 世間話と都市伝説 9 回目 口承と書承 1 0 回目 民間宗教者と口承文芸 1 1 回目 民俗芸能・歌謡と口承文芸 1 2 回目 語りとしぐさ 1 3 回目 現実化する語り 1 4 回目 テスト 1 5 回目 まとめ
到達目標	口承文芸を学ぶ基礎力を身につけるとともに、民俗学と文化人類学の理論も学修していく。
授業時間外の学習	適宜、小レポートや課題を提示していく。
評価方法	期末テスト（70％）平常点（10％）課題提出（20％）
テキスト	適宜参照する。
参考書	『野村純一著作集』全9巻（清文堂出版） 野村純一他編 『昔話・伝説を知る事典』（アーツアンドクラフツ出版 2021年） 松谷みよ子 『民話の世界』（講談社学術文庫）（講談社 2014年） 常光徹 『学校の怪談 口承文芸の研究Ⅰ』（角川書店 2002） 常光徹 『伝説と俗信の世界 口承文芸の研究ⅠⅠ』（角川書店 2002）
備考	期末テストのレポートなどでの加点もあり。

講義科目名称： 口承文芸Ⅱ

授業コード： 223005

英文科目名称： Oral Literature 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
市東真一 講師			
添付ファイル			

授業の概要	講師が実際に調査した自衛隊の怪談研究をもとに、口承文芸について研究の基礎および研究法についてを学ぶ。 なお、学習成果の指標はA―①である。 遠隔授業を実施する場合は、クラスルームを利用して対応する。		
授業計画	1 回目	ガイダンスー授業の進め方ー	
	2 回目	口承文芸研究の軌跡	
	3 回目	口承文芸の方法論	
	4 回目	口承文芸の調査法	
	5 回目	口承文芸研究の手法ー自衛隊の怪談と怪談研究ー	
	6 回目	怪談の舞台ー隊舎のトイレに出る幽霊ー	
	7 回目	宗教者と怪談ー自衛隊の霊能者の事例からー	
	8 回目	吊いと靈魂観ー事故死・自殺した隊員の霊ー	
	9 回目	神になった軍人ー現人神信仰との比較ー	
	1 0 回目	場所の記憶と怪談ー硫黄島を事例にー	
	1 1 回目	旧軍の亡霊ーもう一つの祖霊信仰ー	
	1 2 回目	駐屯地という世界ー自衛隊の世間話からー	
	1 3 回目	メディア化される怪談ーコンテンツとしての自衛隊の怪談ー	
	1 4 回目	レポート講評	
	1 5 回目	まとめ	
到達目標	現代社会の中に活用されている口承文芸を理解できるようにする。 自分自身の力で調査する基礎能力、自分の言葉で論理的に説明する力を身につける。		
授業時間外の学習	適宜、課題や小レポートについて述べる。		
評価方法	レポート（70％）平常点（10％）課題提出（20％）		
テキスト	印刷物を配布		
参考書	小田博志 『改訂版 エスノグラフィー入門 〈現場〉を質的研究する』（春秋社 2023） 常光徹 『学校の怪談：口承文芸の展開と諸相』（ミネルヴァ書房 2013） 常光徹 『学校の怪談 口承文芸の研究Ⅰ』（角川書店 2002） 常光徹 『伝説と俗信の世界 口承文芸の研究ⅠⅡ』（角川書店 2002）		
備考			

講義科目名称： 日本語概説Ⅱ

授業コード： 244004

英文科目名称： Outline of Japanese Study 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	この科目は、日本語に関するさまざまな問題に対して実証的に考察するための基本的な知識を修得し、さらに進んで日本語の専門的研究を行うための導入となる科目です。日本語概説Ⅰに引き続き、文字に関する事項、語彙に関する事項、方言に関する事項に互って順次概説しますが、あわせて、日本語研究の基本的文献資料を取り上げ、具体的に言語の研究方法も紹介します。 学習成果の指標は、A-②・③です。 遠隔授業で実施する場合は、課題型学修（Google Classroom を利用）で実施します。		
授業計画	1 回目 日本語学概説Ⅰの振り返り・日本語の音韻 3 春セメの振り返り、日本語の子音の変遷 2 回目 日本語の音韻 3 日本語の子音の変遷 3 回目 漢字 漢字の伝来・六書 4 回目 漢字 呉音・漢音・唐音 5 回目 漢字 訓・当用漢字と常用漢字 6 回目 仮名 万葉仮名・平仮名 7 回目 仮名 片仮名・訓点資料 8 回目 補助記号 濁音府・半濁音符・補助記号 9 回目 仮名遣い 定家仮名遣い・歴史的仮名遣い 1 0 回目 仮名遣い 現代仮名遣い 1 1 回目 ローマ字 ヘボン式・日本式・訓令式 1 2 回目 語彙 語彙の分類・語彙量 1 3 回目 語彙 多義語・同音異義語・類義語・対義語・語構成 1 4 回目 文法 品詞・活用 1 5 回目 まとめ これまでの振り返り		
到達目標	(1) 日本語の文字・仮名遣い・文法に関することなどについて基礎的な事項を説明できる。 (2) 常用漢字の見直しや現代仮名遣いなどの国語国字問題に関心を持ちつつ、自己の言語を内省することにより、 言語表現を向上させることができる。 (3) 専門研究のための基本的文献を扱うことができる。		
授業時間外の学習	各回の授業前に教科書をあらかじめ読んでおくように努めてください。難しい用語などの意味が、授業での解説で理解しやすくなります。また授業計画に示したキーワードをインターネットなどで調べておくと日本語への関心が深まります。		
評価方法	筆記試験（60%）、コメントペーパー（30%）、平常点（10%）で評価します。遠隔授業の場合はレポート（100%）で評価します。		
テキスト	和田利政・金田弘著『国語要説（五訂版）』（大日本図書、2003年）		
参考書	●参考文献一覧を配付します。 近藤泰弘・月本雅幸・杉浦克己（2005）『日本語の歴史』放送大学教育振興会		
備考			

講義科目名称： 日本語文法

授業コード： 222002

英文科目名称： Japanese Grammar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
加藤松次 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本授業は中学校で学んだ現代語文法（口語文法）の基礎知識を確認し、「文法を指導する側の視点」で知識を整理することを目的とする。授業では講義で基礎知識を確認した後、予習してきた練習問題の答えをランダムに回答してもらい、講師が解説する。また、アクティブ・ラーニングなどで他学生と疑問点を共有したうえで文法説明の道筋を考える。アクティブ・ラーニングは安全に配慮しながら実施する。なお、学習成果の指標はA－①である。 本授業は対面授業で実施するが、遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。		
授業計画	1 回目	ガイダンス、文節	
	2 回目	文の構成	
	3 回目	自立語	
	4 回目	付属語	
	5 回目	名詞・副詞	
	6 回目	連体詞・接続詞・感動詞	
	7 回目	動詞（性質・活用）	
	8 回目	動詞（自動詞・他動詞）	
	9 回目	形容詞・形容動詞	
	1 0 回目	助詞	
	1 1 回目	助動詞	
	1 2 回目	識別（用言、助詞）	
	1 3 回目	識別（助動詞）	
	1 4 回目	敬語	
	1 5 回目	まとめ	
到達目標	1. 現代語文法の基礎知識を理解して、他者に説明できる。 2. 指導する側の視点で問題点を把握し整理することができる。 3. 他学生と協働して文法説明の道筋を考えることができる。		
授業時間外の学習	1. 次回授業の練習問題を予習して答え合わせを行い、疑問点を他学生に説明できるように準備する。 2. 知識を定着させるために授業内容を復習する。		
評価方法	授業理解度60%、期末レポート40% 遠隔授業に変更になった場合でも評価方法に変更はない。		
テキスト	学研プラス編『全問ヒントつきでニガテでも解ける中学国語文法』（学研出版、2018年）		
参考書	会田貞夫・中野博之・中村幸弘編著『学校で教えてきている現代日本語の文法』（右文書院、2011年）		
備考	1. 事前に次週の練習問題に取り組み、各自答え合わせをしてから授業に参加すること。 2. 本授業の目的は練習問題の答え合わせではなく、知識を整理することである。 3. 学生の理解度によって講義の順番、内容、進度を調整することがある。 ※毎回必ずテキスト、ノートを持参すること。		

※テキストを忘れた場合は授業開始時間までに自分専用のコピーを準備し、他者に迷惑をかけない状態にしておくこと。
--

講義科目名称： 日本語学各論

授業コード： 122003

英文科目名称： Japanese Language

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
加藤松次 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本授業は日本語の研究分野のひとつである語彙・意味を考察する目的で行う。語の意味や文の意味は個人の知覚に基づくものであって、個人差がある。例えば、首都圏方言若年層話者の間でも「ふつうにおいしい」の意味にはズレがみられるが、他者に違いを説明するのは難しい。授業では語彙・意味に関する基本的な事項を概説する。学生には基礎知識をもとにそれぞれの事項について内省し、考察することを求める。テキストや参考書に目を通し、授業外の情報を取り入れて知識を広げることが望ましい。なお、学習成果の指標はA―①である。 本授業は対面授業で実施するが、遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。
授業計画	1 回目 ガイダンス、語彙とは何か 2 回目 理解語彙と使用語彙 3 回目 語彙の系統・語種 4 回目 語構成 5 回目 社会的位相 6 回目 心理的位相・文体的位相 7 回目 語の意味とは何か 8 回目 辞書 9 回目 類義語・反義語・多義語 1 0 回目 共起語・選択制限 1 1 回目 意味変化 1 2 回目 意味の変遷 1 3 回目 他言語との語の意味の対照 1 4 回目 コーパス・語彙調査 1 5 回目 まとめ
到達目標	1. 基本的な術語（用語）が理解できる。 2. 基礎知識をもとに日本語を内省し、考察できる。 3. 考察課題の作成において、授業外の情報を取り入れることができる。
授業時間外の学習	授業内容を復習する。基礎知識をもとに考察課題を作成する。
評価方法	授業理解度60%、期末レポート40% 遠隔授業に変更になった場合でも評価方法に変更はない。
テキスト	沖森卓也他『図解 日本の語彙』（三省堂、2011年）
参考書	明治書院『「日本語学」特集テーマ別ファイル普及版』意味1～4（明治書院、2008年） 明治書院『「日本語学」特集テーマ別ファイル普及版』語彙1～4（明治書院、2008年）
備考	学生の理解度によって講義の順番、内容、進度を調整することがある。

講義科目名称： 外国語文化（英米語事情）

授業コード： 243003

英文科目名称： Foreign Language and Culture (English American)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
田村浩一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	イギリスとアメリカの文化と歴史に関する様々の文章を読むことを通じて、両国の文化に関心を持ち、その理解への端緒を得ることを目的とする。 テキストの精読を通して、イギリス、アメリカの事情を学びながら、英文の読解力を向上させることも目標とする。 学習成果の指標はA－①である。 なお、遠隔授業となった場合は、②同時双方型学修（Google Meetを利用）で実施する。		
授業計画	1 回目	Terror in the City	
	2 回目	Walls	
	3 回目	British History	
	4 回目	The Elephant and the Mouse	
	5 回目	American History	
	6 回目	Names	
	7 回目	Rain in the UK	
	8 回目	Sport	
	9 回目	Universities in the UK	
	1 0 回目	Glamour and Glitz	
	1 1 回目	Baths	
	1 2 回目	9.11 Part 1:The Shock	
	1 3 回目	9.11 Part 2:The Aftermath	
	1 4 回目	Old Houses	
	1 5 回目	Why?	
到達目標	英米の文化、歴史、政治への理解を深め、英米以外の国々へも関心を持つようになることを目標とする。		
授業時間外の学習	テキストの予習は必ずやってほしい。また、テキストで扱われない時事問題などに関する情報にも目配りをしてもらいたい。		
評価方法	平常点50%、発表・提出物50%。遠隔授業となった場合も、同様とする。		
テキスト	『The UK and the USA; Compare and Contrast（英米比較で英語を学ぶ）』 テリー・オブライエン他 南雲堂		
参考書	辞書、特に英和辞典は、必ず用意してほしい。		
備考			

講義科目名称： 外国語文化（韓国語事情）

授業コード： 263001

英文科目名称： Foreign Language and Culture（Korean）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
宮塚寿美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	韓国・韓国事情について総合的に捉え、自ら考える力を養います。互いに「近くて遠い国」と言われる日本と韓国ですが、その距離について自ら測っていけるよう「知る」ことから始めましょう。授業は講義と発表で構成。各自が関心のあるテーマを設定し発表します。授業内ではグループワーク、ワークショップを積極的にを行います。韓国の現代事情や身近な話題を中心に、言語・文化・社会など様々な側面から学んでいきます。※授業予定は、進行状況などにより変更される場合があります。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる実施する。 なお、学習成果の指標は A-①である。		
授業計画	1 回目 オリエンテーション ・ 韓国について知る 地政学から見て 授業の説明。普段から韓国・北朝鮮に関するニュースに関心をもつ。 2 回目 韓国について知る 国際社会から見て 教員が資料を随時配布する。 3 回目 ことばと社会 教員が資料を随時配布する。 4 回目 映画鑑賞① 韓国・北朝鮮について理解を深める映像資料として映画を観る。 5 回目 政治、経済、歴史 教員が資料を随時配布する。 6 回目 教育事情 教員が資料を随時配布する。 7 回目 中間レポート提出 各自が選んだ韓国・北朝鮮に関する書籍の読書感想文をレポートとして提出。 8 回目 韓国の文化 1（食文化） 教員が資料を随時配布する。 9 回目 韓国の文化 2（伝統文化）・ 韓国の文化 3（大衆文化） 教員が資料を随時配布する。 10 回目 映画鑑賞② 韓国・北朝鮮について理解を深める映像資料として映画を観る。 11 回目 交通、観光 教員が資料を随時配布する。 12 回目 日韓関係・日朝関係 教員が資料を随時配布する。 13 回目 発表(個人) パワーポイントで発表する。15分ずつ。 14 回目 発表(個人) パワーポイントで発表する。15分ずつ。 15 回目 学期のまとめ		
到達目標	朝鮮半島は二つの国（韓国と北朝鮮）に分断されているという歴史的背景を踏まえつつ、現代ではコリア語を通して、韓国社会、文化についてより広い視野で深い見解がなされるようにする。		
授業時間外の学習	関連する書籍の読書、新聞、テレビなどマスコミからの情報収集、周囲にいる韓国人（留学生から）と積極的にコミュニケーションをとる。		
評価方法	平常点（授業への参加意欲、授業態度など）50%、発表40%、提出物10% ※遠隔授業の場合でも評価方法は同じ。		
テキスト	必要に応じて、授業時にプリントを配布します。		
参考書	随時、授業内で紹介します。		
備考	講義は日本語で行い、日本語の資料を使うので、韓国語の語学能力は問いません。韓国・朝鮮半島について少しでも興味があり、知りたい学生の皆さんの履修を楽しみにしています。		

講義科目名称： 国際文化交流 I（国際文化交流入門）

授業コード： 153006

英文科目名称： Intercultural Relations 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
中村香代子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	広義での国際交流は、SNSやオンラインゲームなど、サイバースペースを通じた交流から、実際に海外に出向いたり、日本で外国人を迎えたりなどフェイス・トゥー・フェイスの交流まで様々である。本講義では、国際交流とは何かを基礎から学び、多くの具体的事例を取り上げ明らかにしていく。留学や異文化体験の事情だけでなく、在日外国人、移民・難民問題、観光など幅広い問題を扱う。講義は、毎回パワーポイントを使用し、参考資料を電子媒体で配布する。映画、ドキュメンタリー、ニュースなどの映像資料や小説、漫画などの資料などをまじえ、受講者の知りたいテーマに寄り添いながら国際交流を身近に考えていく。 講義後のアンケートや意見を題材にディスカッションすることがある。また、レポートの立案や作成に関しては、個々に指導する。希望者は、レポート内容を授業内でプレゼンテーションする。 本授業は、全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修で実施するほか、場合によってはオンデマンド型授業で対応する。		
授業計画	1 回目	国際文化交流とは何か SNSから旅行、留学、移住、外交や戦争まで、現在あらゆるレベルで行われている広義の国際文化交流の具体的事例を学ぶ。身近な事例から国際関係まで幅広い領域の問題を扱う分野であることを理解する。	
	2 回目	異文化への考え方（多文化主義と単一文化主義） 異文化社会への考え方、捉え方は、時代や空間によって大きく異なる。異文化への理念的な二つの考え方、すなわち、多文化主義と単一文化主義を学び、現在どのような国家や地域がどのような政策をとっているのか具体的事例とともに理解する。	
	3 回目	現代の異文化体験 旅行、ホームステイ、留学などで得る異文化体験における事例や問題などを扱い、異文化体験とは何かを考える。他方、外国人労働者の問題を取り上げ、身近な異文化接触の機会についても理解する。	
	4 回目	日本における留学の歴史 日本では、古くは遣隋使・遣唐使から海外で知識を学び、輸入してきた。そして、そうした知識を日本で独自に発展させてきた。これらの歴史を踏まえ、日本が海外の知識をどのように受容し、そして、醸成させてきたのかを理解する。加えて、前近代に至るまでのアジア地域の知識の源泉（中華）とその流れと西欧文化が重要視される近代以降の知識の流れの変化を理解し、日本の文化とは何かを考える。	
	5 回目	観光の歴史と現在のブーム 観光がいかんして生まれ、発展してきたかを学ぶ。また、現在、観光地に赴くだけでなく、現地の生活や異文化体験をすることが流行している。具体的な事例を用いながら、現代のツーリズムに何が求められているのかを理解する。	
	6 回目	観光立国論と多様なツーリズム（ドラマロケ地ツアーからダークツーリズムまで） 人口減少を踏まえ、インバウンド効果を求める観光立国論や日本の政策を把握する。その上で、ソフトパワー戦略の一つでもある、アニメやドラマ縁の地を巡るツアーや負の遺産や産業遺産を巡るツアーまで多様なツーリズムが流行している事例を取り上げ、そこで求めているものや問題性を検討する。	
	7 回目	人の移動 移民の規定を理解したうえで、グローバル時代の人の移動について学ぶ。また、ヨーロッパやアメリカ、日本などの移民に対する考え方や政策の違いについて学習する。	
	8 回目	移民・難民問題 難民の規定を理解したうえで、現在の世界では難民がどのようにして発生し、どのような困苦に耐えているのか、また、その難民に対し、現代社会はどのような対応をしているのかを学ぶ。	
	9 回目	国際結婚と文化的差異 国際結婚の規定は国家によって異なる。規定の違いを理解したうえで、国際結婚のデータや事例を取り上げどのような問題があるのかを考える。	
	1 0 回目	在日外国人 在日外国人の歴史的背景と問題を把握し、現在日本でも問題になっているヘイトスピーチの具体的事例を扱いながら考える。	
	1 1 回目	国籍とは何か 国籍は各国の法規定により異なり、国民が受けられる権利はそれぞれに違う。グローバル時代にあつて、国籍がどのような意味を持つのかを考える。	
	1 2 回目	スポーツ交流 国際大会、サッカーワールドカップ、オリンピックなど国家を代表する選手がスポーツでたたくことにより交流を深めてきた。スポーツと政治、市場効果などの問題を取り上げ、検討する。	
	1 3 回目	人の移動と感染症 コロナは、それまでの国際的なつながりを分断する側面をもつ。ワクチンナショナリズムに見られる国家間格差やC O V A Xのような国際的再分配の問題などに触れ、議論する。	
	1 4 回目	デジタル空間における交流の功罪 Google、Apple、Facebook、Amazon——GAFA。21世紀における繋がりとその功罪を学ぶ。また、デジタル社会におけるメリット、デメリットを社会的に議論する。	

	1 5 回目 あなたにとっての国際交流 それぞれのレポート報告に対し、議論する。
到達目標	国際交流の基礎知識を学び、そのバックグラウンドにある国際政治学や国際関係論、社会学、カルチュラルスタディーズなどの学問的基礎を習得することができる。サイバースペースによる交流（SNS）、旅行、留学、NGO活動、地域の国際化事業など各々の興味のある国際交流の糸口を探し、交流の広がりや学ぶことでグローバル社会での世界の人々とのつながりを強めることができる。多文化社会の将来に備え、より広くより深い視野で自己と自己を取り巻く国際社会を理解することができる。レポートやディスカッションを通し、他者の意見を尊重しながら、自己表現をすることができる。
授業時間外の学習	講義にのぞむための予備知識はいらないが、講義で扱う関連映像やパワーポイント、紹介する書籍から興味を持って、普段からニュースや新聞に目を向けておく。講義で扱うテーマに対し、事前に調べておくことで講義をより深く理解できる。授業で扱う簡単な資料のまとめや感想などをもとめることがある。レポート作成に関しては、メールでの相談にもものる。
評価方法	平常点（30%）、レポート（70%）で評価する。 遠隔授業になった場合でも評価方法に変更はない。
テキスト	基本的にプリント資料を配布。参考書籍や参考映像などについては授業時に指示。
参考書	テーマに沿って、その都度参考文献を紹介する。 『平和学から世界を見る』多賀秀敏編（成文堂、2020年）
備考	関心のあるテーマでレポートを提出してもらおうが、レポートのテーマさがし、レポートの書き方、プレゼンテーション（5分～10分程度）のやり方に関しては、授業内での指導のほか、メールや「Google Meet」を通して相談に応じる。

講義科目名称： 国際文化交流Ⅱ（アジア地域における文化の交 差） 授業コード： 252004

英文科目名称： Intercultural Relations 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
中村香代子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	グローバル時代において、国際的感覚や知識を身につけることは、将来どのような道を選んだとしても現代社会を生きるうえで重要である。本講義では、日本とアジア諸国との文化交流の歴史と現状を解説する。また、LGBT+Q、ジェンダー論、デジタル社会など、現代の具体的なテーマをとりあげ、文化的友好関係の成立や軋轢の発生の背景について理解し、学習するプログラムである。 講義は、毎回パワーポイントを使用し、参考資料を電子媒体で配布する。映画、ドキュメンタリー、ニュースなどの映像資料や小説、漫画などの資料などをまじえ、受講者の知りたいテーマに寄り添いながら国際交流を身近に考えていく。 講義後のアンケートや意見を題材にディスカッションすることがある。また、レポートの立案や作成に関しては、個々に指導する。希望者は、レポート内容を授業内でプレゼンテーションする。 本授業は、全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修で実施するほか、場合によってはオンデマンド型授業で対応する。		
授業計画	1 回目	国際文化交流とグローバル時代 国際文化交流を考えるうえで必要となる基礎概念や知識を学ぶ。そして、グローバル時代の特徴を把握する。	
	2 回目	アジア地域における儒教の広がり 儒教の成立から、アジア地域への影響を考える。日本における儒教的文化の影響を道徳や葬送文化などを事例としてとりあげ理解する。また、漢字という表音文字の成立を映像資料で確認するとともに、漢字文化圏がどのように成り立っているかを考える。	
	3 回目	アジア地域における漢字の広がり 中国語を発音することなく、日本語で漢文を読むという文化的意味についても検討する。	
	4 回目	日本と近隣諸国との関係 1 近代日本の植民地支配と歴史経緯を学んだうえで、当時の文化政策や文化的関係性の変化を考える。	
	5 回目	日本と近隣諸国との関係 2 靖国参拝問題、教科書問題、従軍慰安婦問題、徴用工問題などを歴史的に理解し、争点を学ぶ。	
	6 回目	戦後日本とアメリカ文化の影響力 戦後日本におけるアメリカ文化の影響を幾つかの文化論を引用しながら理解する。戦前におけるアメリカの敵国文化がいかに憧れに変わるか、そして、日米貿易摩擦を経て、どのように軋轢が生まれるかを学ぶ。	
	7 回目	ハリウッド映画とウォルト・ディズニー ハリウッド映画やディズニーアニメーションの日本への影響を考える。また、東京ディズニーランドの特徴や特異性なども議論する。	
	8 回目	日本と諸外国の近さと遠さ 近年の世論調査などのデータをもとに、お互い（日本とアメリカ、中国、韓国、台湾など）がどのような感情を抱いているかを概観する。その上で、文化コンテンツの流通や生活スタイルの類似、観光客や国際結婚の増加で距離が縮まる一方、歴史認識問題や文化やマナーの違いなど逆に距離ができていていることを把握する。	
	9 回目	韓流ブームと嫌韓 2000年代初頭にはじまった日本の韓流ブームの社会政治的背景を学ぶとともに、同時に日本に起こった排他的思想やヘイトにも触れる。	
	1 0 回目	日本のソフトパワー・韓国のソフトパワー（日本の何が世界で評価されているのか） ジョセフ・ナイによる「ソフトパワー」という考え方を理解するとともに、日本のソフトパワー戦略を考える。マンガやアニメをはじめ、日本が世界に発信する文化コンテンツの可能性について考える。また、ソフトパワー戦略で成功する韓国とも比較する。	
	1 1 回目	アジアにおけるLGBT+Qの広がり LGBT+Qの社会的認知や政策の違いを学ぶ。台湾ですすむ法整備や日本での政策などを扱う。	
	1 2 回目	ディズニープリンセスとジェンダー・エスニシティ論 ディズニープリンセス変容とジェンダーやエスニシティを考える。	
	1 3 回目	SNSと新しい社会運動 SNSや動画サービスで人々の生活や関係が変わったのかについて考え、#Metoo運動の広がりや違いや環境問題などに対する新しい社会運動などを取り上げる。	
	1 4 回目	アジア地域における民主主義 アジアにおける民主化運動を学ぶとともに、アジアにおける言論の自由について考える。香港やウイグルの問題についても議論する。	
	1 5 回目	私にとっての国際文化交流 各々の問題意識を持ち寄り議論する。	
到達目標	講義を通して、国際政治学や国際関係論、社会学、カルチュラルスタディーズなどの学際的な知識を得るこ		

	とができる。また、日本とアジア地域との交流史を学ぶことで現代アジアにおいて日本の置かれている立場を正しく理解することができる。加えて、欧米社会等、他者からの日本への眼差しを意識することでグローバル時代における日本での在り方を相対化することができる。レポート作成を通して、自らの主張を論理的に思考し、説明することができる。グローバル時代に対応する素養を身に付けることができる。
授業時間外の学習	講義にのぞむための予備知識はいらないが、講義で扱う関連映像やパワーポイント、紹介する書籍から興味を持って、普段からニュースや新聞に目を向けてほしい。授業で扱う簡単な資料のまとめや感想などをもとめることがある。質問やレスポンスはメールでも受け付ける。レポート作成についての相談も随時メールでやりとりできる。
評価方法	平常点（３０％）とレポート（７０％）で評価する。 遠隔授業になった場合でも評価方法に変更はない。
テキスト	基本的にプリント資料を配布（遠隔授業においては、電子媒体にて）。参考書籍や参考映像などについては授業時に指示。
参考書	『平和学から世界を見る』多賀秀敏編（成文堂、2020年）
備考	受講者の関心のあるテーマでレポートを提出してもらうが、レポートのテーマさがし、レポートの書き方等については、授業内だけでなく、メールや「Google Meet」での相談に応じる。理想とするレポートに近づけるように寄り添って指導していく。

講義科目名称： 国際社会問題

授業コード： 253005

英文科目名称： Issues in International Society

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
中村香代子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	現代社会を知る上で重要な国際社会問題や国際ニュースについて解説する。国家という単位がなぜ国際社会で重要であるのか、また、NGOや多国籍企業などその他の構成単位と歴史的に何が違うのか、国際社会において決定権があるのは誰なのかなどの疑問にこたえるべく、国際社会の誕生から歴史的に検討していく。毎回多岐に渡るテーマや時事問題を取りあげる。 講義は、毎回パワーポイントを使用し、参考資料を電子媒体で配布する。映画、ドキュメンタリー、ニュースなどの映像資料をまじえ、受講者に寄り添いながら国際社会問題を考えていく。 講義後のアンケートや意見を題材にディスカッションすることがある。 本授業は、全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修で実施するほか、場合によってはオンデマンド型授業で対応する。		
授業計画	1 回目	近代国際社会の成り立ちと国際法 地球上には複数の国際秩序があったが、なぜ、現代の国際社会のルール化がはじまったのかという問いを考える。加えて、ウェストファリア体制の基礎知識を理解する。	
	2 回目	植民地主義とポストコロニアリズム ウェストファリア体制の歴史と意義について学ぶとともに、植民地支配の歴史について理解し、その問題が現在に及ぼしている影響を考える。	
	3 回目	黒人の歴史と人種差別の現在地 黒人奴隷の歴史と黒人差別撤廃運動についての歴史を学び、Black Lives Matterのような現代の問題について議論する。	
	4 回目	アジアの近代史と日中韓関係 アジア地域における近代史の概説と現在の関係性について解説する。	
	5 回目	冷戦と平和について 冷戦構造を学んだうえで、冷戦期における局地戦争と核抑止論などを学び、平和構築の難しさを考える。	
	6 回目	戦後日本とアメリカ 戦後日本の出発にあった安保の意味を学び、日米関係の歴史と現在を理解する。	
	7 回目	沖縄問題 戦後置かれてきた沖縄の状況を理解し、対米関係重視の中央政治と沖縄の地方政治の関係を学ぶ。	
	8 回目	南北問題からグローバルサウスの時代へ 貧困や格差の問題からSDGsの問題に至るまでを理解する。グローバルサウスに介入するアクターやグローバルサウスの主張などを知る。	
	9 回目	21世紀の戦争 ウクライナ戦争やイスラエル問題など、現在起こっている戦争についての論考を共に考える。	
	10 回目	国際レジームと環境問題 環境問題解決のための国際レジームやCOPの果たしてきた役割、環境問題を巡るグローバルサウスの訴えなどを理解する。	
	11 回目	グローバリゼーションとWTO（多国籍企業の活躍の時代） グローバリゼーションの時代の国家の役割について考える。	
	12 回目	ジェンダー論と女性の活躍 女性差別の歴史とジェンダー論について検討する。	
	13 回目	GAFAとBATH IT企業の台頭と覇権について検討する。	
	14 回目	コロナとナショナリズム コロナを通して、各国がどのような対策をし、国際協調がどのようにとられたかを検討する。	
	15 回目	国際社会問題と私	
到達目標	国際政治学や国際関係論、社会学などの基礎的知識に基づいて思考し、国際社会の問題や日々の国際ニュースを相対的に理解することができる。国民国家の成り立ちや国際法の位置づけを学ぶことで、現代の国際社会で活躍するための基本的ルールを習得することができる。グローバル時代の社会構造を意識し、国際社会で活躍するための素養を得ることができる。		
授業時間外の学習	国際ニュースの基礎知識がない学生にも優しく解説するので、講義にのぞむための予備知識はいらないが、講義で扱う関連映像やパワーポイント、紹介する書籍から興味を持って、普段からニュースや新聞に目を向けてほしい。授業で扱う簡単な資料のまとめや感想などをもとめることがある。質問やレスポンスはメールでも受け付ける。		
評価方法	平常点（30％） 定期試験（70％）で評価する。 テストは、用語説明と事前問題開示した論述形式を併用する。 遠隔授業になった場合はオンラインで小テストを実施する。		

テキスト	基本的にプリント資料を配布（遠隔授業においては、電子媒体にて）。参考書籍や参考映像などについては授業時に指示。
参考書	『平和学から世界を見る』多賀秀敏編（成文堂、2020年）
備考	

講義科目名称： 国際政治学

授業コード： 152004

英文科目名称： International Politics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
中村香代子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	国際政治学の基礎を歴史、理論、実践の三分野に分けて学ぶ。歴史分野と理論分野で得た基礎知識をもとに、現在私たちがいる現代社会を国際政治学的に把握することを目的とする。第一部（1~5回）においては、国際政治の歴史を主権国家体系の生成から現在の政治枠組みまでを学ぶ。第二部（6~11回）では、代表的理論を紹介する。第三部（12~15回）では、ウクライナやイスラエル、中国の問題など、時事トピックを交えながら2000年代以降の問題について国際政治的批評などを参考にしながら議論する。 講義は、毎回パワーポイントを使用し、参考資料を電子媒体で配布する。映画、ドキュメンタリー、ニュースなどの映像資料をまじえ、受講者に寄り添いながら国際社会問題を考えていく。 講義後のアンケートや意見を題材にディスカッションすることがある。 本授業は、全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修で実施するほか、場合によってはオンデマンド型授業で対応する。		
授業計画	1 回目 国際政治学とパワー 国際政治学が基礎とするパワーの問題について学ぶ 2 回目 主権国家体系 主権国家体系の仕組みと歴史について学ぶ。 3 回目 勢力均衡とナショナリズム 勢力均衡論と近代国家のナショナリズムについて学ぶ。 4 回目 帝国主義と二つの世界大戦 帝国主義台頭の歴史と21世紀の戦争の意味について学ぶ。 5 回目 冷戦構造と冷戦終焉の意味付け 冷戦構造を理解し、冷戦構造をどう評価するのか議論する。 6 回目 リアリズム パワーポリティクスのE. H. カーとモーゲンソーについて解説する。 7 回目 ネオリアリズム ネオリアリズムの主要な考え方について解説する。 8 回目 リベラリズム 協調主義のコヘインとナイについて解説する。 9 回目 国際レジーム論 グラスナーをはじめとする国際レジーム論を解説する。 1 0 回目 グローバルガバナンス論とデモクラティックピース論 1990年代以降の議論について説明する。 1 1 回目 コンストラクティビズムとアイデンティティポリティクス 構成主義やアイデンティティポリティクスなどを学び、現在に至る主義主張でどのような勢力が強いのかを解説する。 1 2 回目 環境問題 カーボンニュートラルなど、どのように国際的枠組みのなかで環境問題に対処する態勢がとれるのか議論する。 1 3 回目 核軍縮と安全保障 冷戦と核の関係を学んだあと、世界の核軍縮への歩調の乱れなどについて議論する。 1 4 回目 現代の戦争とテロリズム 21世紀におけるテロリズムやロシアのウクライナ侵攻など現代の戦争について議論する。 1 5 回目 平和主義と平和構築 平和学的視点から平和主義がどのような問題群を射程にしているかを理解し、平和構築にはどのような可能性があるのか議論する。		
到達目標	国際政治学の基礎的知識に基づいて思考し、国際社会を相対的に理解することができる。政治学的視点から国際問題を考察することで、現在日本の置かれている政治状況を把握することができる。グローバル時代の社会構造を意識し、国際社会で活躍するための素養を得ることができる。		
授業時間外の学習	講義は政治に馴染みのない人にも優しく解説するので、講義にのぞむための予備知識はいらないが、講義で扱う関連映像やパワーポイント、紹介する書籍から興味を持って、普段からニュースや新聞に目を向けてほしい。授業で扱う簡単な資料のまとめや感想などをもとめることがある。質問やレスポンスはメールでも受け付ける。		
評価方法	平常点（30％） 定期試験（70％）で評価する。 遠隔授業になった場合は、定期試験を小レポートに変更する。		
テキスト	基本的にプリント資料を配布（遠隔授業においては、電子媒体にて）。参考書籍や参考映像などについては授業時に指示。		

参考書	『国際政治―恐怖と希望―』高坂正堯 岩波新書 『国際政治史―主権国家体系のあゆみ』小川浩之・板橋拓己他 有斐閣ストゥディア 雑誌『フォーリンアフェアーズ』
備考	

講義科目名称： 時事問題入門

授業コード： 225003

英文科目名称： Current Affairs

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	現代の日本経済や世界経済を考えるうえで欠かすことのできないテーマである「経済活動のグローバリゼーション」「経済の金融化」「情報ネットワーク化する社会」「新自由主義と福祉社会」について取り上げ、そこで提起されている課題を共に考えていくことを目的としている。 指定するテキストの項目に沿って、データを重視して進めていく。また、各自、事前に各テーマに関する情報を収集し、要約を準備してくることになる。ただし、時事問題を扱うので、大きな出来事、事件等あれば適宜、取り上げていく。学習成果の指標はA-①です。 尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。
授業計画	1回目 時事問題のつかみ方 情報収集の仕方 2回目 情勢の変化とは 構造的変化と表層的变化 3回目 経済活動のグローバリゼーション 4回目 広がる企業の国際生産 5回目 「平成の開国」 貿易・投資を支える諸制度 6回目 小売業のグローバルな活動 7回目 新興国の台頭 BP0ビジネスと貧困 8回目 経済の金融化 国際金融市場の不安定化 9回目 金融自由化の原動力 銀行のビジネスモデルの変容 10回目 日本経済の構造変化と成長戦略 11回目 株主価値重視の経営 12回目 不安定雇用の増大 非正規雇用の急増 13回目 正規雇用の長時間労働 女性の労働 14回目 所得格差の拡大 15回目 経済情勢の行方
到達目標	就職試験並びに公務員試験の時事問題に対応する力を養成する。有権者として直面する社会的テーマにたいして自身の見解を持てるようにする。
授業時間外の学習	授業時前に資料を配布（直接またはオンライン上で）する場合があるので、その際は必ず目を通して来ること。毎日、新聞等を読み、興味のあるテーマを系統的に切り抜く作業をすることが望ましい。
評価方法	レポート発表40% 授業への意欲60% オンライン移行時には、授業態度40%、課題発表内容60%で評価します。
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	
備考	

講義科目名称： 日本語スキル

授業コード： 121002

英文科目名称： Communication Skill

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
加藤松次 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本授業はレポート作成に関する知識と技術の習得を目標とする。レポートは客観的な文章であり、主観が中心となる作文や意見文とは異なる文章作成技術が必要である。授業ではパソコンでレポートを作成する際に必要な形式、構成、表現、文献資料の引用方法、修正の仕方などを講義する。半期間でレポートを1本実作し、その過程でどのような知識や技術が必要かを学習してほしい。各回の授業は講義とアクティブ・ラーニングの組み合わせであり、アクティブ・ラーニングにはグループワークやレポートの相互添削が含まれる。アクティブ・ラーニングは安全に配慮しながら実施する。なお、学習成果の指標はA―①である。 本授業は対面授業で実施するが、遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。
授業計画	1 回目 ガイダンス、原稿用紙で自己紹介文を作成する 2 回目 客観的文章・主観的文章の違いを理解する 3 回目 文献資料の検索、引用の仕方を理解する 4 回目 レポートに適したテーマ、論点を考える 5 回目 レポートの形式、構成を理解する 6 回目 書きことばと話しことばの表現の違いを考える 7 回目 レポートのアウトラインを考える 8 回目 パソコンの機能を理解する 9 回目 レポートの序論・結論を考える 1 0 回目 レポートの本論を考える 1 1 回目 レポートの下書きを作成する 1 2 回目 レポートの下書きを相互添削して修正する 1 3 回目 レポートの清書を推敲する 1 4 回目 清書レポートを最終確認する 1 5 回目 まとめ
到達目標	1. レポートの形式、構成、表現、文献資料の引用方法などを理解して他者に説明できる。 2. 他者にとって理解しやすい表現を検討し、論証できる。 3. アクティブ・ラーニングにおいて他学生と協働して問題に取り組むことができる。
授業時間外の学習	各段階で必要な知識を復習する。レポート作成技術を習得するために、パソコンで課題に取り組む。
評価方法	授業理解度60％ レポート40％ 遠隔授業に変更になった場合でも評価方法に変更はない。
テキスト	テキストを使用せず。適宜資料を配付する。
参考書	宇野聖子・藤浦五月『大学生のための表現力トレーニング あしか』（ココ出版、2016年） 近藤裕子・由井恭子・春日美穂『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』（ひつじ書房、2019年） 桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング』（実教出版、2015年） 井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法』（慶応義塾大学出版会、2013年）
備考	学生の理解度によって講義の順番、内容、進度を調整することがある。

講義科目名称： ビジネス英語 I

授業コード： 124003

英文科目名称： Business English 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	英文経済情報へのアクセス方法を学び、英字新聞、英文雑誌の経済欄などから数値を中心としたとしたデータ収集が可能な程度の英語力の修得。 経済にかかわる記事、論文等を読みこなすに最低限必要な知識を習得する手段として、和書で入門書を読みつつ、適時それと平行して英文を読んでいくという方法をとる。学習成果の指標はA-①です。 尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。		
授業計画	1 回目 英文情報誌の見方 2 回目 economyのさまざまな意味 3 回目 businessとfinance 4 回目 お金とマネー 5 回目 稼ぐことにかかわる用法 6 回目 使うことにかかわる用法 7 回目 損得と貸借 8 回目 家計と消費 9 回目 家計の支出項目 1 0 回目 laborとwork 1 1 回目 サラリーマンは和製英語 1 2 回目 仕事のいろいろな表現 1 3 回目 賃金と収入 1 4 回目 地位、肩書き、キャリア 1 5 回目 要点の確認		
到達目標	就職活動において、以前にも増して英語力による選別が行われている。就職試験対応の基礎力の養成を目的とする。		
授業時間外の学習	授業の前週に定期的に英文雑誌等をコピーして配布する。授業当日、その内容についてコメントできる状態で臨むこと。		
評価方法	小テスト30%、授業への参加意欲70%。オンライン移行時には、授業態度40%、授業時小テスト60%で評価します。		
テキスト	適宜、プリントを配布する。		
参考書			
備考			

講義科目名称： ビジネス英語Ⅱ

授業コード： 232003

英文科目名称： Business English 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	英文経済情報へのアクセス方法を学び、英字新聞、英文雑誌の経済欄などから数値を中心としたデータ収集が可能な程度の英語力の修得。 経済にかかわる記事、論文等を読みこなすに最低限必要な知識を習得する手段として、和書で入門書を読みつつ、適時それと平行して英文を読んでいくという方法をとる。学習成果の指標はA-①です。 尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。		
授業計画	1 回目 会社の形態 2 回目 株式会社は多種多様 3 回目 企業の保有と出資 4 回目 企業の合併・買収 5 回目 資本と株主 6 回目 経営とスタッフ 7 回目 業績 8 回目 利益と損失 9 回目 財務諸表と経理 1 0 回目 生産とメーカー 1 1 回目 productivity 1 2 回目 生産物と goods 1 3 回目 サービスの語源とサービス行為 1 4 回目 マーケットと価格 1 5 回目 財政と予算		
到達目標	就職後のビジネス社会において必要とされる英文情報の収集、ならびに海外クライアントからのメール等への初歩的対応が可能な能力の育成。		
授業時間外の学習	ビジネス英文雑誌等のコピーを前週授業時に配布する。翌週の授業時にその内容についてコメントできるようにすること。		
評価方法	小テスト30% 授業への参加意欲70%。オンライン移行時には、授業態度40%、課題発表60%で評価します。		
テキスト	適宜、プリントを配布する。		
参考書			
備考			

講義科目名称： 日本文化史 I

授業コード： 143005

英文科目名称： Japanese Cultural History 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
歴史時代の始まりから鎌倉初期まで			
添付ファイル			

授業の概要	日本文化の歴史についての基礎学力を向上させ、歴史学的な視野を広めるとともに、文化への関心と問題意識の創出、及び分析能力の発達を促す。各時代の文化を象徴的なトピックスを中心に論説し、基礎知識を習得するとともに、毎回の授業で、受講生より各時代のレポート（筆記）を行ってもらい、問題点の提起力や報告の作成能力の向上、及び興味関心の深化をはかる。学習成果の指標はA-①③である。 全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。 なお、遠隔授業を実施する場合は、オンデマンド型のオンライン授業とする。
授業計画	1 回目 ガイダンス 授業の獲得目標と評価基準の説明 2 回目 飛鳥文化 蘇我・聖徳太子の政治と仏教の受容について 3 回目 白鳳文化 随・唐など大陸文化の吸収と仏教文化の展開について 4 回目 天平文化 奈良時代の政変と聖武天皇・光明皇后による大仏建立など仏教の国家的な役割について 5 回目 平安遷都と密教 いわゆる国風文化の実態と密教の導入について 6 回目 平安前期の文化 御霊信仰と御霊会を中心に 7 回目 平安時代の文化 2 本地垂迹説など神仏習合について 8 回目 国風文化 摂関政治とそこから創出されたサロン文化について 9 回目 浄土教の流行 浄土教の解説とその社会的・文化的影響について 1 0 回目 院政期の文化 1 院政の特質と芸能文化の創出について 1 1 回目 院政期の文化 2 後白河院政と和歌・今様・浄土信仰・宝物コレクション 1 2 回目 鎌倉文化 1 鎌倉新仏教の登場、浄土教の法然・浄土真宗の親鸞について 1 3 回目 鎌倉文化 2 鎌倉新仏教、日蓮宗の日蓮・時宗の一遍・臨済宗の栄西・曹洞宗の道元 1 4 回目 鎌倉文化 3 奈良仏師運慶・快慶の仏像彫刻について 1 5 回目 総括（到達点の確認など）
到達目標	短期大学生に必要とされる日本文化とその歴史について、基礎的な知識を獲得し、歴史学的な視野を広め、文化への関心と問題意識の創出、及び独自の視点・分析能力が身につく。
授業時間外の学習	授業の進捗にあわせ日本文化に関する文献を読み準備をし、授業後は内容の整理をすること。博物館・資料館など文化施設、及びそれらの展示会の見学。
評価方法	授業時の毎回のレポートを総合して評価する（100%） オンライン授業の場合も同様
テキスト	授業時にデータで配信する
参考書	林屋辰三郎『日本文化史』岩波書店、1988年 大隅和雄『日本文化史講座』吉川弘文館、2017年
備考	授業時毎回のレポートは、授業で教示した内容のまとめ、それに対する意見・疑問点を、それぞれに分けて記述することを課す。この際、授業内容と意見・疑問点を明確に区別することを重要とする。 展覧会の見学など野外学修を行うことがある。 実務教員：財団法人前田育徳会尊経閣文庫員として11年、国立民俗博物館共同研究員として7年勤務。

講義科目名称： 史学基礎演習 I

授業コード： 123005

英文科目名称： Seminar in Basic History 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	高校までの授業科目としての日本史は、暗記物としてのイメージが強いと思います。一方、短期大学で行う日本史の研究は全く別物です。研究とは自ら対象を定め、それを調べ、その結果を発表することです。本授業は、そのための基礎的な知識や方法・技術を身につけてもらうためのものです。発表は基本的には個人で行ってもらいます（個人報告については備考欄も参照のこと）。また、基礎的な知識については、講義を行います。講義の場合は、授業の後半は授業内容の要約などを行ってもらいます。なお、2回程度、オンデマンド型の授業を予定しています。 なお、学習成果の指標はA-①・②です。 全面遠隔授業になった場合、授業形態（同時・双方向型学修またはオンデマンド型学修）は、状況に応じて判断します。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 授業計画を説明したうえで、日光山の歴史について論じます 2 回目 「日本」とは何か?一都道府県・国郡制一 日本の国号や国郡制などについて講義します 3 回目 地名の由来を調べよう 日本史を学ぶうえで必要な基本的な辞典・事典を紹介し、それに基づいて出身地の歴史を調べてもらいます 4 回目 地名の由来をまとめよう レジュメの作り方を講義し、実際に前回調べた内容をレジュメ化してもらいます 5 回目 地名の由来を発表する① クラス・出席番号順で発表してもらいます。4 回目は全体の前半の学生に行ってもらいます。 6 回目 地名の由来を発表する② クラス・出席番号順で発表してもらいます。5 回目は全体の後半の学生に行ってもらいます。 7 回目 陰陽五行説と干支 東アジアの文化に影響を与えた陰陽五行説などについて講義します 8 回目 仏教と仏像 日本の文化に影響を与えた仏教について講義します 9 回目 民間信仰①一石塔一 道端や寺社の境内に建立されている石造物を事例に、庶民の文化史について講義します 1 0 回目 民間信仰②一石仏一 道端や寺社の境内に建立されている石造物を事例に、庶民の文化史について講義します 1 1 回目 寺社仏閣をフィールドワークするにあたって一寺社の建築物一 寺社の建築物とフィールドワークの仕方について講義します 1 2 回目 フィールドワーク 天候により、日程が変更になる可能性があります。 1 3 回目 絵馬から見える地域の歴史 寺社に奉納された絵馬の歴史と、絵馬から読み取れる人々の生活文化について論じます 1 4 回目 レポートの書き方 レポートの書き方について講義します 1 5 回目 校正の仕方 文章の校正の仕方について講義します		
到達目標	卒業研究を執筆するために必要である基本的な日本の文化に関する知識を身につけ、自分の言葉で説明することができる。 ネットの情報だけに頼るだけではなく、基本となる辞書を把握し、それを参考に調べて思考し、通説に基づいて説明することができる。 授業で得た知識をもとにフィールドワークを行ない、そこで持った疑問点を調べ、レポートとしてまとめ、説明することができる。		
授業時間外の学習	本講座は演習科目のため、学生に発表もおこなってもらいます。発表の準備は授業外で行ってください。担当者は発表日2日前までにレジュメを準備して、提出してください。なお、遠隔授業になった場合は、発表については動画を作成してもらいます。これも授業時間外で行ってください。 小テストは事前に内容を伝えるので、授業時間外に勉強して受験してください。不合格だった学生には、授業外で再テストを予定しています。		
評価方法	授業態度（50%）、レポート（50%）。授業態度には授業時の発表内容、小テストなども含みます。		

	また、講義のみで終わる授業では、コメントペーパーを記入してもら場合があります。コメント内容は、授業内容の要約に加え、（１）授業により新たな知見を得た場合、それがあなたにとってどのような意味があるのか？、（２）新たな知見を得て考えが変わった場合、具体的にどのような考えが、どのような考えに変わったのかまで書いてください。また、新たな知見がなかった場合は、該当回の授業内容をどこで学んだのかを書いてください。 単位レポートは秋semesterの必修科目、史学基礎演習Ⅱにおいて使用します。具体的にはプレゼンソフトとレジュメを使用して発表してもらいます。
テキスト	プリントを配布する。
参考書	参考文献は授業時に紹介する。
備考	本授業は演習科目であるため、一部の回では、学生に口頭発表してもらいます。事情により人前での報告が困難で配慮が必要な者は、事前に教員に相談してください。 受講生の数により、計画を変更することがあります。

講義科目名称： 史学基礎演習Ⅱ

授業コード： 222003

英文科目名称： Seminar in Basic History 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	史学基礎演習Ⅱでは、史学基礎演習Ⅰに引き続き、歴史研究の方法を身につけてもらいます。また、学生による作業や報告をメインに授業を進めていきます。発表は個人で行うもの、グループで行うものを1回ずつ計画しています（授業計画参照）。グループでの発表はメンバー内でのディスカッション、それをもとに課題設定、その調査結果の発表を行ってもらいます。 なお、学習成果の指標はA-①・②です。 全面遠隔授業になった場合、授業形態（同時・双方向型学修またはオンデマンド型学修）は、状況に応じて判断します。		
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 パワーポイントを利用した発表① 基本的には組・出席番号順で発表してもらいます。 第3回 パワーポイントを利用した発表② 基本的には組・出席番号順で発表してもらいます。 第4回 パワーポイントを利用した発表③ 基本的には組・出席番号順で発表してもらいます。 第5回 パワーポイントを利用した発表④ 基本的には組・出席番号順で発表してもらいます。 第6回 旧字・旧字・異体字 第7回 度量衡 オンデマンド型の授業を予定しています。 第8回 小テスト 第9回 学術論文の読み方 オンデマンド型の授業を予定しています。 第10回 学術論文の内容をまとめる 個人で論文の要約を作成してもらいます。 第11回 学術論文の内容を討論する グループで論文の内容について議論してもらいます。 第12回 学術論文の内容を発表する① 第13回 学術論文の内容を発表する② 第14回 手書きの文字が持つ情報 花押・印章や敬称など、書簡のやり取りで使用されてきたマナーについて論じます。 第15回 レポートの書き方		
到達目標	基本となる辞書・辞典を用いて、課題を調べることができる。 調べた内容を自分の言葉で、正しい日本語を用いて、論理的に発表できる。 自分が関心をもつテーマについての文献や史料を収集し、研究テーマを設定できる。		
授業時間外の学習	発表の準備は、授業外で行ない、授業時間までにレジュメを準備してください。また、第9回目の授業は、時間内に論文を読み、まとめる時間を作りますが、終わらなかった場合は、授業外で進めてください。 小テストについては、史学基礎演習Ⅰと同じく、事前に勉強し、不合格者は再テストを受けて合格してください。		
評価方法	授業態度50%、レポート50%。授業態度には発表と小テストを含みます。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考書	授業時に紹介する。		
備考	本授業は学生の発表を中心に進めるため、受講生数により、授業内容が変更になる場合があります。		

	事情により報告が困難で配慮が必要な学生は、事前に教員に相談すること。
--	------------------------------------

講義科目名称： 歴史資料論

授業コード： 232004

英文科目名称： Historical Materials

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	過去を探究することを目的とする歴史学において、その手がかりとなる歴史資料（史資料）について知ることは必要不可欠です。この授業では、古代から近現代にかけての基本的な史資料の形態、時代ごとの特質、読解方法の基礎について学び、最後にグループごとに興味のある史資料を選び、内容や背景を調べ、まとめてもらいます。史資料に関する基本的な知識を身に付け、さまざまな史資料からどのような情報を読み取ることができるのか、考えていきましょう。 なお、学習成果の指標はA-②です。 この授業は対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせで実施します。また、全体遠隔授業に移行した場合は②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施します。
授業計画	1 回目 ガイダンスー歴史研究と史資料についてー ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。 2 回目 古代の史資料（1）ー歴史書・古記録ー 3 回目 古代の史資料（2）ー儀式書・文書・木簡ー 4 回目 中世の史資料（1）ー文書・日記ー 5 回目 中世の史資料（2）ー文学・絵画ー 6 回目 レジュメの作り方 ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。 7 回目 近世の史資料（1）ー武家史料ー 8 回目 近世の史資料（2）ー町方史料・版本ー 9 回目 近現代の史資料（1）ー公文書・編纂物ー 1 0 回目 近現代の史資料（2）ー私文書（日記・書簡）と回想録・オーラルヒストリーー 1 1 回目 近現代の史資料（3）ー新聞・雑誌・写真・地図ー 1 2 回目 近現代の史資料（4）ー複数の史料を使った分析ー 1 3 回目 レジュメ提出とコメントの記入 1 4 回目 レジュメ批評（1） 1 5 回目 レジュメ批評（2）
到達目標	さまざまな史資料についての基本的な知識を身に付ける。 さまざまな史資料から情報を適切に読み取ることができる。 さまざまな史資料を用いてレジュメを作成することができる。
授業時間外の学習	発表や卒業研究に活かすため、予習より復習に重点を置いて取り組んでください。 発表の準備は授業時間外に行ってもらいます。授業でも史資料の探し方・調べ方やレジュメの作り方などは説明しますが、不明点・不安点は教員に積極的に質問してください。
評価方法	平常点（コメントペーパーや小テストなど）50%、レジュメ50% 遠隔授業の場合も評価方法は変更しません。
テキスト	教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。

備考	履修者の希望や感染状況等に応じて上記の授業方法を変更する可能性があります。 その場合はClassroom上でお知らせします。 実務教員：宮内庁書陵部期間業務職員として実録編纂及び刊行に関する業務に6年間従事。
----	--

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 333004

英文科目名称： Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
中 大輔 准教授			
日本古代史・東洋古代史			
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、日本古代史・東洋古代史で卒業研究をおこなう学生を対象としたものである。2年間で学んだことをふまえてテーマを定め、先行研究を参照しながら史料を分析・考察し、その結果を論文として執筆する。春semesterでは、卒業研究のテーマの設定、そのテーマに関する先行研究や史料の収集と分析方法を身につける。夏期休暇中にも具体的な先行研究・史料の収集や分析を進める。秋semesterでは史料の分析・考察を深め、論文を執筆する。卒業研究の過程では、受講生が進捗状況を個別に報告し、ディスカッションをおこなう。なお、学習成果の指標は A-②③である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroom）と、②同時・双方向型学修（Google Meet）を組み合わせて実施する。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 研究論文の書き方 3 回目 先行研究・史料を探す 4 回目 研究テーマの決定 5 回目 先行研究の整理①（受講生 A グループ） 6 回目 先行研究の整理②（受講生 B グループ） 7 回目 先行研究の整理③（受講生 C グループ） 8 回目 先行研究の整理④（受講生 D グループ） 9 回目 先行研究の整理⑤（受講生 E グループ） 1 0 回目 史料の収集と分析①（受講生 A グループ） 1 1 回目 史料の収集と分析②（受講生 B グループ） 1 2 回目 史料の収集と分析③（受講生 C グループ） 1 3 回目 史料の収集と分析④（受講生 D グループ） 1 4 回目 史料の収集と分析⑤（受講生 E グループ） 1 5 回目 夏期休暇中の研究計画発表（受講生全員） 1 6 回目 夏期休暇中の成果報告（受講生全員） 1 7 回目 卒業研究の経過報告①（受講生 A グループ：1 回目） 1 8 回目 卒業研究の経過報告②（受講生 B グループ：1 回目） 1 9 回目 卒業研究の経過報告③（受講生 C グループ：1 回目） 2 0 回目 卒業研究の経過報告④（受講生 D グループ：1 回目） 2 1 回目 卒業研究の経過報告⑤（受講生 E グループ：1 回目）		

	2 2 回目	卒業研究の経過報告⑥（受講生 A・B グループ：2 回目）
	2 3 回目	卒業研究の経過報告⑦（受講生 C・D グループ：2 回目）
	2 4 回目	卒業研究の経過報告⑧（受講生 E グループ：2 回目）
	2 5 回目	論文執筆の点検指導①（受講生：A・B・C グループ）
	2 6 回目	論文執筆の点検指導②（受講生：D・E グループ）
	2 7 回目	卒業論文の最終確認（受講生全員）
	2 8 回目	卒業研究要旨報告①（受講生 A・B グループ）
	2 9 回目	卒業研究要旨報告②（受講生 C・D グループ）
	3 0 回目	卒業研究要旨報告③（受講生 E グループ）
到達目標	自分の研究テーマに沿った先行研究や史・資料を収集して整理・分析することができる。 その上で自ら章立てを考えて論文が執筆できる。またプレゼンテーションをすることができる。	
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。 また史跡や遺跡などの現地調査を行うこと。さらに調査結果を整理して、ゼミにおける発表の準備をすること。	
評価方法	授業時の報告・ディスカッションへの参加（30%） 卒業研究（70%）	
テキスト	指定しない。受講生の報告にあたっては各自がレジュメを用意する。	
参考書	授業時に適宜指示する。	
備考	報告のスケジュールは受講生の人数によって変更する場合がある。	

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 333002

英文科目名称： Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
日本中世史			
添付ファイル			

授業の概要	論文を書くときの認識・方法・叙述を中心に講義を実施し、2年間の日本史学習の集大成である「卒業研究」に関し、より充実した成果をあげるための指導を行う。 具体的には、日本中世史の論文作成にあたって、論文の検索方法、課題の設定の仕方といった歴史学上の論文を作成するという課題にあたっての技術の習得を促し、参考文献・参考資料の収集方法や利用法などの基礎知識を講義し、卒業報告の中間報告とレポートにもとづいた具体的な指導を行う。 春semesterでは、題目提出にともなう先行研究の報告、および分析手段を確立するための史料報告の2回の個人報告を予定している。秋semesterでは、章立てと1章分の報告、別の1章分の報告を予定している。なお時間的な都合により、章立てと1章分の報告は、夏休み期間中に行う場合があるので、注意すること。 学習成果の指標はA-②③である。 なお、遠隔授業の場合は、双方向型のオンライン授業と課題学修を組み合わせ実施する。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 学術論文とはなにか（論文作成の視座） 3 回目 論文作成の手段（先行研究・参考文献・史料の利用法） 4 回目 先行研究の取りまとめ（個別報告と指導） 治承寿永の内乱 5 回目 先行研究の取りまとめ（個別報告と指導） 鎌倉幕府の成立 6 回目 先行研究の取りまとめ（個別報告と指導） 守護地頭制度 7 回目 先行研究の取りまとめ（個別報告と指導） 承久の乱と執権政治 8 回目 先行研究の取りまとめ（個別報告と指導） 元寇と幕府体制の動揺 9 回目 史料収集と読解指導 吾妻鏡 10 回目 史料収集と読解指導 平家物語 11 回目 史料収集と読解指導 玉葉 12 回目 史料収集と読解指導 太平記 13 回目 史料収集と読解指導 花園院宸記 14 回目 史料収集と読解指導 信長公記 15 回目 前半総括（後期への課題と到達点の整理） 16 回目 論文作成指導（論文・史料の引用等諸注意事項） 17 回目 概要報告・討論と指導 石母田正『中世的世界の成立』について 18 回目 概要報告・討論と指導 佐藤進一『鎌倉幕府訴訟制度の研究』について 19 回目 概要報告・討論と指導 石井進『中世のかたち』について 20 回目 概要報告・討論と指導 永原慶二『日本中世社会構造の基礎研究』について 21 回目 概要報告・討論と指導 網野善彦『日本中世土地制度の研究』について		

	2 2 回目 概要報告・討論と指導 菱沼一憲『中世将軍権力と地域社会』について 2 3 回目 概要報告・討論と指導 長村祥知『中世公武関係と承久の乱』について 2 4 回目 概要報告・討論と指導 保立道久『中世の王土高権と天皇・武家』について 2 5 回目 概要報告・討論と指導 山本隆志『東国における武家勢力の成立と展開』について 2 6 回目 概要報告・討論と指導 細川重男『鎌倉政権得宗専制論』について 2 7 回目 概要報告・討論と指導 質疑 2 8 回目 概要報告・討論と指導 総括 2 9 回目 卒論作成にあたって補助作業 3 0 回目 個別の反省点の指摘など
到達目標	自分の研究テーマに沿った先行研究や史・資料を収集して整理・分析することができる。その上で自ら章立てを考えて論文が執筆できる。またプレゼンテーションをすることができるようになる。
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。また史跡や遺跡などの現地調査を整理して、ゼミにおける発表の準備をすること。
評価方法	平常点。授業時レポートの内容やゼミ参加の状況で判断（20％）。及び提出された卒業論文（80％）を以て評価。 遠隔授業の場合も同様。
テキスト	授業時にプリントを配付する。
参考書	『日本中世入門 論文を書こう』（勉誠出版、2014年）。他、授業時に指示する。
備考	展示会の見学など野外学修を行うことがある。

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 333001

英文科目名称： Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
日本近世史	環境史	文化財	
添付ファイル			

授業の概要	本講座は、日本近世史で卒業研究を執筆する学生を対象としたものである。これまで学んだことを基に、テーマを定め、自ら調べ、考察し、研究をまとめてもらう。春セメスターでは、各自の研究テーマを決定し、その先行研究と史料の収集を行う。研究が一定程度進展したところで、各自のテーマに関する先行研究や分析した史料の個人発表を行う。 春セメスターの成果をもとに夏休み中も作業を進めてもらい、その成果は夏休みの後半に報告会を行い、発表してもらう。秋セメスターでは、各自の研究テーマに関し、夏季休暇中の成果の不足部分を補いつつ文章化してもらう。卒業研究提出後は、卒業研究発表会に向けた準備を行う。 なお、学生の報告時は、報告者と報告を聞いた学生と討論を行う。司会は学生が務めることとする。 学習成果の指標はA-②です。 全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修となります。
授業計画	1 回目 ガイダンスー学術論文の読み方ー 2 回目 近世史研究のための基礎的文献・論文の探し方 3 回目 研究テーマの決定 4 回目 先行研究レポート（1）ー受講生1・2・3ー 5 回目 先行研究レポート（2）ー受講生4・5・6ー 6 回目 先行研究レポート（3）ー受講生7・8・9ー 7 回目 先行研究レポート（4）ー受講生1・2・3ー *前回と違う先行研究を紹介する 8 回目 先行研究レポート（5）ー受講生4・5・6ー*前回と違う先行研究を紹介する 9 回目 先行研究レポート（6）ー受講生7・8・9ー*前回と違う先行研究を紹介する 10 回目 史料紹介（1）ー受講生1・2・3ー 11 回目 史料紹介（2）ー受講生4・5・6ー 12 回目 史料紹介（3）ー受講生7・8・9ー 13 回目 夏合宿訪問地に関する事前調査 14 回目 夏合宿訪問地に関する事前調査の成果発表 15 回目 春セメスターのまとめ 16 回目 夏季休暇中の成果報告（1）ー受講生1・2・3ー 17 回目 夏季休暇中の成果報告（2）ー受講生4・5・6ー 18 回目 夏季休暇中の成果報告（3）ー受講生7・8・9ー 19 回目 卒業研究に関する史料紹介（4）ー受講生1・2・3ー *前回と違う史料を紹介する

	20回目	卒業研究に関する史料紹介（5）―受講生4・5・6―	*前回と違う史料を紹介する
	21回目	卒業研究に関する史料紹介（6）―受講生7・8・9―	*前回と違う史料を紹介する
	22回目	夏合宿の成果をまとめる	
	23回目	卒業研究の書き方	
	24回目	文章指導（1）―受講生1・2・3・4・5―	
	25回目	文章指導（2）―受講生6・7・8・9―	
	26回目	1年生の報告を受けてのディスカッション	
	27回目	卒業研究発表会に向けて	
	28回目	卒業研究口頭発表（1）―受講生1・2・3―	
	29回目	卒業研究口頭発表（2）―受講生4・5・6―	
	30回目	卒業研究口頭発表（3）―受講生7・8・9―	
到達目標	各自の研究テーマに沿った先行研究や史・資料を収集して整理・分析することができる。 その上で自ら章立てを考えて、論文が執筆できる。またプレゼンテーションをすることができる。		
授業時間外の学習	授業時の発表や卒業研究執筆のための作業は授業外に行ってもらふ。各自の研究テーマに関する調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。また史跡や遺跡などの現地調査を行う。文化財の調査も計画している。		
評価方法	発表（授業時、夏季休暇中）30%、発表に対する質問10%、卒業研究60%		
テキスト	なし。ただし、発表時に自らが受けた助言・質問や、研究をすすめるにあたって受けた指導を書き留めるノートを必ず準備してください。		
参考書	授業時に指示する		
備考	口頭報告について、配慮を要する学生は、事前に教員に相談してください。		

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 333003

英文科目名称： Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	本講座は、日本近現代史で卒業研究を執筆する学生を対象とします。これまで学んだことを踏まえて各自でテーマを定め、調べ、考察したことを文章にまとめます。 春セメスターでは、先行研究の探し方・読み方・まとめ方、関連史料の収集・分析方法などについて講義し、テーマの設定や先行研究の整理、史料の収集を進め、これらをまとめ、報告することで、テーマと全体の構成を明確にして夏季休暇中に具体的に考察するための準備を整えます。 秋セメスターでは、夏季休暇中の成果を発表した後、論文の書き方について講義し、不足部分を調整しながら考察した内容を文章にまとめていきます。卒業研究提出後は、卒業研究発表会に向けた準備を行います。 なお、学習成果の指標はA-②とA-③です。 この授業は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施します。		
授業計画	1 回目	ガイダンス 論文の書き方①—先行研究のまとめ方、史料の探し方—	
	2 回目	テーマと先行研究・史料状況に関する報告（1） 受講生1・2	
	3 回目	テーマと先行研究・史料状況に関する報告（2） 受講生3・4	
	4 回目	テーマと先行研究・史料状況に関する報告（3） 受講生5・6	
	5 回目	テーマと先行研究・史料状況に関する報告（4） 受講生7	
	6 回目	論文の書き方②—題目と章立ての作り方—	
	7 回目	全体構想と章別の構想についての報告（1） 受講生1・2・3	
	8 回目	全体構想と章別の構想についての報告（2） 受講生4・5	
	9 回目	全体構想と章別の構想についての報告（3） 受講生6・7	
	1 0 回目	論文の書き方③—史料の読み方、分析方法—	
	1 1 回目	関連史料についての報告（1） 受講生1・2	
	1 2 回目	関連史料についての報告（2） 受講生3・4	
	1 3 回目	関連史料についての報告（3） 受講生5・6	
	1 4 回目	関連史料についての報告（4） 受講生7	
	1 5 回目	論文の書き方④—文章・体裁—	
	1 6 回目	ガイダンス、課題の説明	
	1 7 回目	1年生のテーマ案報告とディスカッション	
	1 8 回目	夏季休暇中の成果報告（1） 受講生1・2・3	
	1 9 回目	夏季休暇中の成果報告（2） 受講生4・5	
	2 0 回目	夏季休暇中の成果報告（3） 受講生6・7	

	2 1 回目 1年生の論文要約報告とディスカッション (1) 2 2 回目 1年生の論文要約報告とディスカッション (2) 2 3 回目 1年生の論文要約報告とディスカッション (3) 2 4 回目 研究報告 (1) 受講生1・2 2 5 回目 研究報告 (2) 受講生3・4 2 6 回目 研究報告 (3) 受講生5・6 2 7 回目 研究報告 (4) 受講生7 2 8 回目 卒業研究要旨報告 (1) 受講生1・2・3・4 2 9 回目 卒業研究要旨報告 (2) 受講生5・6・7 3 0 回目 卒業研究発表会の準備
到達目標	自分の研究テーマに沿った先行研究や史・資料を収集して整理・分析することができる。 その上で自ら章立てを考えて論文が執筆できる。またプレゼンテーションをすることができる。
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する調査をインターネットなどを活用して行うこと。さらに調査結果を整理して、ゼミにおける報告の準備をすること。
評価方法	授業時の報告・質問30%、卒業研究70%を総合的に判定します。 遠隔授業の場合も評価方法は変更しません。
テキスト	適宜配布します。
参考書	適宜紹介します。
備考	受講生の人数や状況等に応じて上記の授業方法を変更する可能性があります。 その場合はClassroom上でお知らせします。

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 333005

英文科目名称： Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
大工原 豊 教授			
日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	この授業では考古学の論文の書き方を学びます。先行研究を分析して課題を見出し、資料を収集・操作して一定の結論を得る過程を実践します。 前期は自身のテーマ設定・課題を絞り込むことを目的に関連する論文を読んで発表してもらいます。後期は自身で資料を収集し、分析した成果を逐次報告してもらいます。 専門分野の学びを基にして、卒業研究宇・ゼミ論を論理的に作成できる。学習成果の指標はA－②です。 遠隔授業の場合、同時・双方向型で行います。		
授業計画	1 回目	卒業研究の進め方 ・提出までの具体的な実施計画についての解説	
	2 回目	卒業研究の目的について ・目的、問題の所在についての執筆	
	3 回目	研究テーマの学史研究（1） ・研究テーマの学史について調べ、年表を作成する	
	4 回目	研究テーマの学史研究（2） 研究テーマの学史についてまとめる	
	5 回目	研究テーマの学史研究（3） 研究テーマの学史についてまとめる	
	6 回目	研究の実践（1） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成	
	7 回目	研究の実践（2） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成	
	8 回目	研究の実践（3） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成	
	9 回目	研究の実践（4） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成	
	1 0 回目	研究の実践（5） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成	
	1 1 回目	研究の実践（6） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成	
	1 2 回目	研究の実践（7） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成	
	1 3 回目	研究の実践（8） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成	
	1 4 回目	研究の中間発表（1） ・各自の研究の進捗状態についての発表 ・夏期休暇中の研究活動についての発表	
	1 5 回目	研究の中間発表（2） ・各自の研究の進捗状態についての発表 ・夏期休暇中の研究活動についての発表	
	1 6 回目	夏期休暇中の研究成果の確認（1） ・夏期休暇中に行った研究活動（実資料見学・遺跡見学等）についての発表 ・課題と問題点の整理（研究計画の修正など）についての発表	

	1 7 回目 夏期休暇中の研究成果の確認（２） ・夏期休暇中に行った研究活動（実資料見学・遺跡見学等）についての発表 ・課題と問題点の整理（研究計画の修正など）についての発表 1 8 回目 研究の実践（９） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成 1 9 回目 研究の実践（１０） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成 2 0 回目 研究の実践（１１） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成 2 1 回目 研究の実践（１２） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成 2 2 回目 研究の実践（１３） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成 2 3 回目 研究の実践（１４） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成 2 4 回目 研究の実践（１５） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成 2 5 回目 研究の実践（１６） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成 2 6 回目 研究の実践（１７） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成 2 7 回目 研究成果の要約（１） 2 8 回目 研究成果の要約（２） 2 9 回目 研究成果の公表（１） 3 0 回目 研究成果の公表（２）
到達目標	自分の研究テーマに沿った先行研究や史・資料を収集して整理・分析することができる。 その上で自ら章立てを考えて論文が執筆できる。またプレゼンテーションをすることができる。
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと、また史跡や遺跡などの現地調査を行う。さらに調査成果を整理して、ゼミにおける発表の準備をすること。
評価方法	前期・後期ともに平常点（遠隔の場合も同様）
テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 343001

英文科目名称： Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
新保良明 講師			
添付ファイル			

授業の概要	春セメスターでは、卒業論文を作成するための準備を行う。 卒業論文作成に向けて、論文〈レポート〉の書き方・テーマ決定・先行研究の調査と輪読などの演習を行う。 秋セメスターでは、卒業論文を作成する。 卒業論文作成に向けて、個別報告・文章指導を行う。 なお、学習成果の指標はA-①・②です。 全面遠隔授業になったときは、同時・双方向型学修となります。		
授業計画	1 回目 オリエンテーション：何を取り上げたいのか 2 回目 研究とは何をするのか？ ーテキストの輪読①ー 3 回目 研究に必要な資質 ーテキストの輪読②ー 4 回目 研究テーマの設定 ーテキストの輪読③ー 5 回目 問題設定と仮説 ーテキストの輪読④ー 6 回目 先行研究を調べる ーテキストの輪読⑤ー 7 回目 卒業研究の構成 ーテキストの輪読⑥ー 8 回目 論文執筆の作法 ー註の付け方と表記ー 9 回目 研究テーマにそった資料・文献の選択 1 0 回目 文献（著書または雑誌論文）内容の報告 1 1 回目 文献（著書または雑誌論文）のなかの資料探索 1 2 回目 論文構成（問題提起と結論）を考える 1 3 回目 論文構成（組み立て・章別編成など）を考える 1 4 回目 卒業研究のテーマ・内容の発表 1 5 回目 まとめー卒業論文の枠組みができる 1 6 回目 テーマおよび論文構成の再検討①ー問題提起 1 7 回目 テーマおよび論文構成の再検討②ー章別編成 1 8 回目 文献（雑誌論文）内容のメモをとる 1 9 回目 メモ用紙・コピー用紙の整理法 2 0 回目 問題提起を文章にする 2 1 回目 章別編成作成のための資料・メモの選別 2 2 回目 個別報告ー問題提起・章別編成・結論の要約		

	2 3 回目 卒業論文作成と文章指導① 2 4 回目 卒業論文作成と文章指導② 2 5 回目 卒業論文作成と文章指導③ 2 6 回目 卒業論文作成と文章指導④－問題提起と結論の執筆 2 7 回目 卒業論文作成と文章指導⑤－論文全体の構成と内容のチェック 2 8 回目 卒業研究報告会の準備①－口頭発表 2 9 回目 卒業研究報告会の準備②－ポスター発表 3 0 回目 卒業論文の内容チェックとまとめ
到達目標	自分の研究テーマに沿った先行研究や史・資料を収集して整理・分析することができる。その上で自ら章立てを考えて論文を執筆できる。また卒業研究のプレゼンテーションをすることができる。
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する調査を短大図書館や国会図書館・地域の図書館などを利用して行うこと。参考文献を読むこと。さらに調査結果を整理して、ゼミにおける発表の準備をすること。
評価方法	春semesterでは、平常点（課題に対する取り組み、報告など）で評価する。 秋semesterでは、平常点（課題に対する取り組み、報告など）30%、卒業研究論文の教務課提出締め切り日 前の提出20%、卒業論文の内容50%で評価する。 全面遠隔授業となった場合、平常点40%、卒業研究論文60%で評価する。
テキスト	沼崎一郎『はじめての研究レポート作成術』岩波書店（岩波ジュニア新書）、2018年
参考書	河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会、2002年 白井敏明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房、2013年
備考	

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 333006

英文科目名称： Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
渡辺瑞穂子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	卒業論文作成のための基礎的作業（テーマの設定・先行研究の把握・論文の書き方）を行う。 卒業論文作成に向けて、論文の書き方(章立て・引用文献・註の付け方)の指導を行う。 ①研究テーマを設定し、それに関連する先行研究と史料蒐集を行う。特に、先行研究・史料の読み方・文献引用方法などを指導する。さらに集めた文献・史料を、分析し正しい情報を確定し、それらを系統的・論理的に考察する力を養う。 ②論文作成に向けて具体的に論文の構想・先行研究・史料並びに文献引用の仕方・註の付け方・レジュメ作成・プレゼンテーションの方法などの指導を行う。 本講座は対面授業を基本とする。 遠隔授業の場合は、①課題型学修(Google Classroomを利用)、②双方向型学修(Google Meetを利用)で実施する。 学習成果の指標はA - ②と③である。
授業計画	1 回目 研究テーマの設定 2 回目 研究関連論文・資料などの調査 3 回目 先行研究の史料蒐集 4 回目 先行研究の分析と課題 5 回目 論文の読み方 6 回目 史料の読み方 7 回目 引用文献を原典にあたる 8 回目 先行学説のまとめ 9 回目 先行研究の分析と課題 1 0 回目 研究テーマの確定（副題を含む） 1 1 回目 学術的文章の書き方 1 2 回目 論文作成と文章指導 1 3 回目 史料・参考文献の引用法 1 4 回目 註記の書き方 1 5 回目 章立ての検討 1 6 回目 「初めに」・「終わりに」の書き方 1 7 回目 卒論の中間報告 1 8 回目 グループ討議 1 9 回目 中間報告の問題点と指導 2 0 回目 章ごとの内容確認

	2 1 回目 「初めに」・「終わりに」の内容確認 2 2 回目 各論文の作表・図表の確認 2 3 回目 成果報告：論文作成指導 2 4 回目 成果報告作成の問題点と指導 2 5 回目 成果報告書作成 2 6 回目 成果報告発表 2 7 回目 成果報告発表の問題点と指導 2 8 回目 レジューメ作成法 2 9 回目 プレゼンテーションの方法 3 0 回目 卒論の合評会
到達目標	各自の研究テーマに沿った先行研究や史・資料を収集して整理・分析することができる。その上で自ら章立てを考えて論文が執筆できる。また、その論文に基づいたプレゼンテーションをすることができる。
授業時間外の学習	各自の研究テーマに関する調査を図書館・資料館・博物館を利用して行うこと。また史跡や遺跡などの現地調査を行う。さらに調査研究を整理して、ゼミにおける発表の準備をすること。
評価方法	発表（50%） 課題レポート（50%） 遠隔授業に変更した場合はレポート（50%）平常点（50%）
テキスト	授業時指示
参考書	授業時指示
備考	

講義科目名称： 卒業研究入門

授業コード： 233019

英文科目名称： Introduction to Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	自フィールド必修
担当教員			
中 大輔 准教授			
日本古代史・東洋古代史			
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、日本古代史・東洋古代史で卒業研究をおこなおうとする学生を対象としたものである。2年生で作成する卒業研究の準備として、研究テーマの設定、そのテーマに関する史・資料の収集と分析方法などの基礎的な学習をおこなう。前半は、2年生の卒業研究経過報告を聞き、ディスカッションに参加することで研究方法を具体的に身につける。後半は、自分が興味をもった研究テーマについてレポートを作成し、報告をおこなう。なお、学習成果の指標は A-②③である。 本授業は、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroom）と、②同時・双方向型学修（Google Meet）を組み合わせて実施する。		
授業計画	1 回目 第 1 次テーマの個別相談 1 年生秋セメスターの卒業研究のテーマを第 1 次テーマとする。2 年生の春セメスターには、第 2 次テーマを決定する。 2 回目 学術論文とは何か、2 年生のディスカッションへの参加 3 回目 古代史の基礎史料、2 年生のディスカッションへの参加 4 回目 先行研究の検索方法、2 年生のディスカッションへの参加 5 回目 史料の読み方、2 年生のディスカッションへの参加 6 回目 史料の検索方法、2 年生のディスカッションへの参加 7 回目 考古資料の利用法、2 年生のディスカッションへの参加 8 回目 出土文字資料の利用法、2 年生のディスカッションへの参加 9 回目 論文の章立てと文章、2 年生のディスカッションへの参加 1 0 回目 研究テーマ報告①（受講生 A グループ） 1 1 回目 研究テーマ報告②（受講生 B グループ） 1 2 回目 研究テーマ報告③（受講生 C グループ） 1 3 回目 2 年生の卒業研究要旨報告のディスカッション① 1 4 回目 2 年生の卒業研究要旨報告のディスカッション② 1 5 回目 2 年生の卒業研究要旨報告のディスカッション③		
到達目標	自分の研究テーマを「主体的」に選び、先行研究や史・資料、先行研究論文を収集して整理・分析することができる。 学習したことを適切で正しい日本語による「自己表現能力」、すなわち論文を執筆し発表することができる。 この授業を通じて「培った教養を社会生活において活かすこと」を論ずることができる。		
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する基礎的な調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。また史跡や遺跡などの現地調査を積極的に行うこと。さらに調査結果を整理して、授業における発表の準備をすること。		
評価方法	授業時の報告・ディスカッションへの参加（30%） 学期末レポート（70%）		
テキスト	指定しない。受講生の報告にあたっては各自がレジュメを用意する。		
参考書	『テーマで学ぶ日本古代史』政治・外交編／社会・史料編（吉川弘文館）		
備考	報告のスケジュールは受講生の人数によって変更する場合がある。		

講義科目名称： 卒業研究入門

授業コード： 233017

英文科目名称： Introduction to Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	自フィールド必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
日本中世史			
添付ファイル			

授業の概要	2年生で作成する卒業研究の準備として、研究テーマの設定、そのテーマに関する史・資料の収集と分析方法などの基礎的な学習を行う。具体的には2年生を交えた卒業論文準備報告会に出席し、報告内容を理解し討議に参加する。さらに課題図書のまとめとレポートの口頭報告をしてもらう。 学習成果の指標はA-②③である。 遠隔授業の場合は、双方向型のオンライン授業と課題学修の組み合わせで行う。	
授業計画	1 回目	第1次テーマの個別相談 1 年生秋セメスターの卒業研究のテーマを第1次テーマとします。2 年生の春セメスターには、第2次テーマを決定します。
	2 回目	第1次テーマの決定と進め方について
	3 回目	第1次テーマの先行研究の調査方法の指導
	4 回目	第1次テーマに関する史・資料の収集
	5 回目	東京大学史料編纂所データベースの利用法、及び2 年生の第1回発表（受講生 1・2 番）を聞き、ディスカッションを行う。
	6 回目	論文の調べ方、特にインターネットを利用して、及び2 年生の第1回発表（受講生 3・4 番）を聞き、ディスカッションを行う。
	7 回目	史料の検索方法について、及び2 年生の第1回発表（受講生 5 番）を聞き、ディスカッションを行う。
	8 回目	史料読解の方法について、及び2 年生の第 2 回発表（受講生 1・2 番）を聞き、ディスカッションを行う。
	9 回目	史料解釈と論理展開について、及び2 年生の第 2 回発表（受講生 3・4 番）を聞き、ディスカッションを行う。
	1 0 回目	先行研究の検索方法とその注意点、及び2 年生の第 2 回発表（受講生 5 番・6 番）を聞き、ディスカッションを行う。
	1 1 回目	卒業論文の章立ての原則について、及び2 年生の第 2 回発表（受講生 8・9 番）を聞き、ディスカッションを行う。
	1 2 回目	現地調査とその方法、及び次 2 年生の第 2 回発表（受講生 1 0）を聞き、ディスカッションを行う。
	1 3 回目	古地図の利用と入手方法、及び第1回、個別（発表者 1・2・3）発表と学生相互のディスカッション
	1 4 回目	金石文の種類と利用方法、及び第2回、個別（発表者 4・5・6）発表と学生相互のディスカッション
	1 5 回目	総括・これまでの講義内容の理解確認、及び第3回、個別（発表者 7・8・9）発表と学生相互のディスカッション
到達目標	自分の研究テーマを「主体的」に選び、先行研究や史・資料を収集して整理・分析する「基礎力能力」を身に付けられる。さらに学習したことを適切で正しい日本語による「自己表現能力」、すなわち論文の執筆と発表力を身に付け、この授業を通じて「培った教養を社会生活において活かすことができる」ようになることを目標とする。	
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する先行研究、つまり論文・著書を探し入手して読んでおくこと。ただし余りテーマを絞りすぎると研究の広がりがなくなるので、少しひろく興味のあるテーマに目を向けてほしい。	
評価方法	授業時の発表の評価（30%）、単位レポートの評価（70%）を合わせて総合的に判定する。	

	遠隔授業の場合でも同様。
テキスト	人物叢書（吉川弘文館）や日本史リブレット（山川書店）より各自選択してもらう
参考書	『日本中世入門 論文を書こう』（勉誠出版、2014年）。他、適宜指示する。
備考	展覧会の見学など野外学修を行うことがある。

講義科目名称： 卒業研究入門

授業コード： 233016

英文科目名称： Introduction to Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	自フィールド必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
日本近世史	環境史	文化財	
添付ファイル			

授業の概要	本講座は、日本近世史の卒業研究の執筆指導を行います。2年生で作成する卒業研究の準備として、研究テーマの設定、そのテーマに関する史・資料の収集と分析方法などの基礎的な学習を行います。 各学生の報告をもとに、討論や指導を行い、近世史の知識も深めてもらいます。報告は個人報告で、卒業研究・卒業研究入門受講生が順番に行いますが、報告者以外は1つの報告に対し、最低1つの質問または意見を述べてもらいます。なお、その際の司会は受講生に行ってもらいます。研究テーマは個々人で異なりますが、近世という時代の枠組みは同じです。同時代のことなので、知らないことはノートにメモし、近世に関する知識を深め、自らの研究に役立ててください。 学習成果の指標はA-①・②です。 全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修となります。
授業計画	1 回目 第1次テーマに関して（1）一受講生1・2・3ー 2年生の卒業研究のテーマ、報告内容を元にどのような卒業研究のテーマにするか、ディスカッションを行う。 2 回目 第1次テーマに関して（2）一受講生4・5・6ー 2年生の卒業研究のテーマ、内容を元にどのような卒業研究のテーマにするか、ディスカッションを行う。 3 回目 第1次テーマに関して（3）一受講生7・8・9ー 2年生の卒業研究のテーマ、内容を元にどのような卒業研究のテーマにするか、ディスカッションを行う。 4 回目 2年生の報告内容に基づき、近世史料の解釈に関する指導（1） 2年生の受講生1・2・3が紹介した史料をもとに、史料解読方法を指導する 5 回目 2年生の報告内容に基づき、近世史料の解釈に関する指導（2） 2年生の受講生4・5・6が紹介した史料をもとに、史料解読方法を指導する 6 回目 2年生の報告内容に基づき、近世史料の解釈に関する指導（3） 2年生の受講生7・8・9が紹介した史料をもとに、史料解読方法を指導する 7 回目 夏合宿の成果をまとめる 8 回目 卒業研究の書き方 日本史の論文の体裁などを、講義する 9 回目 先行研究を収集する 10 回目 先行研究をまとめる 11 回目 先行研究を口頭発表する（1）一受講生1・2・3・4・5ー 12 回目 先行研究を口頭発表する（2）一受講生6・7・8・9ー 13 回目 2年生の発表を聞き、ディスカッションを行う（1） 2年生の受講生1・2・3が報告した内容をもとに討論をおこなう 14 回目 2年生の発表を聞き、ディスカッションを行う（2） 2年生の受講生4・5・6が報告した内容をもとに討論をおこなう 15 回目 2年生の発表を聞き、ディスカッションを行う（3） 2年生の受講生7・8・9が報告した内容をもとに討論をおこなう
到達目標	自分の研究テーマを「主体的」に選び、先行研究や史・資料を収集して整理・分析する「基礎力能力」を身につける。さらに学習したことを適切で正しい日本語による「自己表現能力」、すなわち論文の執筆と発表力を習得する。以上から、卒業研究で行いたいテーマについて、レポートとしてまとめることができる。 また、他者の発表を正確に聞き取り、それをもとに討論を行い、生産的な議論をし、近世史に対する理解を深めることができる。
授業時間外の学習	卒業研究のテーマや発表などの準備について、授業時間外に進め、不明な点は指導教員に相談に来て下さい。 授業時には、各自のテーマに関係のある、山川出版社の日本史リブレット、吉川弘文館の人物叢書の内容を発表してもらいます。

	自分の研究テーマに関する基礎的な調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。さらに調査結果を整理して、授業における発表の準備をすること。また、他の受講生の研究テーマに関する学習や、史跡や遺跡などの現地調査を積極的に行い、近世史に関する知識を深めること。
評価方法	授業時の発表50%、単位レポート50%を総合的に判定します。
テキスト	なし。ただし、発表時に自らが受けた助言・質問や、研究をすすめるにあたって受けた指導を書き留めるノートを必ず準備してください。
参考書	山川出版社の日本史リブレットシリーズ 吉川弘文館の人物叢書シリーズ その他は、適宜指示します。
備考	受講生の人数により授業計画を変更することがあります。 口頭報告について、配慮を要する学生は、事前に教員に相談してください。

講義科目名称： 卒業研究入門

授業コード： 233018

英文科目名称： Introduction to Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	自フィールド必修
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	2年生で作成する卒業研究の準備として、研究テーマの設定、そのテーマに関する史・資料の収集と分析方法などの基礎的な学習を行います。本講座は、日本近代史の卒業論文の執筆指導を行います。 なお、学習成果の指標はA-②とA-③です。 授業は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施します。		
授業計画	1 回目 ガイダンスー第1次テーマの個別相談 1 年生秋セメスター時点での卒業研究のテーマを第1次テーマとします。2 年生の春セメスターには、第2次（最終）テーマを決定します。 2 回目 テーマ案報告 3 回目 2年生の夏季成果報告を聞く（1） 4 回目 2年生の夏季成果報告を聞く（2） 5 回目 2年生の夏季成果報告を聞く（3） 6 回目 論文の要約報告（1） 受講生1・2 7 回目 論文の要約報告（2） 受講生3・4 8 回目 論文の要約報告（3） 受講生5・6 9 回目 2年生の研究報告を聞き、ディスカッションを行う（1） 1 0 回目 2年生の研究報告を聞き、ディスカッションを行う（2） 1 1 回目 2年生の研究報告を聞き、ディスカッションを行う（3） 1 2 回目 2年生の研究報告を聞き、ディスカッションを行う（4） 1 3 回目 2年生の卒業研究要旨報告を聞き、批評する（1） 1 4 回目 2年生の卒業研究要旨報告を聞き、批評する（2） 1 5 回目 研究テーマの確定に向けて		
到達目標	自分の研究テーマを「主体的」に選び、先行研究や史・資料を収集して整理・分析する「基礎的能力」を身につける。さらに学習したことを適切で正しい日本語にする「自己表現能力」、すなわち論文の執筆と発表力を身につける。合わせてこの授業を通じて「培った教養を社会生活において活かすことができる」ことを目標とする。		
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する基礎的な調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。また史跡や遺跡などの現地調査を積極的に行うこと。さらに調査結果を整理して、授業における報告やレポートの準備をすること。		
評価方法	授業時の発表30%、単位レポート70%を総合的に判定します。 遠隔授業の場合も評価方法は変更しません。		
テキスト	適宜配布します。		
参考書	適宜紹介します。		
備考	受講生の人数や状況等に応じて上記の授業方法を変更する可能性があります。 その場合はClassroom上でお知らせします。		

講義科目名称： 卒業研究入門

授業コード： 233020

英文科目名称： Introduction to Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	自フィールド必修
担当教員			
大工原 豊 教授			
日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	2年生で作成する卒業研究の準備として、研究テーマの設定、そのテーマに関する史・資料の収集と分析方法などの基礎的な学習を行います。本講座は、考古学分野（旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代および古代・中世・近世・近代の考古学的研究）の卒業論文の執筆にむけての指導を行います。具体的には2年生の発表を聞いたり、考古学の基礎知識としての遺跡紹介文を読みながら、考古学資料としてのポイントを説明します。 専門分野の学びを基にして、卒業研究宇・ゼミ論を論理的に作成できる。学習成果の指標はA－②です。 遠隔授業の場合、同時・双方向型で行います。		
授業計画	1回目	考古学の卒業研究では何を行うか？ 考古学の論文の書き方 卒業研究を書くための各種ソフトの紹介	
	2回目	卒業研究で使う地図ソフト 分布図を作成するための地図ソフトの準備と使用方法の解説	
	3回目	卒業研究で使う図版作成ソフト（1） グラフィックソフトの種類と使用準備	
	4回目	卒業研究で使う図版作成ソフト（2） グラフィックソフトの操作方法の解説と実習	
	5回目	卒業研究で使用する文献の収集方法（1） ・参考館に収蔵されている報告書・図録等の閲覧	
	6回目	卒業研究で使用する文献の収集方法（2） ・本館に収蔵されている報告書・雑誌等 ・図書館に収蔵されている雑誌・概説書・専門書 ・研究室に収蔵されている雑誌・概説書・専門書	
	7回目	卒業研究で使用する文献の収集方法（3） ・大学外の文献の収集方法（埋文センター、国会図書館等）	
	8回目	卒業研究のテーマ選び（1） ・時期ごとの編年資料の紹介 ・自分の研究したい時期・分野の検討	
	9回目	卒業研究のテーマ選び（2） ・栃木県の概説書と研究雑誌の閲覧	
	10回目	卒業研究のテーマ選び（3） ・各自の研究テーマの希望を発表（第一次希望）	
	11回目	卒業研究の計画作成（1） ・研究計画書の作成	
	12回目	卒業研究の計画作成（2） ・研究計画書の作成	
	13回目	卒業研究の文献収集作業（1） ・各自の研究で使用する文献の収集作業	
	14回目	卒業研究の文献収集作業（2） ・各自の研究で使用する文献の収集作業	
	15回目	研究テーマの発表 ・各自の研究テーマを発表する	
到達目標	自分の研究テーマを「主体的」に選び、先行研究や史・資料を収集して整理・分析する「基礎力能力」を身につける。さらに学習したことを適切で正しい日本語による「自己表現能力」、すなわち論文の執筆と発表力を身につける。合わせてこの授業を通じて「培った教養を社会生活において活かすことができる」ことを目標とする。		
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する基礎的な調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。また史跡や遺跡などの現地調査を積極的に行うこと。さらに調査結果を整理して、授業における発表の準備をすること。		
評価方法	質疑や発表の内容を総合的に判定します（遠隔の場合も同様）。		
テキスト	報告をするときには、レジュメを各自用意すること。		
参考書	適宜指示します。		
備考	受講生の人数により授業計画を変更することがあります。		

講義科目名称： 卒業研究入門

授業コード： 233021

英文科目名称： Introduction to Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	自フィールド必修
担当教員			
渡辺瑞穂子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	2 年生で作成する卒業研究の準備として、研究テーマの設定、そのテーマに関する史・資料の収集と分析方法などの基礎的な学習を行う。本講座は、宗教と古代祭祀の卒業論文の執筆指導をする。 本講座は対面授業を基本とする。 遠隔授業の場合は、①課題型学修(Google Classroomを利用)、②双方向型学修(Google Meetを利用)で実施する。 学習成果の指標はA - ②と③である。
授業計画	1 回目 第1次テーマの個別相談 2 回目 第1次テーマの決定と進め方 3 回目 第1次テーマの先行研究の調査方法の指導 4 回目 第1次テーマに関する史・資料の収集 5 回目 2 年生の第1回発表（受講生 1・2 番）を聞き、ディスカッションを行う。 6 回目 2 年生の第1回発表（受講生 3・4 番）を聞き、ディスカッションを行う。 7 回目 2 年生の第1回発表（受講生 5 番）を聞き、ディスカッションを行う。 8 回目 2 年生の第 2 回発表（受講生 1・2 番）を聞き、ディスカッションを行う。 9 回目 2 年生の第 2 回発表（受講生 3・4 番）を聞き、ディスカッションを行う。 1 0 回目 2 年生の第 2 回発表（受講生 5 番）を聞き、ディスカッションを行う。 1 1 回目 2 年生の第 3 回発表（受講生 1・2 番）を聞き、ディスカッションを行う。 1 2 回目 次 2 年生の第 3 回発表（受講生 3・4 番）を聞き、ディスカッションを行う。 1 3 回目 2 年生の発表第 3 回（受講生 5 番）を聞き、ディスカッションを行う。 1 4 回目 第1回、個別発表と学生相互のディスカッション 1 5 回目 第2回、個別発表と学生相互のディスカッション
到達目標	自分の研究テーマを「主体的」に選び、先行研究や史・資料を収集して整理・分析する「基礎力能力」を身につける。さらに学習したことを適切で正しい日本語による「自己表現能力」、すなわち論文の執筆と発表力を身につける。合わせてこの授業を通じて培った教養を「更なる専門的研究に活かすことができる」ことを目標とする。
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する基礎的な調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。また史跡や遺跡などの現地調査を積極的に行うこと。さらに調査結果を整理して、授業における発表の準備をすること。
評価方法	授業時の発表（50%） レポート（50%） 遠隔授業に変更した場合はレポート（50%）平常点（50%）
テキスト	授業時に指示
参考書	授業時に指示
備考	

講義科目名称： 史学入門Ⅰ

授業コード： 153007

英文科目名称： Introduction to History 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲教授 坂本達彦教授 内山京子准教授 大工原豊教授 中大輔准教授 渡辺瑞穂子准教授			
添付ファイル			

授業の概要	歴史学の学問としての特徴を知り、歴史学を学ぶことの意義を理解し、楽しさに触れる。前半は親しみやすい歴史文化素材を通じて歴史学への導入をはかり、第9回～15回の7回は専門教員による時代・分野ごとの講義。第6・7回には受講生による発表を設ける。 なお、学習成果の指標は A-①②③である。 全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。 本授業は対面を基本とするが、「Google Classroom」によるオンライン授業の可能性もある。
授業計画	1 回目 ガイダンス 今後の授業方針・評価について 2 回目 日本史・世界史の時代区分・地域区分 3 回目 身近な歴史に親しもう（マンガ・アニメ・ゲーム・大河ドラマ……） マンガ・アニメ・ゲーム・大河ドラマなどに取り上げられる歴史を用いて、歴史の楽しさを知る 4 回目 図書館で学ぼう 歴史学は図書に存在します。まず、図書館を使いこなせるようになりましょう。図書館の案内をします。ただし、図書館側の都合で日程が変更される可能性があります。 5 回目 図書館を利用して調べてみよう 実際に自分の興味・関心に合わせて、図書を探し利用してみよう。 6 回目 歴史学を楽しむことの共有 報告会 1 図書館を利用して調べた面白いことをフィールドの仲間と共有してみよう。 7 回目 歴史学を楽しむことの共有 報告会 2 図書館を利用して調べた面白いことをフィールドの仲間と共有してみよう。 8 回目 進化・深化してゆく歴史研究 9 回目 日本古代史（3～11世紀）の概要と史料・研究方法（担当 中大輔） 1 0 回目 日本中世（院政期～戦国期）の概説と中世資料・研究方法の解説（担当 菱沼一憲） 1 1 回目 日本近世史の研究史と研究例（担当 坂本達彦） 1 2 回目 日本近現代史の特色と研究例（担当 内山京子） 1 3 回目 物質（モノ）という考古資料の特性や、考古学から見た歴史像の一端を解説する（担当 大工原豊） 1 4 回目 封建制から資本主義への移行論争と資本主義の「精神」の解説（担当 寺崎宣昭） 1 5 回目 宗教史の概説と研究方法の解説（担当 渡辺瑞穂子）
到達目標	1. 歴史を知り学ぶ楽しさを知り、歴史を探究することへの十分な意欲を持つ。 2. 各時代・分野の歴史学についての知識を得て、専門分野を選択する準備ができるようになる。
授業時間外の学習	高校時の歴史教科書を振り替えりながら予習を行い、授業後にはその内容をノートに、まとめる。また図書館を利用して歴史学の知識を得る
評価方法	授業時提出のレポート（70%）と参加意欲（30%）により評価する。
テキスト	第9回目以降は、各担当教員の指示に従って下さい。
参考書	
備考	オムニバス 展覧会の見学など野外学修を行うことがある。

講義科目名称： 史学入門Ⅱ

授業コード： 231005

英文科目名称： Introduction to History 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
添付ファイル			

授業の概要	歴史学の学問としての特徴を知り、歴史学を学ぶことの意義を理解し、楽しさに触れる。ことに民俗学・文学・自然科学など他学との交わりのなかで、歴史学の実践において幅広い興味関心を抱けるような授業とする。特別講師を招集する関係上、授業計画に変更があることに注意すること。受講にあたっては受講ノートを作成してもらい、それにより成績評価を行います。 なお、学習成果の指標は A-①②③である。 全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。 なお、遠隔授業を実施する場合は、オンデマンド型のオンライン授業とする。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 今後の授業方針・評価について 2 回目 無文字の時代 日本の古墳はなぜ大きいのか 3 回目 古代から中世へ 4 回目 通してみる中世史 武家政権の特質 5 回目 中世の信仰 起請文について 6 回目 近世武士 武士道の功罪 7 回目 高度経済成長とその歪み 8 回目 日本の食文化 日本食の形成過程 9 回目 高句麗の歴史 1 0 回目 新羅の歴史 1 1 回目 メソアメリカ文明 オルメカ遺跡 1 2 回目 メソアメリカ文明 テオティワカン遺跡 1 3 回目 メソアメリカ文明 マヤ遺跡 1 4 回目 エジプト文明 ピラミッドはなぜ作られたのか 1 5 回目 総括と討論		
到達目標	1. 歴史を知り学ぶ楽しさを知り、歴史を探究することへの十分な意欲を持つ。 2. 各時代・分野の歴史学についての知識を得て、専門分野を選択する準備ができるようになる。		
授業時間外の学習	授業で使用了資料を読み返しノートにまとめ、理解が不十分な箇所に関しては各自図書館などを利用して復習をすること。各授業の内容に沿った文献の講読をし予習を行うこと。		
評価方法	授業への参加意欲（30%）、授業時提出レポート（70%）により評価する。		
テキスト	授業時にプリントを配布する。		
参考書			
備考	展覧会の見学など野外学修を行うことがある。		

講義科目名称： 日本古代史概説

授業コード： 223006

英文科目名称： Introduction to Ancient Japanese History

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
中 大輔 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、古代（3～11世紀）の日本社会について、基礎的な知識を身につけ、歴史的な理解を深めることを目標とする。通史的に時代を追いながら、王権・国家と地域社会の関係を軸として講義形式で解説していく。その際、史料から歴史事実を読み取ること、考古資料や歴史地理学的手法を参照することを心がける。なお、学習成果の指標は A-①③である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroom）と、③オンデマンド型学修（Google Meet）を組み合わせて実施する。
授業計画	1 回目 日本古代史を学ぶために 2 回目 邪馬台国と倭王権の成立 3 回目 4～5 世紀の倭王権と東アジア 4 回目 6・7 世紀の倭王権①一世襲王権の成立 5 回目 6・7 世紀の倭王権②一氏姓制度の構造 6 回目 6・7 世紀の倭王権③一部民制・国造制とミヤケ 7 回目 大化改新―「宮・宅」体制とその限界 8 回目 律令国家の成立①―国評制 9 回目 律令国家の成立②―律令と都城 1 0 回目 律令国家の地方支配①―国郡制の基本構造 1 1 回目 律令国家の地方支配②―国郡行政の実像 1 2 回目 律令国家の地方支配③―古代の都鄙間交通 1 3 回目 律令国家の変質①―地方支配の転換 1 4 回目 律令国家の変質②―受領の時代 1 5 回目 古代から中世へ
到達目標	日本の古代社会の特色を知ること、日本文化への理解を深めることができる。 古代史研究の実例を通じて、卒業研究に必要な、史料から歴史事実を読み解く方法を身につけることができる。 古代社会像を知ることにより、それとの比較から現代社会の特質を理解することができる。
授業時間外の学習	授業プリントを読み返して理解を確認すること。 紹介した参考書などを図書館などで読んでみる。
評価方法	授業ごとのコメントペーパー（30%） 学期末の試験（70%） ※遠隔授業に変更した場合はレポートとする
テキスト	指定しない。毎回プリントを配布する。
参考書	『日本の時代史』シリーズ（古川弘文館） 『日本の歴史』シリーズ（講談社学術文庫） 『古代史講義』シリーズ（ちくま新書） その他、授業時に紹介する文献に積極的に目を通すように。
備考	対面での授業を基本とするが、最大 2 回ほど遠隔授業を実施する場合がある。その際は、Classroomなどで事前

に告知をする。

講義科目名称： 日本中世史概説

授業コード： 251002

英文科目名称： Introduction to Medieval Japanese History

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本中世史の基本的な理解力を身につけ、その上で歴史的問題意識と知識を習得することを目指す。古代末から近世初頭までを政治史を中心に通史的に説明する。中世史への基礎的な知識の蓄積と、歴史学的問題意識の深化を促す。 学習成果の指標はA-②③である。 全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。遠隔授業を実施する場合は、オンデマンド型で行う。
授業計画	1 回目 ガイダンス 授業の獲得目標と評価基準などの説明 2 回目 中世の黎明と奥州藤原氏政権 3 回目 平家政権、栄華への道 4 回目 鎌倉幕府成立の議論 5 回目 中世の城と館と本拠 6 回目 御成敗式目から読む鎌倉幕府とその時代 7 回目 日野富子で読み解く室町時代 8 回目 中世の在地社会 9 回目 戦国大名織田氏と桶狭間の合戦 1 0 回目 関東奥両国惣無事令と伊達政宗の小田原参陣 1 1 回目 下野国人皆川氏の戦国サバイバル 1 2 回目 戦国大名北条氏の領国と統治 1 3 回目 豊臣秀吉政権と太閤検地 1 4 回目 関ヶ原の合戦における上杉景勝の動向 1 5 回目 総括（到達点と課題の確認）
到達目標	日本社会でよりよく生きるために必要な日本中世史に関する知識を得ることができる。また卒業研究作成に必要な日本中世史の基礎的な知識を持ち、先行研究とすべき論文を探し出し、読解できる能力、及び史料批判を踏まえた操作へ取り組む姿勢を身に付けられる。
授業時間外の学習	日本中世史に関する書籍の読解。博物館・資料館など文化施設、及びそれらの展示会の見学。
評価方法	適宜の小テスト（100％）配布プリント・ノート披見可で、論述形式でのテストを行う 遠隔授業となった場合はレポート（100％）とする。
テキスト	毎回の授業時にプリントを配付する。
参考書	『日本中世入門 論文を書こう』（勉誠出版、2014年）
備考	展示会の見学など野外学修を行うことがある。

講義科目名称： 日本近世史概説

授業コード： 213002

英文科目名称： Introduction to Early Modern Japanese History

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
政治史	経済史		
添付ファイル			

授業の概要	江戸時代は200年以上戦争が起こらなかった、日本史上最も平和な時代である。その間、人口の増加や経済も発展し、また、様々な文化も生まれた。江戸幕府の成立から、明治維新までの通史を講義する。本講義を通して、江戸時代の政治・経済・社会に関して理解を深めてもらう。毎回、授業の最後には、授業の内容などをまとめたコメントペーパーを提出してもらいます。 2回ほどオンデマンド型の授業を予定しています。何回目をオンデマンド型にするかは受講生の状況を見て判断します（1年生が多い場合は14・15回目、2年生が多い場合は12月上旬の授業をオンデマンドにしようと考えています）。 学習成果の指標はA-①です。 全面遠隔授業になった場合、授業形態（同時・双方向型学修またはオンデマンド型学修）は、状況に応じて判断します。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 江戸幕府の成立と豊臣氏の滅亡①ー徳川家康の征夷大將軍就任ー 3 回目 江戸幕府の成立と豊臣氏の滅亡②ー元和偃武ー 4 回目 將軍親政から老中合議制へ①ー3代將軍家光の政治ー 5 回目 將軍親政から老中合議制へ②ー近世初期の経済・対外関係ー 6 回目 幕政の転換点①ー 5 代將軍綱吉の政治ー 7 回目 幕政の転換点②ー正徳の治ー 8 回目 享保の改革 9 回目 18世紀後半の政治と社会①ー田沼意次の政治と天明の飢饉ー 1 0 回目 18世紀後半の政治と社会②ー寛政の改革ー 1 1 回目 大御所時代と天保の改革①ー大御所時代ー 1 2 回目 大御所時代と天保の改革②ー天保の飢饉と改革ー 1 3 回目 開国と明治維新①ーペリー来航ー 1 4 回目 開国と明治維新②ー幕末の政局ー 1 5 回目 まとめ
到達目標	授業内容を理解し、簡潔に説明することができる。 日本近世史の概説を理解し、試験で問われた事柄に関して、論理的な日本語の文章で解答できる。
授業時間外の学習	授業で理解できなかった点は、教員に質問に来ること。 より深く知りたい事柄については、配布資料の参考文献であげている書籍を読んで補うこと。
評価方法	授業態度（30%）、学期末試験（70%）。授業態度は「授業の概要」で述べたコメントペーパーの内容を、主な判断材料とします。 コメントペーパーの内容は、授業内容の要約に加え、（1）授業により新たな知見を得た場合、それがあなたにとってどのような意味があるのか？、（2）新たな知見を得て考えが変わった場合、具体的にどのような考えが、どのような考えに変わったのかまで書いてください。また、新たな知見がなかった場合は、該当回の授業内容をどこで学んだのかを書いてください。 遠隔授業となった場合、評価方法が変更になることもあります。

テキスト	プリントを配布する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	受講生の近世史に対する理解度や、受講生数により、授業の計画や評価方法を変更することがあります。

講義科目名称： 日本近代史概説

授業コード： 241003

英文科目名称： Introduction to Modern Japanese History

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	この講義では、日本近代史の基礎的な知識を身に付け、通史的に理解する力を養うことを目指します。具体的には、明治維新から敗戦までの約百年の流れについて、三代の天皇の歩みを交えつつ、政治史を中心に概説します。約百年という短期間の間に何が変わり、何が変わらなかったのか、また変化にはどのような意味があったのか、考えていきましょう。 なお、学習成果の指標はA-①とA-②です。 授業は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせで実施します。また、全体遠隔授業に移行した場合は②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施します。		
授業計画	1 回目 ガイダンスー日本の近代とは、日本の近代と天皇とはー ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。 2 回目 開国から倒幕へ 3 回目 明治国家の建設 4 回目 明治政府の政策 5 回目 外征・反乱から自由民権運動へ 6 回目 立憲君主制の導入準備①ー明治14年政変・憲法調査ー 7 回目 立憲君主制の導入準備②ー華族・内閣・天皇ー 8 回目 明治憲法と天皇 9 回目 初期議会の展開 1 0 回目 日清戦争と議会政治の定着 1 1 回目 日露戦争と政党政治の展開 1 2 回目 明治の終焉 1 3 回目 大正天皇の課題と君主の個性 1 4 回目 昭和天皇の戦前と戦後 1 5 回目 まとめ		
到達目標	近代日本についての基礎的な知識を身に付け、通史的に理解することができる。 近代日本の歴史の流れとその背景について、論理的に説明することができる。		
授業時間外の学習	内容を理解しているかどうかを確認する小テストを行うので、予習より復習に重点を置いて取り組んでください。 各回で参考文献を紹介するので、積極的に読み進めましょう。		
評価方法	定期試験（70%）、平常点（30%） 定期試験中止の場合はレポート（70%）、平常点（30%）		
テキスト	教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。		
参考書	適宜紹介します。		
備考	状況により上記の授業方法を変更する可能性があります。 その場合はClassroom上でお知らせします。		

講義科目名称： 古代史料講読Ⅰ

授業コード： 153008

英文科目名称： Reading in Ancient Japanese History 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
中 大輔 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、日本古代史の史料を読解し、そこから日本古代の歴史像を読み解いていくことを目標とする。日本古代史の史料は少なく、活字化されているものが多いため、くずし字と格闘する機会は少ないが、一字一句にこだわり、時代像をふまえて読み解いていく必要がある。本授業では日本古代史の代表的歴史書である『続日本紀』を講読する。毎回レポーターを決め、現代語訳・語句の説明・関連資料の紹介などを報告してもらい、受講者全員でディスカッションしながら読み進めていく。日本古代史像を理解するためには、秋セメスターの古代史料講読Ⅱも合わせて履修することが好ましい。なお、学習成果の指標は A-②③である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroom）と、②同時・双方向型学修（Google Meet）を組み合わせて実施する。
授業計画	1 回目 ガイダンスー史料とは何かー 2 回目 『続日本紀』を学ぶ 3 回目 『続日本紀』を読むためにー報告の方法ー 4 回目 『続日本紀』を読む① 受講生の報告（Aグループ1回目） 5 回目 『続日本紀』を読む② 受講生の報告（Bグループ1回目） 6 回目 『続日本紀』を読む③ 受講生の報告（Cグループ1回目） 7 回目 『続日本紀』を読む④ 受講生の報告（Dグループ1回目） 8 回目 『続日本紀』を読む⑤ 受講生の報告（Eグループ1回目） 9 回目 『続日本紀』を読む⑥ 受講生の報告（Aグループ2回目） 1 0 回目 『続日本紀』を読む⑦ 受講生の報告（Bグループ2回目） 1 1 回目 『続日本紀』を読む⑧ 受講生の報告（Cグループ2回目） 1 2 回目 『続日本紀』を読む⑨ 受講生の報告（Dグループ2回目） 1 3 回目 『続日本紀』を読む⑩ 受講生の報告（Eグループ2回目） 1 4 回目 『続日本紀』を読む⑪ 受講生の報告（予備回） 1 5 回目 総括ー『続日本紀』からみる律令国家ー
到達目標	『続日本紀』の読み下しや現代語訳をおこない、記載内容を理解することができる。 『続日本紀』や関連する史料から、古代史像を描くことができる。 自分の読解した内容を、他人にわかりやすく伝えることができる。
授業時間外の学習	現代語訳の作成・関連資料の収集など、報告の準備は授業時間外におこなうこと。自分の担当する場所以外も語句調べなど予習しておくこと。
評価方法	報告の内容（70%） ディスカッションへの参加などの平常点（30%） ※遠隔授業になった場合も特に変更なし
テキスト	指定しない。使用する史料は配布する。
参考書	新日本古典文学大系『続日本紀』1～5（岩波書店） 『続日本紀』（東洋文庫、平凡社） 『続日本紀 全現代語訳』（講談社学術文庫）
備考	報告のスケジュールは受講生の人数によって変更する場合がある。

講義科目名称： 古代史料講読Ⅱ

授業コード： 253006

英文科目名称： Reading in Ancient Japanese History 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
中 大輔 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、日本古代史の史料を読解し、そこから日本古代の歴史像を読み解いていくことを目標とする。日本古代史の史料は少なく、活字化されているものが多いため、くずし字と格闘する機会は少ないが、一字一句にこだわり、時代像をふまえて読み解いていく必要がある。本授業では日本古代史の様々な史料を講読する。毎回レポーターを決め、現代語訳・語句の説明・関連資料の紹介などを報告してもらい、受講者全員でディスカッションしながら読み進めていく。日本古代史像を理解するためには、春セメスターの古代史料講読Ⅰも合わせて履修することが好ましい。なお、学習成果の指標は A-②③である。 本授業は、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroom）と、②同時・双方向型学修（Google Meet）を組み合わせる実施する。
授業計画	1 回目 ガイダンスー古代史の史料ー 2 回目 律令を学ぶ 3 回目 『律令』を読む① 受講生の報告（Aグループ） 4 回目 『律令』を読む② 受講生の報告（Bグループ） 5 回目 『律令』を読む③ 受講生の報告（Cグループ） 6 回目 『律令』を読む④ 受講生の報告（Dグループ） 7 回目 『律令』を読む⑤ 受講生の報告（Eグループ） 8 回目 格式を学ぶ 9 回目 『類聚三代格』を読む① 受講生の報告（Aグループ） 1 0 回目 『類聚三代格』を読む② 受講生の報告（Bグループ） 1 1 回目 『類聚三代格』を読む③ 受講生の報告（Cグループ） 1 2 回目 『類聚三代格』を読む④ 受講生の報告（Dグループ） 1 3 回目 『類聚三代格』を読む⑤ 受講生の報告（Eグループ） 1 4 回目 出土文字資料を読む 受講生の報告（予備回） 1 5 回目 総括ー史料からみる古代史像ー
到達目標	古代史料の読み下しや現代語訳をおこない、記載内容を理解することができる。 古代史料を読解し、古代史像を描くことができる。 自分の読解した内容を、他人にわかりやすく伝えることができる。
授業時間外の学習	現代語訳の作成・関連資料の収集など、報告の準備は授業時間外におこなうこと。自分の担当する場所以外も語句調べなど予習しておくこと。
評価方法	報告の内容（70%） ディスカッションへの参加などの平常点（30%） ※遠隔授業になった場合も特に変更なし
テキスト	指定しない。使用する史料は配布する。
参考書	日本思想大系『律令』（岩波書店） 日本古典文学大系『風土記』（岩波書店） その他、授業中に指示する。
備考	報告のスケジュールは受講生の人数によって変更する場合がある。

講義科目名称： 中世史料講読Ⅰ

授業コード： 152005

英文科目名称： Reading in Medieval Japanese History 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
添付ファイル			

授業の概要	中世の古文書・古記録の史料読解力を習得し、正確な解釈や内容の理解を深めることを目的とする。『吾妻鏡』の購読を中心に中世史料の読解力を高める。歴史学の研究にあたり、文字資料の読解力は最も基礎的なスキルとなる。ことに鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』は、中・近世の武家政治を研究する上で、土台となる資料であり、それに取り組んでもらう。史料を個人ごとに輪読するかたちですすめる。学習成果の指標はA-②③である。全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。なお、遠隔授業を実施する場合は、オンデマンド型のオンライン授業とする。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 中世史料（平安・鎌倉）について 3 回目 中世史料の基礎 参考文献などの解説 4 回目 中世史料の読みかた 返り点の振り方 特殊な文字について 5 回目 『吾妻鏡』 治承4年4月9日～27日条 6 回目 『吾妻鏡』 治承4年5月10日～24日条 7 回目 『吾妻鏡』 治承4年5月26日～6月24日条 8 回目 『吾妻鏡』 治承4年6月27日～7月23日条 9 回目 『吾妻鏡』 治承4年8月2日～8月9日条 10 回目 『吾妻鏡』 治承4年8月10日～8月16日条 11 回目 『吾妻鏡』 治承4年8月17日条 12 回目 中世史料講読の実践（『吾妻鏡』による小レポート）『 13 回目 吾妻鏡』 治承4年8月19日～8月20日条 14 回目 『吾妻鏡』 治承4年8月22日～8月24日条 15 回目 総括的講義 講読した部分についての確認
到達目標	漢文体の中世史料を読解できる能力が身につく。具体的には漢文の史料に返り点を付し、読み・解釈などができるようになる。
授業時間外の学習	授業で講読する史料の読解のため、難読漢字・熟語の下調べを行う。また、講読した部分を自身で読み直してみる。
評価方法	授業時での読解力の確認（50％）、読解力（読み・訳）の小テスト（50％）で評価する。なお、遠隔授業となった場合はレポート（100％）で評価する。
テキスト	授業時に講読する資料を手交する。
参考書	関幸彦・野口実編『吾妻鏡必携』（吉川弘文館、2008年）
備考	展覧会の見学など野外学修を行うことがある。

講義科目名称： 中世史料講読Ⅱ

授業コード： 244005

英文科目名称： Reading in Medieval Japanese History 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
添付ファイル			

授業の概要	中世の古文書・古記録の史料読解力を習得し、正確な解釈や内容理解を深めることを目的とする。室町・戦国期史料の講読を通じて中世史料の読解力を高め、それを利用してオリジナルな論理を組み立てられるような分析力を養う。なお授業では、史料を個人ごとに輪読するかたちですすめる。学習成果の指標はA-②③である。 全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。なお、遠隔授業を実施する場合は、オンデマンド型のオンライン授業とする。
授業計画	1 回目 ガイダンス 授業の獲得目標と評価基準などを説明する 2 回目 『吾妻鏡』 治承4年8月24日 3 回目 『吾妻鏡』 治承4年8月25日～8月26日条 4 回目 『吾妻鏡』 治承4年8月27日～9月1日条 5 回目 『吾妻鏡』 治承4年9月2日～9月5日条 6 回目 『吾妻鏡』 治承4年9月6日～9月10日条 7 回目 『吾妻鏡』 治承4年9月11日～9月15日条 8 回目 小テスト 到達点の確認 9 回目 『吾妻鏡』 治承4年9月17日～9月24日条 10 回目 『吾妻鏡』 治承4年9月28日～10月1日条 11 回目 『吾妻鏡』 治承4年10月2日～10月9日条 12 回目 『吾妻鏡』 治承4年10月11日～10月14日条 13 回目 『吾妻鏡』 治承4年10月15日～10月17日条 14 回目 『吾妻鏡』 治承4年10月18日 15 回目 総括的講義 講読した部分についての確認
到達目標	漢文体の中世史料を読解できる能力が身につく。具体的には、漢文史料に返り点、読み解釈ができるようになる。ことに春セメスター段階よりも、高度な現代語解釈ができるようになることが目標。
授業時間外の学習	授業で講読する史料の読解のため、難読漢字・熟語の下調べを行う。講読が終わった個所の復習。
評価方法	授業時での読解力の確認（50%）、読解力（読み・訳）の小テスト（50%） 遠隔授業となった場合、平常点（100%）で評価する。
テキスト	授業時に配布する。
参考書	関幸彦・野口実編『吾妻鏡必携』（吉川弘文館、2008年）
備考	展覧会の見学など野外学修を行うことがある。

講義科目名称： 近世史料講読Ⅰ

授業コード： 124004

英文科目名称： Reading in Early Modern Japanese History 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	近世史料は候文、和漢文という独特の文体が用いられている。この演習では、近世史料で用いられる文体に慣れ、個々の史料の内容を解釈する方法を学ぶ。そのうえで、解釈した内容を発表してもらうので、プレゼンテーション技術も身につけてもらう。なお、秋セメスターの近世史料講読Ⅱも合わせて受講してもらいたい。 まず、近世史料の特徴とも言える、候文・和漢文に慣れてもらう。次に活字で書かれた史料を輪読する。その上で、輪読した史料の語句や内容について学生に個人で報告をしてもらう。また、博物館や文書館で働く際に必要な史料整理知識・技術についても言及する。 受講生の状況によりますが、例年5月の授業は教育実習のため欠席する学生が多いので、2,3回をオンデマンド型にする予定です。ただし、受講生の状況で変更があります。 学習成果の指標は、A-①です。近世史専攻の学生には、A-②にも該当します。 全面遠隔授業になった場合、授業形態（同時・双方向型学修またはオンデマンド型学修）は、状況に応じて判断します。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 テキスト①の解説と解説 3 回目 テキスト②の解説と解説 4 回目 テキスト③の解説と解説 5 回目 テキスト④の発表（5名） 6 回目 テキスト⑤の発表（5名） 7 回目 テキスト⑥の発表（5名） 8 回目 テキスト⑦の発表（5名） 9 回目 テキスト⑧の発表（5名） 1 0 回目 テキスト⑨の発表（5名） 1 1 回目 テキスト⑩の発表（5名） 1 2 回目 テキスト⑪の発表（5名） 1 3 回目 学生報告の講評兼報告予備日 1 4 回目 発表の総括 1 5 回目 授業内容の確認
到達目標	活字の近世史料を読み下すことができる。 活字の近世史料を解釈できる。 解釈した史料の内容を、他人にわかりやすく発表することができる。
授業時間外の学習	初めて近世史料を読む学生が多数を占められるので、予習は困難だと思います。近世史専攻学生以外は、復習に重点を置いてください。 最初はテキストの読み下しについて、学生を当てて答えてもらいます。配布資料、「近世古文書ハンドブック」（http://www.ihmlab.net/pdf/old_document_manual.pdf）、日本史料研究会監修『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）を参考にレジュメを作成してください。 発表については、その準備は授業時間外に行ってもらうので、不明な箇所は教員に質問してレジュメを作成してください。

評価方法	授業態度・報告（70％）、小テスト（30％、14回目の授業で実施）。
テキスト	授業時に配布する。
参考書	日本史史料研究会監修『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年） その他は授業時に指示する。
備考	受講生数により、授業計画を変更する場合があります。

講義科目名称： 近世史料講読Ⅱ

授業コード： 223007

英文科目名称： Reading in Early Modern Japanese History 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	近世史料は候文、和漢文という独特の文体が用いられ、くずし字で書かれている。この演習では近世史料で用いられる文字・文体に慣れ、個々の史料の内容を解釈する方法を学ぶ。そのうえで、解釈した内容を発表する場を設けるので、プレゼンテーション技術も身につけてもらう。なお、春セメスターの近世史料講読Ⅰも合わせて受講することが望ましい。 本講座では、くずし字で書かれた史料を輪読する。その上で、輪読した史料の語句や内容について、学生に個人で報告をしてもらいます。 11月下旬の授業を2回ほどオンデマンド型にする予定です。 学習成果の指標は、A-①です。近世史専攻の学生には、A-②にも該当します。 全面遠隔授業になった場合、授業形態（同時・双方向型学修またはオンデマンド型学修）は、状況に応じて判断します。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 近世史料の構文・用語 3 回目 活字史料にみる候文と和漢文 4 回目 くずし字の輪読（テキスト1～3頁） 5 回目 くずし字の輪読（テキスト4～6頁） 6 回目 くずし字の輪読（テキスト7～10頁） 7 回目 くずし字の輪読（テキスト11～14頁） 8 回目 くずし字の輪読（テキスト15～17頁） 9 回目 くずし字の輪読（テキスト18～20頁） 10 回目 個別報告と講評（テキスト1～5頁） オンデマンド型を予定 11 回目 個別報告と講評（テキスト6～10頁） オンデマンド型を予定 12 回目 個別報告と講評（テキスト11～15頁） オンデマンド型を予定 13 回目 個別報告と講評（テキスト16～20頁） オンデマンド型を予定 14 回目 発表内容の確認 15 回目 授業の総括
到達目標	くずし字辞典をひいて、文字を解説できる。 近世史料を読み下すことができる。 近世史料を解釈できる。 解釈した史料の内容を、他人にわかりやすく発表することができる。
授業時間外の学習	初めてくずし字で書かれた近世史料を読む学生が多数を占めると思われるので、近世史専攻学生以外は予習より復習に重点を置いてください。 最初はテキストの翻刻・読み下しについて、学生を当てて答えてもらいます。配布資料、「近世古文書ハンドブック」（http://www.ihmlab.net/pdf/old_document_manual.pdf）、日本史史料研究会監修『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）を参考にレジュメを作成してください。 発表については、その準備は授業時間外に行ってもらうので、不明な箇所は教員に質問し、発表の前日の昼までにはレジュメを提出すること。

評価方法	授業時の発表（50％）、期末試験（50％、14回目に実施）。
テキスト	くずし字辞典（いろいろな種類が出ているので、各自が使用しやすいものを選ぶこと。代表的なものは授業で紹介する）。テキストに使う史料は授業時に配布する。
参考書	授業時に指示する。
備考	本講座は学生の史料解読・報告が中心のため、授業計画は受講生の人数により変更する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	この演習は、近現代の活字史料を読み、内容を適切に理解し、分析する技術を身に付けることを目指します。具体的には、維新三傑の一人である木戸孝允が残した『木戸孝允日記』を輪読しながら、読み下し、現代語訳、読解、調査方法について学び、後半では読み下して音読し、語句や内容・背景について調べて報告してもらいます。歴史上の人物が書いた日記を読むという歴史学の楽しさを味わいつつ、史料の基礎的な読解力と分析力を培いましょう。 なお、学習成果の指標はA-②とA-③です。 この演習は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施します。秋セメスターの近代史料講読Ⅱでは、この演習で学んだことを前提に、複数の史料を組み合わせた分析方法を扱うので、近現代史で卒業研究を行う学生はあわせて受講することを勧めます。		
授業計画	1 回目 ガイダンスー史料の解説ー ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。 2 回目 廃藩置県前後の木戸日記の輪読① 3 回目 廃藩置県前後の木戸日記の輪読② 4 回目 アメリカ滞在中の木戸日記の輪読／レジュメの作り方 5 回目 アメリカ滞在中の木戸日記の輪読と報告① 受講生1・2 6 回目 アメリカ滞在中の木戸日記の輪読と報告② 受講生3・4 7 回目 アメリカ滞在中の木戸日記の輪読と報告③ 受講生5・6 8 回目 アメリカ滞在中の木戸日記の輪読と報告④ 受講生7・8 9 回目 イギリス滞在中の木戸日記の輪読と報告① 受講生9・10 1 0 回目 イギリス滞在中の木戸日記の輪読と報告② 受講生11・12 1 1 回目 イギリス滞在中の木戸日記の輪読と報告③ 受講生1・2・3 1 2 回目 イギリス滞在中の木戸日記の輪読と報告④ 受講生4・5・6 1 3 回目 イギリス滞在中の木戸日記の輪読と報告⑤ 受講生7・8・9 1 4 回目 イギリス滞在中の木戸日記の輪読と報告⑥ 受講生10・11・12 1 5 回目 まとめ		
到達目標	近現代の活字史料を読み下すことができる。 近現代の活字史料を読解することができる。 近現代の活字史料の語句や背景を辞典・文献で調べ、分かりやすく報告することができる。		
授業時間外の学習	報告の準備は授業時間外に行ってもらいます。担当の史料の読み下し、読解、語句、内容や背景について調べてレジュメを作成してください。 各回の史料の輪読は参加者全員で行います。報告者以外にも事前に読みを確認してきてください。		
評価方法	定期試験（50%）、平常点（発表、史料の音読、質問など）50% 定期試験中止の場合はレポート（50%）、平常点（50%）		
テキスト	教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。		
参考書	適宜紹介します。		
備考	履修者の人数や状況等に応じて上記の授業方法を変更する可能性があります。		

その場合はClassroom上でお知らせします。

講義科目名称： 近代史料講読Ⅱ

授業コード： 243004

英文科目名称： Reading in Modern Japanese History 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	この演習では、編纂物・公文書・私文書（日記・書簡）などのさまざまな形態の史料を読むことで、正確な読み下しと内容の適切な理解に加え、幅広い史料を適切に用い、史料をより深く、多角的に分析することを目指します。 具体的には、編纂物・公文書・私文書の順番に読み進め、語句や内容について調べて報告してもらいます。多様な史料を通して歴史上の人物や事件に深く迫る楽しさを味わいつつ、史料の基礎的な読解力と多角的・客観的な分析力を培いましょう。 なお、学習成果の指標はA-②とA-③です。 この演習は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（Google Classroomを利用）と②同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせ実施します。 この演習は、春セメスターの近代史料講読Ⅰで学んだことを前提にしているため、近現代史で卒業研究を行う学生はあわせて受講することを勧めます。
授業計画	1 回目 ガイダンス ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。 2 回目 編纂物の解説と輪読 3 回目 編纂物の輪読と報告① 受講生1・2 4 回目 編纂物の輪読と報告② 受講生3・4 5 回目 公文書の解説と輪読 6 回目 公文書の輪読と報告① 受講生5・6 7 回目 公文書の輪読と報告② 受講生7・8 8 回目 くずし字の解説① ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。 9 回目 くずし字の解説② 1 0 回目 書簡の解説と輪読 1 1 回目 書簡の輪読と報告① 受講生1・2 1 2 回目 書簡の輪読と報告① 受講生3・4 1 3 回目 書簡の輪読と報告① 受講生5・6 1 4 回目 書簡の輪読と報告② 受講生7・8 1 5 回目 まとめ
到達目標	近代の多様な史料を読み下し、内容を適切に理解することができる。 近代の多様な史料の語句や背景を辞典・文献で調べ、分析することができる。 近代の多様な史料について調べ、考えた内容を、分かりやすく報告することができる。
授業時間外の学習	報告の準備は授業時間外に行ってもらいます。担当になった史料を読み下し、語句や背景について調べてレジュメを作成してください。読み下し文の音読は参加者全員で行いますので、報告者以外も事前に一読してください。
評価方法	定期試験（50%）、平常点（発表、史料の音読、質問など）50% 定期試験中止の場合はレポート（50%）、平常点（50%）
テキスト	教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。

備考	受講生の人数や状況等に応じて上記の授業内容を変更することがあります。 その場合はClassroom上でお知らせします。
----	--

講義科目名称： 外国史料講読 I

授業コード： 144007

英文科目名称： Directed Reading in European History 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択
担当教員			
新保良明 講師			
添付ファイル			

授業の概要	この史料講読では、英文史料を読み、その史料を通して欧米の歴史について深く考えることを目的としている。今年度は、古代ローマの作家スエトニウスの『ローマ皇帝伝』（Loeb Classical Libraryに収められており、左頁はラテン語の原文、右頁はその英訳を記載）の内、暴君として名高い「ネロ伝」を取り上げる。古代ローマの史料はそもそも少ないが、当該史料は欠損がないため、貴重な史料的价值を有する。とはいえ、ゴシップ的な内容もふんだんに盛り込まれており、読み物としても興味深い内容になっている。なお、当該史料に関しては、英語のコメンタリーがあるので、担当教員がそれに基づき、授業内で補足的コメントを適宜発し、履修者の理解を深めることにする。なお、ラテン語の発音は基本的にローマ字読みなので、ヨーロッパでは日本人のラテン語の発音が正確とも言われている。 なお、学習成果の指標はA-①です。 全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修となります。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 ローマ皇帝の誕生 3 回目 ネロの生涯を概観 4 回目 Suetonius, Nero, I – III 5 回目 Suetonius, Nero, IV – VI 6 回目 Suetonius, Nero, VII – IX 7 回目 Suetonius, Nero, X – XII 8 回目 Suetonius, Nero, XIII – XV 9 回目 Suetonius, Nero, XVI – XVIII 1 0 回目 Suetonius, Nero, XIX – XXI 1 1 回目 Suetonius, Nero, XXII – XXIV 1 2 回目 Suetonius, Nero, XXV – XXVII 1 3 回目 Suetonius, Nero, XXVIII – XXX 1 4 回目 Suetonius, Nero, XXXI – XXXIII 1 5 回目 まとめ
到達目標	ラテン語の英訳文を英和辞典を引きながら読むことに慣れ、またその史料を通して欧米の歴史について深く考え、その史料の歴史的・研究史的意義について理解することができる。
授業時間外の学習	授業で読むところを、あらかじめ自分で翻訳しておくことが必要である。また、テキストだけではなく、ネロなどに関連する本を読んでおくこと。
評価方法	英文史料の翻訳力の点数（50%）に、授業参加態度（50%）を加点し、総合的に評価する。
テキスト	テキストはプリントにて配布する。
参考書	スエトニウス著・国原吉之助訳『ローマ皇帝伝（下）』岩波書店（文庫）、1986年 安彦良和『我が名はネロ』1・2、文藝春秋、1998年 新保良明『ローマ帝国愚帝列伝』講談社（選書メチエ）、2000年

	同『ローマ帝国愚帝物語』新人物往来社（文庫）、2012年
備考	授業で訳してもらった英文はラテン語の英訳であるが、参考書として挙げた岩波文庫版はラテン語の和訳であるため、英訳の参考にはなっても、これは英文読解の学習を不要としない。つまり、ラテン語史料≠英訳≠和訳という構造になり、英訳と和訳のズレが生じるので、授業に向けて英訳を予習する必要はないということにはならない。授業内にて単語の意味や構文について質問するので、予習は必須である。

講義科目名称： 外国史料講読Ⅱ

授業コード： 244006

英文科目名称： Directed Reading in European History 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択
担当教員			
新保良明 講師			
添付ファイル			

授業の概要	この史料講読では、英文史料を読み、その史料を通して欧米の歴史について深く考えることを目的としている。今年度は、古代ローマの作家スエトニウスの『ローマ皇帝伝』（Loeb Classical Libraryに収められており、左頁はラテン語の原文、右頁はその英訳を記載）の内、暴君として名高い「ネロ伝」を取り上げる。古代ローマの史料はそもそも少ないが、当該史料は欠損がないため、貴重な史料的价值を有する。とはいえ、ゴシップ的な内容もふんだんに盛り込まれており、読み物としても興味深い内容になっている。なお、当該史料に関しては、英語のコメンタリーがあるので、担当教員がそれに基づき、授業内で補足的コメントを發し、履修者の理解を深めることにする。なお、ラテン語の発音は基本的にローマ字読みなので、ヨーロッパでは日本人のラテン語の発音が正確とも言われている。 なお、学習成果の指標はA-①です。 全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修となります。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 Suetonius, Nero, XXXIV—XXXVI 3 回目 Suetonius, Nero, XXXVII—XXXIX 4 回目 Suetonius, Nero, XL—XLII 5 回目 Suetonius, Nero, XLIII—XLV 6 回目 Suetonius, Nero, XLVI—XLVIII 7 回目 Suetonius, Nero, XLIX—LI 8 回目 Suetonius, Nero, LII—LIV 9 回目 Suetonius, Nero, LV—LVII 1 0 回目 Tacitus, Annales. 15, XXXVII—XXXVIII 1 1 回目 Tacitus, Annales. 15, XXXIX—XL 1 2 回目 Tacitus, Annales. 15, XLI—XLII 1 3 回目 Tacitus, Annales. 15, XLIII—XLIV 1 4 回目 キリスト教徒迫害原因論 1 5 回目 まとめ
到達目標	英文史料を英和辞典を引きながら読むことに慣れ、またその史料を通して欧米の歴史について深く考え、その史料の歴史的・研究史的意義について理解することができる。
授業時間外の学習	授業で読むところを、あらかじめ自分で翻訳しておくことが必要である。
評価方法	英文史料の翻訳力の点数（50%）に、授業参加態度（50%）を加点し、総合的に評価する。
テキスト	テキストはプリントにて配布する。
参考書	スエトニウス著・国原吉之助訳『ローマ皇帝伝（下）』岩波書店（文庫）、1986年 タキトゥス著・国原吉之助訳『年代記』岩波書店（文庫）、1981年 安彦良和『我が名はネロ』1・2、文藝春秋、1998年 新保良明『ローマ帝国愚帝列伝』講談社（選書メチエ）、2000年 同『ローマ帝国愚帝物語』新人物往来社（文庫）、2012年

備考	授業で訳してもらった英文はラテン語の英訳であるが、参考書として挙げた岩波文庫版はラテン語の和訳であるため、英訳の参考にはなっても、これは英文読解の学習を不要としない。つまり、ラテン語史料≠英訳≠和訳という構造になり、英訳と和訳のズレが生じるので、授業に向けて英訳を予習する必要はないということにはならない。授業内にて単語の意味や構文について質問するので、予習は必須である。
----	---

講義科目名称： 古文書学 I

授業コード： 141004

英文科目名称： Paleography 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
添付ファイル			

授業の概要	遠隔授業の授業はmeetで行います。PowerPointを中心とした講義を行い、レポートを提出してもらいます。授業時間の開始に合わせてmeetに参加してください。 日本の古文書の読解・解釈力の育成と古文書学概説(古代・中世前期を対象とする)をおこなう。 初めに概説を行い、以後は教科書、及び適宜配布するテキストを次の順序で講読してゆきます。 公式様(古代～)・公家様(平安中期～)・武家様(鎌倉幕府・室町関係)といった範囲の様式論の解説、古文書の読解。 授業では、受講生に古文書を板書したり、読み上げてもらうことがある。 全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。 学習成果の指標はA-②③である。 なお、遠隔授業を実施する場合は、オンデマンド型のオンライン授業とする。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 古文書学の基礎知識 3 回目 公式様文書 1 (概説) 4 回目 公式様文書2 (太政官符) 5 回目 公家様文書1 (概説・宣旨) 6 回目 公家様文書2 (下文など) 7 回目 公家様文書3 (綸旨・院宣など) 8 回目 鎌倉幕府文書1 (鎌倉幕府の文書概説・下文) 9 回目 鎌倉幕府文書2 (関東下知状など) 1 0 回目 鎌倉幕府文書3 (関東御教書など) 1 1 回目 室町幕府文書1 (室町幕府の文書の概説・下知状) 1 2 回目 室町幕府文書2 (御判御教書・御内書) 1 3 回目 室町幕府文書3 (遵行状・打渡状) 1 4 回目 室町幕府文書4 (守護書下) 1 5 回目 総括
到達目標	古代の公式様・平安期の公家様・鎌倉時代の武家様という文書様式の変遷を理解し、そこから国制の変化を理解できるようになる。
授業時間外の学習	古文書学に関する文献を読解する。事前に渡したテキストの予習。古文書テキストの音読を行い、基礎知識についてはノート整理・確認すること。
評価方法	様式論の理解度、古文書の読解能力を確認する期間内テスト(100%)で評価する。 なお、遠隔授業となった場合はレポート(100%)で評価する。
テキスト	授業時に配布
参考書	『演習古文書選 様式編』日本歴史学会編、吉川弘文館 『古文書学入門』佐藤進一、法政大学出版局 『概説古文書学』古代・中世編、日本歴史学会、吉川弘文館
備考	展覧会の見学など野外での学修を加えることがある

講義科目名称： 古文書学Ⅱ

授業コード： 253007

英文科目名称： Paleography 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本の古文書学の読解・解釈力の育成と古文書学概説（中世後期・近世紀・私文書を対象とする） 初めに概説を行い、以後は教科書、及び適宜配布するテキストを次の順序で購読してゆきます。 室町幕府・戦国大名・江戸幕府の公文書・及び私文書。なお受講生に古文書を板書したり、読み上げてもらうことがある。 学修成果の指標はA-②③である。 全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。 なお、遠隔授業を実施する場合は、オンデマンド型のオンライン授業とする。		
授業計画	1 回目	ガイダンス 授業の獲得目標と評価基準などの説明	
	2 回目	古文書学の基礎知識	
	3 回目	戦国大名文書1（判物）	
	4 回目	戦国大名文書2（印判状）	
	5 回目	江戸幕府文書 老中奉書	
	6 回目	江戸幕府文書 農民文書	
	7 回目	江戸幕府文書 町屋の文書	
	8 回目	私文書1（譲状）	
	9 回目	私文書2（軍忠状・着到状）	
	1 0 回目	私文書3（売券）	
	1 1 回目	私文書4（起請文）	
	1 2 回目	私文書5（一揆契状）	
	1 3 回目	近代国家への視点から	
	1 4 回目	総括 古文書の読解の確認	
	1 5 回目	総括 古文書の分析方法と論述について	
到達目標	室町幕府の文書様式、戦国大名の文書様式、徳川幕府の文書様式の変遷を理解し、それにより中世後期から近世にかけての国制の変化を理解できる。また私文書の理解により、社会の慣習法を理解できるようになる。		
授業時間外の学習	古文書学に関する文献を読解する。事前に渡したテキストの予習。古文書テキストの音読を行い、基礎知識についてはノート整理・確認すること。		
評価方法	様式論の理解度、古文書の読解能力を確認する期間内テスト（100％）で評価する。 なお、遠隔授業となった場合はレポート（100％）で評価する。		
テキスト	授業時に配布する		
参考書	『演習古文書選 様式編』日本歴史学会編、吉川弘文館 『古文書学入門』佐藤進一、法政大学出版局 『概説古文書学』古代・中世編、日本歴史学会、吉川弘文館		
備考	展覧会の見学など野外学修を行うことがある。		

講義科目名称： 史学基礎研究法

授業コード： 132002

英文科目名称： Basic Historical Research Method

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	この演習は、歴史学を研究するために必要な基礎知識、能力、姿勢を培うことを狙いとしています。学習のために必要な知識・情報（書籍・論文等）の入手の方法、各種情報ツールの活用法を知り、学んだことをまとめ、考えたことを伝えるための技術、文章の作成方法を学ぶための授業です。 具体的には、辞典類や図書館・インターネットの利用方法、図書・論文の読み方とまとめ方、テーマの設定方法、レジュメの作り方、レポートの書き方について学びます。関心を持つテーマについて調査して文章にまとめることで、調査結果や自分の考えを他者に分かりやすく伝えるための技術を身に付けましょう。 なお、学習成果の指標はA-②とA-③です。 この演習は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせて実施します。また、全体遠隔授業に移行した場合は②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施します。		
授業計画	第1回 ガイダンス 歴史学とは ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。 第2回 レポートとは／テーマを設定するには 第3回 文献について①—辞典について／図書館の使い方— 第4回 文献について②—図書と論文／web上での情報の集め方— 第5回 図書と論文の探し方 第6回 論文の読み方①—読書法・スキミング— 第7回 論文の読み方②—要約・批判的読解— 第8回 論文の要約レジュメの作り方 第9回 図書館での実践 第10回 論文の要約レジュメの提出とコメントの記入 第11回 レポートの書き方①—構成要素・引用— 第12回 レポートの書き方②—文章・評価基準— 第13回 論文の要約レジュメへの批評 第14回 レポートの提出とコメントの記入 第15回 レポートへの批評		
到達目標	文献調査の方法、情報ツールの使い方、文献の読み方とまとめ方、レポートの書き方などの基礎的な技術を身に付ける。 「調べる」「読む」「伝える」ための技術を実践することができる。		
授業時間外の学習	論文の要約レジュメとレポートの作成は主に授業時間外に行ってもらいます。早めに取り掛かるようにし、不明点・不安点は教員に質問してください。		
評価方法	レポート（70%）、平常点（各回のコメントペーパーや課題など）30% 遠隔授業の場合も評価方法は変更しません。		
テキスト	教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。		
参考書	適宜紹介します。		
備考	状況等に応じて上記の授業方法を変更する可能性があります。		

その場合はClassroom上でお知らせします。

講義科目名称： 古文書学演習 I

授業コード： 114004

英文科目名称： Reading Exercises of Ancient Documents 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
近世史	近代史	文化財	
添付ファイル			

授業の概要	日本には多くの古文書が残されています。その大部分は近世と近代の古文書です。その多くはくずし字で記されています。本講座では、実物の古文書を用い、解読や調査の技術を身につけてもらいます。 3 回目から10 回目の授業では、毎回最低 1 点の古文書の目録を作成してもらいます。その中から興味深かった物を撮影し、レポートを作成してもらいます。レポートで使用する史料については事前に報告してもらいます。報告はPowerPointで動画を作成して提出してもらい、それをオンデマンド型で配信します。 学習成果の指標は、A-①です。近世史・近代史を専攻する学生にとっては、A-②に当てはまる場合もあります。 全面遠隔授業になった場合、授業形態（同時・双方向型学修またはオンデマンド型学修）は、状況に応じて判断します。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 古文書 1 の目録作成 3 回目 古文書 2 の目録作成 4 回目 古文書 3 の目録作成 5 回目 古文書 4 の目録作成 6 回目 古文書 5 の目録作成 7 回目 古文書 6 の目録作成 8 回目 古文書 7 の目録作成 9 回目 古文書 8 の目録作成 1 0 回目 カメラの使用方法 1 1 回目 古文書を撮影する 1 2 回目 PowerPoint動画作成のコツ 1 3 回目 興味深かった内容の古文書について発表する① 受講者のクラス出席番号順で、前受講生のうち前半の学生に報告してもらいます（オンデマンド型） 1 4 回目 興味深かった内容の古文書について発表する② 受講者のクラス出席番号順で、前受講生のうち後半の学生に報告してもらいます（オンデマンド型） 1 5 回目 まとめ一整理した史料のチェック		
到達目標	くずし字で記された古文書の目録を作成できる。 古文書の調査方法（主に写真撮影）を身につけられる。 くずし字で書かれた古文書の内容を、日本語の文章で説明できる。		
授業時間外の学習	発表の準備は時間外に行ってもらいます。 史料読解が途中で授業が終わってしまった場合は、授業時に使用したノートを用いて史料の内容を解釈し、次の授業でスムーズに目録を作成できるようにしてください。		
評価方法	授業時の態度（50%）と報告内容（50%）。授業の態度には古文書実習での取り組みも含まれます。 毎回、授業時に整理した史料の数に加え、授業の最後にノートをチェックし、授業中にどれだけ史料の読解が進んだかをチェックします。日本近世史・近代史専攻者以外は、1回の授業で史料目録を一つも取れなかった場		

	合でも、ノートの内容を重視するので安心してください。
テキスト	実物の古文書を使用します。
参考書	児玉幸多編『くずし字用例辞典』（普及版、東京堂出版）。これ以外にもくずし字辞典は複数存在するので、授業時に紹介します。
備考	古文書は大切な文化財なので、手指にアクセサリなど（含むマニキュア）を着けている場合は、授業に参加できません。その点を理解して受講するか否かを判断してください。 受講生数に応じて、授業計画を変更することがあります。

講義科目名称： 古文書学演習Ⅱ

授業コード： 214004

英文科目名称： Reading Exercises of Ancient Documents 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
近世史	近代史		
添付ファイル			

授業の概要	日本には多くの古文書が残されています。その大部分は近世と近代の古文書です。その多くはくずし字で記されています。本講座では、実物の古文書を用い、解読や調査の技術を身につけてもらいます。 3回目から10回目の授業では、毎回最低1点の古文書の目録を作成してもらいます。その中から興味深かった物を撮影し、発表してもらいます。報告はPowerPointで動画を作成して提出してもらい、それをオンデマンド型で配信します。 学習成果の指標は、A-①です。近世史・近代史を専攻する学生にとっては、A-②に当てはまる場合もあります。 全面遠隔授業になった場合、授業形態（同時・双方向型学修またはオンデマンド型学修）は、状況に応じて判断します。		
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 古文書目録の作成方法 3 回目 古文書 1 の目録作成 4 回目 古文書 2 の目録作成 5 回目 古文書 3 の目録作成 6 回目 古文書 4 の目録作成 7 回目 古文書 5 の目録作成 8 回目 古文書 6 の目録作成 9 回目 古文書 7 の目録作成 1 0 回目 古文書 8 の目録作成 1 1 回目 一眼レフカメラの使用方法 1 2 回目 古文書を撮影する 1 3 回目 興味深かった内容の古文書について発表する① 受講生のうち、クラス・出席番号順で前半の学生に発表してもらいます（オンデマンド型を予定しています）。 1 4 回目 興味深かった内容の古文書について発表する② 受講生のうち、クラス・出席番号順で後半の学生に発表してもらいます（オンデマンド型を予定しています）。 1 5 回目 まとめー整理した史料のチェックー		
到達目標	くずし字で記された古文書の目録を作成できる。 古文書の調査方法（主に写真撮影）を身につけられる。 くずし字で書かれた古文書の内容を、日本語で説明できる。		
授業時間外の学習	発表の準備は時間外に行ってもらいます。 史料読解が途中で授業が終わってしまった場合は、授業時に使用したノートを用いて史料の内容を解釈し、次の授業でスムーズに目録を作成できるようにしてください。		
評価方法	授業態度（50%）、古文書実習（50%）。授業態度には古文書実習での作業も含まれます。 毎回、授業時に整理した史料の数に加え、授業の最後にノートをチェックし、授業中にどれだけ史料の読解が進んだかをチェックします。日本近世史・近代史専攻者以外は、1回の授業で史料目録を一つも取れなかった場		

	合でも、ノートの内容を重視するので安心してください。
テキスト	現物の古文書を利用する。
参考書	児玉幸多編『くずし字用例辞典』（普及版、東京堂出版）。これ以外にもくずし字辞典は複数存在するので、授業時に紹介します。
備考	古文書は大切な文化財なので、手指にアクセサリなど（含むマニキュア）を着けている場合は、授業に参加できません。その点を理解して受講するか否かを判断してください。 受講生数に応じて、授業計画を変更することがあります。

講義科目名称： 日本史特殊講義

授業コード： 400001

英文科目名称： Special Lecture on Japanese History

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	2 年次	2 単位	選択必修
担当教員			
佐藤長門 講師			
添付ファイル			

授業の概要	この講義では、日本古代史を彩った人々が、どのように権力を掌握し、それを維持し続けるべく動いてきたのかを、史料に即して検討していこうとするものです。時期的には令制以前の5世紀段階からはじめ、9～10世紀の摂関政治の成立と展開にいたるまでを検討していこうと思います。授業ではパワーポイントを使用して視覚的に理解できるよう努め、事前にレジュメを配布します。 学修成果の指標はA-①③です。 遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で実施します。
授業計画	1 回目 倭の五王とは何ものなのか 2 回目 6 世紀の王権と蘇我氏 3 回目 推古女帝はなぜ即位したのか 4 回目 持統天皇の王権構想 5 回目 長屋王の変はなぜ起こったのか 6 回目 藤原広嗣事件とその影響 7 回目 藤原仲麻呂の乱、前夜 8 回目 宇佐八幡神託事件の深層 9 回目 天武系から天智系へ 1 0 回目 授業のまとめ（1） 1 1 回目 王統迭立と幼帝の登場 1 2 回目 春宮坊からみた承和の変 1 3 回目 阿衡の紛議の真相とは 1 4 回目 摂関政治の展開 1 5 回目 授業のまとめ（2）
到達目標	・氏族中心の古代史とは異なり、王権を中心にした新たな視点から古代史を理解することができる。 ・古代天皇制に関する複数の学説を、自身の史料解釈にしたがって論理的に批判することができる。 ・暗記中心の高校までの日本史とは異なり、学問的な「考える歴史学」に関心をもつ。
授業時間外の学習	・レジュメに書かれている論文や本をみずから読み、授業内容を確認するよう努める。
評価方法	各授業終了時にコメントペーパーを配布しますので、その日に学んだことや疑問に思ったことを書いてください。また小テストを2回おこないます。それらを総合的に判断して評価します。
テキスト	教科書は使用しません。事前にレジュメを配布します。
参考書	佐藤長門『日本古代王権の構造と展開』（吉川弘文館、2009年）
備考	

講義科目名称： 東洋史概説 I

授業コード： 122004

英文科目名称： Introduction to Asian History 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選必
担当教員			
中 大輔 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、紀元前～10世紀の東アジアについて、基礎的な知識を身につけ、歴史的な理解を深めることを目標とする。グローバル化が進む現代社会において、自国のみの「一国史」にとらわれない歴史理解の必要性が指摘されるようになって久しい。自国の歴史を相対化し、俯瞰的な視野を持つためにも、多文化理解や交流の視点を学ぶ必要がある。この授業は、日本を取り囲む中国・朝鮮半島・北東アジア各地域の歴史を講義形式で解説していく。その際、金石文や竹簡など新しく発見された史料を参照することを心がける。なお、学習成果の指標は A-①③である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroom）と、③オンデマンド型学修（Google Meet）を組み合わせて実施する。
授業計画	1 回目 「東洋史」を学ぶガイダンスー 2 回目 中国の歴史① 中国文明の発生 3 回目 中国の歴史② 殷と周 4 回目 中国の歴史③ 春秋・戦国時代 5 回目 中国の歴史④ 秦による統一 6 回目 中国の歴史⑤ 漢帝国の時代 7 回目 中国の歴史⑥ 魏晉南北朝時代 8 回目 中国の歴史⑦ 隋唐帝国の成立 9 回目 中国の歴史⑧ 唐帝国の崩壊 1 0 回目 朝鮮半島の歴史① 古朝鮮から三韓へ 1 1 回目 朝鮮半島の歴史② 高句麗と百済 1 2 回目 朝鮮半島の歴史③ 新羅と加耶 1 3 回目 朝鮮半島の歴史④ 統一新羅 1 4 回目 北東アジアの歴史 渤海 1 5 回目 東洋史と日本史
到達目標	東アジア諸国の歴史的展開を理解し、基礎的な歴史知識を習得することができる。 東アジア史研究の実例を通じて、史料から歴史事実を読み解く方法を身につけることができる。 東アジア諸国の古代社会像を知ることにより、それとの比較から日本社会の特質を理解することができる。
授業時間外の学習	授業プリントを読み返して理解を確認すること。 紹介した参考書などを図書館などで読んでみる。
評価方法	授業ごとのコメントペーパー（30%） 学期末の試験（70%） ※遠隔授業に変更した場合はレポートとする。
テキスト	指定しない。毎回プリントを配布する。
参考書	『中国の歴史』①～⑥（講談社学術文庫） 世界歴史大系『中国史1』『中国史2』『朝鮮史1』（山川出版社） その他、授業時に紹介する文献に積極的に目を通すように。
備考	対面での講義を基本とするが、最大2回ほど遠隔授業を実施する場合がある。その際は、Classroomなどで事前に告知をする。

講義科目名称： 東洋史概説Ⅱ

授業コード： 255004

英文科目名称： Introduction to Asian History 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
中 大輔 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、11世紀～20世紀の東アジアについて、基礎的な知識を身につけ、歴史的な理解を深めることを目標とする。グローバル化が進む現代社会において、自国のみの「一国史」にとらわれない歴史理解の必要性が指摘されるようになって久しい。自国の歴史を相対化し、俯瞰的な視野を持つためにも、多文化理解や交流の視点を学ぶ必要がある。この授業は、日本を取り囲む中国・朝鮮半島・北東アジア各地域の歴史を講義形式で解説していく。その際、「一国史」にならないように、複数地域を俯瞰する視座を重視する。なお、学習成果の指標は A-①③である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroom）と、③オンデマンド型学修（Google Meet）を組み合わせて実施する。
授業計画	1 回目 「東洋史」を学ぶガイダンスー 2 回目 唐宋変革期の中国 3 回目 北宋から南宋へ 4 回目 契丹と女真 5 回目 モンゴル帝国の成立 6 回目 元帝国と東アジア 7 回目 高麗の歴史 8 回目 明の歴史 9 回目 清の成立 1 0 回目 清の衰退 1 1 回目 朝鮮の歴史 1 2 回目 辛亥革命と東アジア 1 3 回目 東アジアの「戦争の世紀」 1 4 回目 東アジアの現代 1 5 回目 東アジア近現代史と日本
到達目標	東アジア諸国の歴史的展開を理解し、基礎的な歴史知識を習得することができる。 東アジア史研究の実例を通じて、史料から歴史事実を読み解く方法を身につけることができる。 東アジア諸国の近世・近代社会像を知ることにより、それとの比較から日本社会の特質を理解することができる。
授業時間外の学習	授業プリントを読み返して理解を確認すること。 紹介した参考書などを図書館などで読んでみる。
評価方法	授業ごとのコメントペーパー（30%） 学期末の試験（70%） ※遠隔授業に変更した場合はレポートとする。
テキスト	指定しない。毎回プリントを配布する。
参考書	『中国の歴史』⑦～⑩（講談社学術文庫） 世界歴史大系『中国史3』『中国史4』『中国史5』『朝鮮史2』（山川出版社） その他、授業時に紹介する文献に積極的に目を通すように。
備考	対面での講義を基本とするが、最大2回ほど遠隔授業を実施する場合がある。その際は、Classroomなどで事前

	に告知をする。
--	---------

講義科目名称： 西洋史概説 I

授業コード： 142004

英文科目名称： Introduction to European History 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択
担当教員			
新保良明 講師			
添付ファイル			

授業の概要	ヨーロッパ史の前近代（古代と中世）について学ぶ。まずは、現在のヨーロッパ諸国の起源がローマ帝国にあることに着目し、ローマ帝国とは何であったのかを考察する。その一方で、ローマ帝国下で成立したキリスト教の存在は言うまでもなく、西洋史において無視できない。従って、本講義の前半はローマ帝国の有り様とキリスト教の成立と迫害を中心とする。他方、後半は476年西ローマ帝国の滅亡を契機に、ヨーロッパ社会の中心が地中海から内陸部へと移動していく中、8世紀ごろ「封建社会」が成立した。このように、本講義では、古代ローマからヨーロッパ中世末期までの西洋史を概観する。その際、都市構造の変化を縦軸に据えながら、各時代の社会状況を横軸に据えて、時代的推移を多角的に眺められるようにする。また『グリム童話』などのポピュラーな話を素材にしながら、その背後に隠された時代状況を読み解いていきたい。 なお、学習成果の指標はA-①である。 遠隔授業の場合、②同時・双方向型学修とする。
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 『フランケンシュタイン』と『テルマエ・ロマエ』から読み解くヨーロッパと日本の決定的差異 3 回目 古代ローマの皇帝権力の出現、皇帝即位、死後裁判 4 回目 巨大帝国の「小さな政府」、そして都市の自治 5 回目 キリスト教の成立と迫害原因論 6 回目 ゲルマン民族大移動とローマ帝国没落原因論、そしてイスラムの侵入 7 回目 『長靴を履いた猫』から読み解くヨーロッパ封建社会 8 回目 キリスト教化の方策と女性観の二極化（イヴとマリア） 9 回目 11世紀以降のヨーロッパの変化：ヨーロッパの拡大と中世都市の成長 1 0 回目 『ハーメルンの笛吹男』から読み解く中世都市の自治 1 1 回目 農業生産力上昇への取り組みと「肉食」の関係性 1 2 回目 映画「薔薇の名前」から読み解く教会と修道院：祈りと「時間」 1 3 回目 「大学」の誕生：ボローニャ大学を中心に 1 4 回目 封建制の危機と教会大分裂 1 5 回目 まとめ
到達目標	欧米社会の基礎として、ヨーロッパの古代・中世社会の成立と展開について理解する。また、我々が暮らす現代社会がいかに西洋の過去に由来しているのかも知る。こうして、日常的な生活が西洋史といかに関連しているのかを実感することができる。
授業時間外の学習	ヨーロッパ古代・中世史の文献を読むこと。また、広く世界史についての文献・資料なども読み、歴史全般について興味・関心をもつこと。
評価方法	期末テストの点数（100%）で評価する。 すべてが遠隔授業の場合、オンデマンド学修と課題レポート（100%）で評価する。
テキスト	なし
参考書	服部良久・南川高志・山辺規子編『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』ミネルヴァ書房、2006年
備考	

講義科目名称： 西洋史概説Ⅱ

授業コード： 242004

英文科目名称： Introduction to European History 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択
担当教員			
新保良明 講師			
添付ファイル			

授業の概要	ルネサンス以降の西洋史を近代まで概観する。都市構造の変化を縦軸に据えながら、各時代の社会状況を横軸に据えて、時代的推移を多面的に眺められるようにする。また飲み物やレジャー、スポーツなど日常的なものを素材にしながら、それと当時の世界情勢との関係を読み解くことにしたい。 なお、学習成果の指標はA-①です。 遠隔授業になったときは、②同時・双方向型学修とする。		
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 動物裁判 一人間が動物を被告として裁く！－ 3 回目 ルネサンスと社会変容 ーファッション・食器・マナーの変化ー 4 回目 宗教改革と反宗教改革 ーシェイクスピア『ヴェニスの商人』から読み解くユダヤ人問題ー 5 回目 「大航海時代」の幕開けとイギリス東インド会社、オランダ東インド会社 6 回目 ジェントルマンと大都会ロンドンの誕生 ー「働いたら負け」の人々の日常生活ー 7 回目 主権国家体制の成立と戦争・戦術の変化 ー絶対王政への道ー 8 回目 二重革命の時代①：フランス革命と「国民国家」の成立 9 回目 二重革命の時代②：イギリスの産業革命、農業革命 1 0 回目 イギリスの生活革命 ー「聖月曜日」問題、レジャーの誕生、ノンアル飲料ー 1 1 回目 イギリス料理はなぜまずいのか？ 1 2 回目 19世紀における資本家層の台頭 ーコルセットとシャーロック・ホームズー 1 3 回目 帝国主義とナショナリズム ーロンドンのミュージックホールと労働者ー 1 4 回目 民主的なヴァイマル憲法がなぜヒトラー政権を生んだのか 1 5 回目 まとめ		
到達目標	ルネサンス以降の近世・近代ヨーロッパ社会の変化を多面的に学び、現代の欧米社会の構造を理解し、将来に向けて自分の考えを表明できるようになる。		
授業時間外の学習	ヨーロッパ近代史の文献を読むこと。また近代史だけではなく、広く世界史についての文献・資料なども読み、歴史全般について興味・関心をもつこと。		
評価方法	期末試験の点数（100%）。 遠隔授業の場合、オンデマンド学修と課題レポート（100%）で評価する。		
テキスト	なし		
参考書	小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』ミネルヴァ書房、2011年		
備考			

講義科目名称： 日本文化史Ⅱ

授業コード： 252005

英文科目名称： Japanese Cultural History 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本文化の歴史についての基礎学力を向上させ、歴史学的な視野を広めるとともに、文化への関心と問題意識の創出、及び分析能力の発達を促す。 各時代の文化を象徴的なトピックスを中心に論説し、基礎知識を習得するとともに、受講生より各時代のレポートを行ってもらい、問題点の提起力や報告の作成能力の向上、及び興味関心の深化をはかる。 学習成果の指標はA-①③である。 全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。 遠隔授業の場合は、オンデマンド型のオンライン授業を実施する。		
授業計画	1 回目	ガイダンス 授業の獲得目標と評価基準などの説明	
	2 回目	南北朝・室町 娑婆羅の時代 鎌倉幕府滅亡の影響と新しい「娑婆羅」的風潮の文化について	
	3 回目	南北朝・室町 北山文化 足利義満と鹿苑寺金閣に代表される北山文化について	
	4 回目	南北朝・室町 東山文化 足利義政と応仁の乱、そこに生まれた東山文化について	
	5 回目	安土桃山文化 城郭文化 戦国時代の終了と織田信長の安土城にみる文化の位置づけ	
	6 回目	安土桃山文化 茶道文化 天下人での茶人・茶道の有り様と近世世界への展望	
	7 回目	寛永文化 綺麗さび 小堀遠州の綺麗さびに象徴されるサロン文化とそれが生み出された土壌について	
	8 回目	元禄文化 三都を中心とする経済発展下での文化 上方の大衆文化の登場、松尾芭蕉・井原西鶴・歌舞伎	
	9 回目	琳派の芸術 大衆文化の中核を担う俵屋宗達・本阿弥光悦・尾形兄弟などいわゆる琳派の芸術とその継承について	
	1 0 回目	化政文化 文芸文化を中心に 江戸を中心とする江戸時代後期の文化、戯作と称される多様な大衆文芸について	
	1 1 回目	化政文化 浮世絵と趣味世界の広がり 喜多川歌麿・葛飾北斎、浮世絵・貸本屋の時代と俳諧など趣味世界の流行について	
	1 2 回目	明治の文学 戯作の継承からフランス・ロシアの影響を受けた近代文学の受容について	
	1 3 回目	幕末の思想～国学と洋学～	
	1 4 回目	江戸時代の庶民信仰～富士講・お伊勢参り～	
	1 5 回目	明治時代の文芸	
到達目標	短期大学生に必要とされる日本文化の歴史についての基礎的な知識を獲得し、歴史学的な視野を広めるとともに、文化への関心と問題意識を創り出せるようになる。また高い分析能力が身につく。		
授業時間外の学習	授業の進捗にあわせ日本文化に関する文献を読み準備をし、授業後は内容の整理をすること。博物館・資料館など文化施設、及びそれらの展示会の見学。		
評価方法	授業時の毎回のレポートを総合して評価（100%） オンライン授業の場合も同様		
テキスト	授業時にデータで配信する。		
参考書			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大工原 豊 教授			
世界と日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	考古学入門ー考古学の視点と方法ー 考古学はモノの形や技術を比較して整理します。この講義ではそうした基本的な方法と考古学的な観点を学んでほしいと思います。 日本文化の特質を、多様な文化とに比較・交流により、総合的に説明できる。学習成果の指標はA－①です。このうち2回は遠隔授業で実施します。（授業前にどの授業が遠隔授業になるか指示します） なお、遠隔授業の場合はオンデマンド型で実施します。
授業計画	1 回目 考古学とは何か？ ・考古学の目的 ・考古学の基本（型式学と層位学） ・ 2 回目 型式学とは何か？ ・型式の概念（型式・形式・様式） ・型式変化の要因（内的要因と外的要因） ・型式変化の具体例（携帯電話・自動車・ルネサンス期の襷襟・シンデレラ城） 3 回目 型式変化の実例 ・課題の研究発表 4 回目 層位学とは何か？ ・土層累重の法則 ・大規模火山噴火と広域テフラ（始良Tn火山灰・アカホヤ火山灰など） ・火山災害を受けた遺跡（榛名山・浅間山の火山噴火の事例） 5 回目 考古学の年代決定法 ・相対年代と絶対年代 ・水月湖の年縞と校正年代 6 回目 世界の考古学の歴史（1） ・古典考古学（ポンペイの発掘）発見の時代 ・北欧考古学（三時代法・旧石器と新石器・型式学の発明）基本概念の確立 7 回目 世界の考古学の歴史（2） ・マルクス主義考古学（ゴードン・チャイルドの考古学）解釈する考古学 ・プロセス考古学（ニューアーケオロジー）理科系の考古学 ・ポストプロセス考古学（哲学的考古学） 8 回目 日本の考古学の歴史（1） ・古代～江戸時代の認識（近代考古学以前） ・明治時代の考古学（近代考古学の始まり） ・大正デモクラシーの考古学（考古学の発展） 9 回目 日本の考古学の歴史（2） ・昭和時代前半期の考古学（弾圧・軍国主義・東亜考古学会） ・戦後の考古学（登呂遺跡の発掘と岩宿の発見） ・高度経済成長と埋蔵文化財（行政発掘の始まり） 1 0 回目 日本の考古学の歴史（3） ・大発掘時代の考古学（バブル期の考古学） ・20世紀の考古学の到達点（光と陰）前期旧石器年蔵事件 ・21世紀の考古学（大学考古学への回帰・学際的研究） 1 1 回目 発掘された日本の遺跡 ・発掘されたさまざまな遺跡と遺構の種類 ・遺跡公園と博物館 1 2 回目 遺跡の実際 ・課題の研究発表 1 3 回目 具体的研究事例の紹介（1） ・環境変化への適応（旧石器時代ー縄文時代移行期の環境変化と道具の変化） 1 4 回目 具体的研究事例の紹介（2） ・縄文時代前半期の黒曜石の流通について 1 5 回目 まとめ ・春セメスターの総括
到達目標	・考古学の基本的な考え方・概念を理解し、説明することができる。 ・世界及び日本の考古学の歴史について概要を理解し、説明することができる。 ・遺跡の種類、遺構の種類を理解し、説明することができる。
授業時間外の学習	・博物館・埋蔵文化財センターあるいは発掘調査の現地説明会などに足を運び、実物資料をよく見ること。できれば触って感触を確かめること。

評価方法	授業の総括（70％） 最終授業時に実施する。配布資料・ノートを持ち込み可 平常点（30％） 授業時に出される課題・小テスト・授業態度から総合的に評価する。 遠隔授業の場合も同じ。
テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	発掘調査への参加希望者および博物館学芸員課程受講者は実習の基礎となる考え方を示しますので、できるかぎり受講してください

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大工原 豊 教授			
日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	日本列島における文化のあゆみを考古学資料をもとに紐解きます。時代ごとに生活基盤・社会構造・精神文化・時代の変化の流れを紹介しますので、その違いを学び取ってください 日本文化の特質を、多様な文化との比較・交流により、総合的に説明できる。学習成果の指標はA－①です。 このうち2回は遠隔授業で実施します。（授業前にどの授業が遠隔授業になるか指示します） なお、遠隔授業の場合はオンデマンド型で実施します。		
授業計画	1 回目 旧石器時代の考古学（1） ・石器群の変遷 ・旧石器時代の狩猟活動 ・旧石器時代の地域性 2 回目 旧石器時代の考古学（2） ・岩宿遺跡とナウマンハンター 3 回目 縄文時代草創期の石器群の変遷 ・更新世から完新世にかけての環境変化 ・草創期の石器群 4 回目 土器の出現・縄文時代の始まり ・草創期の土器群の変遷 ・C14較正年代 5 回目 縄文時代の考古学（1） ・縄文土器の変遷（早期～晩期） 6 回目 縄文時代の考古学（2） ・縄文石器の種類と変遷 ・黒曜石の流通 ・けつ状耳飾と硬玉大珠 ・石棒・石剣 7 回目 縄文時代の考古学（3） ・縄文集落の変遷 ・墓制の変遷 ・縄文時代の生業（狩猟・植物利用・漁撈など） 8 回目 弥生時代の考古学 ・弥生時代の集落と社会 ・弥生土器の変遷 ・弥生石器の変遷 9 回目 古墳時代の考古学（1） ・古墳の変遷 ・埴輪の変遷と種類 ・甲冑と装身具 1 0 回目 古墳時代の考古学 ・古墳時代の集落と社会（テフラに埋もれた古墳時代のムラ） ・土師器の変遷 ・古墳時代の生業（農業・林業・工業） 1 1 回目 古代の考古学 ・古代の集落 ・須恵器と鉄の生産 ・官衙と寺院 ・古代道路と牧 1 2 回目 中世の考古学 ・中世居館と都市 ・中世石造物の変遷 1 3 回目 城郭の考古学 ・城郭の変遷 ・天下普請と石切丁場 1 4 回目 近世の考古学 ・江戸の考古学 ・天明の噴火と農村社会 1 5 回目 まとめ 授業の総括		
到達目標	・旧石器時代～近世にいたる各時代の特徴と変化のプロセスを説明できる。 ・古代～近世における考古学研究・考古学資料の意義を説明できる。		

授業時間外の学習	・博物館・埋蔵文化財センターあるいは発掘調査の現地説明会などに足を運び、実物資料をよく見ること。できれば触って感触を確かめること。
評価方法	授業の総括（70%） 平常点（30%） 授業時に出される課題・小テスト・授業態度により総合的に評価する。 遠隔授業の場合も同じ。
テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大工原 豊 教授			
世界と日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、考古学資料のうち旧石器、縄文石器、縄文土器の分析・観察・記録の基本的方法を学びます。また、考古学の研究方法についての基本文献を講読します。そして、内容を理解して要約文を作成します。日本文化の特質を、多様な文化との比較・交流により、総合的に説明できる。学習成果の指標はA-①です。このうち2回は遠隔授業で実施します。（授業前にどの授業が遠隔授業になるか指示します）なお、遠隔授業の場合、課題型、同時・双方向型、オンデマンド型を併用します。		
授業計画	1 回目 考古資料の特徴と分類 - 考古資料の特徴と研究方法（型式学について） - 考古資料の分類（土器・石器・金属器・木器・骨角器など） 2 回目 旧石器の分析方法 - 石器の観察方法（原人の石器・旧人の石器・新人の石器の違い） - 石器図化の方法（超焦点撮影法と3D計測法） 3 回目 旧石器の図化（1） - 旧石器の観察と図化作業の実践（各自与えられた石器の実測） 4 回目 旧石器の図化（2） - 旧石器の観察と図化作業の実践（各自与えられた石器の実測） 5 回目 縄文石器の分析方法 - 縄文石器の特徴と分類方法 - 打製石器の観察方法（直接打撃と押圧剥離） 6 回目 縄文石器の製作実験 - 黒曜石で石鏃を製作 7 回目 縄文土器の分類・観察方法 - 縄文土器の編年表の見方 - 時期ごとの土器の違い 8 回目 縄文土器の観察と縄文原体の製作・施文 - 縄文施文の観察 - 縄文原体の製作・施文 9 回目 縄文土器の実測・拓本作成 - 縄文土器の拓本と断面図を作成する 10 回目 古代の土器の分析方法 - 土師器・須恵器の観察・分析方法 - 埴輪の観察・分析方法 - 編年表の見方 11 回目 基本文献の講読（1） - 文献の輪読 - 要約文の作成と発表（授業後に課題として提出） 12 回目 基本文献の講読（2） - 文献の輪読 - 要約文の作成と発表（授業後に課題として提出） 13 回目 基本文献の講読（3） - 文献の輪読 - 要約文の作成と発表（授業後に課題として提出） 14 回目 基本文献の講読（4） - 文献の輪読 - 要約文の作成と発表（授業後に課題として提出） 15 回目 まとめ		
到達目標	考古学資料の観察・研究の方法を理解し、実践することができる。 考古学の基本的研究方法の成立過程と内容を理解することができる。		
授業時間外の学習	考古資料を博物館などで実際に観察する。 考古学の概説書や論文などを読み、考古学の基礎知識を習得するようにする。		
評価方法	平常点：資料操作成果物（20%）、製作物（20%）、拓本・石器実測図（20%）、文献要約文作成（40%） 遠隔授業の場合も同様です		
テキスト	授業時配布の資料を使用する。		
参考書	授業時に紹介する。		
備考	考古学フィールドワーク受講者は併せて受講することが望ましい。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大工原 豊 教授			
日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	日本列島における文化のあゆみを考古学資料をもとに紐解きます。時代ごとに生活基盤・社会構造・精神文化・時代の変化の流れを紹介しますので、その違いを学び取ってください 日本文化の特質を、多様な文化との比較・交流により、総合的に説明できる。学習成果の指標はA－①です。 このうち2回は遠隔授業で実施します。（授業前にどの授業が遠隔授業になるか指示します） なお、遠隔授業の場合はオンデマンド型で実施します。		
授業計画	1 回目 旧石器時代の考古学（1） ・石器群の変遷 ・旧石器時代の狩猟活動 ・旧石器時代の地域性 2 回目 旧石器時代の考古学（2） ・岩宿遺跡とナウマンハンター 3 回目 縄文時代草創期の石器群の変遷 ・更新世から完新世にかけての環境変化 ・草創期の石器群 4 回目 土器の出現・縄文時代の始まり ・草創期の土器群の変遷 ・C14較正年代 5 回目 縄文時代の考古学（1） ・縄文土器の変遷（早期～晩期） 6 回目 縄文時代の考古学（2） ・縄文石器の種類と変遷 ・黒曜石の流通 ・けつ状耳飾と硬玉大珠 ・石棒・石剣 7 回目 縄文時代の考古学（3） ・縄文集落の変遷 ・墓制の変遷 ・縄文時代の生業（狩猟・植物利用・漁撈など） 8 回目 弥生時代の考古学 ・弥生時代の集落と社会 ・弥生土器の変遷 ・弥生石器の変遷 9 回目 古墳時代の考古学（1） ・古墳の変遷 ・埴輪の変遷と種類 ・甲冑と装身具 1 0 回目 古墳時代の考古学 ・古墳時代の集落と社会（テフラに埋もれた古墳時代のムラ） ・土師器の変遷 ・古墳時代の生業（農業・林業・工業） 1 1 回目 古代の考古学 ・古代の集落 ・須恵器と鉄の生産 ・官衙と寺院 ・古代道路と牧 1 2 回目 中世の考古学 ・中世居館と都市 ・中世石造物の変遷 1 3 回目 城郭の考古学 ・城郭の変遷 ・天下普請と石切丁場 1 4 回目 近世の考古学 ・江戸の考古学 ・天明の噴火と農村社会 1 5 回目 まとめ 授業の総括		
到達目標	・旧石器時代～近世にいたる各時代の特質と変化のプロセスを説明できる。 ・古代～近世における考古学研究・考古学資料の意義を説明できる。		

授業時間外の学習	・博物館・埋蔵文化財センターあるいは発掘調査の現地説明会などに足を運び、実物資料をよく見ること。できれば触って感触を確かめること。
評価方法	授業の総括（70%） 平常点（30%） 授業時に出される課題・小テスト・授業態度により総合的に評価する。 遠隔授業の場合も同じ。
テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	

講義科目名称： 考古学フィールドワーク I

授業コード： 123006

英文科目名称： Field Work of Archaeology 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大工原 豊 教授			
日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	発掘調査と遺物整理のための基礎的な方法およびその活用と測量の実技を学びます。Ⅰ（春セメスター）とⅡ（秋セメスター）を必ずあわせて受講すること。なお、考古学専攻以外の学生も受講できます。教養科目と専門科目の学習を通じて、幅広い視野・知識・技能とコミュニケーション能力を身につけ、希望の進路に進むことができる。学習成果の指標はA-③です。 遠隔授業の場合、課題型、同時・双方向型、オンデマンド型を併用します。		
授業計画	1 回目 遺物整理の基本 2 回目 縄文土器実測の方法 3 回目 土器の拓本（原理・実習） 4 回目 土器の断面実測（原理・実習） 5 回目 石器の分類・観察 6 回目 石器の実測（1） 実測の基本 7 回目 石器の実測（2） 実測作業 8 回目 石器の実測（3） 実測作業 9 回目 野外調査の技術 1 レベルの使用法 1 0 回目 野外調査の技術 2 土層セクション図の作成 1 1 回目 野外調査の技術 3 平板による平面図作成 （原理） 1 2 回目 野外調査の技術 4 平板による平面図作成 （実習） 1 3 回目 野外調査の技術 5 平板による等高線作成 （原理） 1 4 回目 野外調査の技術 6 平板による等高線作成 （実習） 1 5 回目 本年度調査の方針		
到達目標	・縄文土器の製作方法について理解することができる。 ・縄文石器の製作方法について理解することができる。 ・考古学資料の活用について理解することができる ・基礎的な実測技術・測量技術を修得する。 ・地層の堆積状態と観察方法について理解することができる。		
授業時間外の学習	・夏季には地方公共団体の実施する発掘調査に参加すること。 ・これまでの調査で出土した資料の整理・報告書作成に積極的に参加すること。		
評価方法	平常点。積極的・自主的に実習に参加する度合いで評価する。 遠隔授業の場合も同様です。		
テキスト	授業時配布の資料を使用する。		
参考書	授業時に紹介する。		
備考	出来る限り考古学演習Ⅰも受講してください。		

講義科目名称： 考古学フィールドワークⅡ

授業コード： 222004

英文科目名称： Field Work of Archaeology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
大工原 豊 教授			
日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	縄文土器・石器の遺物の整理の実務をおこない、報告書にまとめます。本講座受講者は、Ⅰ（春セメスター）とⅡ（秋セメスター）を必ずあわせて受講すること。 なお、整理の理論的な問題、写真整理については「考古学演習Ⅱ」で行うので、あわせて受講することが望ましい。 本講座では、出土した遺物の整理作業を実際におこない、報告書にまとめる作業を行います。 教養科目と専門科目の学習を通じて、幅広い視野・知識・技能とコミュニケーション能力を身につけ、希望の進路に進むことができる。学習成果の指標はA-③です。 遠隔授業の場合、課題型、同時・双方向型、オンデマンド型を併用します。
授業計画	1 回目 調査成果の検討 2 回目 現場図面の整理 1 第二原図の作成 3 回目 現場図面の整理 2 図面のデジタルデータ化 4 回目 遺物の整理 1 洗浄 5 回目 遺物の整理 2 注記 6 回目 遺物の整理 3 台帳化 7 回目 遺物の整理 4 抽出 8 回目 土器の整理 1 拓本 9 回目 土器の整理 2 断面図作成 1 0 回目 石器の整理 1 石器観察 1 1 回目 石器の整理 2 石器実測 1 2 回目 石器の整理 3 石器実測 1 3 回目 報告書の記載方法 土器 1 4 回目 報告書の記載方法 石器 1 5 回目 調査の総括
到達目標	・縄文土器の観察と図化を行うことができる。 ・縄文石器の観察と図化を行うことができる。 ・遺物整理の流れを理解することができる。
授業時間外の学習	・これまでの調査で出土した資料の整理・報告書作成に積極的に参加すること
評価方法	平常点：考古技術の理解度・技術の習熟度（70%）、整理作業への取り組み方（30%）
テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	出来る限り考古学演習Ⅱも受講してください。

講義科目名称： 文化財学

授業コード： 111001

英文科目名称： Cultural Heritage

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
鈴木一男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	文化財学は主に文字を使わない資料を対象にして、歴史を研究する学問である。文化財保護法と体系化された文化財の枠組みや指定・登録制度をはじめ、文化財がいつ、どのような背景で作られたのかなどを知るための技術や専門知識の基礎を説明する。なお、学習成果指標はA-①である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業位なった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目	オリエンテーション	ー文化財とは何かー
	2 回目	文化財保護法と文化財の枠組み	
	3 回目	文化財の基礎知識 1	ー有形文化財と伝統的建造物群ー
	4 回目	文化財の基礎知識 2	ー社寺建築ー
	5 回目	文化財の基礎知識 3	ー住宅建築ー
	6 回目	文化財の基礎知識 4	ー甲冑と刀剣ー
	7 回目	文化財の基礎知識 5	ー木工芸ー
	8 回目	文化財の基礎知識 6	ー漆工芸ー
	9 回目	文化財の基礎知識 7	ーやきもの（土器）ー
	1 0 回目	文化財の基礎知識 8	ーやきもの（陶磁器）ー
	1 1 回目	文化財の基礎知識 9	ー彫刻（仏像）ー
	1 2 回目	文化財の基礎知識 10	ー民俗文化財ー
	1 3 回目	文化財の基礎知識 11	ー史跡と埋蔵文化財ー
	1 4 回目	文化財の基礎知識 12	ー文化的景観と世界遺ー
	1 5 回目	文化財と自然科学	
到達目標	文化財とは何かやその役割、文化財の専門的基礎知識が身につく。また、その知識の獲得により、文化財の歴史的価値を理解できる。		
授業時間外の学習	興味のある文化財について、博物館や図書館を利用してより深い知識を得る。		
評価方法	小テストないし授業時のレポート（70%）、授業への参加意欲（30%）を基準にして、総合的に評価する。遠隔授業の場合は、レポート（50%）および授業への参加意欲（50%）を総合して評価する。		
テキスト	授業前に資料を配布する。		
参考書	井上光貞『図説 歴史散歩辞典』山川出版社 1979		
備考			

講義科目名称： 文化財の保護

授業コード： 211001

英文科目名称： Protection of Cultural Properties

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修 資格必修
担当教員			
鈴木一男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	明治維新やその後の敗戦など、近現代史上の大きな変革期を経て、文化財保護思想が芽生え、発展していく過程を概観し、その中で現在の文化財の枠組みが構成されてきたことを説明する。また、各類型ごとの保護制度や継承のための取組みを学び、文化財保存と活用の視点から今日的課題について触れる。なお、学習成果の指標はA-①である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。		
授業計画	1 回目	オリエンテーション ―「文化財の保護」で学ぶこと―	
	2 回目	戦前の文化財保護制度	
	3 回目	文化財保護法の成立	
	4 回目	文化財保護法の改正	
	5 回目	無形文化財の保護 1 ―芸能―	
	6 回目	無形文化財の保護 2 ―工芸技術―	
	7 回目	民俗文化財の保護 1 ―有形・無形民俗文化財―	
	8 回目	民俗文化財の保護 2 ―民俗技術―	
	9 回目	記念物の保護 1 ―史跡と名勝―	
	1 0 回目	記念物の保護 2 ―天然記念物―	
	1 1 回目	伝統的建造物群の保護	
	1 2 回目	文化的景観の保護	
	1 3 回目	文化財保存技術の保護	
	1 4 回目	埋蔵文化財の保護	
	1 5 回目	これからの文化財保護	
到達目標	文化財保護制度の歩みを近現代史との関係で捉えられ、文化財に対する考え方や枠組みの変化を正しく理解して、今日的な課題に発展させることができる。		
授業時間外の学習	自分が住む町など、身近で行われている文化財の保存と活用事例をできるだけ多く見聞する。		
評価方法	小テストないし授業時のレポート（70％）、授業への参加意欲（30％）を基にして、総合的に判断する。遠隔授業の場合は、レポート（50％）および授業への参加意欲（50％）を総合して評価する。		
テキスト	事前に講義資料を配布する。		
参考書	文化庁文化財部監修「月刊文化財」 第一法規株式会社		
備考			

講義科目名称： 人文地理学

授業コード： 125003

英文科目名称： Human Geography

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
中 大輔 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	この授業は、人文地理学の方法論とその実践例について学ぶことを目標とする。人文地理学とは、地理的条件の生成や相互関係の分析から、一般的な原理を導き出そうとする系統地理学のうち、政治・経済・社会・文化や伝統などの人文的条件に着目する学問である。人文地理学の手法を実践例から学ぶことによって、身近な地域についても地理学的に考える力を育む。なお、学習成果の指標は A-①である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroom）と、③オンデマンド型学修（Google Meet）を組み合わせて実施する。
授業計画	1 回目 人文地理学の方法 2 回目 人口の地理学 3 回目 村落の地理学 4 回目 都市の地理学 5 回目 農業の地理学 6 回目 工業の地理学 7 回目 商業・流通の地理学 8 回目 観光の地理学 9 回目 政治の地理学 1 0 回目 文化の地理学 1 1 回目 歴史地理学① 歴史地理学の手法 1 2 回目 歴史地理学② 古代都市 1 3 回目 歴史地理学③ 古代道路 1 4 回目 歴史地理学④ 条里制 1 5 回目 まとめ
到達目標	人文地理学の方法論を身につけ、自分の生活する地域を分析することができる。 様々な地域の地域的特性を知ること、日本の地理を深く理解することができる。
授業時間外の学習	授業プリントを読み返して理解を確認すること。 紹介した参考書などを図書館などで読んでみる。 日頃から紙媒体やWebの地図を見るように心がけること。
評価方法	授業ごとのコメントペーパー（30%） 学期末の試験（70%） ※遠隔授業に変更した場合はレポートとする
テキスト	指定しない。毎回プリントを配布する。
参考書	上野和彦ほか『地理学概論』（朝倉書店） 竹中克行ほか『人文地理学』（ミネルヴァ書房）
備考	中学・高校地理などで利用した地図帳を用意することが望ましい。 なお、対面での講義を基本とするが、最大2回ほど遠隔授業を実施する場合がある。その際は、Classroomなどで事前に告知をする。

講義科目名称： 自然地理学

授業コード： 214005

英文科目名称： Physical Geography

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
山川信之 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、自然地理学的立場から自然環境の諸要素である地形、気候、植生、土壌の成り立ちやつながりについて学習する。また、自然災害や環境問題にも目を向け、自然環境についての正しい理解が防災や環境保全につながることを理解する。さらに、世界と比較しながら日本の自然環境の特色について理解を深める。授業は学習資料とパワーポイント教材を使った講義を中心に言い、学習内容確認のためのワークシートを配布する。なお、遠隔授業を実施する場合は、同時・双方向型学修（Google Meetを利用）と合わせたハイブリッド授業とし、時間割通りの時間で実施する。また、全体が遠隔授業となった場合にも同様にGoogle Meetを利用した遠隔授業を行う。学習成果の指標はA-①およびA-③とする。		
授業計画	1 回目	自然地理学と自然環境の捉え方 ガイダンスとして自然地理学の地理学における位置づけについて確認する。また、さまざまな自然景観や自然現象を取り上げ、それがどのようにして成り立っているのかについて学習する。それにより自然環境は、一つの要素だけで成り立っているのではなく、様々な要素から成り立っていることを理解する。	
	2 回目	地球について知ろう 地球の大きさや内部構造、地球を取り巻く大気など地球の概観について学習する。それによって地球がどのような特色を持つ天体であるかを理解する。	
	3 回目	世界の大地形 大陸移動や大山脈の形成など地球内部のエネルギーによって起こるさまざまな現象について学習する。それにより地球の陸地が3つの形成時代の異なる地形に分けられることについて理解する。	
	4 回目	地震と災害 地震が引き起こされるメカニズムと地震によって起こる災害について学習する。それによって日本が変動帯に位置し、世界の中でも地震による災害が多い国であることを理解する。	
	5 回目	火山がつくる地形と火山災害 火山の噴火形式や火山がつくるさまざまな地形について学習する。また、火山の噴火によって起こるさまざまな災害についても言及する。それによって日本が変動帯に位置し、世界有数の火山国であることを理解する。	
	6 回目	気候の成り立ち 気温、降水量、風という気候要素に対し、緯度や隔海度、標高、海流、地形などの気候因子にどのような影響を及ぼすかについて学習する。それによりさまざまな気象現象や気候が生じることを理解する。	
	7 回目	ケッペンの気候区分と気候区分の基本的な考え方 中高の教育課程で用いられるケッペンの気候区分について学習する。それによりケッペンの気候区分の基本的な考え方として気温と降水量に加え、植生帯も気候区分の重要な指標になる事ことを理解する。	
	8 回目	日本の気候と気候区分 日本の気候と気候区分について学習する。それにより日本の気候の全般的な特色や各気候区の特色および日本の気候に影響を与える気団や気象現象について理解する。	
	9 回目	気象災害 日本における台風、雪崩、集中豪雨などの気象災害について学習する。また、異常気象や都市気候についても言及する。それにより気象災害がどのようなメカニズムで発生するのかについて理解する。	
	1 0 回目	第四紀の気候変動 第四紀に起きた氷河期や小氷期、亜間氷期の気候変動でどのような環境が生じたのかについて学習する。それによって現在の自然環境が、気候変動を経て成り立っていることを理解する。	
	1 1 回目	世界および日本の土壌 土壌の生成過程について学習する。それにより土壌の生成には基盤岩の風化だけでなく、生物学的および化学的変質を受けながら層位に分化した土壌層を形成することを理解する。また、成帯土壌の生成過程では、気候や植物の影響が大きいことを理解する。さらに、世界や日本にはどのような土壌が分布するのかについても理解する。	
	1 2 回目	日本の植生帯 日本の植生帯とその成り立ちについて学習する。それにより日本の植生帯は気候環境に対応した水平分布と標高によって成り立つ垂直分布があることを理解する。	
	1 3 回目	地球温暖化と自然環境への影響 地球温暖化のメカニズムと地球温暖化によって起こるさまざまな自然環境への影響について学習する。それにより温暖化を防止することが地球レベルの重要な課題であることを理解する。	
	1 4 回目	人為が引き起こすさまざまな環境問題 熱帯雨林の縮小と砂漠化、過度な灌漑による塩地化、自然改変によるアラル海の縮小など人間の経済活動によって引き起こされたさまざまな環境問題について学習する。それにより人為的影響が自然環境の破壊につながっていることについて理解する。	
	1 5 回目	自然地理学の社会的貢献と学習内容のまとめ	

	これまでの学習内容をもとに、自然地理学がどのような形で社会貢献しているのかについて学習する。
到達目標	世界および日本の地形や気候の成り立ちについて基本的な知識を身につけ、日本の自然環境の特色について説明できる。また、自然地理学の知識を防災や減災に活用し、社会に貢献できる。
授業時間外の学習	予習については、授業の終わりに次回の授業の予告とそれに関する予習内容を指示する。また、事前に学習資料をクラスルームに配信するので一読しておく。復習については、毎時間、ワークシートを配布するのでそれを完成させ、次回に授業の際に提出する。授業時間外の学習時間は予習と復習を合わせて150分程度とする。
評価方法	平常点15%（毎回のワークシートの提出）、中間課題35%（レポート）、期末試験またはレポート50%（遠隔授業になった場合や新型コロナウイルスなどの感染症が拡大した場合はレポート）とし、合計100%で評価する。
テキスト	特になし、毎回の授業で学習資料を配布する。
参考書	授業の中で必要に応じて指示する。
備考	出席は毎回取ります。授業内容に関する質問や授業への要望があれば、出席票の裏面に記入してください。次の時間に回答します。

講義科目名称： 日本地誌

授業コード： 225004

英文科目名称： Japanese Topography

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
中 大輔 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	この授業は、地誌学（地域地理学）の視点から、「日本」という地域について理解することを目標とする。地誌学（地域地理学）とは、地理的条件の分析から一定の地域（場所）の特質を総合的に理解しようとする学問である。地理的条件には、地形や気候などの自然的条件と、文化・経済・政治などの人文的条件があるが、それらを総合的に分析することで、「日本」という地域、また「日本」のなかの諸地域の特性について学んでいく。なお、学習成果の指標は A-①である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroom）と、③オンデマンド型学修（Google Meet）を組み合わせて実施する。
授業計画	1 回目 地誌学の方法 2 回目 世界の中の日本 3 回目 日本の気候 4 回目 日本の地形 5 回目 日本の地域区分 6 回目 北海道地方の地誌 7 回目 東北地方の地誌 8 回目 中部地方の地誌 9 回目 近畿地方の地誌 1 0 回目 中国・四国地方の地誌 1 1 回目 九州・沖縄地方の地誌 1 2 回目 関東地方の地誌 1 3 回目 栃木県の地誌 1 4 回目 歴史の中の地誌―風土記を読む― 1 5 回目 日本の地誌（まとめ）
到達目標	地誌学（地域地理学）の方法で、日本の地域的特性を理解することができる。 地図から地理的条件を読みとり、分析できる。 日本の地域的特性を知ること、他地域との比較をおこなうことができる。
授業時間外の学習	授業プリントを読み返して理解を確認すること。 紹介した参考書などを図書館などで読んでみる。 ニュースや新聞などで地域情報に関心を持つこと。
評価方法	授業ごとのコメントペーパー（30%） 学期末の試験（70%） ※遠隔授業に変更した場合はレポートとする
テキスト	指定しない。毎回プリントを配布する。
参考書	矢ヶ崎典隆ほか『地誌学概論』（朝倉書店） 中村和郎ほか『日本の地誌』1～10巻（朝倉書店）
備考	中学・高校地理などで利用した地図帳を用意することが望ましい。 なお、対面での講義を基本とするが、最大2回ほど遠隔授業を実施する場合がある。その際は、Classroomなどで事前に告知をする。

講義科目名称： 宗教学概論

授業コード： 254003

英文科目名称： Outline of Religious Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	フイールド選択必修
担当教員			
渡辺瑞穂子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	世界の宗教から文化・文明の多様性を知ること、現代社会の情勢を多面的に理解する力を養う。諸民族における宗教的起源の概要と儀礼を比較をするほか、教義・祈祷などの諸要素の概略を学ぶ。講義で扱う内容は、ユダヤ教、イスラム教、仏教、ヒンドゥー教、道教の各宗教について2～3回程度の講義を行い、諸宗教の宗派や儀礼の相違を学ぶ。 2回程度のオンデマンド学習を行う予定。 遠隔授業の場合は、①課題型学修(Google Classroomを利用)、③オンデマンド型学修(Google Meetを利用)で実施する。 学習成果の指標はA - ①とB - ①である。
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 現代社会と宗教 3 回目 神道（祭祀者の歴史） 4 回目 仏教・1（概要と開祖・宗派） 5 回目 仏教・2（経典と教義） 6 回目 中国の宗教と思想・1（儒教） 7 回目 中国の宗教と思想・2（道教） 8 回目 ヒンドゥー教・1（概要と教義） 9 回目 ヒンドゥー教・2（宗派と儀礼） 1 0 回目 キリスト教（儀礼と歴史） 1 1 回目 イスラム教・1（概要と開祖・聖典） 1 2 回目 イスラム教・2（儀礼と聖戦） 1 3 回目 ユダヤ教・1（聖典・律法） 1 4 回目 ユダヤ教・2（宗派の形成と儀礼・行事） 1 5 回目 総括
到達目標	諸宗教の成立について、歴史的な概略を理解して相互関係を説明することができる。 宗教的価値の多様性に関する基礎知識を得て、文化や価値の相対性を客観的に考察できる。 広汎かつ多元的な価値観の根源を歴史的観点から考察することで、国際社会に対応する基礎知識が身につく。 宗教・文化の基礎知識を身につけることで、社会情勢の論点を的確に把握して説明できる。
授業時間外の学習	あらかじめテキストを一読し、新しい概念・キーワードを調べておくこと。また、講義後には復習をして知識の定着をはかること。
評価方法	小テスト・レポート（40%） 最後の授業での小テスト（40%） 授業への参加意欲（20%） 遠隔授業に変更した場合はレポート（50%）平常点（50%）
テキスト	岸清香『基礎から学ぶ宗教と宗教文化』勁草書房 2022（令和4）年

参考書	授業時指示
備考	

講義科目名称： 倫理学

授業コード： 145003

英文科目名称： Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
渡辺瑞穂子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	倫理学とは、倫理・人倫の思想と歴史を学ぶだけでなく、人間の生き方や社会のあり方を問う学問である。講義を通じて自己と他者の関係、幸福の意味、義務感、自由・平等などの基本的な概念の知識を得るだけでなく、現代社会が直面する諸問題において求められる倫理的な基準や論点を理解し、考察する能力を養う。 本講座では、まず、西洋の代表的倫理思想から、倫理学説の根拠となる価値観・人間観を中心に概説する。次に、倫理に関わる問題として現代社会の諸相を学び、更に深く自ら考究して、受講生が発表を行う。2回程度のオンデマンド講義を行う予定。 遠隔授業の場合は、①課題型学修(Google Classroomを利用)、②双方向型学修(Google Meetを利用)で実施する。 学習成果は、A - ③、B - ③である。
授業計画	1 回目 ガイダンス・倫理学とは 2 回目 倫理学の歴史と学問分野 3 回目 幸福主義 4 回目 真理探究と言論（ソクラテスとソフィスト） 5 回目 徳倫理学（アリストテレスの思想） 6 回目 道徳判断（善悪の基準） 7 回目 道徳律と道徳判断（善悪の基準） 8 回目 自己主体性（自己と他者） 9 回目 義務論（カントと定言命法） 1 0 回目 正義と自由（社会正義） 1 1 回目 医療倫理（現代社会の生と死） 1 2 回目 市民社会の倫理（個人と社会） 1 3 回目 科学技術（情報化社会など） 1 4 回目 日本的倫理観・1 1 5 回目 日本的倫理観・2
到達目標	西洋の代表的倫理思想から基礎的な倫理学説を習得する。現代社会において倫理学と関わる諸問題への理解を深める。基礎的な知識を習得し、広汎な現象に及ぶ諸相を把握した上で、更に深く自ら考究して、倫理的考察を行い、文章化する。社会問題として偏在する、倫理的な価値観を主体的に言葉で説明できる能力を身につける。
授業時間外の学習	予めテキストを一読し、新しい概念・キーワードを調べておくこと。講義内容を要約し、重要事項については要旨を説明出来るようにすること。発表にあたっては、各自の主題に基づいた先行研究を調べておくこと。
評価方法	小テスト（30%） 授業時の発表（40%） 授業への参加意欲（30%） 遠隔授業に変更した場合はレポート（50%）平常点（50%）
テキスト	柘植尚則『プレップ倫理学[増補版]』弘文堂 2022（令和4）年

参考書	授業時指示
備考	

講義科目名称： 政治学

授業コード： 225005

英文科目名称： Politics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
杉山 亮 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、日本人が歴史の中で政治という営みをどのように行ってきたのかを、近現代を中心に講義していきます。それぞれの時期における政治の特徴を、思想的背景から理解していきます。授業全体を通じて、国際社会の中で日本がどのような道を歩んできたのか、またこれから歩んでいくのかを考えていきたいと思います。 本授業は対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）により実施します。 なお、学習成果の指標はA-③とB-③である。
授業計画	1 回目 はじめに——明治維新 2 回目 ルールを作るための闘争—明治国家の権力闘争 3 回目 憲法構想の諸相 4 回目 憲法制定と初期議会 5 回目 日清戦争 6 回目 日清・日露両戦間期の外交と内政 7 回目 日露戦争 8 回目 勝者の混迷—大正政変と明治国家の崩壊 9 回目 第一次世界大戦と日本 1 0 回目 政党政治の爛熟と崩壊 1 1 回目 統治機構の遠心的崩壊—満州事変から二・二六事件 1 2 回目 第二次世界大戦 1 3 回目 敗戦と革命的改革 1 4 回目 55年体制の成立と高度経済成長 1 5 回目 冷戦の終焉と成長の限界
到達目標	・日本政治の歴史と思想に関する基本的知識を身につける。 ・民主主義、立憲主義、自由主義といった政治学の基本概念を理解する。
授業時間外の学習	授業の前後にプリントやノートを読み、講義内容を自分なりに整理しておくこと。分からない用語・人名などについて各自で調べておくこと。
評価方法	毎回のコメント・質問シート（30％）：各講義に対する理解度を評価する 最終レポート（70％）：授業全体の目標への到達度を評価する 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	特に指定しない。講義ごとにプリントを配布する。
参考書	北岡伸一『日本政治史——外交と権力』増補版、有斐閣、2017年 清水唯一朗ほか『日本政治史—現代日本を形作るもの』有斐閣、2020 御厨貴ほか『日本政治史講義—通史と対話』有斐閣、2021 佐々木雄一『近代日本外交史—幕末の開国から太平洋戦争まで』中央公論新社、2022年 *その他の参考文献は授業内で紹介する。
備考	

講義科目名称： 経済原論

授業コード： 224003

英文科目名称： Principles of Economics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	私たちが生活する資本主義社会の経済法則の基礎を学ぶ。その基礎がどのような構造を形成し、いかなる現象として顕現するかを理解する。 商品、貨幣、価格、利子など毎日接しているが実はブラックボックスのようにになっている概念（物象）に関心を持つことから始めます。講義の性格上、抽象性が高くなるが、なるべく主として日本経済に関わる実例を引きながらイメージしやすいものにしていきたい。学習成果の指標はA-①です。 尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。		
授業計画	1 回目 経済を学ぶ意味 2 回目 経済学の対象と方法 3 回目 経済学の効用 4 回目 市場経済メカニズム 1 商品生産と売買 5 回目 市場経済メカニズム 2 需要供給と価格 6 回目 市場経済メカニズム 3 市場の失敗と外部経済 7 回目 貨幣の機能 1 価値尺度と流通手段 8 回目 貨幣の機能 2 蓄蔵機能と支払い手段 9 回目 インフレーションと物価上昇 1 0 回目 貿易と外国為替 1 1 回目 企業と利潤 1 企業形態と株式会社 1 2 回目 企業と利潤 2 資本とは何か、利潤極大化 1 3 回目 企業と利潤 3 賃金の本質と形態 1 4 回目 企業組織と活動領域 1 5 回目 まとめ		
到達目標	市民社会における生活者として自分を取り巻く経済問題を読み解く力の育成を目的とする。特に、選挙権行使の際に経済分野において自身の見解をもてるようにする。		
授業時間外の学習	授業時に翌週授業時まで読んでくるテキスト部分を指示するので、その指示に従うように。適宜、新聞、雑誌等の資料を配布する。それもその都度、指示する。		
評価方法	小テスト30%、授業への参加意欲70%。オンライン移行時には、授業態度30%、授業時小テスト70%で評価する。		
テキスト	適宜、プリント配布		
参考書			
備考			

講義科目名称： コンピュータと情報A

授業コード： 111002

英文科目名称： Computers and Information Data Processing A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	現代の情報社会において、コンピュータの利用は当たり前になっています。特にパソコンの仕組みの理解や、タッチタイピングはもちろん、ワープロや表計算、プレゼンテーションソフトなどの習得は、文字の読み書きと同じレベルで必須になりつつある状況です。この講義では、演習を通して、こうした基礎的な「コンピュータ・リテラシー」について習得を行います。大学においてはレポートを書いたり、そのレポートのためのデータを作成したり、あるいは発表をしたりすることは多いです。ビジネスにおいても、ビジネス文書の作成に、データ作成もプレゼンも日常茶飯事で、利用例は枚挙にいとまがありません。習得には日々の反復が重要であるため、コンピュータを毎日触る習慣をつけていきましょう。 なお、対面授業から遠隔授業に切り替える状況になった場合は、ClassroomとMeetを利用した遠隔授業を予定していますが、その時の状況で変更します（授業初日にClassroomへの登録を行います）。 学習成果の指標：A-③
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 機器の構成とパソコンの仕組み 3 回目 ファイルの概要 4 回目 グループウェアの活用：基本的なG Suiteの利用方法 5 回目 Wordの基本機能 6 回目 Wordの図表の挿入 7 回目 Word演習①（習得した機能を利用したレポートの作成練習） 8 回目 Word演習②（習得した機能を利用したビジネス文章の作成練習） 9 回目 Excelの基本機能 1 0 回目 表とグラフ作成 1 1 回目 関数の利用①（合計、平均などの基礎的な関数の使い方の練習） 1 2 回目 関数の利用②（IF関数などの基本的な関数の使い方の練習） 1 3 回目 プレゼンテーションソフトの利用（PowerPointの概要とスライドの作成） 1 4 回目 プレゼンテーションソフトの活用（アニメーションの使い方の練習） 1 5 回目 インターネットの利用
到達目標	この講義では、パソコンの基礎的な仕組みの理解とコンピュータや主なソフトウェアの操作方法を習得できます。さらに、習得した操作を使って自分の目的に沿ったものを作成するなどして、コンピュータの使い方のセンスを養えます。コンピュータの使い方の習得における到達目標は「基本的なパソコンの仕組みの理解と機能の習得」「タッチタイピングの習得」「基本的なワープロ機能の習得」「基本的な表計算機能の習得」「基本的なプレゼンテーションソフトの機能の習得」になります。
授業時間外の学習	指定したソフトなどを利用して、出来る限り毎日「タッチタイピング」をしてください。（30分～1時間程度）また、予習は教科書を読み、復習には授業内で毎回課題を出しますので、それを完成させてください。
評価方法	授業内および授業外に行う提出課題で80%の評価を行います。その他、授業への出席などを含めた参加意欲で20%の評価を行います。 遠隔授業時も評価方法は同じです。
テキスト	実教出版編集部『30時間でマスター Office2021（Windows11対応）』（実教出版、2022年）

参考書	授業中に適宜指示します。
備考	授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。 コンピュータは毎日触ることが上達への近道です。苦手意識のある人ほど、毎日触ってください。 また、情報処理室が利用できない状況（感染症対策等）の場合は、遠隔授業を行います。パソコンの利用方法の授業である以上、手元にパソコンがあることが前提になってしまいます。 【必要なパソコン】 Windows用パソコン（推奨：Windows10以降） 【必要なソフトウェア】 Word、Excel、PowerPoint これらが必要になります。遠隔授業の時だけでなく、これから大学での生活でも社会に出てからも必要になる可能性が非常に高いものなので、出来れば自分で利用できるものを持っていて欲しいです。

講義科目名称： コンピュータと情報B

授業コード： 112004

英文科目名称： Computers and Information Data Processing B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	現代における情報社会は、様々な情報機器を活用しながら日々の生活を行っています。しかし、よく考えてみると、パソコン、スマートフォンなどの情報機器をなんとなく使っていますが、その仕組みについて考えることはほとんどないのではないのでしょうか。 本講義では、コンピュータの基礎的な概要の理解とともに、世の中にあるコンピュータと社会とのつながりについて考察をしていきます。国家試験である「ITパスポート」に相当する基本的なレベルを中心に学び、社会とコンピュータの結びつきを捉え、情報の観点から現代社会を見つめていきます。コンピュータの使い方および活用法ではなく、コンピュータの理論などを学ぶことで、情報を取り扱うためのセンスを養いましょう。ITパスポートの受験を考えている人はもちろんのこと、コンピュータが苦手でもコンピュータの世界を知りたい、これからの情報社会について色々考えてみたいという人は一緒に学んでいきましょう。 遠隔授業に切り替える場合は、Classroomと動画を利用した遠隔授業（オンデマンド型）を予定しています（授業初日にClassroomへの登録を行います）。 学習成果の指標：A-① A-③
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 コンピュータってなに？ コンピュータの構成要素 3 回目 コンピュータの頭脳① プロセッサ 4 回目 コンピュータの頭脳② 記憶装置 5 回目 入出力装置 6 回目 その他の装置とインタフェース 7 回目 ソフトウェアの種類 8 回目 OSの役割 9 回目 コンピュータの考え方① 文字コードと論理演算 1 0 回目 コンピュータの考え方② 基数変換 1 1 回目 コンピュータの考え方③ アルゴリズム 1 2 回目 コンピュータの考え方④ プログラミング言語の種類 1 3 回目 ファイルの種類と形式 1 4 回目 アナログとデジタル① 音の処理 1 5 回目 アナログとデジタル② 画像の処理
到達目標	この講義では情報に関する様々な概要について習得をしていただきます。「コンピュータシステムの理解」「コンピュータの考え方の理解」とともに、そこに登場する概念などを定着させましょう。
授業時間外の学習	予習は教科書の該当箇所を読み、分からない部分をまとめておきましょう。復習は、該当箇所のノートを見なおしたり、問題を問いたりしましょう。
評価方法	授業内課題（レポートを含む）を30%、期末試験で60%とし、授業への参加意欲で10%を評価します。 遠隔授業に切り替えた場合は、期末試験が期末レポートに変更の可能性があります。期末試験時がどちらで行う状況かで判断します。
テキスト	ITパスポート試験教育研究会『スピードマスター ITパスポート試験 テキスト&問題集七訂版』（実教出版、2023年） その他必要に応じて、紹介もしくは資料配布を行います。
参考書	授業の中で適宜指示します。

備考	授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。 適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。
----	--

講義科目名称： コンピュータと情報C

授業コード： 211002

英文科目名称： Computers and Information Data Processing C

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	現代の情報社会は、スマートフォンやパソコンを利用するような自分たちが意識してコンピュータを使うとき以外にも、様々な場面でコンピュータの活用が行われています。本講義では、世の中にあるコンピュータと社会とのつながりについて考察をしていきます。「コンピュータと情報B」とは違い、コンピュータと社会のつながりを理論的に学びます。国家試験である「ITパスポート」の「テクノロジ系」や「ストラテジ系」に相当する部分を中心に学び、社会とコンピュータの結びつきを捉え、情報の観点から現代社会を見つめていきます。「コンピュータと情報A」や「コンピュータと情報B」を受けた人は特に理解が深まるでしょう。遠隔授業に切り替える場合は、Classroomと動画を利用した遠隔授業（オンデマンド型）を予定しています（授業初日にClassroomへの登録を行います）。 学習成果の指標：A-① A-③
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 データと情報 3 回目 データベースの考え方 4 回目 統計の考え方 5 回目 コンピュータシステムの概要 6 回目 コンピュータシステムの処理形態 7 回目 コンピュータシステムの評価と信頼性 8 回目 システム開発の概要 9 回目 ソフトウェアの開発 1 0 回目 UIの重要性 1 1 回目 ITにおけるプロジェクトの概要 1 2 回目 ITサービスの概要 1 3 回目 情報技術の標準化 1 4 回目 ビジネスに使われるIT技術 1 5 回目 情報倫理
到達目標	この講義ではコンピュータと社会に関する様々な理論について習得をします。「基礎的な情報システムの理解」「基礎的なシステム開発の理解」「情報と社会の関係性の理解」とともに、そこに登場する概念などを定着させることが目標です。
授業時間外の学習	予習は教科書の該当箇所を読み、分からない部分をまとめておきましょう。復習は、該当箇所のノートを見なおしたり、問題を問いたりしましょう。
評価方法	授業内課題（レポートを含む）を30%、期末試験（または期末レポート）で60%とし、授業への参加意欲で10%を評価します。 遠隔授業に切り替えた場合は、期末試験が期末レポートに変更の可能性があります。期末試験時がどちらで行う状況かで判断します。
テキスト	ITパスポート試験教育研究会『スピードマスター ITパスポート試験 テキスト&問題集 七訂版』（実教出版、2023年） その他必要に応じて、紹介もしくは資料配布を行います。
参考書	授業の中で適宜指示します。

備考	適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。 授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。
----	--

講義科目名称： マルチメディア演習

授業コード： 255005

英文科目名称： Foundation of Multimedia

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
堀江則之 講師			
添付ファイル			

授業の概要	Word、Excel、PowerPointなどを用いて、マルチメディアに関する視覚資料の作成に取り組むことによって、魅力あるデジタルコンテンツを作成するための知識と技術を学ぶ。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題型学修（「Google Classroom」を利用）にて実施する。なお、学習成果の指標はA-③である。
授業計画	1 回目 ガイダンスおよび「マルチメディア」の概観 シラバスを用いた授業計画や評価方法等の説明のほか、「マルチメディア」について概観する。 2 回目 配色パターン学習とWordによる視覚資料の作成 2色のアクセントカラーデザインのほか、Wordファイルの「ページの配色」「ページ罫線」機能について学ぶ。 3 回目 PowerPointのアニメーション機能を用いた視覚資料の作成の基本 PowerPointのアニメーションの「開始」機能を用いた視覚資料作成の基本について学ぶ。 4 回目 PowerPointのアニメーション機能を用いた視覚資料の作成の応用 PowerPointのアニメーションの「開始」「強調」「終了」機能と「アニメーションウィンドウ」を利用して、アクティブな視覚資料を作成する。 5 回目 Excelを用いた商品のポジショニング分析 自分の興味ある商品カテゴリーと商品に注目し、商品を選ぶ時の重要項目を整理する。さらに、商品のポジショニング分析を行う方法について学ぶ。 6 回目 Excelの「グラフ作成」機能と「ピボットテーブル」機能による視覚資料の作成 Excelのグラフ作成とデータの集計機能であるピボットテーブルを用いた視覚資料の作成方法について学ぶ。 7 回目 PowerPointの「SmartArt」機能を用いた就職準備としての自己分析用視覚資料の作成 システムティックに作図をすることができるPowerPointの「SmartArt」機能を用いて、就職準備としての自己分析に関する視覚資料の作成方法について学ぶ。 8 回目 ExcelとPowerPointによるヒット商品のヒット要因分析 日経トレンディが毎年実施している「ヒット商品ランキング」の情報に基づいて、2025年のヒット商品の分析を行う。さらに、ヒット商品のヒット要因について、PowerPointの視覚資料にまとめる。 9 回目 ペイント3Dを用いた視覚資料の作成 ペイント3Dを用いて、視覚資料の作成方法について学ぶ。 1 0 回目 ペイント3DとPowerPointを用いた視覚資料の作成 ペイント3Dで動画アニメーションを作成し、作成したアニメーションとPowerPointを用いた視覚資料の作成について学ぶ。 1 1 回目 PowerPointの「動作」機能を用いたデジタルコンテンツの作成 ゲーム作成を通じて、PowerPointの「動作」と「ハイパーリンク」機能について学ぶ。 1 2 回目 ライフスタイルに関する視覚資料作成演習 消費者へのライフスタイルの提案というテーマで視覚資料作成の課題に取り組む。 1 3 回目 PowerPointの「ハイパーリンク」機能を用いた教育システムコンテンツの作成 PowerPointの「ハイパーリンク」機能を用いて、教育システムコンテンツの作成に取り組む。 1 4 回目 PowerPointのアニメーション機能と音声ファイルを用いた視覚資料の作成 PowerPointのアニメーション機能の復習のほか、音声ファイルを用いた視覚資料の作成について学ぶ。 1 5 回目 実社会における視覚資料作成能力の活用方法 これからのマルチメディアの展望について講義するとともに、これまでの授業で学んだマルチメディアに関する理論と実践の総復習として、視覚資料の作成に取り組む。
到達目標	1. マルチメディアを理解して、情報発信したい内容をデジタルコンテンツの形で表現することができる。 2. マルチメディアの理論に基づいて思考し、マルチメディアを説明することができる。 3. マルチメディア作品の作成活動において、参加意識を身につける。
授業時間外の学習	画像編集ソフトの使い方について復習を適時行うこと。また、マルチメディア作品を作成するにあたって、デザインに関する講義回数は限られる。そこで、授業時間外では、画像編集を中心としたデザインに関する知識の習得に取り組むこと。 準備学修：1.5時間 事後学修：1.5時間
評価方法	毎回の授業時の提出課題100%で評価する。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	テキストを使用せず。 授業資料は、講座の單元ごとに、Google Classroom等を通じて、事前に配布する。
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。

備考	
----	--

講義科目名称： 文書実務Ⅰ

授業コード： 121003

英文科目名称： Practical Correspondence 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	ビジネスの現場では、日常のこまごまとしたコミュニケーションは会話で済ませるにしても、大事なやり取りは文書で行われる。ビジネス実務の基本である文書を書く技術を身につけ、発信者の伝えたい情報をビジネス文書の形式で正確に効率的に記述することは、仕事を進めるうえで必須の要件となっている。そのため、国語力を高めるとともに、文書実務の基本を修得する。ワープロソフト（ワード）を活用したパソコン実習を中心に授業を進め、問題演習により、基礎から段階的に学習を進め、実践的な文書作成能力を高める。 学習成果の指標は、A－①である。 遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせ実施する。
授業計画	1 回目 文書の重要性 2 回目 文書の果たす役割 3 回目 文書の分類 4 回目 文章の構成 5 回目 正確な文章表現 6 回目 文体の統一 7 回目 現代表記法（前半） 8 回目 現代表記法（後半） 9 回目 縦書きと横書き 1 0 回目 敬語の分類と使い方 1 1 回目 敬語表現 1 2 回目 宛名の敬称 1 3 回目 話し言葉と書き言葉 1 4 回目 言葉遣い 1 5 回目 「文書実務Ⅰ」のまとめ
到達目標	ワープロソフト（ワード）の基本的な操作を学ぶ中で、ビジネス文書の基礎的・基本的技術を身に付ける。
授業時間外の学習	日頃から新聞等をよく読み、経済社会の動向を注視する。
評価方法	平常点（実技、筆記の小テスト）1 0 0 % 遠隔授業になった場合、レポート1 0 0 %
テキスト	河田美恵子『ビジネス文書と日本語表現』改訂 2 版、学文社、2017年
参考書	必要に応じてプリントを配布する。
備考	「文書実務Ⅰ」の発展的授業として、「文書実務Ⅱ」が設定されている。

講義科目名称： 文書実務Ⅱ

授業コード： 232006

英文科目名称： Practical Correspondence 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	「文書実務Ⅰ」の履修を踏まえて、学習を進める。ビジネスの現場では、日常のこまごまとしたコミュニケーションは会話で済ませるにしても、大事なやり取りは文書で行われる。ビジネス実務の基本である文書を書く技術を身につけ、発信者の伝えたい情報をビジネス文書の形式で正確に効率的に記述することは、仕事を進めるうえで必須の要件となっている。そのため、国語力を高めるとともに、文書実務の基本を修得する。ワープロソフト（ワード）に加え、表計算ソフト（エクセル）を活用したパソコン実習を中心に授業を進め、毎回問題演習により段階的に学習を進め、実践的な文書作成能力を高める。 学習成果の指標は、A－①である。 遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせ実施する。		
授業計画	1 回目 社内文書の形式と書き方 2 回目 社外文書の形式と書き方 3 回目 封筒・返信はがきの書き方と使い方 4 回目 取引上の文書 5 回目 社交・儀礼的文書 6 回目 慶弔の文書と忌み言葉 7 回目 Eメールの特性 8 回目 Eメールの言葉遣い 9 回目 Eメールの基本的書き方 1 0 回目 受信・発信文書の取り扱いと通信業務 1 1 回目 郵便の基礎知識 1 2 回目 押印の知識 1 3 回目 押印の仕方 1 4 回目 特殊な文書 1 5 回目 文書実務Ⅱまとめ		
到達目標	ワープロソフト（ワード）との連携の上、表計算ソフト（エクセル）の基本的な操作を学ぶ中で、ビジネス文書の専門的・発展的技術を身に付ける。		
授業時間外の学習	日頃から新聞等をよく読み、経済社会の動向を注視する。		
評価方法	平常点（実技、筆記の小テスト）1 0 0 % 遠隔授業になった場合、レポート1 0 0 %		
テキスト	河田美恵子『ビジネス文書と日本語表現』改訂 2 版、学文社、2017年		
参考書	必要に応じてプリントを配布する。		
備考	「文書実務Ⅱ」は、「文書実務Ⅰ」の履修を踏まえて、授業を進める。		

講義科目名称： Webデザイン

授業コード： 400002

英文科目名称： Foundation of Web Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	情報社会になった現代では、世界中の情報が手に入る状況になりました。特に、インターネットの普及したことが大きな要因となり、我々は世界中から情報を手に入れると同時に世界中に情報を発信することが出来るようになりました。この講義では、インターネットの普及の初期から現在に至るまで利用されているHTMLとCSSを学びます。インターネット上のサービスにあるようなソーシャルメディアを利用せずに情報発信することや、世界中の人と情報共有をするということがどういうことなのかを一緒に考察して、情報社会を生きるセンスを養いましょう。 なお、対面授業から遠隔授業に切り替える状況になった場合は、Classroomと動画を利用した遠隔授業（オンデマンド型）を予定していますが、その時の状況で変更します（授業初日にClassroomへの登録を行います）。 学習成果の指標：A-③
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 Webサイトの概要 3 回目 HTMLの概要と基本構造 4 回目 基本的なタグの記述 5 回目 画像とリンクに関するタグの記述 6 回目 表の作成に関するタグの記述 7 回目 HTMLを利用したコンテンツ作成（演習） 8 回目 CSSの概要 9 回目 フォントやテキストに関するCSSの記述 1 0 回目 色に関するCSSの記述 1 1 回目 ボックスおよび表に関するCSSの記述 1 2 回目 クラスやIDを利用したCSSの記述 1 3 回目 その他のタグの記述（divなど） 1 4 回目 HTMLおよびCSSを利用したコンテンツ作成（総合演習） 1 5 回目 ファイルのアップロード
到達目標	「HTMLの概要（ルール）の理解」「HTMLにおける基礎的なタグの習得」「CSSの概要の理解」「基礎的なCSSのタグの習得」といった、Webページを作成するための基礎技術を身につけることが到達目標です。HTMLだけでなく、CSSの記述方法も身につけ、デザインを意識することも念頭に置くようにします。発展的な目標として、言語の書き方のみならず、コンテンツを作成するときの注意事項を身に付けることも目標に出来ると良いでしょう。
授業時間外の学習	予習は、教科書を読んで、余裕があれば実際にHTMLを自分で作ってみてください。復習は、授業中に利用したタグを使って自分のオリジナルのWebページを作ってみましょう。
評価方法	提出課題を40%、期末課題で50%とし、出席などの授業への参加意欲で10%を評価します。遠隔授業に切り替えた場合も評価方法は同じです。
テキスト	千貫 りこ（著）ロクナナワークショップ（監修）『デザインの学校 これからはじめる HTML & CSSの本 [Windows 10 & macOS対応版]』（技術評論社、2017年） その他必要に応じて、紹介もしくは資料配布を行います。
参考書	授業の中で随時紹介します。

備考	授業計画は皆さんの興味や理解度に応じて変更します。 適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。 この科目は「Webデザイン演習」の関連科目です。この科目を受講したあと「Webデザイン演習」を履修すると効果的です。
----	---

講義科目名称： Webデザイン演習

授業コード： 400003

英文科目名称： Applications of Web Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	情報社会になり、インターネットを通して様々な情報が発信できるようになりました。文字や画像、音に映像なども発信できます。本講義では、それらを駆使して実際にWebサイトを作成します。Webサイトを作るための計画を練り、必要な素材を作成、または収集し、「Webデザイン」で習得したHTMLとCSSも利用して、みなさんが主体的にWebサイトを作ります。「マルチメディア演習」「コンピュータグラフィックス」などの授業で利用したソフトも駆使すると、より主体的で楽しい作成になるでしょう。実際にWebサイトを作ることで、情報を発信することについて様々な角度から考察を行ってもらいたいと考えています。 なお、対面授業から遠隔授業に切り替える状況になった場合は、ClassroomとMeetを利用した遠隔授業を予定していますが、その時の状況で変更します（授業初日にClassroomへの登録を行います）。 学習成果の指標：A-③
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 HTMLの復習 3 回目 CSSの復習 4 回目 Webサイト作成準備：さまざまなWebサイトの比較 5 回目 Webサイト作成準備：Webサイト内容の決定と作成方針 6 回目 Webサイト作成準備：更新の計画 7 回目 Webサイト作成準備：Webサイトの設計 8 回目 Webサイト作成演習：コンテンツ作成① コンテンツ内容の収集など 9 回目 Webサイト作成演習：コンテンツ作成② 写真や動画の編集など 1 0 回目 Webサイト作成演習：Webデザイン用素材収集 1 1 回目 Webサイト作成演習：Webデザイン用素材作成 1 2 回目 Webサイト作成演習：トップページ作成 1 3 回目 Webサイト作成演習：コンテンツページ作成 1 4 回目 Webサイト作成演習：Webサイトの公開および更新内容の作成 1 5 回目 自分と他の受講生のWebサイトの評価
到達目標	この講義は「実践的なWeb作成方法の取得」をはじめとして「主体的な情報発信の重要性の理解」「Webサイトのデザインの重要性の理解」を目標としています。技術も重要ですが、主体的に発信するための戦略とその重要性について理解してもらいます。
授業時間外の学習	主体的にWebサイトを作成すると、授業時間内で行える作業には限りがあります。コンテンツ（情報の中身）の作成をするだけでなく、素材を収集したり、作成したり、さまざまな作業（もちろんHTMLの作成も）がありますので、進捗が遅れないように作業を進めてください。
評価方法	定期的な作業の進捗具合の確認と最終的な成果物（出来上がったWebサイト）で80%を評価し、情報発信への主体的な取り組みなどを20%とします。 遠隔授業時も評価方法は同じです。
テキスト	授業の中で適宜指示します。
参考書	千貫 りこ(著) ロクナナワークショップ(監修)『デザインの学校 これからはじめる HTML & CSSの本 [Windows 10 & macOS対応版]』(技術評論社、2017年) 狩野 祐東(著)『いちばんよくわかるHTML5&CSS3デザインきちんと入門』(SBクリエイティブ、2016年) その他、授業の中で適宜指示します。

備考	適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。 授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。 この講義は「Webデザイン」の講義を履修したことが前提で進む予定です。履修していないと受けられないわけではありませんが、HTMLとCSSについての講義は行いませんので、少し大変になるでしょう。受ける前に担当教員に相談をしてもらえると助かります。また「マルチメディア演習」「コンピュータグラフィックス」を受講しているとより深く学ぶことが出来ます。
----	---

講義科目名称： 社会経済学Ⅱ

授業コード： 214006

英文科目名称： The Theory of Social Economy Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	この講座は、資本主義社会の経済法則を明らかにし、それに基づいてこの社会の経済構造と現象を理解することを目的としている。 社会経済学Ⅰの理解を前提にした講義形式で、主として日本経済にかかわる実例や統計を引きながらイメージしやすいものにしていく。適宜、小テストを実施し、学生の理解度を確認していく。学習成果の指標はA-①です。 尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。
授業計画	1 回目 経済成長 1 戦後高度成長と規模の経済 2 回目 経済成長 2 資本蓄積と再生産 3 回目 経済成長 3 技術革新と資本構成の変化 4 回目 経済成長 4 相対的過剰人口 資本集中 5 回目 GDPと国民所得 1 国民所得の 3 面等価 6 回目 GDPと国民所得 2 第三次産業の拡大 7 回目 GDPと国民所得 3 投資と貯蓄 8 回目 要点の確認 小テスト 9 回目 商業と銀行 1 商業資本と銀行資本 1 0 回目 商業と銀行 2 銀行制度とビックバン 1 1 回目 国家財政と租税 1 市場経済と国家 1 2 回目 国家財政と租税 2 経費膨張のメカニズム 1 3 回目 経済と情報化社会 1 4 回目 環境保全型経済社会の創出 1 5 回目 まとめ
到達目標	経済におけるマクロ分野（国民経済すなわち経済成長、財政、産業構造など）の初歩的な理解力を育成する。
授業時間外の学習	授業前週に翌週のテキスト該当部分を指示するので、その部分を読みこんでくること。また適宜、資料等を配布する。その際も授業時に指示する。
評価方法	小テスト10%、授業への参加意欲40%、定期試験50%。オンライン移行時には、授業態度40%、課題テスト60%で評価する。
テキスト	適宜、プリント等配布。
参考書	
備考	

講義科目名称： マーケティング

授業コード： 254004

英文科目名称： Basic Marketing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
堀江則之 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本講座では、「売れる仕組みづくり」であるマーケティングが世の中でどのような役目をはたしているのか、そして、マーケティング理論がどのように役に立つのかについて講義を進める。なお、授業では、3つの観点「マーケティング発想の経営」「マーケティングのマネジメント」「関係のマネジメント」からマーケティングを体系的に学ぶ。 「マーケティング発想の経営」では、マーケティングと経営との関係を確認する。ここでは、マーケティング志向の本質、マーケティング理論の体系、マーケティングの基本フレーム、マーケティングの戦略思考について学ぶ。 「マーケティングのマネジメント」では、マーケティングを円滑に進めていくために、製品、価格、広告、チャネル、サプライチェーン、営業の観点について学ぶ。 「関係のマネジメント」では、企業、製品、顧客、社会との間に継続的な関係をどのように形成していくのかについて学ぶ。 これらの学びによって、ベーシックなマーケティングの理論と実践について理解を深める。なお、学習成果の指標はA-③である。 本講座は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を実施する。																																																														
授業計画	<table><tr><td>1 回目</td><td>ガイダンス マーケティング発想の経営</td></tr><tr><td></td><td>本講座で「マーケティング」について学ぶにあたり、はじめに「マーケティング発想」について概観する。</td></tr><tr><td>2 回目</td><td>マーケティング論の成り立ち</td></tr><tr><td></td><td>「マーケティング論」と呼ばれる学問の成り立ちや特徴などについて解説する。</td></tr><tr><td>3 回目</td><td>マーケティングの基本概念（Product・Promotion・Place・Price）</td></tr><tr><td></td><td>「マーケティングの基本概念」について解説する。</td></tr><tr><td>4 回目</td><td>製品のマネジメント</td></tr><tr><td></td><td>一般の消費者が購入する消費財のマネジメントを中心に解説する。</td></tr><tr><td>5 回目</td><td>価格のマネジメント</td></tr><tr><td></td><td>マーケティングにおいて重要な意識決定の1つである「価格設定」について解説する。</td></tr><tr><td>6 回目</td><td>広告のマネジメント</td></tr><tr><td></td><td>広告表現における3つの対応（消費者対応、競争対応、ブランド対応）、そして、プロモーション・ミックスの中における広告の役割とその他の連携について解説する。さらに、広告媒体それぞれの特性とその組み合わせについても学ぶ。</td></tr><tr><td>7 回目</td><td>チャネルのマネジメント</td></tr><tr><td></td><td>化粧品業界全体の流通経路を概観してから、チャネル別ブランド戦略について解説する。</td></tr><tr><td>8 回目</td><td>サプライチェーンのマネジメント</td></tr><tr><td></td><td>マーケティングの実施に合わせて製品を安定供給するための、サプライチェーンマネジメントについて解説する。</td></tr><tr><td>9 回目</td><td>営業のマネジメント</td></tr><tr><td></td><td>サントリー酒類株式会社のウイスキー事業の事例から、営業部門がどのようにして人気商品を支えているのかについて解説する。</td></tr><tr><td>1 0 回目</td><td>顧客関係のマネジメント</td></tr><tr><td></td><td>アウトドアブランドの「スノーピーク」の事例を通じて、この企業と顧客との良好な関係作りについて解説する。</td></tr><tr><td>1 1 回目</td><td>ビジネスモデルのマネジメント</td></tr><tr><td></td><td>体脂肪計で有名となった「タニタ」の事例を通じて、ビジネスモデルについて解説する。</td></tr><tr><td>1 2 回目</td><td>顧客理解のマネジメント</td></tr><tr><td></td><td>企業の多岐にわたる顧客理解の手法とそれらの要点について解説する。</td></tr><tr><td>1 3 回目</td><td>ブランド構築のマネジメント</td></tr><tr><td></td><td>「キットカット」の事例を通じて、ブランド構築のマネジメントについて解説する。</td></tr><tr><td>1 4 回目</td><td>ブランド組織のマネジメント</td></tr><tr><td></td><td>ブランドを成長させるための組織の仕組みについて、ブランド・ポジショニング、ブランド拡張の観点から解説する。</td></tr><tr><td>1 5 回目</td><td>社会責任のマネジメントおよび今後のマーケティングの展望</td></tr><tr><td></td><td>マーケティングのひろがりとしての「企業の社会責任」（CSR：Corporate Social Responsibility）に焦点を当て、社会責任のマネジメントについて解説する。</td></tr></table>			1 回目	ガイダンス マーケティング発想の経営		本講座で「マーケティング」について学ぶにあたり、はじめに「マーケティング発想」について概観する。	2 回目	マーケティング論の成り立ち		「マーケティング論」と呼ばれる学問の成り立ちや特徴などについて解説する。	3 回目	マーケティングの基本概念（Product・Promotion・Place・Price）		「マーケティングの基本概念」について解説する。	4 回目	製品のマネジメント		一般の消費者が購入する消費財のマネジメントを中心に解説する。	5 回目	価格のマネジメント		マーケティングにおいて重要な意識決定の1つである「価格設定」について解説する。	6 回目	広告のマネジメント		広告表現における3つの対応（消費者対応、競争対応、ブランド対応）、そして、プロモーション・ミックスの中における広告の役割とその他の連携について解説する。さらに、広告媒体それぞれの特性とその組み合わせについても学ぶ。	7 回目	チャネルのマネジメント		化粧品業界全体の流通経路を概観してから、チャネル別ブランド戦略について解説する。	8 回目	サプライチェーンのマネジメント		マーケティングの実施に合わせて製品を安定供給するための、サプライチェーンマネジメントについて解説する。	9 回目	営業のマネジメント		サントリー酒類株式会社のウイスキー事業の事例から、営業部門がどのようにして人気商品を支えているのかについて解説する。	1 0 回目	顧客関係のマネジメント		アウトドアブランドの「スノーピーク」の事例を通じて、この企業と顧客との良好な関係作りについて解説する。	1 1 回目	ビジネスモデルのマネジメント		体脂肪計で有名となった「タニタ」の事例を通じて、ビジネスモデルについて解説する。	1 2 回目	顧客理解のマネジメント		企業の多岐にわたる顧客理解の手法とそれらの要点について解説する。	1 3 回目	ブランド構築のマネジメント		「キットカット」の事例を通じて、ブランド構築のマネジメントについて解説する。	1 4 回目	ブランド組織のマネジメント		ブランドを成長させるための組織の仕組みについて、ブランド・ポジショニング、ブランド拡張の観点から解説する。	1 5 回目	社会責任のマネジメントおよび今後のマーケティングの展望		マーケティングのひろがりとしての「企業の社会責任」（CSR：Corporate Social Responsibility）に焦点を当て、社会責任のマネジメントについて解説する。
1 回目	ガイダンス マーケティング発想の経営																																																														
	本講座で「マーケティング」について学ぶにあたり、はじめに「マーケティング発想」について概観する。																																																														
2 回目	マーケティング論の成り立ち																																																														
	「マーケティング論」と呼ばれる学問の成り立ちや特徴などについて解説する。																																																														
3 回目	マーケティングの基本概念（Product・Promotion・Place・Price）																																																														
	「マーケティングの基本概念」について解説する。																																																														
4 回目	製品のマネジメント																																																														
	一般の消費者が購入する消費財のマネジメントを中心に解説する。																																																														
5 回目	価格のマネジメント																																																														
	マーケティングにおいて重要な意識決定の1つである「価格設定」について解説する。																																																														
6 回目	広告のマネジメント																																																														
	広告表現における3つの対応（消費者対応、競争対応、ブランド対応）、そして、プロモーション・ミックスの中における広告の役割とその他の連携について解説する。さらに、広告媒体それぞれの特性とその組み合わせについても学ぶ。																																																														
7 回目	チャネルのマネジメント																																																														
	化粧品業界全体の流通経路を概観してから、チャネル別ブランド戦略について解説する。																																																														
8 回目	サプライチェーンのマネジメント																																																														
	マーケティングの実施に合わせて製品を安定供給するための、サプライチェーンマネジメントについて解説する。																																																														
9 回目	営業のマネジメント																																																														
	サントリー酒類株式会社のウイスキー事業の事例から、営業部門がどのようにして人気商品を支えているのかについて解説する。																																																														
1 0 回目	顧客関係のマネジメント																																																														
	アウトドアブランドの「スノーピーク」の事例を通じて、この企業と顧客との良好な関係作りについて解説する。																																																														
1 1 回目	ビジネスモデルのマネジメント																																																														
	体脂肪計で有名となった「タニタ」の事例を通じて、ビジネスモデルについて解説する。																																																														
1 2 回目	顧客理解のマネジメント																																																														
	企業の多岐にわたる顧客理解の手法とそれらの要点について解説する。																																																														
1 3 回目	ブランド構築のマネジメント																																																														
	「キットカット」の事例を通じて、ブランド構築のマネジメントについて解説する。																																																														
1 4 回目	ブランド組織のマネジメント																																																														
	ブランドを成長させるための組織の仕組みについて、ブランド・ポジショニング、ブランド拡張の観点から解説する。																																																														
1 5 回目	社会責任のマネジメントおよび今後のマーケティングの展望																																																														
	マーケティングのひろがりとしての「企業の社会責任」（CSR：Corporate Social Responsibility）に焦点を当て、社会責任のマネジメントについて解説する。																																																														
到達目標	<table><tr><td>1．</td><td>マーケティングの知識や技術を学ぶことによって、マーケティングの意義や役割について説明することができる。</td></tr><tr><td>2．</td><td>マーケティングの理論に基づいて、商品やサービスについて考察することができる。</td></tr><tr><td>3．</td><td>マーケティングの観点から、消費者の意見を尊重し、受容できる。</td></tr></table>			1．	マーケティングの知識や技術を学ぶことによって、マーケティングの意義や役割について説明することができる。	2．	マーケティングの理論に基づいて、商品やサービスについて考察することができる。	3．	マーケティングの観点から、消費者の意見を尊重し、受容できる。																																																						
1．	マーケティングの知識や技術を学ぶことによって、マーケティングの意義や役割について説明することができる。																																																														
2．	マーケティングの理論に基づいて、商品やサービスについて考察することができる。																																																														
3．	マーケティングの観点から、消費者の意見を尊重し、受容できる。																																																														

授業時間外の学習	授業で取り上げた企業や商品・サービス等について、書籍やインターネットを活用して調べてみることに。 準備学修：1.5時間 事後学修：1.5時間
評価方法	「授業課題の取り組み意欲」（40%）・「レポート」（60%） 「授業課題の取り組み意欲」については、授業で課す「小課題」の取り組み状況を重視する。 「レポート」については、授業の後半に1回提出を求める。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編著）『1からのマーケティング 第4版』（碩学舎、2020年） 別途配布資料は、講座の单元ごとに、Google Classroomを通じて事前に配布などの方法で提供する。 以上は、遠隔授業に変更した場合でも同様とする。
参考書	井上順子・石田大典『新訂 マーケティング』（NHK出版、2023年）
備考	

講義科目名称： カラーコーディネート論 I

授業コード： 121004

英文科目名称： Theory of Color Coordinates I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
山内見和 教授			
添付ファイル			

授業の概要	生活の中で私たちは色彩の影響を非常に多く受けている。ここでは色彩学、特に色はなぜ見えるのか、色の現象など、色の科学的基礎知識を身につけることを目的とする。併せて、東京商工会議所主催のカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラスの傾向と対策を行い、検定試験の合格を目指す。 なお、学習成果の指標はA-③とB-②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。		
授業計画	1 回目	生活と色の効用 ①色の効用・・・色の心理的な効果 Chapter1 PART1 色見本を作成して、色の効果を調べる。	
	2 回目	生活と色の効果 ②色の違いで気分が変わる・・・色のイメージ Chapter1 PART2	
	3 回目	生活と色の効果 ③色の基礎事項・・・色って何？ Chapter1 PART3 インクを調合してペンを作成し、色の名前を調べる。	
	4 回目	生活と色の効果 ④色の基礎事項・・・色は物理と心理で見えている Chapter1 PART3	
	5 回目	色を美しく見せるマジック ①光から色が見えるしくみ・・・光とは Chapter4 PART1	
	6 回目	色を美しく見せるマジック ②光から色が見えるしくみ・・・混色 Chapter4 PART1	
	7 回目	色を美しく見せるマジック ③光から生まれる色の世界・・・なぜ虹が見えるのか Chapter4 PART2	
	8 回目	色を美しく見せるマジック ④光から生まれる色の世界・・・光の自然現象 Chapter4 PART2	
	9 回目	色を美しく見せるマジック ⑤光から生まれる色の世界・・・照明器具と光の特性 Chapter4 PART2	
	1 0 回目	背景色を上手に使って色見えを変えてみよう ①色見えを左右する基礎事項と色使いのポイント・・・眼の役割 Chapter5 PART1	
	1 1 回目	背景色を上手に使って色見えを変えてみよう ②色見えを左右する基礎事項と色使いのポイント・・・色をどう感じるか Chapter5 PART1	
	1 2 回目	背景色を上手に使って色見えを変えてみよう ③色見えを左右する基礎事項と色使いのポイント・・・色をみること Chapter5 PART1	
	1 3 回目	背景色を上手に使って色見えを変えてみよう ④色の効果を活用するために・・・視覚野が関与した色知覚 Chapter5 PART2	
	1 4 回目	背景色を上手に使って色見えを変えてみよう ⑤色の効果を活用するために・・・色彩効果と事例 Chapter5 PART2	
	1 5 回目	まとめ	
到達目標	どうして色が見えるのか？ 講義では色が見える仕組みを理解し、色とファッションの関わりだけではなく、日常の中の色不思議、色と生活との大きな関わりを理解し、日常生活に色彩学の知識を役立てることができる。		
授業時間外の学習	日常生活で色彩が大きな役割を果たしている。 色彩に関して、気付いたこと、不思議に感じたことを調べる。また、講義時に配布されたプリントの予習・復習を行い、カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラスの合格を目指す。		
評価方法	小レポート：30%、期末レポート：70%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	『カラーコーディネーター検定試験 スタンダードクラス』東京商工会議所編・中央経済社		

参考書	
備考	

講義科目名称： カラーコーディネート論 II

授業コード： 243005

英文科目名称： Theory of Color Coordinates II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
山内見和 教授			
添付ファイル			

授業の概要	色の名前は何色あるの？色が及ぼす心理的な影響は？など、色について、名前、配色、心理的効果、歴史について学ぶ。また、自分に似合う色を知るためのパーソナルカラーの基礎知識を習得するため、講義だけでなく簡単な実習を行い、色彩の知識を深める。併せて、東京商工会議所主催のカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラスの傾向と対策を学び、検定試験の合格を目指す。 なお、学習成果の指標はA-③とB-②である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。		
授業計画	1 回目	色を自在に操る方法 ①色の分類・・・色の三属性 Chapter2 PART1 インクを調合しペンを作成、色の名前を調べる。	
	2 回目	色を自在に操る方法 ②色の表示方法・・・カラーオーダーシステム Chapter2 PART2	
	3 回目	色を自在に操る方法 ③色名と名前のつけ方・・・色の名前 Chapter2 PART3	
	4 回目	色を自在に操る方法 ④PCCS一色を操り、記録し、伝える手法・・・PCCSの特徴 Chapter2 PART4	
	5 回目	色を自在に操る方法 ⑤マンセル表色系一色彩のプロが使う正確な色の伝え方・・・マンセル表色系の特徴 Chapter2 PART5	
	6 回目	きれいな配色をつくる ①配色を知る・・・配色とは Chapter3 PART1	
	7 回目	きれいな配色をつくる ②配色を知る・・・トーンによる配色 Chapter3 PART1	
	8 回目	きれいな配色をつくる ③配色を使いこなす・・・無彩色の配色 Chapter3 PART2	
	9 回目	きれいな配色をつくる ④配色を使いこなす・・・有彩色の配色 Chapter3 PART2	
	1 0 回目	きれいな配色をつくる ⑤配色を使いこなす・・・美しい配色 Chapter3 PART2	
	1 1 回目	色で売り上げをアップするために ①消費者が選択する色とは・・・よく売れる色・売れない色 Chapter6 PART1	
	1 2 回目	色で売り上げをアップするために ②消費者が選択する色とは・・・色と時代 Chapter6 PART1	
	1 3 回目	色で売り上げをアップするために ③消費者に受け入れられる色を生み出すために・・・製品の色を決めるプロセス Chapter6 PART2	
	1 4 回目	色で売り上げをアップするために ④消費者に受け入れられる色を生み出すために・・・心動かされる色とは Chapter6 PART2	
	1 5 回目	パーソナルカラーを調べよう パーソナルカラー、自分に似合う色を調べる。	
到達目標	色の概念は、国々により異なる。色の名前、色の連想、色の意味、色の心理的影響など、その国の地理的な位置、文化、歴史に大きく関わっている。色の概念を理解しつつ、色の影響を理解することができる。		
授業時間外の学習	日本にはたくさんの色の名前がある。色と文化、色と生活の関わりを新聞の記事、インターネットなどで調べる。また、講義時に配布されたプリントの予習・復習を行い、カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラスの合格を目指す。		
評価方法	小レポート：30%、期末レポート：70%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	『カラーコーディネーター検定試験 スタンダードクラス』東京商工会議所編・中央経済社		
参考書			
備考			

講義科目名称： ビジネス実務総論

授業コード： 241004

英文科目名称： General Study of Office Work

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	第4次産業革命が進展する中、企業は経済グローバル化、地球環境問題、少子・高齢化、高度情報化など、変化の激しい経済社会に適応して、成長している。そこで、経済社会について、常に新鮮な情報を収集・整理して、その動向を敏感に把握する姿勢が求められる。 何らかの組織や企業で働くためには、組織や機能を理解した上で、自己の立場と役割を認識しなければならない。そのために必要なビジネス実務の基本を身につけ、企業形態、管理機能などの概要を学び、企業に関する理解を深める。また働き方について事例を参考に具体的に考察しながらビジネスの現場で求められる総合的な基礎力を学ぶ。 学習成果の指標は、A－①である。 遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせ実施する。
授業計画	1 回目 ガイダンス、はじめに 2 回目 ビジネスは何をめざすものか 3 回目 2つの事業活動：営利組織と非営利組織 4 回目 ビジネスを定義すると？（ビジネスの6要素） 5 回目 経済グローバル化 6 回目 高度情報化 7 回目 地球環境問題 8 回目 少子・高齢化 9 回目 日本的雇用システムの転換 10 回目 オフィスからワークプレイスへ 11 回目 ワークスタイルが変わる 12 回目 ビジネス実務を学ぶ 13 回目 ビジネス実務学習のねらい 14 回目 ビジネス実務の実際 15 回目 ビジネス実務まとめ
到達目標	企業がおかれている経済社会の基本的な事項を理解し、職業人として、ビジネスの現場で求められる総合的な基礎力を身につける。
授業時間外の学習	日頃から新聞等をよく読み、株価、原油、為替などのマーケットの動向や経済社会の話題を注視しましょう。
評価方法	ノート50%、平常点（小テストを含む）50% 遠隔授業になった場合、レポート100%
テキスト	全国大学実務教育協会編集『ビジネス実務総論』紀伊國屋書店、2012年
参考書	必要に応じて指示する。
備考	

講義科目名称： ビジネス実務演習Ⅰ

授業コード： 122005

英文科目名称： Exercise of Practical Office Work 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	1 単位	選択
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	企業の組織の中でも総務・労務・経理の業務を中心として、模擬実践や演習を通して、「働くときのマナーの基礎知識」や「働くときのルールの基礎知識」など、ビジネス実務の基礎的・基本的テーマについて学ぶ。近い将来、企業に就職する学生が、身に付けるべき必要最小限のビジネス実務の知識と技術、働くことの基本を学ぶ授業でもある。 学習成果の指標は、A－①である。 遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせ実施する。		
授業計画	1 回目 Part 1 働くときのマナーの基礎知識、訪問するときのマナー 2 回目 商談するときのマナー 3 回目 話すときのマナー 4 回目 聞くときのマナー 5 回目 あいさつ 6 回目 仕事をするときの身だしなみ、態度 7 回目 電話のマナー 8 回目 携帯電話のマナー 9 回目 電子メールのマナー 1 0 回目 情報伝達のマナー 1 1 回目 上司や先輩、同僚との付き合い方 1 2 回目 豊かな人間関係を築くマナー 1 3 回目 仕事で注意したい会話 1 4 回目 仕事で謝るときマナー 1 5 回目 仕事と私用（まとめ）		
到達目標	ビジネス実務の基礎的・基本的テーマについて理解を深め、ビジネスの諸活動に主体的、合理的、適切に対応する能力と実践的な態度を身につける。		
授業時間外の学習	日頃から新聞等をよく読み、経済社会の動向を注視する。		
評価方法	ノート50%、平常点（小テスト）50% 遠隔授業になった場合、レポート100%		
テキスト	『全基連のテキストシリーズ「働くときのA・B・C」』公益社団法人全国労働基準関係団体連合会、2016年適宜プリント配布。		
参考書	必要に応じて指示する。		
備考			

講義科目名称： ビジネス実務演習Ⅱ

授業コード： 221002

英文科目名称： Exercise of Practical Office Work 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	1 単位	選択
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	「ビジネス実務演習Ⅰ」の履修を踏まえて、「働くときの法律の基礎知識」等について授業を進める。企業の組織の中でも総務・労務・経理の業務を中心として、模擬実践や演習を通してビジネス実務の発展的・専門的テーマについて学ぶ。 近い将来、企業に就職する学生が、身に付けるべき必要最小限のビジネス実務の知識と技術、働くことの基本を学ぶ授業でもある。 学習成果の指標は、A－①である。 遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせる。
授業計画	1 回目 PartⅢ 働くときの法律の基礎知識：週 4 0 時間、1 日 8 時間が原則 2 回目 平均 4 0 時間、平均 8 時間でも可 3 回目 X 時間働いたとみなす 4 回目 週に 1 日または 4 週に 4 日 5 回目 命じられたらやらざるを得ない？ 6 回目 残業と割増賃金 7 回目 働くときはしっかり、休むときはゆったり 8 回目 パパは育児なし？ 9 回目 口約束でも労働契約は成立、でも… ～労働契約～ 1 0 回目 守らなければ掟じゃない！ ～就業規則～ 1 1 回目 絶対に服従する義務がある？ ～業務命令～ 1 2 回目 大きな力を持っている ～労働協約～ 1 3 回目 働く人を守るその他の法律と制度 1 4 回目 遭遇しやすいトラブルに備える 1 5 回目 仕事と生活の調和（まとめ）
到達目標	ビジネス実務の特定のテーマについて理解を深め、ビジネスの諸活動に主体的、合理的、適切に対応する能力と実践的な態度を身につける。
授業時間外の学習	日頃から新聞等をよく読み、経済社会の動向に注視する。
評価方法	ノート 5 0 %、平常点（小テストを含む） 5 0 % 遠隔授業になった場合、レポート 1 0 0 %
テキスト	『全基連のテキストシリーズ「働くときの A・B・C」』公益社団法人全国労働基準関係団体連合会、2016 年適宜プリント配布。
参考書	必要に応じて指示する。
備考	「ビジネス実務演習Ⅰ」の履修を踏まえて、授業を進める。

講義科目名称： プレゼンテーション概論

授業コード： 243006

英文科目名称： Introduction to Presentation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	情報社会では、様々な場面で発信することが可能になりました。X（旧Twitter）、Facebookだけでなく、手軽にInstagramのような写真による情報発信や動画投稿やライブ配信による情報発信も行えるようになりました。しかし、あなたの考えていることやあなた自身について、どれだけ人に理解してもらえているか考えたことがありますか。ただ発信するのではなく「相手にどうやって伝えるのか」を短大生になったら考えてみたいものです。本講義では、コミュニケーション活動の中でも、研究発表やビジネスなど、重要な場面に利用することが多いプレゼンテーションについて考えてみます。プレゼンテーションの位置づけや、その理論の基礎的な部分について触れていきます。 なお、遠隔授業に切り替える場合は、Classroomと動画を利用した遠隔授業（オンデマンド型）を予定しています（授業初日にClassroomへの登録を行います）。 学習成果の指標：A-① A-③
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 プレゼンの導入 自己紹介からプレゼンを考える 3 回目 プレゼンテーションの必要性和その場面 4 回目 プレゼンテーションの要素 5 回目 プレゼンテーションにおけるトピックの選定と主題 6 回目 プレゼンテーションの準備：情報収集（参考文献選び） 7 回目 プレゼンテーションの準備：情報収集（情報検索） 8 回目 情報の整理と要点の整理 9 回目 相手に伝えるための論理的な構成の方法 10 回目 プレゼンテーションを行うための様々なツール 11 回目 配布資料の作成法 12 回目 プレゼンテーションにおける話し方 13 回目 プレゼンテーションを聞くことの重要性 14 回目 プレゼンテーションにおける質問の重要性 15 回目 物事の批判的な捉え方
到達目標	「プレゼンテーションの基礎理論の習得」「思考法や話し方など理論の習得および実践」を目標とし、大学における研究発表や、ビジネスにおけるプレゼンテーションに大いに役立ててほしいと思います。
授業時間外の学習	予習は、プレゼンテーションに関する様々なことを授業前に考えていただきます。授業内で次回までに何を考えて来て欲しいかを課題を提示しますので、それにしたがって考えてきてください。復習はノートを見返すなどを中心に行いましょう。
評価方法	授業内外の課題（レポートを含む）を90%、授業への参加意欲で10%を評価します。遠隔授業時も評価方法は同じです。
テキスト	プロジェクト等による資料提示がありますので、ノートに写すなどしてください。
参考書	授業の中で適宜指示します。
備考	適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。この授業はプレゼンテーションの理論が中心ですので、実際にプレゼンテーションを活用する「プレゼンター

	ション演習Ⅰ」と「プレゼンテーション演習Ⅱ」を、この授業の履修後に履修することを検討してみてください。
--	---

講義科目名称： プレゼンテーション演習 I

授業コード： 143007

英文科目名称： Presentation Skills 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	「プレゼンテーション概論」では、プレゼンテーションの理論を学びました。「プレゼンテーション演習 I」では、いよいよ実践です。プレゼンに定評があった故スティーブ・ジョブズも、いきなり登壇して人々を惹きつけるプレゼンができていたわけではありません。入念な下準備と練習がおこなわれています。どんなに理論を学んでも、それを体で覚える必要があるわけです（スポーツの反復練習と似ていますね）。プレゼンテーション演習 I では、様々なタイプのプレゼンの練習とプレゼンに必要な思考法のトレーニングを皆さんにしてもらいます。様々なトレーニングを主体的に取り組んでいただき、色々悩んでみてください。それらの経験と学んだ理論がうまく融合し、「人に伝える」ということが立体的になって理解できるようになるはずです。なお、対面授業から遠隔授業に切り替える状況になった場合は、ClassroomとMeetを利用した遠隔授業を予定していますが、その時の状況で変更します（授業初日にClassroomへの登録を行います）。 学習の指標：A-③
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 柔軟な思考を養う準備：アイスブレイク 3 回目 柔軟な思考のための発想法：思考のキャッチボール 4 回目 発表：自己紹介（または他己紹介）をしてみよう 5 回目 客観的視点の獲得：他者の話をまとめてみよう 6 回目 資料収集：自分の趣味に興味を持ってもらおう 7 回目 発表：自分の趣味に興味を持ってもらおう 8 回目 ビブリオバトルをしてみよう：ビブリオバトルの概要 9 回目 ビブリオバトルをしてみよう：ビブリオバトルの実践 10 回目 グループワーク演習：ブレインストーミングの概要 11 回目 グループワーク演習：ブレインストーミングの実践演習 12 回目 最終課題：スライドを利用した発表（スライド作成の実践） 13 回目 最終課題：スライドを利用した発表（レジュメ作成の実践） 14 回目 最終課題：スライドを利用した発表 15 回目 講評および総論
到達目標	実践的にプレゼンを行うので「人前で話すことに慣れる」「さまざまなタイプのプレゼンテーションに対応できる」「他者のプレゼンテーションを聞き、全体像を把握できる」「質問することに臆さなくなる」ことを目標とします。
授業時間外の学習	毎回のよう発表があるので、発表の準備が大きく割合を占めます。発表後は自分の発表と他の人の発表を比較して、次の発表に活かすようにしましょう。
評価方法	授業の発表を60%で評価し、発表中に書く評価表などのレポートが20%、グループワークへの積極的参加や質疑応答など発表以外の授業参加で20%を評価します。 遠隔授業時も評価項目は同じですが、授業の性質上、対面と全く同じ内容で行うことが出来ないため、若干上記の割合が変わる可能性があります。
テキスト	資料をプロジェクトで提示や、場合によってプリントの配布を行います。
参考書	授業の中で適宜指示します。

備考	授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。この授業は「プレゼンテーション演習Ⅱ」と関連していますので、両方取ると効果的です。 適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。
----	---

講義科目名称： プレゼンテーション演習Ⅱ

授業コード： 244007

英文科目名称： Presentation Skills 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	情報を人に伝えて共有する有効な方法の一つであるプレゼンテーションですが、どのようにすれば相手にうまく伝えることが出来るのでしょうか。「プレゼンテーション演習Ⅰ」でプレゼンテーションの練習を行いました。が、「プレゼンテーション演習Ⅱ」ではより総合的な演習を行います。人前で意見を主張するだけでなく、そのための準備や、発想法も駆使しながらアイデアを練ることも行いましょう。また、プレゼンを行う発表の場を皆さん自身で作ってもらいます。プレゼンターだけでなく、全体の進行を作ったり、場の設営をしたりなど、プレゼンを多角的に捉える機会になるでしょう。 なお、対面授業から遠隔授業に切り替える状況になった場合は、ClassroomとMeetを利用した遠隔授業を予定していますが、その時の状況で変更します（授業初日にClassroomへの登録を行います）。 学習成果の指標：A-③
授業計画	1 回目 ガイダンス 2 回目 アイデアを出すための発想法：臨機応変に対応する思考 3 回目 アイデアを出すための発想法：インプロヴィゼーションに学ぶコミュニケーション 4 回目 批判的思考法：演繹法と帰納法 5 回目 ディベートをしてみよう：ディベートの概要 6 回目 ディベートをしてみよう：準備 7 回目 ディベートをしてみよう：発表と講評 8 回目 総合演習：プレゼンテーマ設定 9 回目 総合演習：資料収集 1 0 回目 総合演習：資料作成 1 1 回目 中間発表 1 2 回目 発表会の準備（役割分担含む） 1 3 回目 発表会の準備（中間発表の内容のブラッシュアップ） 1 4 回目 総合演習：発表会直前の最終調整 1 5 回目 総合演習：発表会開催 ※ゲスト講師による講評を行う予定
到達目標	「プレゼンテーションを行うまでの準備の仕方を習得する」「批判的に物事を見られるようにする」「様々な考え（柔軟な思考）を持つ」ことを目標とします。
授業時間外の学習	常日頃から目に止まるものにたいして「なぜ?」「どうして?」と考える訓練をしてください。さらに授業で提示される今回の内容と学習内容をやりましょう。また、発表のテーマが決まったら、担当のテーマに関する資料収集や発表の練習は授業時間以外も行う必要があるでしょう。
評価方法	授業内外の課題（レポートを含む）を90%、授業への参加意欲で10%を評価します。遠隔授業時も評価項目は同じですが、授業の性質上、対面と全く同じ内容で行うことが出来ないため、若干上記の割合が変わる可能性があります。
テキスト	資料をプロジェクトで提示や、場合によってプリントの配布を行います。
参考書	授業の中で適宜指示します。
備考	適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。授業計画は皆さんの興味関心や進捗状況によって適宜変更していきます。この授業は「プレゼンテーション演習Ⅰ」と関連していますので、両方取ると効果的です。また、15回目に予定されているゲスト講師は状況に

よってはやめになる可能性もあります。

講義科目名称： 情報社会とネットワーク

授業コード： 141005

英文科目名称： Information Society and Networks

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	情報社会が成熟し、インターネットの存在が当たり前の時代になりました。そのインターネットはネットワークを世界規模で形成することによって成立しています。この講義では、コンピュータネットワークに関する基礎的な理解と同時に、頻繁に行われるネットワークを介したコミュニケーションについて理解を深めていきます。 情報社会におけるネットワークを考えるため、コンピュータにおけるシステムを含めたネットワークについて、講義を中心に演習を取り入れながら学習します。また、コンピュータのネットワークシステムだけでなく、それを利用したコミュニケーションや社会との関係について理解を深めます。 なお、遠隔授業に切り替える場合は、Classroomと動画を利用した遠隔授業（オンデマンド型）と時折、同時・双方向型の併用を予定しています（授業初日にClassroomへの登録を行います）。 学習成果の指標：A-① A-③
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 身近なネットワークとその種類 3 回目 LANの概要および通信の仕組み 4 回目 インターネットの歴史と発展 5 回目 ネットワークにおけるプロトコル 6 回目 インターネット通信の仕組み ーIPアドレス 7 回目 インターネット通信の仕組み ールータ 8 回目 インターネット通信の仕組み ーTCP/IP 9 回目 インターネット通信サービス 1 0 回目 ネットワークにおけるA. I. の活用 1 1 回目 ネットワークにおけるセキュリティ ー組織に潜む脅威と対策 1 2 回目 ネットワークにおけるセキュリティ ー最新のセキュリティ事情 1 3 回目 暗号化と認証の仕組み 1 4 回目 企業によるネットワークの利用 1 5 回目 情報社会におけるこれからのネットワーク
到達目標	ネットワークの基本的な部分を中心に「基礎的なネットワークの仕組みの習得」「インターネットの仕組みに関する基礎的な理解」「ネットワークに関する人々と社会の関係の理解」を目指します。
授業時間外の学習	予習として、教科書の授業計画の該当箇所をよく読み、復習はノートを中心に振り返りましょう。
評価方法	提出課題を30%、期末試験を60%、授業態度を10%として評価する。 遠隔授業に切り替えた場合は、期末試験が期末レポートに変更の可能性があります。期末試験時がどちらで行う状況かで判断します。
テキスト	『改訂新版 ファーストステップ 情報通信ネットワーク』浅井宗海（近代科学社、2024年） その他必要に応じて、紹介もしくは資料配布を行います。
参考書	ITパスポート試験教育研究会『スピードマスターITパスポート試験テキスト&問題集 七訂版』（実教出版、2023年） その他、授業の中で適宜指示します。

備考	授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。 適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。
----	---

講義科目名称： 基礎経営学

授業コード： 154003

英文科目名称： Basic Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2年次	2 単位	選択
担当教員			
堀江則之 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本講座では、家計や政府と並ぶ経済主体の1つである「企業」と呼ばれる組織のあり方に注目する。企業は、資本（カネ）と労働（ヒト）による協働の1つの形である。また、経営とはこの協働をうまく行っていく活動であり、この活動のあり方を考えていく経営学の基礎について理解を深める。 本講座は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学習（「Google Meet」を利用）を実施する。		
授業計画	1 回目	ガイダンス（企業経営の全体像） 経営学が主たる研究対象として取り上げるのは「会社」あるいは「企業」と呼ばれる組織体である。それらが提供する商品・サービスで私たちの生活が成り立っており、現代社会にとって非常に大きな存在であることを学ぶ。	
	2 回目	経営学の全体像 経営学を学ぶことは、世の中をより良きものとする術を会得することにつながる。そこに学問としての経営学の本質がある。そこで、この本質的な部分について学ぶ。	
	3 回目	企業と会社 現代社会を代表する会社形態である株式会社に焦点を当て、その特徴を浮き彫りにしていく。	
	4 回目	企業とインプット（金融資本・労働） 企業活動に必要な不可欠な「カネ」と「ヒト」を企業がどのように工面しているのかについて学ぶ。	
	5 回目	企業とアウトプット（製品・サービス） 現代の経営学の中核を占める経営戦略論の大枠について学ぶ。	
	6 回目	競争戦略のマネジメント（基本的な考え方） 企業間の競争の大枠について学んでいくとともに、そこで必要とされる「違いを作り上げる」という考え方について学ぶ。	
	7 回目	競争戦略のマネジメント（違いを作る3つの基本戦略と仕組みの競争） 顧客の獲得を目指しての競争を観察することによって、代表的な競争戦略について学ぶ。	
	8 回目	多角化戦略のマネジメント 多角化戦略論の基礎について学ぶ。	
	9 回目	国際化のマネジメント 企業活動の国際化の基礎について学ぶ。	
	1 0 回目	マクロ組織のマネジメント 組織構造論の基礎について学ぶ。	
	1 1 回目	ミクロ組織のマネジメント 組織のメンバーの「やる気」、「リーダーシップ」の問題などについて学ぶ。	
	1 2 回目	キャリアデザイン 自分の人生をデザインしていく「キャリアデザイン」について学ぶ。	
	1 3 回目	経営学の広がり（ファミリービジネスのマネジメント） 創業者の一族が経営に関与している会社（ファミリービジネス）の見方について学ぶ。	
	1 4 回目	経営学の広がり（病院経営） 病院経営について取り上げることによって、経営学の応用可能性について学ぶ。	
	1 5 回目	経営学の学びの総括と今後の経営学の展望 これまで学んできた経営学についての振り返りと今後の経営学の展望によって、本講座のまとめとする。	
到達目標	①企業の意義や役割について説明することができる。 ②経営学の理論に基づいて、企業について考察することができる。 ③経営学の観点から、企業活動のあり方について説明することができる。		
授業時間外の学習	授業で取り上げた企業について、書籍やインターネットを活用して調べてみること。 準備学修：1.5時間 事後学修：1.5時間		
評価方法	「授業課題の取り組み意欲」（40%）・「レポート」（60%） 「授業課題の取り組み意欲」については、授業で課す「小課題」の取り組み状況を重視する。 「レポート」については、授業の後半に1回提出を求める。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	加護野忠男・吉村典久（編著）『1からの経営学 第3版』（碩学舎、2021年） 別途配布資料は、講座の單元ごとに、Google Classroomを通じて事前に配布などの方法で提供する。 以上は、遠隔授業に変更した場合でも同様とする。		
参考書	必要に応じて、適時授業で紹介していく。		

備考	
----	--

講義科目名称： 現代企業システム

授業コード： 113004

英文科目名称： Business Organizations

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	企業が経済のエンジンといわれて、我々の生活に大きく関係していることは日常感じていることでしょう。その存在は今や重層的なネットワークを形成し、国の内外にその活動領域を拡大しています。そうした企業が、学生の就職先としてあるという現実もあります。企業とは何か、そして絶えず変化し続けるその存在は、どのような影響をもたらすのか。現代企業の新しい活動とそれがもたらすインパクトの検討を通じて、現代社会を考える。 変動しつつある現在を扱うので、内容は大きな事件などあればその都度、変更する可能性がある。講義形式であるが、随時、ディスカッションをしていきたい。学習成果の指標はA-①です。 尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。		
授業計画	1 回目 会社とは何か。企業、法人とは何か。 2 回目 企業の組織構造 3 回目 生産と資本の集積と集中。企業規模の拡大。 4 回目 生産の巨大化に伴う資本所有と経営の分離 5 回目 企業の規模拡大と管理システムの展開 6 回目 欧米の企業管理システムとガバナンス 7 回目 日本的経営システムの光と影 8 回目 企業の資金調達の仕組み 9 回目 変貌する金融・資本市場とグローバル経済 1 0 回目 企業の活動領域の拡大と多国籍企業化 1 1 回目 企業の多国籍化とサプライチェーン 1 2 回目 ITC化とネットワーク型企業 1 3 回目 経済のグローバル化と国民国家の軌轢 1 4 回目 企業社会と国民生活の状況 1 5 回目 来るべき社会と日本企業の行方		
到達目標	各自が卒業後の進路とする業界そしてその領域で経済の構造的把握を基礎に、企業等の組織構造の分析が可能となる力の育成を目的とする。		
授業時間外の学習	講義の進展に即した資料等を前週に配布（オンライン上で配布の場合もある）するので、その際に指示する。		
評価方法	小テスト30%、授業への参加意欲70%。オンライン移行時には、授業態度40%、課題レポート60%で評価する。		
テキスト	適時、レジュメおよび資料を配布する。		
参考書			
備考			

講義科目名称： 世界の経済

授業コード：

英文科目名称： World Economy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
秋山誠一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	貿易の歴史と基礎理論を学び、国際経済と国際関係の実態を各国経済の発展と貿易、直接投資の関係を明らかにしていきます。そのなかで現在の通貨制度の特色と問題点を明らかにして、あわせて日本の経済発展と貿易の問題点、東アジアと日本、アメリカの貿易の構造と関連を明らかにしていきます。そのなかで日本の特化型貿易構造の強さと弱さの問題点を考えていきます。学習成果の指標はAの①です。遠隔授業をする場合は、③オンデマンド型学修(「Google Meet」を利用)で実施します。		
授業計画	1 回目 オリエンテーション 2 回目 機械制大工業と農工国際分業 3 回目 産業革命の非資本主義国への影響 貧しい国と豊かな国 4 回目 輸出部門と輸入部門はどう決まる 貿易の考え方、貿易の利益と損失 5 回目 リカード比較生産費説の核心は 対外的生産性格差と比較優位、比較劣位 6 回目 第一次世界大戦の経済的背景 7 回目 両大戦間期の世界経済 8 回目 第二次大戦後の国際経済体制をめぐる議論 9 回目 ブレトンウッズ体制とはアメリカ体制 1 0 回目 GATTと何か 1 1 回目 南北問題 豊かな北、貧しい南、貿易と開発の関係 1 2 回目 アメリカ経済と日米経済摩擦 1 3 回目 EUとは何か 1 4 回目 WTOの成立 1 5 回目 まとめ		
到達目標	第二次世界大戦後の国際経済の歴史をアメリカ、日本、東アジアを中心に見ていきます。国際化、グローバル化と呼ばれる現代世界経済の理論と現状を理解できます。そのなかで戦後国際経済体制や国際通貨体制が我々の生活にどのような影響を及ぼすかを考え、判断することができます。		
授業時間外の学習	授業中に一緒に考えながら聴くことが大切です。授業に出席することがまず第一です。講義の後、ノートを見て、講義のポイントを振り返ってみてください。		
評価方法	授業態度（10％）課題提出（40％）試験（50％）の総合判断によります。オンラインに移行した場合、試験は行わず、授業態度（10％）課題提出（60％）授業時小テスト（30％）で評価します。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考書	『貿易入門』小林尚朗、篠原敏彦、所 康弘編、大月書店		
備考			

講義科目名称： 金融の基礎

授業コード： 222011

英文科目名称： Finance Theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
碓井茂樹 講師			
添付ファイル			

授業の概要	日本の金融経済は大きく変化しています。金融の基本的な仕組みを理解して、「活きた金融」の現場で起きている変化を自ら関心を持って学び、将来を展望できるようになることが大事です。本講義では、広く金融経済に関して、理論と実務の両面から分かりやすく解説します。 なお、学習成果の指標はAの①です。 遠隔授業をする場合は、②同時双方型学修（Zoomミーティング）と③オンデマンド型学修（収録授業のVimeoウェブ配信）を併せて実施します。
授業計画	1 回目 インTRODクシヨン 2 回目 マネーとは 3 回目 変わるマネー（デジタルマネー、CBDC） 4 回目 金融とは（間接金融と直接金融） 5 回目 銀行とは 6 回目 銀行の業務と役割 7 回目 証券会社とは 8 回目 証券会社の役割 9 回目 その他の金融機関 1 0 回目 短期金融市場 1 1 回目 債券市場 1 2 回目 株式市場 1 3 回目 デリバティブ 1 4 回目 金融政策 1 5 回目 まとめ、理解度テスト
到達目標	金融についてのニュースや記事にでてくる用語を身につけ、その内容を自ら秩序立てて理解し、判断できる力を養います。
授業時間外の学習	授業に出席し、講義を聴きながら考えてほしいと思います。講義の後、講義のポイントを振り返ってみてください。
評価方法	授業への取り組み姿勢（30点満点で評価） 期末理解度テスト（30点満点で評価） 課題レポート（1本40点満点で評価、何本提出しても良い） 宿題（加點評価する）
テキスト	指定しない。
参考書	植田和男「図解 大学4年間の金融学が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA、2018年） 島村高嘉・中島真志著「金融読本（第32版）」（東洋経済新報社、2023年） 伊藤亮太「金融のしくみがしっかりわかる教科書」（技術評論社、2021年） 伊藤亮太「金融業界のしくみとビジネスがしっかりわかる教科書」改訂 2 版（技術評論社、2023年） そのほかの参考書、参考文献は授業中に紹介します。
備考	講義資料等1式の格納場所

	https://drive.google.com/drive/folders/1ooxYH-7y7AYe6kkrc6Demr008qMs3HUS?usp=sharing オンライン授業Zoom登録用URL https://us02web.zoom.us/join/YQSDvm0JTUSs7k7V31AG-g 講師は、日本銀行に40年間勤務。金融政策の遂行や金融機関の経営管理の指導に当たってきた実務家。
--	--

講義科目名称： 銀行論

授業コード： 221009

英文科目名称： Banking

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
碓井茂樹 講師			
添付ファイル			

授業の概要	日本の金融経済は大きく変化しています。金融の基本的な仕組みを理解して、「活きた金融」の現場で起きている変化を自ら関心を持って学び、そして、将来を展望できるようになることが大事です。また、金融リテラシーを身に付けることにより、金融機関を賢く利用することができるようになります。本講義では、広く金融経済、金融機関の業務と役割などに関して、理論と実務の両面から、分かりやすく解説します。 なお、学習成果の指標はAの①です。遠隔授業をする場合は、②同時双方型学修（Zoomミーティング）と③オンデマンド型学修（収録授業のVimeoウェブ配信）を併せて実施します。
授業計画	1 回目 インTRODクシヨン 2 回目 銀行の3大業務（預金、貸出、決済） 3 回目 企業の経営支援 4 回目 個人の資金運用・借入の支援 5 回目 貯蓄から投資へ 6 回目 銀行の不祥事 7 回目 日本の金融危機（バブル崩壊後） 8 回目 国際金融危機（リーマンショック） 9 回目 日本銀行の業務と役割 1 0 回目 様々な金融機関 1 1 回目 メガバンクの業務と役割 1 2 回目 地域銀行の業務と役割 1 3 回目 信用金庫、信用組合、JA、商工中央金庫 1 4 回目 その他の金融機関（証券会社、保険会社） 1 5 回目 まとめ、理解度テスト
到達目標	金融についてのニュースや記事にでてくる用語を身につけ、その内容を自ら秩序立てて理解し、判断できる力を養います。 金融リテラシーを身に付け、さまざまな金融機関の業務と役割・機能を理解して、賢く利用できるようにする。
授業時間外の学習	授業に出席し、一緒に考えてください。講義の後、講義のポイントを振り返ってみてください。
評価方法	授業への取り組み姿勢（30点満点で評価） 期末理解度テスト（30点満点で評価） 課題レポート（1本40点満点で評価、何本提出しても良い） 宿題（加点点評価する）
テキスト	指定しない。
参考書	植田和男「図解 大学4年間の金融学が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA、2018年） 島村高嘉・中島真志著「金融読本（第32版）」（東洋経済新報社、2023年） 伊藤亮太「金融のしくみがしっかりわかる教科書」（技術評論社、2021年）

	伊藤亮太「金融業界のしくみとビジネスがしっかりわかる教科書」改訂2版（技術評論社、2023年） そのほかの参考書、参考文献は授業中に紹介します。
備考	講義資料等1式の格納場所 https://drive.google.com/drive/folders/1PcU70K_TJLmdzB17adhMmP__7TwUS2sD?usp=sharing オンライン授業Zoom登録用URL https://us02web.zoom.us/join/HI5aQUW3RsChspD1cZcqEA 講師は、日本銀行に40年間勤務。金融政策の遂行や金融機関の経営管理の指導に当たってきた実務家。

講義科目名称： 企業と簿記

授業コード： 132004 142005

英文科目名称： Company and Book Keeping

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	企業の実態を客観的に把握するためには、簿記は業種・職種にかかわらず職業人が身に付けておくべき「必須の基本知識」の技術であり、世界共通のビジネス言語としての性格を持っている。変化の激しい社会で職業人の教養として役立つ簿記を学習する。 小規模企業において日常発生する取引を記録・計算整理に関する簿記の基本的な仕組みについて理解する。簿記の初学者が必要とする日商簿記3級程度の基礎的な学習をする。 学習成果の指標は、A-①である。 遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせて実施する。
授業計画	1 回目 ガイダンス、資産・負債・資本 2 回目 収益・費用 3 回目 取引・勘定 4 回目 仕訳・転記 5 回目 仕訳帳・総勘定元帳 6 回目 試算表 7 回目 精算表 8 回目 決算 9 回目 損益計算書 1 0 回目 貸借対照表 1 1 回目 基礎的形式別学習（仕訳） 1 2 回目 基礎的形式別学習（補助簿の記帳） 1 3 回目 基礎的形式別学習（試算表・財務諸表の作成） 1 4 回目 基礎的形式別学習（精算表の作成） 1 5 回目 まとめ
到達目標	小規模企業の経理実務を前提とし、現代のビジネス社会における新しい取引にも対応できる実務的な知識を身に付ける。
授業時間外の学習	毎日1時間程度、予習・復習し、定着を図ること。 11月の日商簿記3級合格を努力目標とする。
評価方法	ノートと問題集50%、平常点（小テスト）50% 遠隔授業になった場合、レポート100%
テキスト	『最新段階式 日商簿記検定問題集四訂版 3級 商業簿記』実教出版、2025年
参考書	授業時に指示する。 日商簿記検定模擬試験問題集3級、他
備考	「簿記演習」を履修すること。指示する電卓を授業に毎回持参すること。 授業は週2回あり、2回とも出席が必要。

講義科目名称： 簿記演習

授業コード： 222005 242005

英文科目名称： Book Keeping Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	簿記の初学者が必要とする日商簿記3級程度の基礎的な学習を踏まえつつ、発展的な内容に当たる経営管理に関わる分野も学習する。「企業と簿記」の履修を前提として、財務諸表の数字から経営成績や財政状態を把握できるなど、企業活動や会計実務を踏まえ適切な処理や分析を行うために求められる基礎的内容を学習する。学習成果の指標は、A-①である。 遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせ実施する。
授業計画	1 回目 ガイダンス、形式別演習（仕訳） 2 回目 形式別演習（補助簿の記帳） 3 回目 形式別演習（試算表・財務諸表の作成） 4 回目 形式別演習（伝票、決算仕訳、訂正仕訳） 5 回目 形式別演習（精算表の作成） 6 回目 総合演習：仕訳問題 7 回目 総合演習：計算問題 8 回目 総合演習：文章問題 9 回目 総合演習：帳簿問題 10 回目 総合演習：決算問題 11 回目 経営分析（B／S） 12 回目 経営分析（P／L） 13 回目 経営分析（C／S） 14 回目 原価計算（個別、総合） 15 回目 原価計算（標準、直接）、まとめ
到達目標	小規模企業の経理実務の理解を前提としつつ、経営管理・財務担当者に必須の知識とされる財務諸表の数字を読み解く力を身につける。
授業時間外の学習	毎日1時間程度、予習・復習し、演習問題を積極的に解くこと。 11月の日商簿記検定3級合格を努力目標とする。
評価方法	ノートと問題集50%、平常点（小テスト）50% 遠隔授業になった場合、レポート100%
テキスト	『日商簿記検定模擬試験問題集3級 商業簿記』実教出版、2025年
参考書	授業時に指示する。 発展的学習に関するプリントを随時配布する。
備考	「企業と簿記」の履修を踏まえて、授業を進める。授業時に指示する電卓を毎回持参すること。 授業は週2回あり、2回とも出席が必要。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	高校時代までの暗記式の学習から脱却して、自ら疑問を持ち、迷いながらも、調べ、考え、結論を求める方法を身に付ける準備をします。以下の諸点の基礎力の育成を目的とします。（１）文献を含めた資料、情報の収集力。（２）コミュニケーション能力の向上。（３）プレゼンテーションの技法習得。（４）書く力の育成。自転車は一度乗れるようになると、一生ものです。それと同様に、ここで獲得された能力もその程度に応じて活用があるでしょう。 大学で学ぶための基本的スキルを身につけます。（１）ノートの取り方、講義の聴き方（２）ネット利用の方法、資料・文献の収集方法（３）プレゼンテーション（報告・発表）の練習（４）レジメの作り方（５）専門書の読み方（６）プレゼンテーションの練習（７）論述試験答案の書き方（８）レポートの作成（まずは書評レベルに挑戦）（９）図書館ガイダンス（図書館の使い方）（10）情報リテラシー。以上のことを、共通図書をテキストにして学ぶ。		
授業計画	1 回目 自己紹介、履修についての確認、スケジュール、担当決め 2 回目 ネット利用の方法、資料・文献の収集方法の説明、ノートの取り方 3 回目 新聞記事の読み方 4 回目 新聞記事の切り抜き 5 回目 時事問題・ニュースについての発表 6 回目 専門書の読み方についての説明、図書館の使い方 7 回目 後半のスケジュール・担当箇所を決める、レジメの作り方の説明 8 回目 新書を読む―行先を失った日本経済 9 回目 新書を読む―家計の危機 1 0 回目 新書を読む―何のために働くのか 1 1 回目 新書を読む―グローバル化は何を変えたのか？ 1 2 回目 新書を読む―経済大国日本での貧困と格差の拡大 1 3 回目 要約の仕方・書評レポートの書き方、試験入門、論述試験答案の書き方 1 4 回目 試験入門、論述試験答案の書き方 1 5 回目 レポート提出、アンケート、感想会		
到達目標	各自が必要とされる情報を収集、加工し、自己の見解を構築し、それを他者に表明する力の育成を目指す。定期的に発表会でプレゼン機器を活用して発表する。		
授業時間外の学習	授業前週時にその都度、指示します。		
評価方法	平常点50%、課題発表点50%。オンライン移行時には、授業態度30%、課題発表内容70%で評価する。		
テキスト	『大学生学びのハンドブック』世界思想社編集部編		
参考書	適宜、指示する。		
備考			

講義科目名称： 基礎ゼミⅡ

授業コード： 223009

英文科目名称： Academic Literacy 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	今日の若者の労働問題を的確に分析するために、まず日本型雇用システムとそれと密接に結びついた教育システムの本質について概観する。それを踏まえて学生の就職問題とそれに対する政策の推移を検討する。日本特有の就職の仕組みを学ぶなかで、これからの時代に必要なキャリア力とは何かを考え、そのために必要な社会制度や仕組みとは何か、を考える。 1990年代以降の日本企業の雇用政策の変化により「正社員」の枠が縮小し、若者の雇用問題が浮上する背景となった経済状況の推移をまず踏まえる。その上で「入社」の仕組みから、その後、遭遇する様々な仕事に関わる制度や慣習、社内教育制度などを順次、検討していく。学習成果の指標はA-①です。 尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。		
授業計画	1 回目	1990年代以降の雇用状況の変化	
	2 回目	若者の雇用問題の発生	
	3 回目	性別、年齢、雇用形態別、地域別雇用状況	
	4 回目	「就職」型社会と「入社」型社会	
	5 回目	諸外国との就職制度の相違	
	6 回目	就活ビジネスと新卒採用	
	7 回目	雇用されることの意味	
	8 回目	賃金と労働時間管理	
	9 回目	キャリア教育と就活スキル	
	1 0 回目	キャリア教育と就活スキル教育	
	1 1 回目	「入社」システムの変更と若者	
	1 2 回目	若者雇用問題と行政	
	1 3 回目	様々な雇用形態と実態	
	1 4 回目	若者雇用問題への処方箋	
	1 5 回目	日本経済と雇用制度の今後	
到達目標	月に一度程度、シラバスに沿ったテーマでプレゼンテーションできる能力をつける。		
授業時間外の学習	授業前週時にその都度、指示します。適宜、資料を配布する。		
評価方法	平常点60%、レポート40%。オンライン移行時には、授業態度50%、課題レポート内容50%で評価します。		
テキスト	随時、プリント配布。		
参考書	『就職とは何か―〈まともな働き方〉の条件』（岩波新書）2011年。 『人口知能と経済の未来』井上智洋、文春新書、2016年。その他、その都度、指示する。		
備考			

講義科目名称： 統計入門

授業コード： 155002

英文科目名称： Introduction to Statistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
堀江則之 講師			
添付ファイル			

授業の概要	経営企画や商品開発、営業や販売促進、調達や購買などに代表されるビジネスの現場では、実に多くのビジネスデータが、リアルタイムに収集されるとともに、データベースによって蓄積されている。そして、これらのビジネスデータについて、統計学を活用した分析結果は、将来の成果につなげていくための、様々な意思決定に活用されている。こうした背景を踏まえ、本講義では、ビジネスデータを利用した統計の基礎について学ぶ。なお、学習成果の指標はA-③である。		
授業計画	1 回目	ガイダンスおよび「統計学」の概観 シラバスを用いた授業計画や評価方法の説明のほか、「統計学」について概観する。	
	2 回目	統計学の基礎概念（母集団・標本・標本抽出） 「母集団」「標本」「標本抽出」について学ぶ。	
	3 回目	標本分布の特性値（平均値・中央値・最頻値） 「平均値」「中央値」「最頻値」について学ぶ。	
	4 回目	標本分布の特性値（標準偏差・変動係数） 「標準偏差」「変動係数」について学ぶ。	
	5 回目	確率と確率分布 「確率」「確率分布」について学ぶ。	
	6 回目	二項分布とポアソン分布 「二項分布」「ポアソン分布」について学ぶ。	
	7 回目	一様分布と正規分布 「一様分布」「正規分布」について学ぶ。	
	8 回目	標本平均の分布と母平均の推定 「標本平均の分布」「母平均の推定」について学ぶ。	
	9 回目	t分布と母平均の推定 「t分布」「母平均の推定」について学ぶ。	
	1 0 回目	χ^2 分布と母標準偏差の推定 「 χ^2 分布」「母標準偏差」について学ぶ。	
	1 1 回目	仮説検定 仮説検定について学ぶ。	
	1 2 回目	相関分析 相関分析について学ぶ。	
	1 3 回目	回帰分析 回帰分析について学ぶ。	
	1 4 回目	ビジネスデータの集計・分析結果によるグラフ表現 ビジネスデータの集計・分析結果によるグラフ表現について学ぶ。	
	1 5 回目	統計学の活用と今後の展望 これからのビジネス分野における統計学の活用の展望について講義するとともに、これまでの授業で学んだ理論等についてまとめを行う。	
到達目標	1. ビジネスデータの基礎的な分析について説明することができる。 2. 基礎的な統計学の理論に基づいて思考し、分析結果を考察することができる。 3. ビジネスデータの分析活動における参加意識を身につける。		
授業時間外の学習	「ビジネスデータ」や「統計学」の用語が登場すると、難しく感じるかもしれないが、実社会では、文系・理系を問わず、データを分析し、分析結果を今後の意思決定に活用する機会が増えていく。そこで、統計学の理論等の習得を目指し、はじめは少数のデータを用いて、計算や分析に取り組んでみることに。 準備学修：1.5時間 事後学修：1.5時間		
評価方法	「授業への取り組み意欲」（40%）・「レポート」（60%） 「授業への取り組み意欲」については、授業で課す「小課題」の取り組み状況を重視する。 「レポート」については、授業の後半に1回提出を求める。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。		
テキスト	テキストを使用せず。 授業資料は、講座の単元ごとに、Google Classroom等を通じて、事前に配布する。		
参考書	鳥居泰彦『はじめての統計学』（日本経済新聞出版、1994年） 小島寛之『完全独習 統計学入門』（ダイヤモンド社、2006年） 玄場公規・湊宣明・豊田裕貴『Excelで学ぶ ビジネスデータ分析の基礎 ビジネス統計スペシャリスト・エクセル分析ベーシック 対応』（オデッセイコミュニケーションズ、2016年）		

	後藤正幸・辻本将晴・玄場公規『Excelで学ぶ ビジネスデータ分析の基礎 ビジネス統計スペシャリスト・エクセル分析スペシャリスト 対応』（オデッセイコミュニケーションズ、2016年） 向後千春・富永敦子『統計学がわかる』（技術評論社、2007年） 向後千春・富永敦子『統計学がわかる【回帰分析・因子分析偏】』（技術評論社、2009年）
備考	

講義科目名称： 経済経営数学入門

授業コード： 263002

英文科目名称： Introduction to Economic Mathematics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	選択
担当教員			
高橋克秀 講師			
添付ファイル			

授業の概要	日常生活や仕事でAI(人工知能)などを生かせることがもめられるような時代になって、「文系だから」、「嫌いだから」、「苦手だから」と言って数学学習を避けることは、もはや許されなくなってきた。数学の知識は、就職して(社会人になって)ビジネスのいろいろな課題に直面したときにこそ威力を発揮するとも言われている。この科目では、そうした卒後も視野に入れつつ、経済学、経営学、会計学を含むじつにさまざまな分野で役立っている数学の初歩を学び、数学的な思考力を鍛える。方程式や1次関数などの中学レベルの知識から始め(それらをしっかり復習し)、微分や偏微分、その応用としての制約付き最大化(最少化)問題、データ分析には不可欠の行列や確率の基礎など、「使える」ことを目標にしっかり学習する。なお、学習成果の指標はA-③である。 遠隔授業を実施する場合は、Zoomを利用したオンデマンド型またはライブ+オンデマンド型として実施する予定(状況しだい授業のしかたを変更することもある)。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	注意事項、この授業のねらいと進め方、成績評価のこと
		【事前学修 120分】	⇒事前にアップされる資料の「オリエンテーション」のところを読み、また、高校までの数学の教科書があれば、関連事項を復習すること
		【事後学修 120分】	⇒オリエンテーションの内容を振り返り、これからの学びを俯瞰すること。
	第2回	1次関数と1次方程式	景気(GDP)の決まり方は? 価格の決まり方は?
			⇒教員の指示にしたがって今回の内容を予習すること。(以下、第14回までは同じである)
		【事後学修 120分】	⇒教員の指示にしたがって今回の内容を復習すること。(以下、第14回までは同じである)
	第3回	2次関数	社長さんになろう!(その1) 平方完成でやってみる
	第4回	指数(と対数)	貯金するときお得な知識とは?(その1)
	第5回	数列	貯金するときお得な知識とは?(その2)
	第6回	変数関数の微分	社長さんになろう!(その2) 微分をつかってやってみる
	第7回	1変数関数の微分(つづき)	社長さんになろう!(その2) 微分をつかってやってみる
	第8回	1変数関数の微分(つづき)	社長さんになろう!(その2) 微分をつかってやってみる
	第9回	ベクトルと内積	お父さんもお母さんも家計のやりくりでたいへん!
	第10回	多変数関数とその微分	きみのしあわせを関数で表せば?(効用関数って何?) 工場見学しようよ!(生産関数って何?)
	第11回	制約付きの最適化	家計のやりくりのなかで一番のしあわせを見つけるには?
	第12回	行列	いろいろなデータを使って分析しようよ(回帰分析とは?)
	第13回	確率	くじを買いますか?
	第14回	積分	オークション(たぶん、きみの場合は、ネットオークション)でうまくいくには?
	第15回	総括	これまでの学習を振り返ること
		【事後学修 120分】	⇒授業での総括を踏まえ、今後、こうした知識をどう活用できるかを自分なりに調べてみよう。
到達目標	微分や偏微分をはじめとする数学の基礎知識をいろいろな場面で使える(応用できる)ようになる。		
授業時間外の学習	第2回から第14回までは、事前学修はその回の予習、事後学修はその回の復習である。		
評価方法	リポート:100% 原則、各項目の理解度などを評価し、積算する。60%が合格ライン。レポートの詳細(課題内容、提出回数、		

	提出期日など）は教員から指示がある。
テキスト	授業用の資料（講義ノート）を使う。授業資料にアップするので適宜ダウンロードして授業にのぞむこと。
参考書	『経済数学入門 初歩から一歩ずつ』丹野忠晋 日本評論社 授業内容にほぼ対応 『改訂版経済学で出る数学 高校数学からきちんと攻める』尾山大輔・安田洋祐 日本評論社 授業内容にほぼ対応 『東大の先生！ 文系の私に超わかりやすく数学を教えてください！』西成活裕・郷和貴 かんき出版 中学数学の復習 『経済数学 入門の入門』田中久稔 岩波新書 さっと全体を見わたせる本 『現代経済学の数学基礎（第4版）』A. C. チャン・K. ウェインライト 彩流社 本格的に学びたい人のための本（レベルは高い）
備考	

講義科目名称： 言語学

授業コード： 221001

英文科目名称： Linguistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
加藤松次 講師			
添付ファイル			

授業の概要	言語学は言語を科学的に研究する学問である。本授業は母語である日本語を考察する目的で、言語の特性、言語学の諸分野など言語学の基本的概念、基本的事項を概説する。また、言語の基本的な姿である音声言語に関する研究分野音声学・音韻論について概説する。学生には言語学の知識をもとにした日本語の考察を求める。テキストや参考書に目を通し、授業外の情報を取り入れて知識を広げることが望ましい。なお、学習成果の指標はA―①である。 本授業は対面授業で実施するが、遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。
授業計画	1 回目 ガイダンス、言語学の重要性 2 回目 言語の特性 3 回目 言語学の対象 4 回目 言語の類型 5 回目 言語学の諸分野 6 回目 言語の変種 7 回目 言語の変化 8 回目 日本語の変化 9 回目 世界の言語の現状 1 0 回目 音声の器官 1 1 回目 母音と子音 1 2 回目 音声学・音韻論 1 3 回目 音素と弁別的素性 1 4 回目 音節とモーラ 1 5 回目 まとめ
到達目標	1. 言語学の基本的な術語（用語）が説明できる。 2. 言語学の知識をもとに日本語を客観的に考察できる。 3. 考察課題の作成において、授業外の情報を取り入れることができる。
授業時間外の学習	基礎知識を確認し、考察課題に取り組む。
評価方法	授業理解度60%、期末レポート40% 遠隔授業に変更になった場合でも評価方法に変更はない。
テキスト	佐久間淳一・加藤重広・町田健『言語学入門』（研究社、2004年）
参考書	西光義弘編『日英語対照による英語学概論（増補版）』（くろしお出版、1991年） 福盛貴弘『基礎からの日本語音声学』（東京堂出版、2010年） 斎藤純男『日本語音声学入門（改訂版）』（三省堂、2006年）
備考	学生の理解度によって講義の順番、内容、進度を調整することがある。

講義科目名称： 言語文化

授業コード： 143004 144005

英文科目名称： Language and Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
田村浩一教授 三浦さつき講師 宮塚寿美子講師			
添付ファイル			

授業の概要	世界には多くの民族や国家が存在し、それぞれ独自の文化と言語を有している。では、言語と文化はどのようにして生成されたのであろうか。また、言語と文化はどのような関係にあるのか。本講座ではこれについて考察し、同時に、現在の私たちの言語と文化のあり方を考える。 多くの言語と文化を理解するために、私たちに身近な日本語・英語・韓国語を取り上げ、その生成に関しての講義を行う。3 人の講師が各自専門の言語・文化を担当して講義する。講義時間の割り振りは授業計画にある通りだが、最初の講義の際に改めて説明する。 学習成果の指標はA-1 である。 遠隔授業を実施する場合は課題型学修（Google Classroom）、またはオンデマンド型（Google Meet）等で行う。		
授業計画	1 回目 「言語文化」の授業全般のイントロダクション、英語の歴史の概略（田村） 2 回目 英語の歴史（古英語～中英語）（田村） 3 回目 方言から考える日本語学 1 （三浦） 4 回目 方言から考える日本語学 2 （三浦） 5 回目 英語の歴史（中英語～近代英語）（田村） 6 回目 英語についてのいくつかの論点：借入語、語源（田村） 7 回目 方言から考える日本語学 3 （三浦） 8 回目 方言から考える日本語学 4 （三浦） 9 回目 アジアの言語：韓国語を中心として（宮塚） 1 0 回目 韓国語とは（宮塚） 1 1 回目 韓国語と日本語（宮塚） 1 2 回目 英語についてのいくつかの論点：語源、カタカナ語（田村） 1 3 回目 英語についてのまとめ（田村） 1 4 回目 方言から考える日本語学 5 （三浦） 1 5 回目 まとめ（三浦）		
到達目標	多言語・多文化時代を迎えた日本人として、各言語・文化の共通性や相違点を理解し、同時に、それらが共存していくという視点の重要性を認識する。		
授業時間外の学習	世界に存在するさまざまな言語と文化について、現実の人間関係やいろいろなメディアを通して関心を持ち、それらと接触し、理解するということができるだけ行ってほしい。		
評価方法	各講師が、課題を課したり、試験を実施することによって評価する。評価のしかたは講師によって異なるので、その指示に従うこと。「言語文化」としての単位取得のためには、3 人の講師すべてから合格評価を得ることが必須となるので、この点に特に留意すること。		
テキスト	各講師がオリジナルのプリントを配布する予定である。		
参考書	必要に応じてその都度紹介する。		
備考	田村浩一教授 実務教員：後期中等教育学校英語科目教諭として21年間勤務。		